

厚幌 1 遺跡

— 厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2004. 3

厚真町教育委員会

厚幌 1 遺跡

— 厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2004. 3
厚真町教育委員会



発掘区近景(W→)(平成15年6月10日撮影)

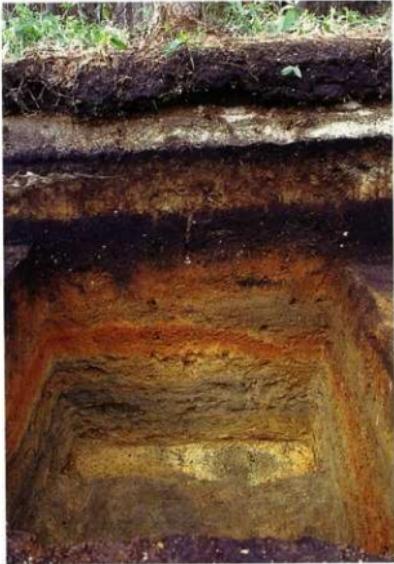
巻頭カラー 2



厚幌ダム湛水地域の俯瞰写真(W→) 右下に厚幌1遺跡 (平成6年9月14日撮影)



厚幌1遺跡航空写真(平成13年9月6日撮影)



上段左：AA-28区 基本土層

上段右：P-17区 基本土層

中段：AA-28区 近世火山灰層

下段：白頭山-苦小牧火山(B-Tm) 検出



巻頭カラー 4



B地区 地すべり堆積土断面
(SW→)



C地区 地すべり堆積土検出
(N→)



TP-52 拡張トレンチ断層
土層断面 (W→)



III A S-01(E→)



III S B-01(W→)



III B B-06(E→)

巻頭カラー 6



V H-01完掘(W→)



V H-01. HF検出(S E→)



上段左：TP-39完掘(NW→)
上段右：TP-10・81・94完掘(S→)
中段左：TP-39土層断面(NW→)
中段右：TP-76土層断面(N→)
下段：TP-57・60完掘(SW→)

巻頭カラー 8



V層調査状況 1 (E→)



V層調査状況 2 (SW→)



VS B-05検出 (N→)

序 文

先人たちが開拓の鉢を入れ、厚真川の流れの恩恵のもと、苦闘をつづけ、豊かな田園地帯を築き上げてきた厚真町民は、将来にわたって水害のない町を願い、平成7年に、悲願の厚幌ダム建設事業が本格着工しました。

この大規模事業の先駆けとして、地域の歴史を残す大切な発掘事業を平成14年度より、開始2ヵ年を経て、ここに厚幌1遺跡の発掘調査報告書を上梓することができました。これも、発掘調査の準備段階から、北海道、北海道教育委員会、厚幌ダム建設事務所をはじめ関係機関、関係諸氏、町民の皆様からのご指導、ご協力の賜と感謝する次第です。

さて、厚幌1遺跡では、約500年前のアイヌの人々の生活の跡や約4,000年前の縄文時代の人々の生活の様子、数々のシカ獣の落し穴などの発見など厚真の自然と共に生きてきた先人達の暮らしの他、地すべり跡や火山灰降灰について等、道央部の自然史を知るうえでも貴重な成果を得ることができました。

今後、厚幌ダム建設事業がより本格的に進捗してまいりますが、この埋蔵文化財調査も同様、これから数地点の調査が続きます。事業の進展とともにダム水没地域の先人達の暮らしぶりについて少しでも、残せるもの、さらにそこから学ぶものを新たな展望のもとに、この埋蔵文化財業務を継続してまいりたいと考えております。生涯学習のもと郷土愛を育む事業として、厚真町の発展を願い、これからも皆様からのご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後となりますのが、本書が厚真町、また北海道の埋蔵文化財の保護・活用ならびに調査・研究にとって一助となれば幸いに存じます。

平成16年3月

厚真町教育委員会
教育長 幅田 敏夫

例 言

1. 本書は、平成14・15年度に厚幌ダム建設事業に係わる一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に伴い発掘調査された、厚幌1遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査は、北海道室蘭土木現業所の委託を厚真町教育委員会が受託し、発掘調査を行った。

3. 調査・整理は、以下の体制で行った。

調査担当者：乾 哲也 調査員：乾 希（～平成15年6月23日）

調査補助員：小野 哲也（平成15年度）

4. 本書の執筆は以下のように分担した。

I章6節2・II章4節2：小野 III章4節：乾・小野 その他の原稿：乾

5. 自然科学的分析等については、下記の機関、諸氏に依頼し、玉稿を賜った。

炭化種子同定：元北海道大学 文学部 教授 吉崎 昌一

札幌国際大学博物館/客員研究員 植坂 茂代

地すべり堆積物：北海道立地質研究所 田近 淳・大津 直・八幡 正弘

火山灰同定：（財）北海道埋蔵文化財センター 花岡 正光

動物遺存体同定：千歳サケのふるさと館 高橋 理・高橋 茂美

花粉および植物珪酸体分析：㈱バリノ・サーヴェイ 辻本崇夫・金井慎司

AMS法C14年代測定：㈱バリノ・サーヴェイ

6. 地形測量については㈱シン技術コンサルに委託した。

7. 金属製品保存処理については、平成14・15年度に㈱吉田生物研究所に委託した。

8. 調査期間中の土層堆積の薄層標本の採取については、（財）北海道埋蔵文化財センター 田口 尚氏によるものである。

9. 刺片石器および礫石器の一部については、実測および写真撮影を㈱シン技術コンサルに委託した。

10. 調査によって得られた資料は、厚真町教育委員会で保管している。

12. 調査・整理および報告書作成にあたっては下記の機関、諸氏にご指導・ご協力を頂いた、記して感謝の意としたい。（順不同 敬称略）

文化庁・北海道教育委員会・北海道教育庁胆振教育局・北海道立地質研究所・（財）北海道埋蔵文化財センター・苫小牧市博物館・千歳市埋蔵文化財センター・厚幌ダム建設事務所・厚真町土地改良区・勇武津資料館・小樽市博物館・平取町教育委員会・門別町教育委員会・富良野市教育委員会・上ノ国町教育委員会・礼文町教育委員会・秋田県埋蔵文化財センター・水沢市埋蔵文化財センター・北海道浅井学園大学・胆振振づくりセンター・幌内自治会・（有）講神組

青野友哉・赤石慎三・荒川忠宏・遠藤香澄・牛崎要一・上屋真一・大泉博嗣・大坂拓・大沼忠春・岡田康博・長田佳宏・笠原興・鎌田望・川内谷修・木村英明・工藤研治・久原直利・講神喜助・越田賢一郎・古原敏弘・齋藤詔司・佐藤一夫・澤田建・芝田直人・末光正卓・鈴木信・高橋忠彦・田才雅彦・田中哲朗・種市幸生・田村俊之・千葉英一・土屋周三・角田隆志・豊田宏良・長沼孝・長町章弘・西田茂・西脇対名夫・野村崇・長谷山隆博・畠宏明・兵頭千秋・福井淳一・福田裕二・藤沢隆史・藤田登・藤原秀樹・本田雅士・松田宏介・松田淳子・松崎水穂・松谷純一・三浦孝一・三浦正人・三野紀雄・水野信太郎・宮夫靖夫・宗像公司・森岡健治・山田央・山中文雄・蔽中剛司・横山郁子・渡辺真吾

凡 例

1. 本書は層位に基づき次のように略号を用いている。

(1) 遺 構

住居跡 : H (House) 住居内の土坑 : HP (House-Pit)

土坑 : P (Pit) 落し穴 : TP (Trap-Pit) 燃土 : F (Fire Place)

柵列跡 : SKP 灰集中 : AS (Ash) 集石 : SB (Stone-Block)

土器片集中 : PB (Pottery-Block) フレイク集中 : FCB (Flake · Chip-Block)

炭化物集中 : CB (Carbon-Block) 骸骨集中 : BB (Bone-Block)

(2) 遺 物

土器 : P (Pottery) 剥片石器 : FT (Flake-Tool)

礫石器 : ST (Stone-Tool) フレイク・チップ : FC (Flake · Chip)

礫 : S (Stone) 鉄製品 : IP (Iron-Product)

炭化物 : C (Carbon) 動物遺存体 : B (Bone)

(3) その他 セクションポイント : SP (Section-Point)

エレベーションポイント : EP (Elevation-Point)

2. 地層等について次のように略号を用いている。

(1) 火山灰等

樽前 a 砂質降下火山灰 : Ta-a 駒ヶ岳c2砂質降下火山灰 : Ko-c2

樽前 b 降下軽石 : Ta-b 白頭山苦小牧火山灰 : B-Tm

樽前 c 砂質降下軽石 : Ta-c 樽前 d 砂質降下軽石 : Ta-d

(2) 色 調

色調については、小山・竹原編著 (1994)『新版 標準土色帳』に従った。

(3) 注 記

土層注記については下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列を付けている。また混入土層に()内に粒径、状態を記載した。

混入土層の比率

+ : 同量比混じる - : 多量に混じる = : 少量混じる ≡ : 微量混じる

φ : 粒径 (単位: mm) ↓ : 以下 (状態) : 斑状に混じる。均一に混じる。

(4) 層 位

標準堆積層はローマ数字を用いて、遺構覆土や風倒木痕撹乱など二次的に堆積した土層はアラビア数字を用いた。堆積図中には以下のスクリーントーンが対応している。また、一覧表中には下記の略号を用いている。



: I 層



: II 層



: III 層



: IV 層



: V 層



: VI 層



: VII 層 (再堆積層)



: VII 1 層 (Ta-d1スコリア)



: VII 2 層 (Ta-d2/バミス)

上位 : u

中位 : m

下位 : l

3. 本書の挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては、図中スケールに縮尺を明記している。

住居跡：1／40 住居跡に付随する柱穴その他の土坑：1／20

土 坑：1／40 落し穴：1／40 燃 土：1／40

集中遺物出土状況：1／10 または 1／20

土器実測図：1／4 土器拓影図：1／3 剥片石器：1／2 碓石器：1／3

長軸20cm以上の台石・石皿：1／4

4. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

敲き痕： V——V 擦り痕： | ——— |

5. 一覧表中の石材については、下記の略号を用いた。ただし、凝灰質砂岩については、砂岩に統合している。石材同定は、(財) 北海道埋蔵文化財センターの花岡正光氏に協力を得て、乾が行った。

Age. : メノウ Age-Sh. : メノウ質頁岩 And. : 安山岩 青色片岩 : Bl-Mud.

Che. : チャート Con. : 碓岩 Dio. : 閃綠岩 Gra. : 花崗岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩

Mud. : 泥岩 Obs. : 黒曜石 Por. : 斑岩 Qua. : 珪岩 Sa. : 砂岩

Sh. : 頁岩 Tal. : タルク Tu. : 凝灰岩

本文目次

巻頭カラー 1~8

序 文

例 言

凡 例

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 遺跡の位置	1
1. 厚真町の概要	1
2. 遺跡の位置と環境	3
3. 地 形	12
4. 地 質	13
第2節 調査に至る経緯	23
1. 厚幌ダム建設事業	23
2. 厚幌1遺跡の調査に 至る経緯	24
3. 厚幌ダム水没地域内埋蔵文化財 試掘調査	24
第3節 調査要項と調査体制	25
1. 調査要項	25
2. 調査体制	25
第4節 調査の方法	25
1. 発掘区の設定	25
2. グリッド設定	26
3. 包含層および遺構調査	26
第5節 調査経過	27
1. 平成14年度発掘調査経過	27
2. 平成15年度発掘調査経過	29
第6節 遺物の分類	31
1. 土 器	31
2. 剥片石器	33
3. 磺石器	34

第Ⅱ章 Ⅲ層の遺構と遺物

第1節 概 要	37
第2節 焼 土	38
第3節 集中出土遺物等	43

1. 磺集中	43
--------	----

2. 獣骨集中	55
---------	----

3. 炭化物集中	60
----------	----

4. 灰層集中	62
---------	----

第4節 Ⅲ層出土の遺物	67
-------------	----

1. 土器・礫石器	67
-----------	----

2. 金属製品	69
---------	----

3. その他の遺物	70
-----------	----

第Ⅲ章 V層の遺構と遺物

第1節 概 要	72
第2節 住居址	72
第3節 Tビット	92
1. 検出および調査	97
2. Tビットの形態と分類	97
3. 杭跡	99
4. 堆積状態	99
5. 分布	101
6. 配列	101
7. 新旧関係	102
8. 時期	103
9. 個別記載	104
第4節 土 坑	155
第5節 焼 土	161
第6節 集中出土遺物等	166
1. 磺集中	166
2. フレイク・チップ集中	176
第7節 V層出土の遺物	182
1. 土 器	182
2. 剥片石器	206
3. 磺石器	214

4. その他の遺物 232

第IV章 0層の遺構

- 第1節 馬車道跡 238
第2節 柵列跡 240

第V章 自然科学的分析等

- 第1節 北海道勇払郡厚真町
厚幌1遺跡の植物種子 241
第2節 北海道勇払郡厚真町
厚幌1遺跡出土の動物遺存体 257
第3節 厚幌1遺跡の
縄文時代の古環境について 278
第4節 厚幌1遺跡の
完新世テフラについて 293
第5節 厚幌1遺跡の
地すべり堆積物 296
第6節 厚幌1遺跡の炭化種子
放射性炭素年代測定 310

第VI章 まとめ

- 第1節 III層について 313
第2節 V層について 314

- 引用参考文献 315
報告書抄録 317
写真図版 319
奥付

挿図目次

第Ⅰ章 調査の概要

図 I - 1	町内遺跡分布図	4
図 I - 2	厚幌 1 遺跡周辺地形図(1)	7
図 I - 3	厚幌 1 遺跡周辺地形図(2)	8
図 I - 4	厚幌 1 遺跡周辺地形図(3)	9
図 I - 5	発掘調査区と周辺の地形(1)	10
図 I - 6	発掘調査区と周辺の地形(2)	10
図 I - 7	発掘調査区内地形図	11
図 I - 8	P - 17区 基本土層堆積図	14
図 I - 9	AA - 28区 基本土層堆積図	14
図 I - 10	TP - 52 拡張トレチ断層堆積図	14
図 I - 11	U ライン土層断面図(1)	17
図 I - 12	U ライン土層断面図(2)	19
図 I - 13	28 ライン土層断面図	21
図 I - 14	36 ライン土層断面図	21
図 I - 15	グリッド設定図	26

第Ⅱ章 Ⅲ層の遺構と遺物

図 II - 1	Ⅲ層調査範囲	37
図 II - 2	Ⅲ層遺構配置図	39
図 II - 3	焼土(Ⅲ F - 02 ~ 07)	42
図 II - 4	礫集中(Ⅲ S B - 01)	45
図 II - 5	礫集中(Ⅲ S B - 02)	45
図 II - 6	礫集中(Ⅲ S B - 03)	46
図 II - 7	礫集中(Ⅲ S B - 04)	46
図 II - 8	礫集中(Ⅲ S B - 05)	47
図 II - 9	礫集中(Ⅲ S B - 07)	47
図 II - 10	礫集中(Ⅲ S B - 08)	48
図 II - 11	獸骨集中(Ⅲ B B - 01~07)位置図	56
図 II - 12	獸骨集中(Ⅲ B B - 03)	56
図 II - 13	獸骨集中(Ⅲ B B - 06)	56
図 II - 14	獸骨集中(Ⅲ B B - 07)	56
図 II - 15	獸骨集中(Ⅲ B B - 01・06・07) 及び星兜片・礫出土位置図	58
図 II - 16	灰集中(Ⅲ A S - 01)	64
図 II - 17	灰集中(Ⅲ A S - 02)	65

図 II - 18	Ⅲ層出土土器・石器	67
-----------	-----------	----

図 II - 19	Ⅲ層出土金属製品	68
図 II - 20	Ⅲ層遺物分布図	71

第Ⅲ章 V層の遺構と遺物

図 III - 1	V層遺構配置図	73
図 III - 2	1号住居址(VH-01)調査前地形図	75
図 III - 3	1号住居址(VH-01)平面図	77
図 III - 4	1・2号住居址(VH-01・02) 土層断面図	79
図 III - 5	1号住居址(VH-01) 石組炉・付属土坑	81
図 III - 6	1号住居址(VH-01)柱穴断面図	82
図 III - 7	1号住居址(VH-01)出土遺物(1)	83
図 III - 8	1号住居址(VH-01)出土遺物(2)	84
図 III - 9	2号住居址(VH-02)平面図	87
図 III - 10	2号住居址(VH-02) 床面遺物出土状態	87
図 III - 11	堅穴外接合土器集中(VPB-01)	89
図 III - 12	2号住居址(VH-02)出土遺物	90
図 III - 13	Tビット分類別構成比率	92
図 III - 14	Tビット長軸・短軸相関図	93
図 III - 15	Tビット長軸・深さ相関図	93
図 III - 16	TP - 01・02	110
図 III - 17	TP - 03・04	111
図 III - 18	TP - 05~07	112
図 III - 19	TP - 08・09	113
図 III - 20	TP - 10・11	114
図 III - 21	TP - 12・13	115
図 III - 22	TP - 14~16	116
図 III - 23	TP - 17・18	117
図 III - 24	TP - 19・20	118
図 III - 25	TP - 21・22	119
図 III - 26	TP - 23・24	120
図 III - 27	TP - 25・26	121
図 III - 28	TP - 27・28	122

図III-29	TP-29・30	123	図III-67	礫集中(VSB-06)	170
図III-30	TP-31・32	124	図III-68	礫集中(VSB-07)	171
図III-31	TP-33・34	125	図III-69	礫集中(VSB-08)	172
図III-32	TP-35~37	126	図III-70	礫集中(VSB-09)	172
図III-33	TP-38~40	127	図III-71	礫集中(VSB-10)	173
図III-34	TP-41・42	128	図III-72	V層出土土器(1)	184
図III-35	TP-43~45	129	図III-73	V層出土土器(2)	185
図III-36	TP-46・47	130	図III-74	V層出土土器(3)	186
図III-37	TP-48・49	131	図III-75	V層出土土器(4)	187
図III-38	TP-50・51	132	図III-76	V層出土土器(5)	188
図III-39	TP-52・53	133	図III-77	V層出土土器(6)	189
図III-40	TP-54・55	134	図III-78	V層出土剥片石器(1)	207
図III-41	TP-56・57	135	図III-79	V層出土剥片石器(2)	208
図III-42	TP-58・59	136	図III-80	V層出土剥片石器(3)	210
図III-43	TP-60・61	137	図III-81	V層出土剥片石器(4)	211
図III-44	TP-62・63	138	図III-82	V層出土礫石器(1)	215
図III-45	TP-64・65	139	図III-83	V層出土礫石器(2)	216
図III-46	TP-66・67	140	図III-84	V層出土礫石器(3)	217
図III-47	TP-68・69	141	図III-85	V層出土礫石器(4)	219
図III-48	TP-70・71	142	図III-86	V層出土礫石器(5)	220
図III-49	TP-72・73	143	図III-87	V層出土礫石器(6)	221
図III-50	TP-74・75	144	図III-88	V層出土礫石器(7)	222
図III-51	TP-76・77	145	図III-89	V層出土礫石器(8)	223
図III-52	TP-78・79	146	図III-90	V層出土礫石器(9)	224
図III-53	TP-80・81	147	図III-91	V層出土礫石器(10)	226
図III-54	TP-82・83	148	図III-92	V層出土礫石器(11)	227
図III-55	TP-84・85	149	図III-93	V層出土礫石器(12)	228
図III-56	TP-86・87	150	図III-94	V層出土礫石器(13)	229
図III-57	TP-88・89	151	図III-95	V層出土礫石器(14)	230
図III-58	TP-90・91	152	図III-96	V層出土礫石器(15)	231
図III-59	TP-92・93	153	図III-97	V層出土の土器分布図	233
図III-60	TP-94・95	154	図III-98	V層出土の 剥片・剥片石器分布図	233
図III-61	土坑(VP-01~05)	156	図III-99	V層出土の礫・礫石器分布図	233
図III-62	土坑(VP-06~11)	158			
図III-63	焼土(VF-01~16)	162			
図III-64	礫集中(VSB-01~03)	168			
図III-65	礫集中(VSB-04)	168	第IV章		
図III-66	礫集中(VSB-05)	170	図IV-1	0層遺構配置図	239
			図IV-2	馬車道跡	239

表 目 次

第Ⅰ章 調査の概要

表Ⅰ-1	厚真町内遺跡一覧表(1)	5
表Ⅰ-2	厚真町内遺跡一覧表(2).....	6
表Ⅰ-3	厚幌1遺跡	
	調査年度別概要一覧表	7

第Ⅱ章 Ⅲ層の遺構と遺物

表Ⅱ-1	Ⅲ層焼土計測一覧表	38
表Ⅱ-2	Ⅲ層礫集中計測一覧表	43
表Ⅱ-3	Ⅲ層礫集中	
	構成礫計測一覧表(1)	50
表Ⅱ-4	Ⅲ層礫集中	
	構成礫計測一覧表(2)	51
表Ⅱ-5	Ⅲ層礫集中	
	構成礫計測一覧表(3)	52
表Ⅱ-6	Ⅲ層礫集中	
	構成礫計測一覧表(4)	53
表Ⅱ-7	Ⅲ層礫集中	
	構成礫計測一覧表(5)	54
表Ⅱ-8	Ⅲ層骨壺集中計測等一覧表	55
表Ⅱ-9	Ⅲ層炭化物集中計測等一覧表	61

第Ⅲ章 V層の遺構と遺物

表Ⅲ-1	VH-01計測一覧表	85
表Ⅲ-2	VH-01出土遺物計測一覧表	85
表Ⅲ-3	VH-02計測一覧表	91
表Ⅲ-4	VH-02出土遺物計測一覧表	91
表Ⅲ-5	Tピット分類別遺構数	92
表Ⅲ-6	杭跡数毎の遺構数	92
表Ⅲ-7	Tピット計測一覧表(1)	94
表Ⅲ-8	Tピット計測一覧表(2)	95
表Ⅲ-9	Tピット計測一覧表(3)	96
表Ⅲ-10	V層土坑計測一覧表	160
表Ⅲ-11	V層土坑出土遺物計測一覧表	160
表Ⅲ-12	V層焼土計測一覧表	161
表Ⅲ-13	V層礫集中計測一覧表	166

表Ⅲ-14	V層礫集中	
	出土遺物計測一覧表	176
表Ⅲ-15	V層礫集中	
	構成礫計測一覧表(1)	177
表Ⅲ-16	V層礫集中	
	構成礫計測一覧表(2)	178
表Ⅲ-17	V層礫集中	
	構成礫計測一覧表(3)	179
表Ⅲ-18	V層礫集中	
	構成礫計測一覧表(4)	180
表Ⅲ-19	V層礫集中	
	構成礫計測一覧表(5)	181
表Ⅲ-20	V層フレイクチップ集中計測一覧表	181
表Ⅲ-21	V層出土土器一覧表(1)	190
表Ⅲ-22	V層出土土器一覧表(2)	191
表Ⅲ-23	V層出土土器一覧表(3)	192
表Ⅲ-24	V層出土土器一覧表(4)	193
表Ⅲ-25	V層出土土器一覧表(5)	194
表Ⅲ-26	V層出土土器一覧表(6)	195
表Ⅲ-27	V層出土土器一覧表(7)	196
表Ⅲ-28	V層出土土器一覧表(8)	197
表Ⅲ-29	V層出土土器一覧表(9)	198
表Ⅲ-30	V層出土土器一覧表(10)	199
表Ⅲ-31	V層出土土器一覧表(11)	200
表Ⅲ-32	V層出土土器一覧表(12)	201
表Ⅲ-33	V層出土土器一覧表(13)	202
表Ⅲ-34	V層出土土器一覧表(14)	203
表Ⅲ-35	V層出土土器一覧表(15)	204
表Ⅲ-36	V層出土土器一覧表(16)	205
表Ⅲ-37	V層出土剥片石器一覧表(1)	212
表Ⅲ-38	V層出土剥片石器一覧表(2)	213
表Ⅲ-39	V層出土剥片石器一覧表(3)	214
表Ⅲ-40	V層出土礫石器一覧表(1)	234
表Ⅲ-41	V層出土礫石器一覧表(2)	235
表Ⅲ-42	V層出土礫石器一覧表(3)	236
表Ⅲ-43	V層出土礫石器一覧表(4)	237

写真図版目次

図版 1-1 厚幌 1 遺跡遠景	320	図版 5-7 獣骨集中(Ⅲ B B-03)	
図版 1-2 厚幌 1 遺跡近景	320	出土状態(1)	324
図版 2-1 火山灰(Ⅱ層)除去状況(1)	321	図版 5-8 獣骨集中(Ⅲ B B-03シカ歯冠列)	
図版 2-2 火山灰(Ⅱ層)除去状況(2)	321	出土状態(2)	324
図版 2-3 火山灰(IV層)除去状況	321	図版 6-1 獣骨集中(Ⅲ B B-03シカ歯冠列)	
図版 2-4 C地区グリッド杭設定状況	321	出土状態(3)	325
図版 2-5 A地区遺物取り上げ状況	321	図版 6-2 獣骨集中(Ⅲ B B-06)	
図版 2-6 図面作成状況(1)	321	出土状態(1)	325
図版 2-7 図面作成状況(2)	321	図版 6-3 獣骨集中(Ⅲ B B-06)	
図版 2-8 土層剥ぎ取り状況	321	出土状態(2)	325
図版 3-1 C地区Ⅲ層上面検出	322	図版 6-4 獣骨集中(Ⅲ B B-07)	
図版 3-2 C地区V層上面検出	322	出土状態	325
図版 3-3 B地区地すべり堆積土検出	322	図版 6-5 炭化物集中(Ⅲ C B-18)	
図版 3-4 B地区 地すべり堆積土調査状況	322	検出状態	325
図版 3-5 B地区 地すべり堆積土断面(1)	322	図版 7-1 砥集中(Ⅲ S B-01)	
図版 3-6 B地区 地すべり堆積土断面(2)	322	及び鉄鍋出土状態	326
図版 3-7 B地区 地すべり堆積土断面(3)	322	図版 7-2 砥集中(Ⅲ S B-02)	
図版 3-8 C地区Ⅶ層上面検出	322	及び焼骨片出土状態	326
図版 4-1 馬車道跡(1)	323	図版 7-3 砥集中(Ⅲ S B-07)出土状態	326
図版 4-2 馬車道跡(2)	323	図版 7-4 星兜片出土状態	326
図版 4-3 檻列跡(0SKP列)検出(1)	323	図版 7-5 鉤状鉄製品出土状態	326
図版 4-4 檻列跡(0SKP列)検出(2)	323	図版 8-1 樹木根跡(Ⅲ A S-01)検出	327
図版 4-5 檻杭跡(0SKP)検出(1)	323	図版 8-2 樹木根跡(Ⅲ A S-01)断面	327
図版 4-6 檻杭跡(0SKP)検出(2)	323	図版 8-3 樹木根跡(Ⅲ A S-01)に 伴う獣骨出土状態	327
図版 4-7 檻杭跡(0SKP)検出(3)	323	図版 8-4 樹木根跡(Ⅲ A S-01)に 伴う鹿角出土状態	327
図版 5-1 Ⅲ a層調査状況(1)	324	図版 9-1 樹木根跡(Ⅲ A S-02)検出	328
図版 5-2 Ⅲ a層調査状況(2)	324	図版 9-2 樹木根跡(Ⅲ A S-02)に 伴う灰集中(1)	328
図版 5-3 Ⅲ F-03検出	324	図版 9-3 樹木根跡(Ⅲ A S-02)に 伴う灰集中(2)	328
図版 5-4 Ⅲ F-03断面	324	図版 9-4 樹木根跡(Ⅲ A S-02)に 伴う灰集中断面(1)	328
図版 5-5 Ⅲ F-06検出	324	図版 9-5 樹木根跡(Ⅲ A S-02)に 伴う灰集中断面(2)	328
図版 5-6 Ⅲ F-06断面	324		

図版10-1	VH-01検出	329	図版16-5	TP-15土層断面	335
図版10-2	VH-01完掘	329	図版16-6	TP-16完掘	335
図版11-1	VH-01土層断面(1)	330	図版16-7	TP-16土層断面	335
図版11-2	VH-01土層断面(2)	330	図版16-8	TP-17完掘	335
図版11-3	VH-01土層断面(3)	330	図版17-1	TP-17土層断面	336
図版11-4	VH-01石組炉	330	図版17-2	TP-19完掘	336
図版11-5	VH-01石組炉断面	330	図版17-3	TP-19土層断面	336
図版11-6	VH-01.HP01完掘	330	図版17-4	TP-20完掘	336
図版11-7	VH-01.HP01土層断面	330	図版17-5	TP-20土層断面	336
図版12-1	柱穴(VH-01.HP14)断面	331	図版17-6	TP-21・22完掘	336
図版12-2	柱穴(VH-01.HP05)断面	331	図版17-7	TP-21土層断面	336
図版12-3	VH-01遺物出土状態(1)	331	図版18-1	TP-22土層断面	337
図版12-4	VH-01遺物出土状態(2)	331	図版18-2	TP-23完掘	337
図版12-5	VH-02完掘	331	図版18-3	TP-23土層断面	337
図版13-1	TP-01完掘	332	図版18-4	TP-24・28完掘	337
図版13-2	TP-01土層断面	332	図版18-5	TP-24・28土層断面	337
図版13-3	TP-02完掘	332	図版18-6	TP-25完掘	337
図版13-4	TP-02土層断面	332	図版18-7	TP-25土層断面	337
図版13-5	TP-03完掘	332	図版19-1	TP-27完掘	338
図版13-6	TP-03土層断面	332	図版19-2	TP-27土層断面	338
図版14-1	TP-04完掘	333	図版19-3	TP-29完掘	338
図版14-2	TP-04土層断面	333	図版19-4	TP-29土層断面	338
図版14-3	TP-05完掘	333	図版19-5	TP-30完掘	338
図版14-4	TP-05土層断面	333	図版19-6	TP-30土層断面	338
図版14-5	TP-08完掘	333	図版19-7	TP-31完掘	338
図版14-6	TP-08土層断面	333	図版19-8	TP-31土層断面	338
図版15-1	TP-09検出	334	図版20-1	TP-33完掘	339
図版15-2	TP-09完掘	334	図版20-2	TP-33覆土黒色土除去状態	339
図版15-3	TP-10完掘	334	図版20-3	TP-34検出	339
図版15-4	TP-10土層断面	334	図版20-4	TP-34完掘	339
図版15-5	TP-11完掘	334	図版20-5	TP-34土層断面	339
図版15-6	TP-11土層断面	334	図版21-1	TP-35完掘	340
図版15-7	TP-12完掘	334	図版21-2	TP-35土層断面	340
図版15-8	TP-12土層断面	334	図版21-3	TP-36完掘	340
図版16-1	TP-13完掘	335	図版21-4	TP-39完掘	340
図版16-2	TP-13土層断面	335	図版21-5	TP-39土層断面	340
図版16-3	TP-14完掘	335	図版21-6	TP-39検出	340
図版16-4	TP-15完掘	335	図版22-1	TP-40完掘	341

图版22-2	TP-40土层断面	341	图版27-1	TP-64·67~69検出	346
图版22-3	TP-41完掘	341	图版27-2	TP-64·67~69完掘	346
图版22-4	TP-41土层断面	341	图版27-3	TP-68·69土层断面	346
图版22-5	TP-42完掘	341	图版28-1	TP-70完掘	347
图版22-6	TP-43完掘	341	图版28-2	TP-70土层断面	347
图版22-7	TP-44完掘	341	图版28-3	TP-70杭跡断面	347
图版22-8	TP-45完掘	341	图版28-4	TP-73完掘	347
图版22-9	TP-45土层断面	341	图版28-5	TP-73掘上堆積	347
图版23-1	TP-46完掘	342	图版29-1	TP-76検出	348
图版23-2	TP-46土层断面	342	图版29-2	TP-76完掘	348
图版23-3	TP-48完掘	342	图版29-3	TP-76土层断面	348
图版23-4	TP-50完掘	342	图版29-4	TP-77完掘	348
图版23-5	TP-50土层断面	342	图版29-5	TP-77土层断面	348
图版23-6	TP-52完掘	342	图版29-6	TP-79完掘	348
图版23-7	TP-52扯張区断層面	342	图版29-7	TP-81完掘	348
图版24-1	TP-53完掘	343	图版30-1	TP-82完掘	349
图版24-2	TP-53土层断面	343	图版30-2	TP-83完掘	349
图版24-3	TP-54完掘	343	图版30-3	TP-83土层断面	349
图版24-4	TP-54土层断面	343	图版30-4	TP-85完掘	349
图版24-5	TP-55完掘	343	图版30-5	TP-85土层断面	349
图版24-6	TP-55土层断面	343	图版30-6	TP-86完掘	349
图版24-7	TP-56完掘	343	图版30-7	TP-87完掘	349
图版24-8	TP-56土层断面	343	图版30-8	TP-87土层断面	349
图版25-1	TP-57·60完掘	344	图版31-1	TP-88完掘	350
图版25-2	TP-57土层断面	344	图版31-2	TP-89完掘	350
图版25-3	TP-60土层断面	344	图版31-3	TP-90完掘	350
图版25-4	TP-58完掘	344	图版31-4	TP-90土层断面	350
图版25-5	TP-58覆土 T a-d P 堆積	344	图版31-5	TP-92完掘	350
图版25-6	TP-58土层断面	344	图版31-6	TP-92土层断面	350
图版25-7	TP-59完掘	344	图版31-7	TP-94完掘	350
图版26-1	TP-61完掘	345	图版31-8	TP-10·81·94完掘	350
图版26-2	TP-61土层断面	345	图版32-1	TP-95完掘	351
图版26-3	TP-62完掘	345	图版32-2	TP-95土层断面	351
图版26-4	TP-62土层断面	345	图版32-3	V S B-10出土状態	351
图版26-5	TP-64完掘	345	图版32-4	TP-95覆土出土穢	351
图版26-6	TP-64土层断面	345	图版32-5	TP-95検出及び	
图版26-7	TP-65完掘	345		V S B-10出土状態	351
图版26-8	TP-65土层断面	345			

図版33-1	V P -01完掘	352	図版37-5	礫集中(V S B -07)	
図版33-2	V P -02完掘	352		下位P I T完掘	356
図版33-3	V P -02土層断面	352	図版37-6	礫集中(V S B -08)出土状態	356
図版33-4	V P -03完掘	352	図版37-7	礫集中(V S B -09)出土状態	356
図版33-5	V P -03土層断面	352	図版37-8	X・Y-17・18区礫出土状態	356
図版33-6	V P -04完掘	352	図版38-1	V層遺物出土状態	357
図版33-7	V P -05完掘	352	図版38-2	V層調査状況(1)	357
図版33-8	V P -05土層断面	352	図版38-3	V層調査状況(2)	357
図版34-1	V P -06完掘	353	図版38-4	V層調査状況(3)	357
図版34-2	V P -07完掘	353	図版38-5	Tピット調査状況	357
図版34-3	V P -07土層断面	353	図版39-1	土器集中(V P B -01)	
図版34-4	V P -07杭跡断面	353		出土状態	358
図版34-5	V P -09完掘	353	図版39-2	土器集中(V P B -01)断面	358
図版34-6	V P -09土層断面	353	図版39-3	東側路IV式土器出土状態	358
図版34-7	V P -11完掘	353	図版39-4	V層土器出土状態(1)	358
図版34-8	V P -11土層断面	353	図版39-5	V層土器出土状態(2)	358
図版35-1	V F -01検出	354	図版39-6	V層土器出土状態(3)	358
図版35-2	V F -03検出	354	図版39-7	V層剥片石器出土状態	358
図版35-3	V F -03断面	354	図版39-8	W-25区石斧出土状態	358
図版35-4	V F -06検出	354	図版40-1	厚幌1遺跡完掘(1)	359
図版35-5	V F -07検出	354	図版40-2	厚幌1遺跡完掘(2)	359
図版35-6	V F -07断面	354	図版40-3	厚幌1遺跡完掘遠景	359
図版35-7	V F -09検出	354	図版40-4	厚幌1遺跡完掘近景	359
図版35-8	V F -10検出	354	図版41-1	Ⅲ S B -01出土の礫(S=1/3)	360
図版36-1	V F -11検出	355	図版41-2	Ⅲ S B -02出土の礫(S=1/3)	360
図版36-2	V F -11断面	355	図版42-1	Ⅲ S B -03出土の礫(S=1/3)	361
図版36-3	V F -12検出	355	図版42-2	Ⅲ S B -04出土の礫(S=1/3)	361
図版36-4	V F -16検出	355	図版43-1	Ⅲ S B -05出土の礫(S=1/3)	362
図版36-5	礫集中(V S B -01~03)		図版43-2	Ⅲ S B -07出土の礫(S=1/3)	362
	出土状態	355	図版44-1	Ⅲ S B -08出土の礫(S=1/3)	363
図版36-6	礫集中(V S B -01)出土状態	355	図版44-2	Ⅲ層出土の土器・石器 (S=1/3)	363
図版36-7	礫集中(V S B -03)出土状態	355	図版45-1	Ⅲ層出土の金属製品 (S=1/1・1/3)	364
図版36-8	礫集中(V S B -04)出土状態	355	図版46-1	V H -01出土の遺物	365
図版37-1	礫集中(V S B -05)出土状態	356	図版47-1	V H -02および竪穴外 出土の遺物	366
図版37-2	礫集中(V S B -05)		図版48-1	V S B -01~07出土の遺物	367
	被熱礫出土状態	356			
図版37-3	礫集中(V S B -06)出土状態	356			
図版37-4	礫集中(V S B -07)出土状態	356			

図版49- 1	V S B - 08出土の礫(S=1/3)	368	図版58- 1	V層出土の剥片石器(4) (76~89)(S=1/1)	377
図版49- 2	V S B - 10出土の石皿 (S=1/4).....	368	図版59- 1	V層出土の剥片石器(5) (90~110)(S=1/1)	378
図版50- 1	V層出土の土器(1) (1~9)(S=1/4).....	369	図版60- 1	V層出土の剥片石器(6) (111~116)(S=1/1)	379
図版51- 1	V層出土の土器(2) (10~33)(S=1/3・1/4)	370	図版61- 1	V層出土の礫石器(1) (1~22)(S=1/2)	380
図版52- 1	V層出土の土器(3) (34~56)(S=1/3)	371	図版62- 1	V層出土の礫石器(2) (23~39)(S=1/2・1/3)	381
図版53- 1	V層出土の土器(4) (57~78)(S=1/3)	372	図版63- 1	V層出土の礫石器(3) (40~59)(S=1/3)	382
図版54- 1	V層出土の土器(5) (79~97)(S=1/3)	373	図版64- 1	V層出土の礫石器(4) (60~73)(S=1/3)	383
図版55- 1	V層出土の剥片石器(1) (1~40)(S=1/1)	374	図版65- 1	V層出土の礫石器(5) (74~85)(S=1/3・1/4)	384
図版56- 1	V層出土の剥片石器(2) (41~59)(S=1/1)	375	図版66- 1	V層出土の礫石器(6) (86~93)(S=1/3・1/4)	385
図版57- 1	V層出土の剥片石器(3) (60~75)(S=1/1)	376	図版67- 1	V層出土の礫石器(7) (94~105)(S=1/3・1/4)	386

第1章 調査の概要

第1節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ、二級河川厚真川流域を中心に広がる人口5,202人の農業の町である。面積は406.09 km²で、南北に35.7km、東西に16.4kmの南北に細長く、南部は太平洋に面し、約6 kmの砂浜の海岸線が続き、勇払原野の東端に位置する。また、北部は夕張市、由仁町に接し、夕張山地の南端域まで広がり、標高200~600mの山地が続く。東には穂別町、南東は鶴川町、西は苦小牧市、北西には早来町と接している。

町は大きく4つに分かれ、厚真川筋に南部の浜厚真・上厚真地区、中部の厚真地区、北部の幌内地区があり、東部には入鹿別川沿いの鹿沼地区がある。市街地は幹線道路が交差する中部の厚真地区に形成されている。

厚真町の町名語源は3説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」(向こう湿地帯)で、河川や特定の場所の地名ではなく、南部に広がる湿地帯につけられたものと考えられている。

南部の浜厚真地区は砂浜が続き、かつては、並行して比高差10m前後の砂丘列が形成されていたが、現在は、砂利採取や港湾開発によりほとんど消滅している。苦小牧東港の一部も厚真町域で、フェリー埠頭の他、道内最大の火力発電所である北海道電力厚真火力発電所も立地している。また、国道や高規格道路、鉄道があり、道央部から日高方面への幹線路となっていている。主な海産資源としてホッキ貝（ウバガイ）があり、苦小牧から厚真沿岸にかけては全国1の漁場で、町内での水揚げ量は86.2 tを記録し、全国有数の産地でもある。

海浜部の砂丘列と内陸部の台地との1.5~4 kmの間は湿地帯で、現在は排水路が整備され乾燥化している。しかし、5月から7月にかけて海霧が侵入し、冷涼な気候であるため酪農や軽種馬をはじめとする畜産業の放牧地、採草地になっている。この冷涼な気候は、石狩低地帯南部の勇払原野特有の気候であり、シベリア原産とされるハスカップ（クロミノウグイスカグラ）が自生していたが、現在は野生のものはほとんどみられなくなり、農家で栽培され、様々な加工品が販売されている。

また、苦小牧市との境界付近の共和地区は昭和46年より、苦小牧東部工業地帯の開発が始まり、現在、88基の国家・民間の石油備蓄タンクが建設され、厚真町域には32基の備蓄タンクがある。南部の中心市街である上厚真市街は、大正11年の北海道鉄道株式会社によって開通された金山線の上厚真駅開所により、軽舞地区の石油資源等の集散地として大きく発展するようになった。

南部から中部にかけては、広大な水田地帯が広がり、後背地の支笏火山灰による低平な台地は樹枝状に開析され、湿地や海跡湖が多数存在している。地形的には、苦小牧東部の静川・柏原台地と類似した地形である。台地上の森林資源を活用し、明治末期から大正にかけてはマッチ軸の工場も多く建設された。

中部の厚真市街は、厚真川本流と知決沢川、ウクル川などの合流点付近に位置し、鶴川方面、穂別・平取方面、早来方面、浜厚真方面への道道交差部に形成されている。かつては、町内幌内地区から

の森林資源や宇隆地区の石油資源などの集散地として発展し、早来まで鉄道も敷設されていた。宇隆地区の振老油田は、明治中期頃より手掘り井戸の掘削が始まり、南部の軽舞油田と共に厚真油田として、国内でも数少ない石油產出地として全国に知名を馳せていた。產油量は、昭和初期から戦前にかけて最も多く、昭和6年に9,420kLで、軽舞油田は昭和32年、振老油田は昭和42年を最後に閉鉱している。

中部から北部にかけては、夕張山地の南端部が迫り出してくるため、沖積平野は厚真川流域のみに限られる。左岸にはやや広い河岸段丘が形成され、畑作地が広がっている。

北部は、厚真川流域に形成された沖積平野の最奥部、厚真川本流と日高幌内川、シュルク川の合流点付近に幌内市街が形成され、昭和24年まで鉄道が敷設され、木材や木炭が移出されていた。幌内市街からは、狭い山間部へと入り、厚真川の上流域となる。厚真川の源流は河口から52.3km、夕張市との行政区画境界付近まで遡る。本流や支流沿いには林道も敷設され、穂別や夕張市滝ノ上へのルートがある。

B 歴史的環境

(1)先史時代

厚真町内には、現在90ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が登載されている。時期は縄文時代早期から近世末のアイヌ期まであり、今のところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。しかし、厚真町との境界付近に所在する静川5遺跡では、蘭越型細石刃核をはじめとする後期旧石器の石器群が出土しており、今後、町内においても発見される可能性が高い。地域的には苦小牧東部工業地帯の開発に伴う埋蔵文化財調査により、共和地区に集中する傾向にあるが、近年の農地造成や火山灰採取等による確認調査で登載遺跡数が急増し、平成14年度は11ヵ所の遺跡が新規登載された。立地は殆どが湿地の後背地や小河川沿いの台地縁辺部、厚真川本流の河岸段丘縁辺部で、低地での遺跡は確認されていない。ただし、地点不明であるが昭和32年に東厚真川岸よりほぼ完形の長頸壺の須恵器が出土している。

町内の遺跡の殆どは縄文時代に残されたもので、縄文早期後半の東釧路系土器群の時期からで、中期の遺跡数がもっとも増加する。後期は初頭までは遺跡数が多いものの、中葉以後は極端に減少し、晚期にやや増加する傾向にある。統縄文時代はややあるものの遺跡数は少なく、擦文時代、アイヌ期においても遺跡数は少ない。各時期における遺跡数の偏りは苦小牧市における傾向と一致している。

町内での組織的な発掘調査は昭和38年に朝日遺跡、共和遺跡が厚真村郷土研究会により行われたのが初見である。昭和48年からは苦小牧市埋蔵文化財調査センターにより苦小牧東部工業地帯で試掘・発掘調査が始まり、昭和59年までの12年間で、厚真町域では新規登載13遺跡、発掘調査9遺跡が行われた。時期は縄文早期～擦文期まであり、厚真1遺跡では縄文時代中期中葉の円筒上層式系の土器がまとまって出土し、「厚真1式」の標識資料となっている。

近年、開発に伴う試掘調査や発掘調査、工事立会が増加し、豊川1遺跡(田才・長橋 2001)、鰯沼2遺跡(西脇・宗像 2001)などがある。また、高規格道路日高自動車道の建設にあたっても、(財)北海道埋蔵文化財センターにより浜厚真3遺跡が調査され、溝状を主体とするTピットが187基検出されている(鎌田・中山他2003)。

厚真川上流部の幌内地区においては、平成13年度より、厚幌ダム建設に係わる埋蔵文化財確認試掘調査が北海道教育委員会により行われ、現在のところ新たに11遺跡が発見されている。今後、厚幌ダム建設に伴う発掘調査が継続されて行われる予定である。

(2)歴史時代

厚真町に関わる最初の記録はシャクシャイン蜂起の「続々類従本蝦夷記」のなかで、「於多久見」が「阿津摩」にて討ち取られるという記述である。町内における唯一のチャシ「桜丘チャシ跡」は丘先式で、厚真川の沖積平野よりかなり奥まった位置にある。塚も上幅で11.8m、深さ3mほどあり戦闘的要素を伺わせることなどから、この時期に構築、使用された可能性もある。それ以前のコシャマイン蜂起では太平洋側は鶴川までが和人の居住と記録され、1640年、駒ヶ岳の噴火で浜厚真へ30戸ほどのアイヌが避難してきたとの伝説がある。

その後、18世紀末にはツマ場所として松前藩士 厚谷伴蔵の給地で干鮭や椎茸、シナ繩が産物として挙げられている。また、ほぼ同時期の八王子千人同心も隣接地区の勇払や鶴川に移住しており、和人の定住が進むようになる。幕末期の安政5(1857)年には松浦武四郎が、勇払から厚真川河口を経て、厚真川を遡り、現富里にて2泊している。この時、厚真町内には現浜厚真のツマ、現厚和のキムンコタン、現厚真市街新町のシナイ、現富里のトンニカ、比定地不明のヲフムセナイの5カ所のコタンが記されている。また、畑作が盛んでアワを栽培していることや番犬、獵犬として厚真犬が活躍していたことも記載されている。

明治6年には勇払郡役所の所管で、勇払郡16カ村のうち、行政単位としての厚真村がはじまる。明治前半は南部に和人の開拓が入るだけであったが、明治20年代より町内各地に和人の本格的入植が始まり、農業開拓の他、手掘り掘削による石油採掘もはじまる。また、この時期に開拓によるアイヌへの勧農事業として町内のコタンを統合し、西老軽舞（現吉野）に移住させた。私塾も設置されるようになり、厚真町の胎動期ともなる。厚真町の開村は明治30(1897)年で、苦小牧村から独立し、振老（現桜丘・専厚寺境内）に戸長役場が設置されたことによる。

2. 遺跡の位置と環境

厚幌1遺跡は、厚真川が形成する沖積平野の最奥部の幌内地区より約3.6km、厚真川上流部に入った山間部に位置し、厚真川本流とキウキチ沢との合流点西侧の河岸段丘上に立地する。標高57~62mの緩い西向きの傾斜を有する平坦面に広がる。遺跡の南側には、比高差約110mの山体があるため発掘区南側は極めて日当たりが悪く、この範囲は遺物点数が極端に少なかった。また、発掘区に隣接して、西側に沢状地が開析している。

発掘前の現況は、発掘区の大半が樹齢45~50年のカラマツの植林地であった。植林前は耕作地として使用されていたらしく、一部の発掘区壁面で耕作痕が観察できた。また、支流のキウキチ沢は、遺跡の立地する平坦面に入植した、藤根 キウキチ氏の名前に由来するもので、昭和5年発行の地形図に家屋が記されている。

周囲の植物は、用材目的や木炭生産のため伐採されており、本来の植生は全く残っていない。しかし、発掘区に隣接する急斜面には直径1m以上のカツラなどの広葉樹の古い切り株が数多くあり、台地上や山地ではナラ属やカバ属、カツラ、サクラなどの広葉樹林が広がっていたものと思われる。また、厚真川やキウキチ沢の氾濫原はヤナギが密生しており、クルミ属が意外と少ない。草本類はササが圧倒的優勢で、その他の草本類は極めて少ない。部分的にトグサやオオウバユリが見受けられ、緩い沢状地があるものと思われる。厚真川氾濫原にはヨシがやや多く分布している。

厚真町全図

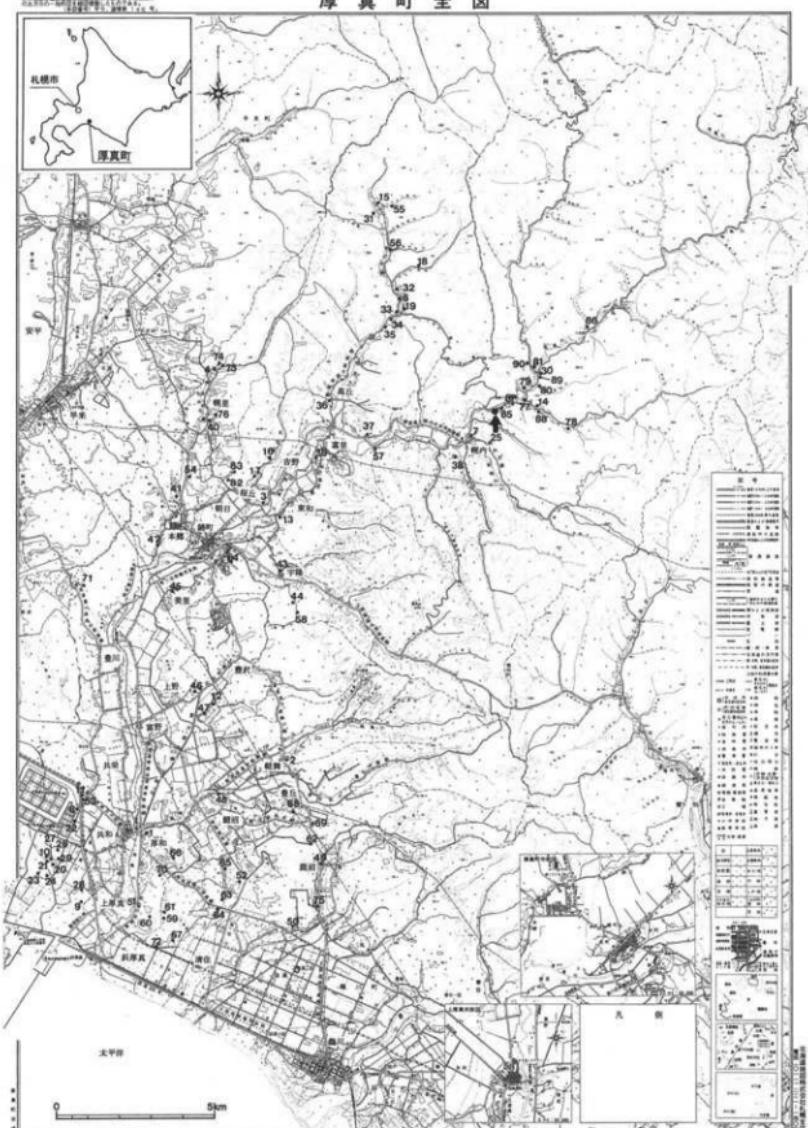


図 I - 1 町内遺跡分布図

表 I - 1 厚真町内遺跡一覧表(1)

登載番号	種別	名称	所在地
1	遺物包含地	上厚真遺跡	字厚和66, 70~72, 74, 79, 81, 82
2	遺物包含地	軽舞遺跡	字軽舞205, 206, 211, 212
3	遺物包含地	朝日遺跡	字朝日209-3~5, 210, 211-1, 212-1~3・7・8, 214-1・2, 209-1
4	遺物包含地	幌里1遺跡	字幌里151-1, 154-2, 156-2, 157-1・3
5	遺物包含地	新町遺跡	字新町88-1・4, 92-1・2, 95-24~45
6	遺物包含地	高丘1遺跡	字高丘208-2, 213, 222, 224~226, 227-1・2, 230
7	遺物包含地	幌内1遺跡	字幌内616-1・5
8	遺物包含地	共和遺跡	字共和110-1, 115-1
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	字浜厚真214
10	遺物包含地	厚真10遺跡	字共和125
11	遺物包含地	厚真11遺跡	字共和88-2, 93-1・2, 95-2
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	字豊沢339, 340, 379, 380
13	遺物包含地	東和遺跡	字東和404, 405, 411~413, 440, 441
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	字幌内438-2~6・8・9
15	遺物包含地	高丘3遺跡	字高丘40, 41, 46-1・2・4, 58
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	字桜丘73-1, 76
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	字桜丘139, 142
18	遺物包含地	高丘2遺跡	字高丘176-1, 182-20・22
19	遺物包含地	高丘10遺跡	字高丘237-2~4
20	遺物包含地	厚真1遺跡	字共和126
21	遺物包含地	厚真2遺跡	字共和126
22	遺物包含地	厚真3遺跡	字共和110-2, 116
23	遺物包含地	厚真4遺跡	字共和137, 138-2, 140
24	遺物包含地	厚真5遺跡	字共和128, 129-1, 136-1, 137, 138-1・2
25	集落跡	厚幌1遺跡	字幌内487-1・9・15
26	遺物包含地	厚真7遺跡	字共和116, 117, 118-1
27	遺物包含地	厚真8遺跡	字共和125, 126
28	遺物包含地	厚真9遺跡	字共和815
29	遺物包含地	厚真12遺跡	字共和115-1, 118-2, 119~121, 124
30	遺物包含地	上幌内1遺跡	字幌内372-1~3
31	遺物包含地	高丘4遺跡	字高丘67, 68, 69-1・2, 70~73
32	遺物包含地	高丘5遺跡	字高丘187~189
33	遺物包含地	高丘6遺跡	字高丘232-1・2, 233, 235, 283, 288, 291
34	遺物包含地	高丘7遺跡	字高丘304~307
35	遺物包含地	高丘8遺跡	字高丘329, 331
36	遺物包含地	高丘9遺跡	字高丘595, 597-1, 598, 601, 602, 605, 605-2, 606, 612, 612-2, 614, 615, 617, 619, 619-2, 621, 623-1・2・5・6, 628, 631
37	遺物包含地	富里1遺跡	字富里42-1・4・12・14, 43-1・10~12, 45-1, 48, 49, 51-1, 54-1
38	遺物包含地	幌内4遺跡	字幌内882-1, 883-3, 884
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	字富里404
40	遺物包含地	幌里2遺跡	字幌里214, 215, 217, 299, 309
41	遺物包含地	本郷1遺跡	字本郷192-1・3
42	遺物包含地	本郷2遺跡	字本郷438-1~3, 439, 445, 446-1, 447, 448-1~3, 449-1~3, 451, 452
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	字宇隆無番地
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	字宇隆268-1, 269, 270-1~2

表 I - 2 厚真町内遺跡一覧表(2)

登載番号	種別	名 称	所 在 地
45	遺物包含地	美里 1 遺跡	字美里201-1, 204
46	遺物包含地	豊沢 2 遺跡	字豊沢584, 600~604, 606~611
47	遺物包含地	豊沢 3 遺跡	字豊沢355~362
48	遺物包含地	鯉沼 1 遺跡	字鯉沼80-1~9, 81-1~4, 84-1~3, 85-1~4
49	遺物包含地	鹿沼 2 遺跡	字鹿沼106-1, 107, 108, 111~114
50	遺物包含地	鹿沼 1 遺跡	字鹿沼278~281, 285, 375, 383, 384
51	遺物包含地	厚和1 遺跡	字厚和187~190
52	遺物包含地	鹿沼 3 遺跡	字鹿沼355-1
53	遺物包含地	厚真 1 3 遺跡	字共和111
54	遺物包含地	本郷 3 遺跡	字本郷123番地
55	遺物包含地	高丘 1 1 遺跡	字高丘177-1
56	遺物包含地	高丘 1 2 遺跡	字高丘122-1・2, 124, 125-1・2, 126, 128, 129-1
57	墳墓	幌内 5 遺跡	字幌内
58	遺物包含地	豊沢 4 遺跡	字豊沢93-1
59	遺物包含地	厚和 2 遺跡	字厚和200, 202, 字浜厚真398-8
60	遺物包含地	厚和 3 遺跡	字厚和205-7
61	遺物包含地	厚和 4 遺跡	字厚和198, 字浜厚真417-2
62	遺物包含地	鹿沼 4 遺跡	字鹿沼74-30
63	遺物包含地	厚和 5 遺跡	字厚和21-1, 22
64	遺物包含地	新町 2 遺跡	字新町19-1
65	遺物包含地	鹿沼 5 遺跡	字鹿沼334-8・29
66	遺物包含地	厚和 6 遺跡	字厚和45
67	遺物包含地	浜厚真 2 遺跡	字浜厚真395-2
68	溝穴遺構	鯉沼 2 遺跡	字鯉沼159-1, 161-1
69	遺物包含地	豊丘 遺跡	字豊丘175-1・9
70	集落跡	厚和 7 遺跡	字厚和97-3
71	集落跡	豊川 1 遺跡	字豊川21, 23
72	遺物包含地	浜厚真3 遺跡	字浜厚真507, 523, 598
73	遺物包含地	二タッポロ沢 遺跡	字幌里78-1・2, 79-1・3, 82, 84, 150-1・2
74	遺物包含地	幌里神社 遺跡	字幌里78-2
75	溝穴遺構	入鹿別沼 遺跡	字鹿沼217-1
76	溝穴遺構	幌里 3 遺跡	字幌里221
77	遺物包含地	オニキシベ 2 遺跡	字幌内400-1, 401-1, 402
78	遺物包含地	オニキシベ 3 遺跡	字幌内438-1・13, 444, 445-1・2
79	墳墓	上幌内モイ 遺跡	字幌内395-1~4, 二級河川厚真川河川敷
80	遺物包含地	一里沢 遺跡	字幌内388-4
81	集落跡	ショロマ 1 遺跡	字幌内93-2
82	遺物包含地	東ニタッポロ 1 遺跡	字幌里480-8
83	遺物包含地	東ニタッポロ 2 遺跡	字幌里480-1
84	遺物包含地	浜厚真 4 遺跡	字浜厚真439-1
85	遺物包含地	厚幌 2 遺跡	字幌内487-1
86	遺物包含地	イクバンドユクチセ 遺跡	字幌内65・71・72
87	遺物包含地	オニキシベ 4 遺跡	字幌内483-3, 485-3
88	遺物包含地	オニキシベ 5 遺跡	字幌内421, 421-2
89	溝穴遺構	上幌内 2 遺跡	字幌内374-1・2, 375-1
90	遺物包含地	ショロマ 2 遺跡	字幌内96-1

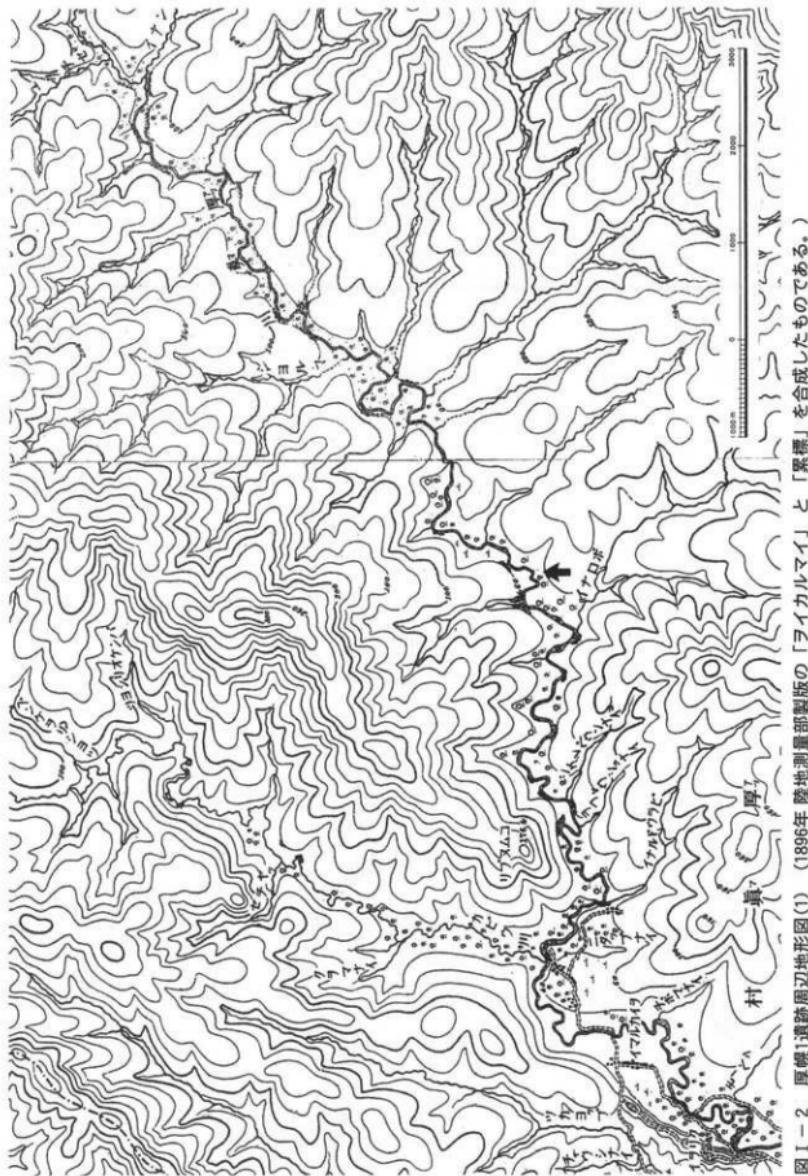


図 I-2 厚岸1遺跡周辺地形(1) (1896年陸地測量部製版の「ライカルマイ」と「榮標」を合成したものである。)

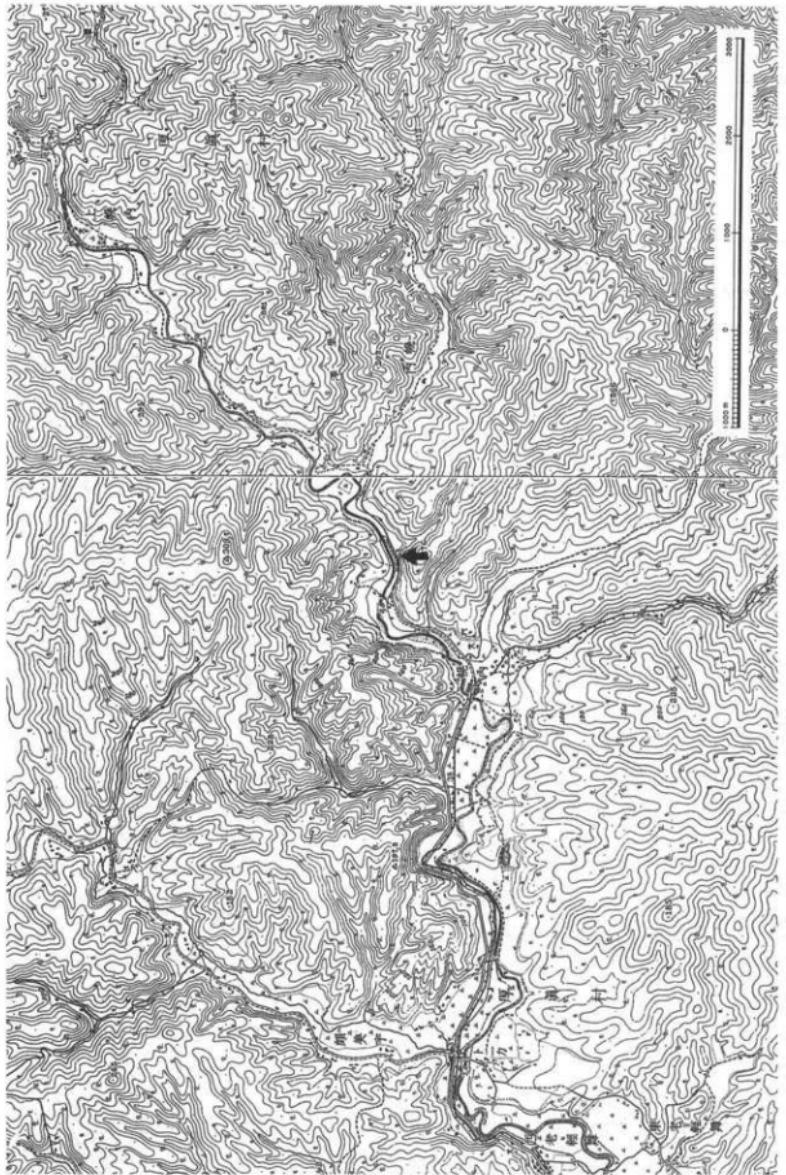


図1-3 厚岸1遺跡周辺地形図(2) (1930年 大日本帝国陸地測量部発行の「早来」と「越別」を合成したものである。)

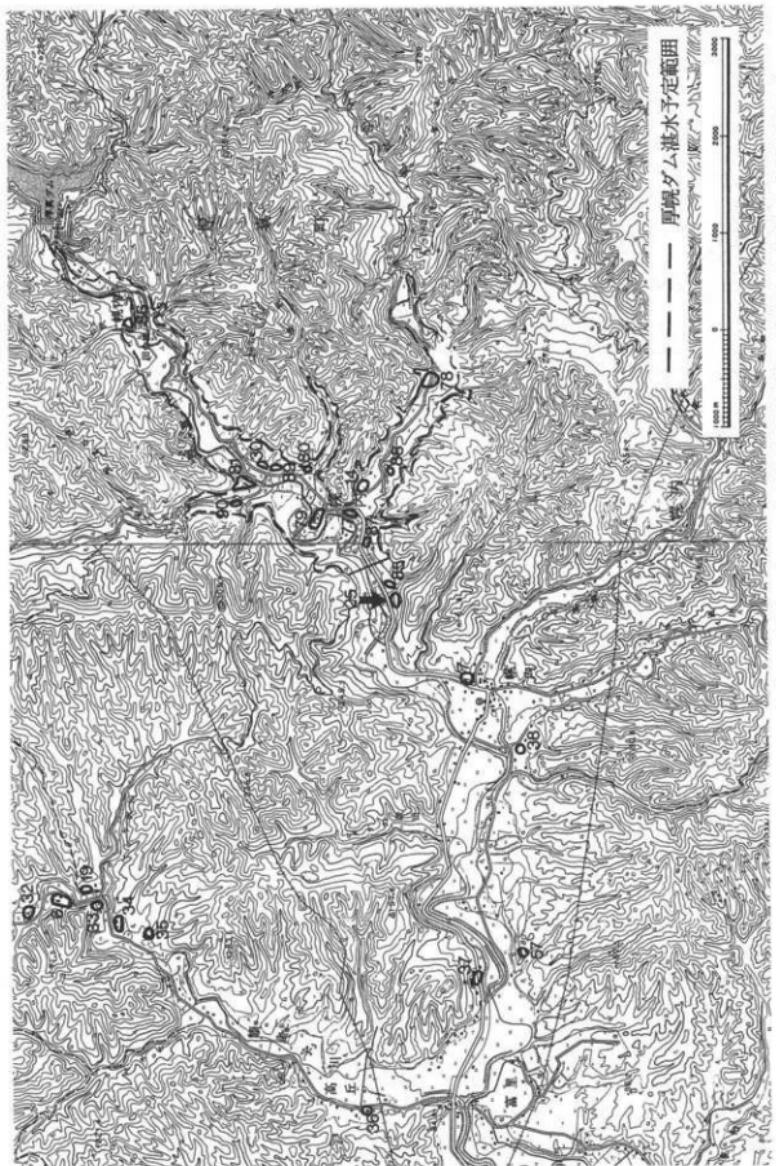


図 1-4 厚岸 1 道路周辺地形図(3) (1999年 国土地理院発行の「早来」と1993年 国土地理院発行の「地別」を合成したものである。)

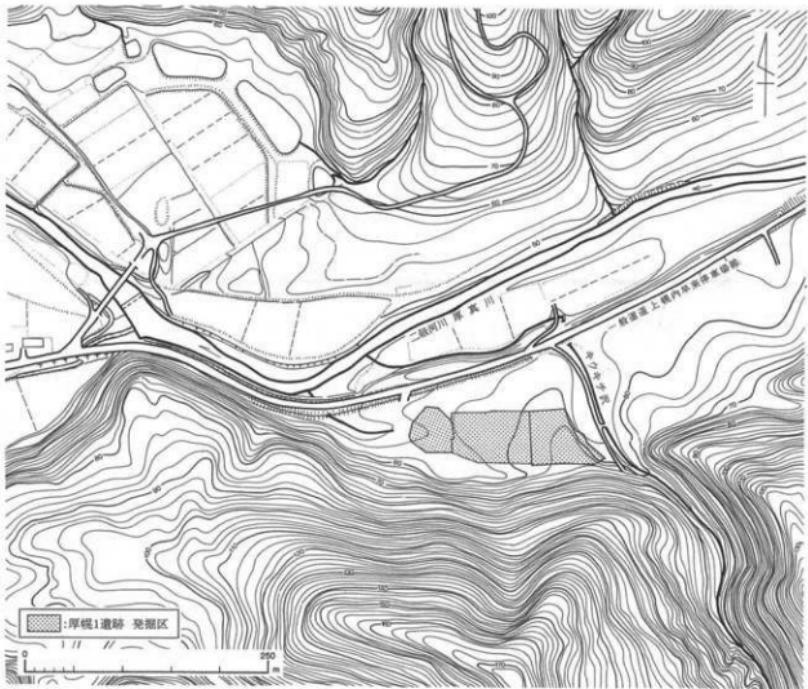


図 I - 5 発掘調査区と周辺の地形（1）

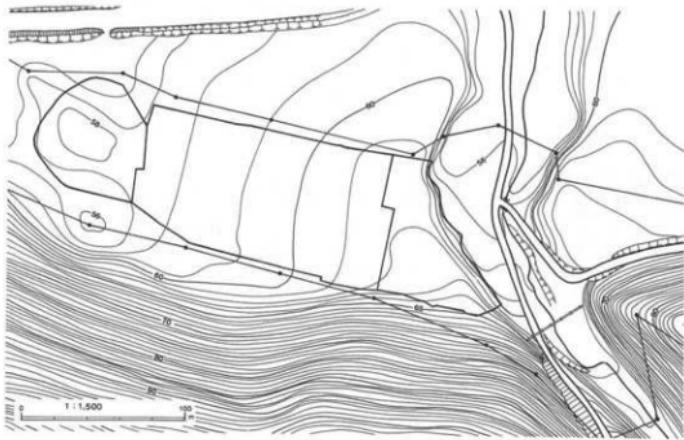


図 I - 6 発掘調査区と周辺の地形（2）

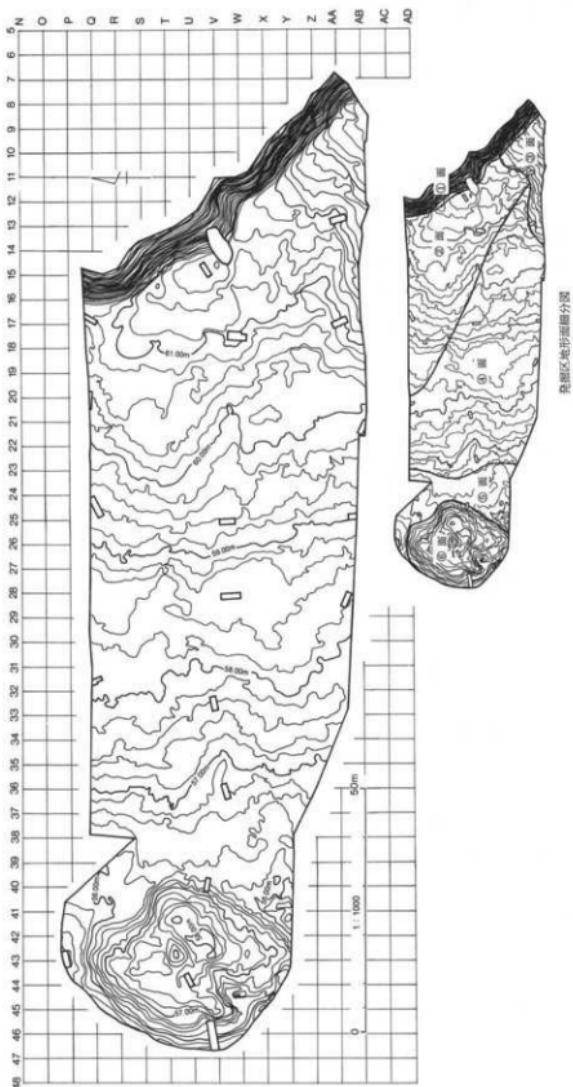


図 I-7 発掘調査区内地形図

3. 地 形 (図 I - 6・7)

東西に長軸方向をもつ発掘区内の微地形は、V層上面で行った地形測量図を参考に記述する。発掘区内の地形状況は、東側よりキウキチ沢侵食斜面、河岸段丘平坦面、西端の地すべり堆積物マウンドの大きく3面に分類できる。これらの地形面の形成過程をふまえて分けると、さらに6面ほど細分できそうである。

①面：まず、最も明瞭な地形状況として、発掘区東端の北西—南東軸にキウキチ沢の侵食により形成された急斜面があげられる。仰角は約30°あり、斜面下部の侵食が比較的新しい場所と思われるところでは45°前後の箇所もみられた。Ta-cの堆積ではなく、火山灰除去中の立会いでTa-bが堆積していたことから、Ta-b降下以前まで河岸段丘を侵食していたものと思われる。また、発掘区の南北中央部付近にはキウキチ沢へ突出した斜面の下流側に、傾斜のやや緩い場所があり、ここに近現代遺構の馬車道跡が検出された。アイヌ期や縄文期においてもキウキチ沢へ下る小道があった可能性も推察できる。

②面：発掘区南側の沖積錐堆積層が最も厚い範囲で、キウキチ沢口より北西方向へ広がる、緩い尾根上の微地形を形成し、等高線も北西方向へ張り出している。南側には隣接して小規模な沢状地形があり、尾根状地より流出する雨水等の影響によるものかもしれない。この範囲内はVI層・VII層は、シルト岩角礫を極めて多量に含み、青灰色砂の互層が発達している。Tピット壁面やP-17区トレーニングの観察から、沖積錐堆積物の層厚は1m前後と厚く堆積している。また、縄文期の遺跡の主体部もこの面に形成され、僅かな尾根状地形を選択している可能性がある。

③面：遺跡が形成される河岸段丘上、発掘区の南東範囲に傾斜面が形成される。この面にTピットを多数検出した。Tピット壁面の観察では、角礫状のシルト岩をほとんど含まず、バミスの形状を残す赤褐色のTa-d2の再堆積層が上位にあり、その下には沖積錐堆積層の特徴である砂層が発達していた。このことから、沖積錐堆積物が形成され後に、背後の急斜面から供給されたTa-dの再堆積層が形成されたものと思われる。また、現地形においても、最も南側の斜面に近接する場所でもある。

④面：西向きの緩斜面で、等高線がほぼ南北に並行する。厚真川の下流方向に傾斜していることから基盤の河岸段丘面の地形を表すものと思われる。発掘区北側は沖積錐堆積物の流出により少量のシルト岩角礫を含む層が発達するが、山裾の南側はシルト岩角礫をほとんど含まないTa-dの再堆積層で形成されている。西側の斜面下方で小規模な沢状地形が発達している。

⑤面：B地区とC地区の境界付近の38ライン以東に広がるほぼ平坦な面である。⑥面とした地すべり堆積物があるため、V層上面で確認できる範囲は狭い。VI層中のシルト岩角礫も微量で、再堆積層も60cm以下と③面と比較して薄い。

⑥面：発掘区西端の地すべり堆積物によるマウンド地形。Ta-c降下以前の地震による地すべり堆積物で、長軸約40m×短軸約35m×高さ約2.5mの範囲に広がる。マウンド地形のほぼ中心部で溝状の低みが北東—南西軸にあり、高まりが2つの軸状に看取できる。堆積時期については、地すべり堆積物の上にV a層が発達し、直接的にTa-cを被覆していないことから、縄文時代中期後葉～後期中葉ないしは後葉前後と思われる。この地形に関しては第V章5節で、北海道立地質研究所の田近淳氏・大津直氏により現地踏査のもと、詳細な報告を頂いている。

上記の地形面を概括すると、各々の地形面の形成時間幅は不明だが、⑤面ないしは⑥面が最も古い

河岸段丘面の形状を反映しているものと思われる。厚真川の河岸段丘が形成された後、Ta-d (VII層) が降灰し、段丘面を被覆した。時間差をほとんどおかずしてキウキチ沢より供給されたTa-dとシルト岩角礫および砂を主体とする沖積錐堆積層が比較的短時間に形成され、ほぼ連続して後背地の急斜面よりTa-d2バミスを主体とする再堆積層が供給されたものと思われる (VII層)。その後、気候の温暖化により植物が火山灰地を覆うと、黒色土 (V層) が発達し、表土 (VII・VI層) の安定化が進んだものと思われる。長時間経過し、黒色土 (V層) が厚く発達するなかで、Ta-c降下前に地すべり堆積物が形成されている。

(古) 厚真川本流による河岸段丘面の形成 → Ta-dの降下堆積 → キウキチ沢からの沖積錐堆積物形成 → 南側急斜面からのTa-dの再堆積物の供給 → 黒色土の発達 → 発掘区西端の地すべり堆積物の形成 → Ta-cの降下堆積 → キウキチ沢の河岸段丘面の侵食 (多時期にわたり、どの段階から始まつたかは不明) (新)

4. 地 質

A 概況および基本土層

5万分の1地質図幅説明書「早来」(松野・石田 1960) によると遺跡周辺の基盤層は、「振老層」と称される礫岩と砂岩・泥岩の互層からなる新第三紀の堆積岩層で、遺跡付近の厚真川岸の崖面で水平堆積の堆積岩互層が観察できる。周囲の小河川の河床も砂岩・泥岩で構成され、穂別方面に源流をもつオニキシベ川では、花崗岩や閃綠岩などの火成岩もわずかに採取できる。

厚幌1遺跡の所在する河岸段丘面は、円礫が混入する灰白色シルト層で形成された河岸段丘上に樽前d降下火山灰が被覆していることが、キウキチ沢斜面調査で侵食された崖面の観察により判明した。樽前d火山灰の上層は、発掘区の東側はキウキチ沢から流出したと思われる沖積錐堆積層が発達し、樽前d火山灰や角礫のシルト岩片を主体とする再堆積物が広がり、水成堆積に特徴的なクロスマニナも観察できる。また、発掘区南側は背後の急斜面より流出した樽前d火山灰の再堆積層が見られ、樽前d火山灰の降下後からV層とした黒色土が発達するまでの期間に、大きな層序の変化があったことが分かった。

この他、発掘区西側で長軸約40m×短軸約35m×高さ約2.5mの範囲に、樽前c火山灰降下以前の地すべり堆積物を確認した。この堆積物は樽前d火山灰と段丘堆積物から構成されている。

基本層序については図 I - 8・9 にP-17区とAA-28区のトレンチの堆積図を示した。以下に概略を述べる。なお、AA-28区トレンチにはB地区の地すべり堆積物と同時期、同質の堆積物を挟在し、この土層については堆積図下に注記を記載している。

P-17区 基本土層 (図 I - 8、巻頭カラー3の上段右)

I 表 土 10YR3/1 黒褐色 しまり弱 粘性弱

腐植土主体。多量のTa-b火山砂粒(ø0.5mm)を均一に含む。多量の根を含む。B地区壁面でプラウ耕作痕を確認。

II a1 樽前b火山灰(Ta-b) 2.5YR7/3 浅黄色 しまり弱 粘性無

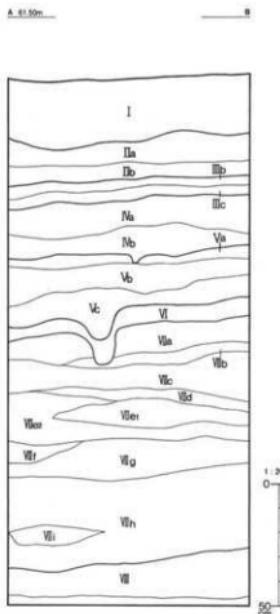


図 I - 8 P - 17区 基本土層堆積図

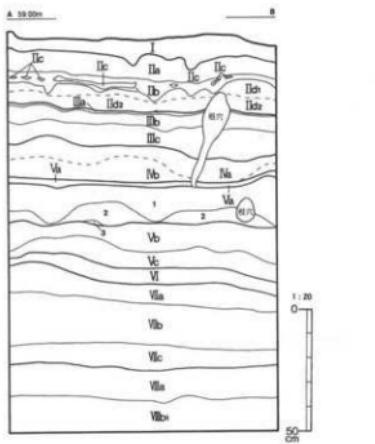


図 I - 9 A A - 28区 基本土層堆積図

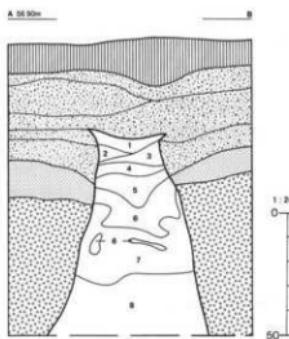
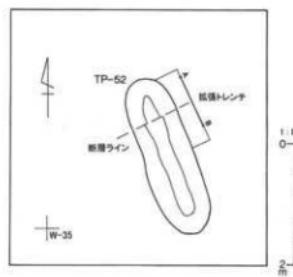


図 I - 10 TP - 52拡張トレンチ断層堆積図



- | | | |
|-------------|--------|-----------------------|
| 1. 10YR6/4 | にじい黄褐色 | Tard風化 L |
| 2. 2.5Y5/4 | 黄褐色 | Tard L |
| 3. 10B/G5/1 | 青灰色 | Tard スコリア=Tard L (弱) |
| 4. 7.5Y5/4 | にじい褐色 | Tard L=Tard P (φ10 i) |
| 5. 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | Tard L=Tard P (φ10 i) |
| 6. 10B/G5/1 | 暗青灰色 | Tard スコリア |
| 7. 10YR6/6 | 明黄色 | Tard 風化 L |
| 8. 10YR7/6 | 明黄褐色 | Tard 風化 L |

	層厚1mm、粒径φ2mm以下。Ⅱa-b層の間に保水層あり。	
II b2	樽前b火山灰(Ta-b)	7.5YR5/4にぶい褐色 粒径φ5mm以下。
III a	腐植土	7/5YR2/1黒色 粘性中 しまり中 層厚1cm前後。多量のⅡ層火山砂(φ1mm↓)を斑状に含む。赤味あり。この下位～Ⅲb上位にかけて遺物が出土。
III b	腐植土	10YR1.7/1黒色 Ⅲ層主体。微量のIV層を均一に含む。
III c	腐植土	10YR2/2黒褐色 Ⅲ層主体。少量のIV層を均一に含む。
IV a	樽前c火山灰(Ta-c)	10YR4/4褐色 しまり中 粘性中 2,500～3,000BP降下。少量のⅢ層を斑状に含む。Ⅲ～IV層の漸移的に様相。保水性あり。
IV b	樽前c火山灰(Ta-c)	2.5Y6/3にぶい黄色 しまり中 粘性無 2,500～3,000BP降下。微量のⅢ層を斑状に含む。
V a	腐植土	7.5YR2/3極暗褐色 粘性強 少量のIV層を斑状に含む。赤味あり。
V b	腐植土	10YR2/1黒色 しまり中 粘性中 微量のTa-dP(φ5mm↓)、少量のシルト岩(φ5mm↓)を均一に含む。
V c	腐植土	10YR2/3黒褐色 しまり中 粘性中 多量のシルト岩(φ10mm↓)、微量のTa-dP(φ5mm↓)を含む。
VI	漸移層	7.5YR4/6褐色 多量のシルト岩(φ1cm↓)、少量のTa-dP(φ2mm↓)を含む。
VII a	再堆積層	7.5YR5/8明褐色 少量のTa-dP(φ8mm↓)、微量のシルト岩(φ8mm↓)を含む。
VII b	再堆積層	10YR5/6黄褐色 しまり中 Ta-dL主体、多量の青灰色砂、少量のTa-dP(φ2mm↓)を含む。
VII c	再堆積層	2.5Y5/2暗灰黄色 青灰色砂主体、少量のTa-dP(φ1mm↓)、シルト岩(φ5mm↓)を含む。
VII d	再堆積層	10YR5/6黄褐色 しまり中 粘性中 Ta-dL主体、少量のTa-dP(φ5mm↓)を含む。
VII e1	再堆積層	5YR4/8赤褐色 粘性無 Ta-dP(φ8mm↓)主体。
VII e2	再堆積層	7.5YR5/6明褐色 粘性強Ta-dL主体、少量のTa-dP(φ5mm↓)を含む。
VII f	再堆積層	5GY6/1オリーブ灰色 青灰色砂(φ0.5mm↓)主体、微量のTa-dP(φ1mm↓)を含む。
VII g	再堆積層	2.5Y6/4にぶい黄色 シルト岩(φ3mm↓)主体、少量のTa-dLを均一に含む。
VII h	再堆積層	10Y6/1灰色 青灰色砂(φ5mm↓)主体、シルト岩(φ1mm↓)を含む。
VII i	再堆積層	5Y5/2灰オリーブ色 シルト岩(φ3cm↓)主体、多量の青灰色砂を含む。
VIII	Ta-d風化ローム層	2.5Y5/4黄褐色 しまりやや強 粘性強 Ta-d風化ローム主体、多量のTa-dP(φ5mm↓)を含む。

AA-28区 基本土層 (図I-9、巻頭カラー3の上段左)

I	表 土	7.5YR2/1黒色 しまり弱 粘性弱 腐植土。多量のTa-aを均一に含む、極多量の植物細毛根を含む。
II a	樽前 a 火山灰(Ta-a)	10YR6/4にぶい黄橙色 しまり弱 粘性無 1739年降下。粒径1mm以下、微量の植物細毛根を含む。下層ではやや粒径大。
II b	腐 植 土	7.5YR2/2黒褐色 しまり弱 粘性弱 上層:多量のKo-c2を均一に含む。下層:極多量のTa-bを均一に含む。
II c	駒ヶ岳c2火山灰(Ko-c2)	10YR8/3浅黄橙色 しまり無 粘性無 1694年降下。極細粒火山砂(Φ0.5mm↓)、粒度は均一。
II d1	樽前 c 火山灰(Ta-b)	2.5Y7/3浅黄色 しまり無 粘性無 1667年降下。Φ1mm前後の火山砂(軽石～砂層)。
II d2	樽前 b 火山灰(Ta-b)	7.5YR5/4にぶい褐色 しまり弱 粘性無 1667年降下。Φ5mm以下の火山礫(軽石層)。
III a	腐 植 土	7.5YR2/1黒色 しまり弱 粘性弱 層厚1~2cm。多量のII d2層を斑状に含む。
III b	腐 植 土	7.5YR2/1黒色 しまり弱 粘性弱 微量のIV層火山砂(Φ1mm↓)を均一に含む。
III c	腐 植 土	10YR2/2黒褐色 しまり中 粘性弱 多量のIV層火山砂(Φ1mm↓)を均一に含む。
IV a	樽前 c 火山灰(Ta-c)	7.5YR3/3暗褐色 しまり中 粘性弱 2,500~3,000BP降下。多量のIII c層を均一に含む。
IV b	樽前 c 火山灰(Ta-c)	10YR6/6明黄褐色 しまり中 粘性無 2,500~3,000BP降下。Φ1mm以下の軽石、粒度は均一。
V a	腐 植 土	10YR3/2黒褐色 しまり中 粘性中 多量のIV b層を斑状に含む。
V b	腐 植 土	10YR1.7/1黒色 しまり中粘性強 微量のシルト岩(Φ5mm↓)を含む。
V c	腐 植 土	10YR2/2黒褐色 しまり強 粘性強 少量のTa-d風化ロームを均一に含む。少量のシルト岩粒(Φ3mm↓)を含む。
VI	漸 移 層	10YR3/3暗褐色 しまり極強 粘性中 Ta-d再堆積ローム。多量のシルト岩(Φ5mm↓)を含む、微量のTa-dP(Φ10mm↓)を含む。
VII a	再 堆 積 層	10YRA/4褐色 しまり強 粘性極強 Ta-d再堆積ローム。上層に少量のシルト岩(Φ3mm↓)を含む、微量Ta-dP(Φ10mm↓)を含む。
VII b	再 堆 積 層	5YR4/8赤褐色 しまり中 粘性強 Ta-d再堆積ローム。多量のTa-dP(Φ10mm↓)を含む。保水性あり、粒度は不均一。
VII c	再 堆 積 層	10YR5/4にぶい黄褐色 しまり極強 粘性極強 Ta-d再堆積ローム。多量のTa-d1スコリアを含む。少量のTa-dPを含む。
VIII a	Ta-d1スコリア	5G4/1暗緑灰色 しまり強 粘性無

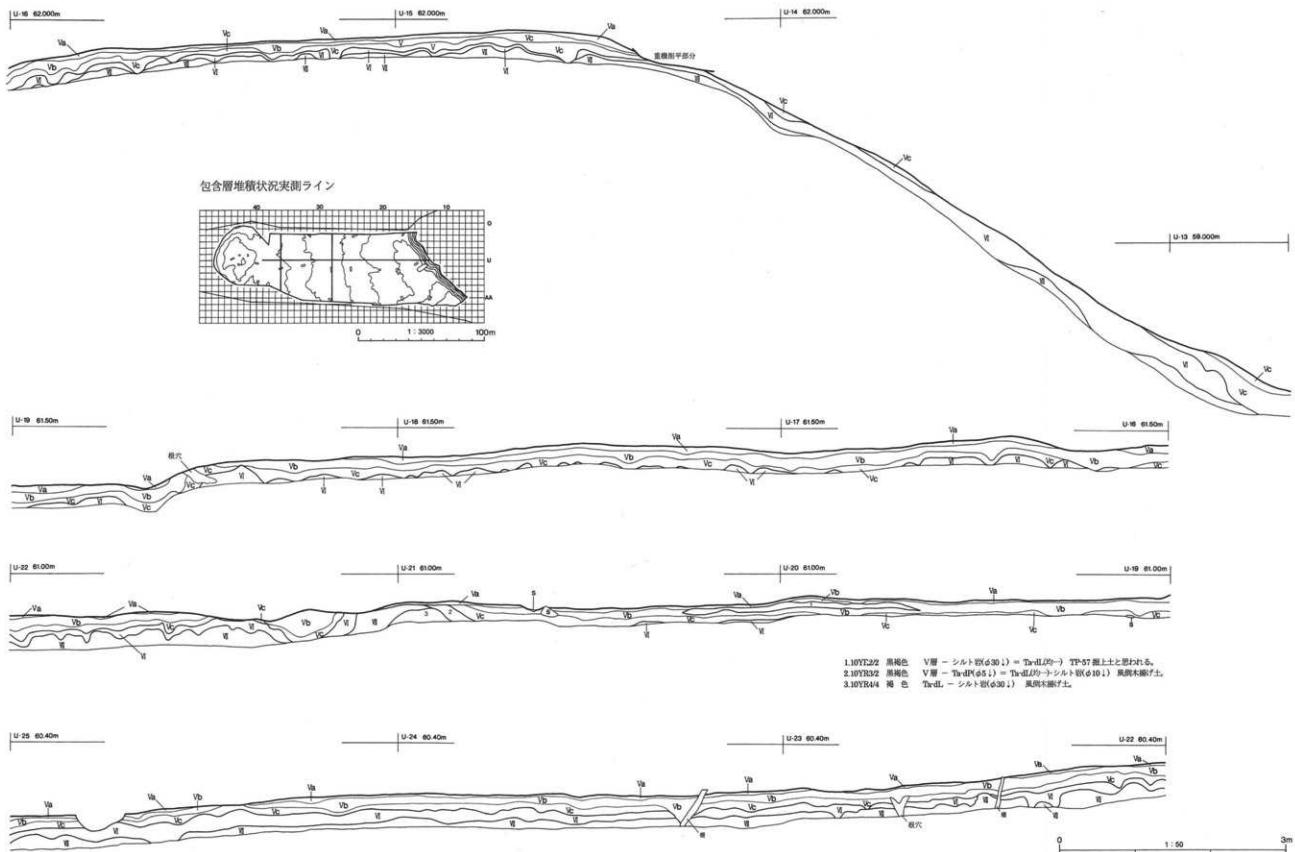


図 I-11 U ライン土層断面図(1)

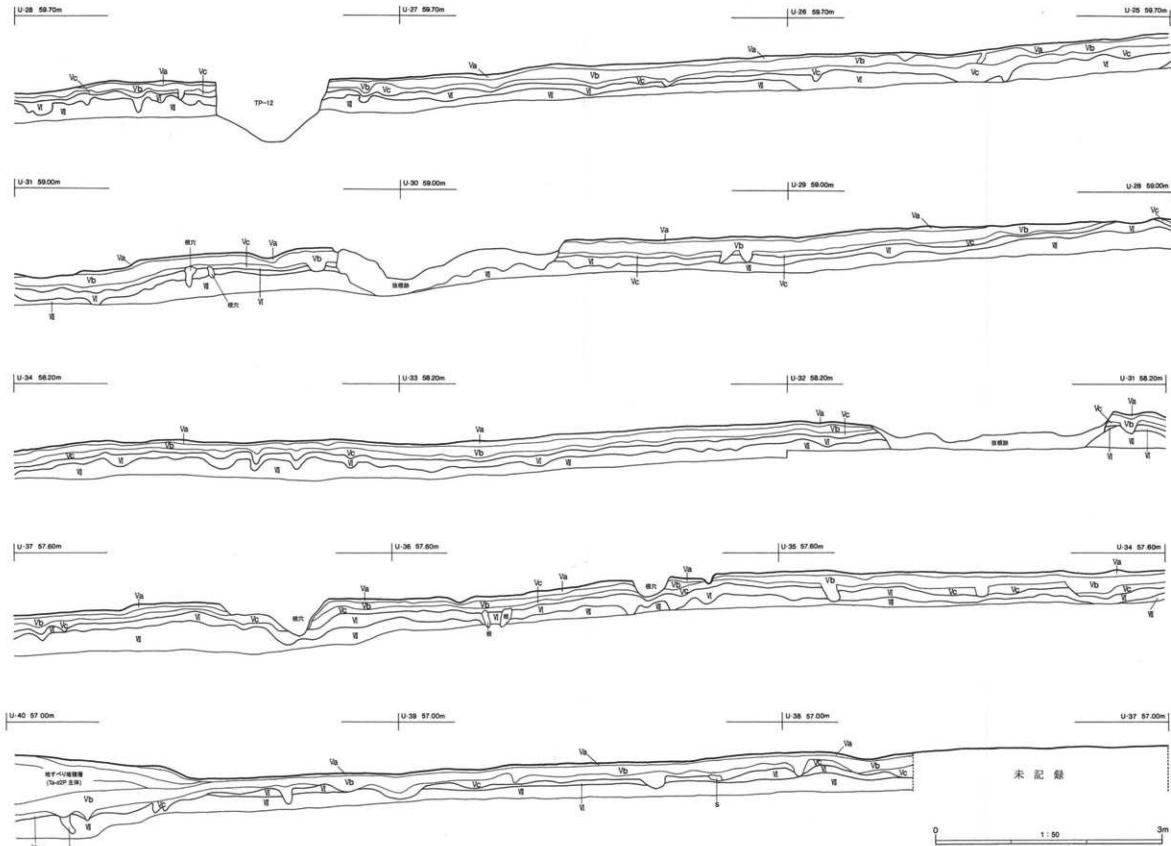


図 I-12 ライン土層断面図(2)

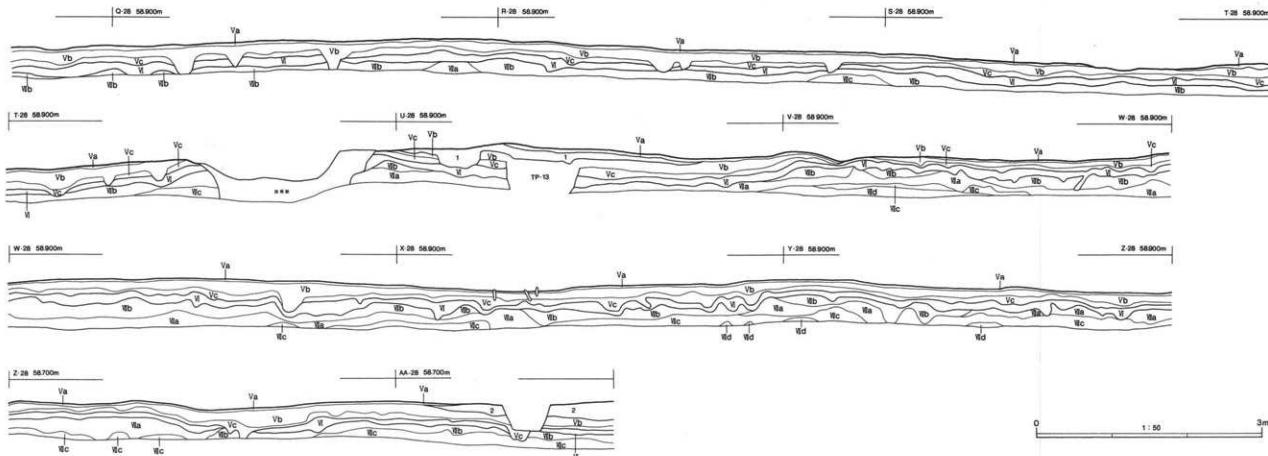


図 I - 13 28ライン土層断面図

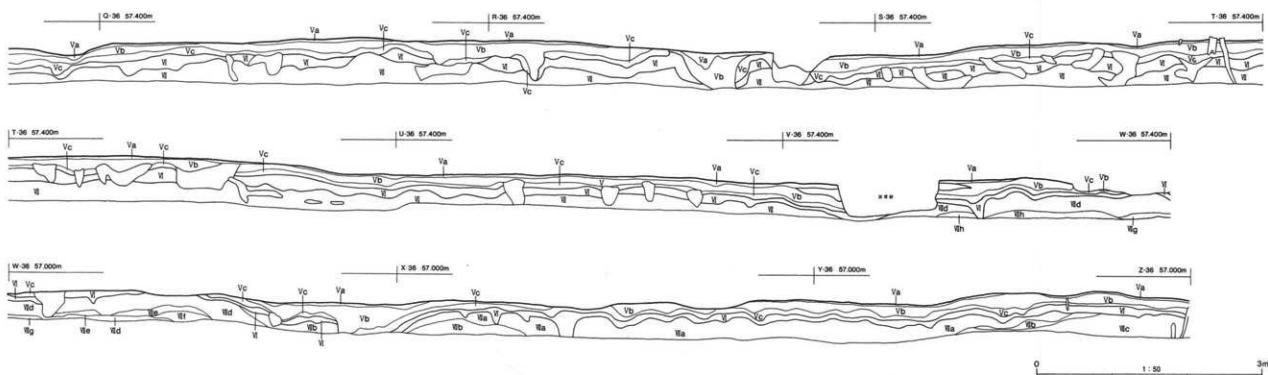


図 I - 14 36ライン土層断面図

		8,000~9,000BP降下。φ5mm以下で、粒度は不均一。
VIIb	Ta-d2バミス	5YR4/赤褐色 しまり強 粘性無
		8,000~9,000BP降下。φ1cm以下で、粒度は不均一。
VIIc	Ta-d2バミス	7.5YR4/6褐色 VIIb層と同質。

B 地割れ跡（図 I - 10、巻頭カラー 4 の下段）

発掘区内の主に西側で、Ta-dを切る地割れ跡をTP-49とTP-52の2基のTピット壁面で確認した。このうち、明瞭に観察できたTP-52は、地割れ跡の観察を目的に壁面を拡張した。地割れ跡を明瞭に観察できたのは、Ta-dの再堆積層であるVII層下位からVII層にかけてで、特にVIIa層（Ta-d1スコリア、堆積図6層）の攪拌が明瞭であった。VI層（図中縦線）とVII層上位は地割れ跡が不明瞭で判然としない。5層はVII層がVII層中に落ち込むことから、陥没に近いものと思われる。7・8層は、風化作用の進んだ粘土質シルトで、6層が落ち込む左右側縁部および下層に形成されている。Ta-dバミスが水などの影響により風化したものと思われ、おそらく地割れ形成に伴い、雨水等の染み込みが風化作用を促進させたものと思われる。同様な状況として、TP-49も地割れ跡から広がる明黄褐色の風化ロームが認められた。また、堆積状態をトレーニチで確認したTP-04・08・34の壁面周囲にも同様に発達している（図版14-2・6、図版20-5）。

VI・VII層は再堆積の地層であることから、プライマリーなVII層と比べてしまが弱いため、堆積層の明瞭な断層形成には至らなかったものと思われる。

発生時期はB地区の地すべり堆積土の移動時期とほぼ同時期と思われ、発掘区の西側に分布する。地割れ跡平面に関しては、周囲の包含層調査終了後、重機を用いてVIIb層上面まで掘削し、検出を試みたが、不明であった。

第2節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業（図 I - 4）

厚真町は太平洋に注ぐ流路52.3kmの二級河川厚真川の流域に広がる農業の町で、中下流域の沖積平野には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。昭和45（1970）年、河口より38km地点の厚真川上流域に、農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは、当初計画より縮小され、洪水調整機能は不十分であった。そのため、昭和45年には洪水と渇水、昭和48年にも洪水が発生し、近年においても、平成12年の春の融雪期、平成13年の秋に家屋や農地に被害をおよぼす洪水が発生している。また、昭和59年、60年、63年の夏期において深刻な水不足にも見舞われている。特に、春期の田植え時期における農業用水の確保は、農業者にとっては勿論のこと、全ての厚真町民にとっても日常の心配でもあり、豊かな穀倉地帯を築くうえでも、治水や農業灌漑などを目的とするダム建設が陳情されていた。

また、市街地への人口集中が進んでいることから、水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達しており、新たな水源確保が急務となっている。

この状況から、抜本的な治水等の事業として、昭和52年に北海道土木現業所により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手されている。その後、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まり、平成7(1995)年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業 厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調節、灌漑用水、水道用水の確保、流水の正常な機能維持を図るべく多目的ダムとして、現厚真ダム下流に「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また、同年内には、地元厚真町内に、厚幌ダム建設事務所が開設され、翌平成8年には沿岸漁業団体への説明会、平成9年には環境アセスメントも実施されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度より水没地域内の用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手している。

厚幌ダムの規模は、堤体本体の堤体長480m、高さ47.2mで、下流に面した垂直の重力式コンクリートダムで、厚幌1遺跡より約350m上流に堤体が建設される。貯水は、常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400千m³、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多目的に絶大な効果波及が想定され、早期完成が望まれている。

2. 厚幌1遺跡の調査に至る経緯

今回の発掘調査は、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に伴うもので、平成12年7月に北海道室蘭土木現業所 厚幌ダム建設事務所より、厚幌ダム建設に伴う道道切替工事の事前協議書が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経由して北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。これを受け、道教委により平成12年10月に「所在確認調査」が行われ、同年12月に切替路線延長約5.4kmのうち、キウキチ沢の左岸の河岸段丘面を要試掘と報告された。

試掘調査は、道教委により平成13年6月26~28日の3日間にわたって、12,650m²を対象に行われた。重機により33カ所のトレンチが掘開され、7カ所から下層の黒色土であるV層より縄文時代中期葉~後期初頭の余市式土器等が出土した。また、調査区の西端に、現地表面で比高差約2mのマウンド状の地形があり、トレンチの堆積状況で樽前c降下火山灰を被覆していることから、余市式期の盛土遺構の可能性が指摘された。これにより、マウンド状地形までを含めた8,250m²が要発掘調査面積となった。

発掘調査にあたり、道教委と町教委で協議した結果、調査主体は町教委となり、調査員・作業員を直接雇用し、体制を整えることになった。

3. 厚幌ダム水没地域内埋蔵文化財試掘調査

前述の厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成12年7月6日、北海道室蘭土木現業所 厚幌ダム建設事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書が町教委を経て、道教委へ提出された。周知の遺跡は、オニキシベ1遺跡(旧幌内2遺跡)と上幌内1遺跡(旧幌内3遺跡)があり、ダム完成の最大湛水レベルである標高88m以下と現道切替路線の約235,500m²が協議面積となった。

これを受け、厚真町では専門職員を配置していないことから、現地踏査は平成13年10月23日から10月25日の3日間にかけて、道教委文化課より2名が来町して行われた。この結果、周知の遺跡の範囲確認も含め、16カ所、235,500m²の試掘対象区域が報告された。

試掘調査も道教委により、翌平成14年度から、5回に分けて行われ、現在までに16カ所の試掘調査を着手し、うち、15カ所の試掘調査が終了している。この結果、新たに発見された遺跡は7遺跡あり、要発掘調査遺跡は9遺跡となる。遺構確認調査範囲も含めた面積は、110,248m²が確定している。

第3節 調査要項と調査体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業に係わる一般道道上幌内早来停車場線切替工事に伴う埋蔵文化財発掘
調査
委託者：北海道室蘭土木現業所
受託者：厚真町教育委員会
遺跡名：厚幌1遺跡（J-13-25）
所在地：北海道勇払郡厚真町字幌内487-1
調査面積：平成14年度：4,010m²
：平成15年度：5,350m²
受託期間：平成14年4月1日～平成15年3月25日
：平成15年4月1日～平成16年3月31日
発掘期間：平成14年8月7日～平成14年11月15日
：平成15年5月12日～平成15年10月31日
整理期間：平成14年11月25日～平成15年3月19日
：平成15年11月4日～平成16年3月19日

2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 幡田 敏夫
生涯学習課 課長 長橋 政徳
係長 木戸 達也
嘱託職員 乾 哲也（調査担当者）
嘱託職員 乾 希（調査員～平成15年6月23日まで）
嘱託職員 小野 哲也（調査補助員 平成15年度）
嘱託職員 佐々木 都（事務補助員）
平成14年度 発掘調査作業員 31名 整理作業員 14名
平成15年度 発掘調査作業員 46名 整理作業員 18名

第4節 調査の方法

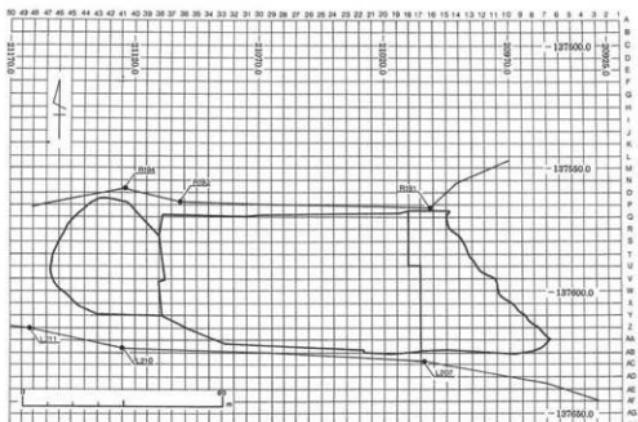
1. 発掘区の設定

発掘区は、工事敷地とし、試掘調査の結果から、東西はキウキチ沢に面した河岸段丘縁辺部からマウンド地形までの200mで、南北は道路片側1車線による盛土による登坂があることから、盛り土部分を含めた最大幅56mとした。調査対象面積が8,250m²であったことから、2ヵ年で行う計画で、初年度の平成14年度は、発掘区東端部の遺物密度が濃いキウキチ沢縁辺部と盛り土遺構の可能性のある西端部の

2カ所とし、中間部に調査事務所等を設置した。発掘区呼称は便宜的に東端部をA地区、西端部のマウンド地形をB地区とし、中間の平成15年度の調査区をC地区とした。

2. グリッド設定（図I-15）

道教委の発掘調査必要面積は、道路敷設に伴い盛土される範囲であったが、今後農業用導水路敷設等で周辺部の発掘が考えられることから、グリッドは、厚幌1遺跡の包蔵地が広がると思われる河岸段丘面全域に設定した。グリッド配置は、日本測地成果に基づく公共座標に合わせて、5m×5mに区切り、南北のX軸にアルファベット、東西のY軸にアラビア数字でグリッドラインを設けた。起点A-1杭(X:-20925.0 Y:-137490.0)は北東コーナーで、南へA・B・C・・・、西へ1・2・3・・・とし、各グリッド名も北東コーナーの杭名の呼称とした。現地におけるグリッド設定は、既に公共座標値の判明している用地境界杭6点を機械点、視準点として逆トラバース計算表を作成し、光波式トータルステーション用いて行った。



図I-15 グリッド設定図

3. 包含層および遺構調査

発掘区の大半は、樹齢約45~50年のカラマツの植林地で、伐採の後、表土・火山灰除去を行った。火山灰除去は、遺物包含層がV層黒色土であることから、上層の表土、樽前b火山灰、Ⅲ層黒色土、樽前c火山灰を、調査員立会いのもとバックホーにより行った。この時、カラマツの根が包含層まで達成していることから、プレハブ用地や送迎バスの通路を除いて抜根せずにいた。火山灰除去掘削中にⅢ層黒色土から灰層を伴う炉を確認し、周囲からも礫が多数出土していることが分かり、Ⅲ層の調査が必要となった。そのため急速、樽前b火山灰までの除去に変更し、人力でジョレンを用いてⅢ層上面を清掃し、残存範囲を記録した。

包含層調査は、基本的に移植ゴテで面的に掘り下げたが、遺物出土面以下のⅢ層下位、Ⅴ層下位はそれまでの出土状況に応じてジョレンにより掘り下げ、IV層上面およびVI層上面で遺構確認を行った。一部残存した樽前c火山灰は、重機と人力を併用して除去し、V層上面で、ラジコンヘリコプターを用いた空撮による地形測量を測量会社に委託した。

遺構は検出後、半断し、堆積状態を実測した後、完掘。エレベーションおよびプランは光波式トータルステーションで実測した。遺構等の写真撮影は、リバーサル・モノクロフィルムを35mm一眼カメラ、メモ用としてネガカラーフィルムをコンパクトカメラおよびデジタルカメラを用いて、各調査員が撮影した。

遺物は、搅乱出土および出土位置・層位不明の遺物以外は全て、個々に遺物番号を付けて光波式トータルステーションを用いて単独で取上げた。取上げ方法は、調査員が遺物の種別・層位や遺構との関連を確認し、手書きの現場台帳に記入のうえ、ビニール袋に入れて取上げた。また、フレイク・チップ集中などの微細な遺物がまとまって出土する場合は、精査のうえ範囲確定し輪郭を実測した。

第5節 調査経過

1. 平成14年度 発掘調査経過

平成14年度の発掘開始は当初5月上旬を予定していたが、6月上旬に変更して契約準備等が進められた。しかし、事業者側からの着手指示が遅れたことから予定変更を免れず、調査期間・面積は勿論、入札業務、作業員雇用、委託契約金額についても計画変更を行った。詳細については下記に記す。

- | | |
|-------|---|
| 4月10日 | 北海道と厚真町の間に事業委託契約を締結。担当者・調査員着任。
4月は、伐採・火山灰除去、ユニットハウス・写真器材・車両借上業務などの入札準備を中心とした調査開始事務を行う。 |
| 5月1日 | 事務補助員着任。 |
| 5月16日 | 道教委、ダム事務所、町教委、厚幌1遺跡進捗状況打ち合わせ。調査開始は早くても7月からとなる。 |
| 5月24日 | 作業員公募開始。雇用期間を7月1日～11月15日までとした。 |
| 6月27日 | 作業員内定者への「発掘調査開始の延期」の通知 |
| 7月8日 | 打ち合わせにより発掘調査開始は、7月16日以降となる。 |
| 7月18日 | 文化庁 岡田康博調査官来町。 |
| 7月19日 | 発掘区内伐採開始。 |
| 7月26日 | 表土・除去開始。バックホー2台による。 |
| 7月31日 | Ⅲ層遺物包含層確認。トレントン調査を行い礫数点が出土し、道教委へ報告。 |
| 8月1日 | 作業員雇用説明会。ユニットハウス設置。 |
| 8月2日 | 予算概算変更。 |
| 8月3日 | B地区火山灰除去開始。擦文期の堅穴住居を想定し、マウンド地形上の凹地に注意。自然土砂災害の堆積物と判明し、道教委へ報告。 |

- 8月7日 発掘作業開始。火山灰除去終了。表土・火山灰除去の土砂搬出。A地区包含層上面の人力清掃開始（～13日）。
- 8月9日 BM移設。「2000 厚真川 仮BM No.22 北海道室蘭土木現業所H=56.473m」
- 8月13日 火山灰搬出終了。A地区Ⅲ層残存範囲記録。グリット杭設定。
- 8月19日 B地区V層上面 人力清掃開始（～23日）。
- 8月21日 北海道浅井学園大学 大学生 見学。
- 8月26日 A地区 Ⅲ層包含層調査開始。Ⅲa層調査。
- 8月27日 B地区 V層上面ラジコンヘリ空撮による地形測量。
- 8月29日 教育委員視察。
- 8月30日 櫛列跡調査開始。北海道浅井学園大学 大学生 見学。
- 9月3日 苦小牧民報社取材。
- 9月6日 吉崎昌一氏、椿坂恭代氏來訪。調査指導。
- 9月10日 IV層の一部、人力による除去開始。ⅢBB-06 調査。
- 9月12日 A地区のIV層（Ta-c）重機による除去及びV層上面清掃作業（～19日）。
- 9月13日 B地区V層トレンチ調査（地すべり堆積土範囲外、～25日）。
- 9月14日 町民対象体验発掘（町教委主催）。
- 9月19日 ⅢBB-07調査（IV層人力除去中検出）。
- 9月20日 A地区V層上面ラジコンヘリ空撮による地形測量。
- 9月24日 A地区V層包含層調査開始。
- 9月25日 近現代馬車道跡調査開始（～10月4日）。
- 9月30日 TP-01検出。
- 10月4日 VFBC-01取上げ。幌内地区住民間取り調査。
- 10月9日 B地区地すべり堆積土 重機トレンチ掘開。
- 10月15日 VSB-01～03検出。
- 10月18日 北海道浅井学園大学 大学生 見学。TP-02検出。
- 10月23日 C地区Ⅲ層トレンチ調査（～24日）。
- 10月24日 A地区斜面包含層調査（～28日）。遺構調査本格化。
- 10月25日 北海道立地質研究所 田近淳氏・大津直氏 地すべり堆積土現地調査。
- 10月28日 町民対象見学会（町企画課主催）。
- 11月上旬 連日の荒天により作業進まず。
- 11月13日 厚幌ダム建設委員 視察。（厚真町長・ダム建設事務所長他）
北海道立地質研究所 田近淳氏 現地調査。
- 11月14日 遺構等埋め戻し作業。
- 11月15日 器材収納。

平成14年度 調査終了 Ⅲ層：1,001.1m³ V層：4,010m³

2. 平成15年度 発掘調査経過

平成15年度は、前年度の調査体制に加え、新たに調査補助員が加わった。北海道室蘭土木現業所と4月1日より、事業の委託契約を取り交わしたことから、入札等の準備段階も早急に着手でき、調査計画通りに進んだ。ただし、6月下旬に、調査員が退職したため、担当者および調査補助員の負担増が報告書作成まで及ぶところとなつたが、ほぼ計画通りに年度末、報告書刊行を終えた。以下に、調査経過を列記する。

- 4月1日 北海道と厚真町の間に事業委託契約を締結。委託・借上業務入札準備。
- 4月11日 発掘作業員公募開始（～21日）。
- 4月21日 調査補助員着任。
- 4月22日 火山灰除去開始（～5月9日）。
- 5月7日 作業員雇用説明会。
- 5月12日 発掘調査開始（作業員46名）、周辺環境整備。
II層火山灰人力除去・清掃作業（～15日）。III層グリッド杭設定（～22日）。
- 5月15日 IIIa層調査開始。
- 5月19日 IIIb層調査開始。
- 5月20日 III SB-07・08検出。III CB-29～32検出。
- 5月21日 一部のIV層（Ta-c）火山灰除去開始。重機・人力並用（～6月9日）。
- 5月23日 北海道室蘭土木現業所 視察。
- 5月27日 III F-07検出。
- 6月4日 V層グリッド設定（～6日）。V層上面清掃作業開始（～8日）。
- 6月8日 フローテーション作業開始（～13日）。
- 6月10日 V層上面ラジヘリ空撮地形測量。V層包含層調査着手（36ライン）。
- 6月12日 遺構調査着手。以後、検出したものにより遺構名を付し調査。
- 6月23日 調査員退職。以後、担当者、補助員の2名体制。
- 6月25日 Uラインを西側から東側へ向け調査開始。
- 6月27日 発掘区北側の包含層調査着手。700～1,000m²を一面として面的な調査を開始。
- 7月7日 炭化種子同定委託 椿坂恭代氏 種子抽出作業の指導（作業員1名）。
- 7月14日 (財)北海道埋蔵文化財センター 花岡正光氏 厚幌I遺跡の地形・地質および周辺地質について指導（～15日）。
- 7月17日 VH-01調査着手、検出状況（Vb層上面）撮影。掘り揚げ土範囲記録（～22日）。
- 7月22日 VH-01 トレンチ掘開。
- 7月31日 胆振森づくりセンター 体験発掘 22名。
- 8月1日 VH-01堆積状況実測（～5日）。VH-01、炉跡検出。床面精査（柱穴検出）。
- 8月5日 VH-01完掘状況撮影。柱穴調査（～9月4日 VH-02の調査と並行）。
- 8月21日 鶴川中学校・高校 体験発掘 43名。
- 8月23日 町民対象体験発掘（町教委主催）。
- 8月27日 (財)北海道埋蔵文化財センター 田口尚氏 土層薄層標本採取の指導（～28日）。

9月1日 VH-02調査着手。
 9月11日 VH-02床面精査（炉、柱穴検出を目的）。
 9月30日 北海道教育庁 胆振教育局 文化財パトロール 視察。
 10月11日 T P-95およびV S B-10調査（～27日）。
 10月15日 パリノ・サーヴェイ（株） 花粉・植物珪酸体分析試料サンプリング。
 10月20日 VI層面ジョレン精査。
 10月24日 V層包含層 調査終了。以後、遺構調査のみ。
 10月27日 地割れ跡の平面確認調査。重機併用でVII層上面まで掘削。
 10月29日 器材の一部、遺物の搬送（～31日）。
 10月31日 調査終了。遺構埋め戻し。
 調査終了面積 III層：1,100.8m² V層：5,350m²

上記の他、整理業務においても、町教委主催で普及活動を行っている。

平成14年12月21日、平成15年12月13日 埋蔵文化財クリーニング体験学習

表 I - 3 厚幌1遺跡調査年度別概要一覧表

III層	平成14年度	平成15年度	小計	備考
調査面積(m ²)	1,001.1	1,100.8	2,101.9	
焼土	6	1	7	
集石	5	2	7	
骸骨集中	7	0	7	
炭化物集中	17	5	22	
灰集中	0	2	2	
遺物	1,228	670	1,898	
V層	平成14年度	平成15年度	小計	備考
調査面積(m ²)	4,010.0	5,350.0	9,360.0	
住居址	0	2	2	
Tピット	11	84	95	
土坑	1	10	11	
焼土	3	13	16	
集石	3	4	7	
剥片集中	3	4	7	
遺物	36,050	31,087	67,137	
層位不明			59	
遺物總点数			69,094	

第6節 遺物の分類

1. 土 器

縄文時代早期から擦文時代までをローマ数字に群別に分け、さらに、道央部で出土する土器を時期毎、型式毎に細分した。なお、本遺跡の主体となる余市式は、中期末葉から後期初頭にかけてのもので、貼付帯が多段に回る古手のものを中期に、粗雑化し、貼付帯が口縁部に限られるなどの新しいもののを後期初頭とした。本遺跡では前者の中中期末葉と画期したもので、第Ⅲ群B 4類土器に分類した。

第Ⅰ群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A類 貝殻文・条痕文土器。
- B類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文などを施すもの。
 - B 1 類 東釧路Ⅱ式またはこれに並存する土器。
 - B 2 類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式、またはこれに並存する土器。
 - B 3 類 中茶路式。またはこれに並存する土器。
 - B 4 類 東釧路Ⅳ式。またはこれに並存する土器。

第Ⅱ群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A類 縄文丸底・尖底土器群。
 - A 1 類 美沢3式、美々7式、綱文式土器またはこれに並存する土器。
 - A 2 類 トビノ式、静内中野式、加茂川式土器またはこれに並存する土器。
- B類 円筒下層式土器群。
 - B 1 類 円筒土器下層a式ないしはb式、虎杖浜2式またはこれに並存する土器。
 - B 2 類 円筒土器下層c式ないしはd式、植苗式、大麻V式またはこれに並存する土器。

第Ⅲ群土器 縄文時代中期に属する土器。

- A類 中期前半の円筒上層式土器群
 - A 1 類 円筒土器上層a式ないしはb式、またはこれに並存する土器。
 - A 2 類 円筒土器上層c式ないしはd式、厚真1式、またはこれに並存する土器。
- B類 中期後半、末葉から後期初頭の土器群。
 - B 1 類 萩ヶ岡1・2式、天神山式、またはこれに並存する土器。
 - B 2 類 柏木川式、またはこれに並存する土器。
 - B 3 類 北筒式、煉瓦台式、またはこれに並存する土器。
 - B 4 類 古手の余市式。貼付帯が施される土器の中で、比較的つくりが丁寧なもの。円形刺突文の有無に関らず貼付帯が多段のものが多い。天祐寺式等。

第IV群土器 繩文時代後期に属する土器。

A類 後期前葉の土器群。

A 1類 新しい段階の余市式。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文を施すものや縄端圧痕文を施している土器。タブコブ式の古手。

A 2類 新手のタブコブ式。口縁部のみに横環する貼付帯または縦位の棒状の貼付帯が施される。もしくは地文繩文のみか、縄線文が施されるもの。

A 3類 入江式、大津式、白坂3式土器。

B類 後期中葉の土器群。

B 1類 ウサクマイC式またはこれに並存する土器。

B 2類 手稻式またはこれに並存する土器。

B 3類 ホッケマ式またはこれに並存する土器。

C類 後期後葉の土器群。

C 1類 堂林式、御殿山式またはこれに並存する土器。

第V群土器 繩文時代晩期に属する土器群。

A類 晩期前葉の土器群。

A 1類 爪形文や刺突文を施すもの。

A 2類 大洞B・BC式土器。

B類 晩期中葉の土器群。

B 1類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式。ママチI・II群土器。

B 2類 大洞CI・C2式土器。

C類 晩期後葉の土器群。

C 1類 ママチIII・IV・V群土器。

C 2類 大洞A・A'式土器。

第VI群土器 統繩文時代に属する土器群。

A類 初頭に属するもの。

A 1類 砂沢式・二枚橋式に並存するもの。

A 2類 砂沢式・二枚橋式

B類 前葉に属するもの。

B 1類 アヨロII群1・2類

B 2類 アヨロII群3類

C類 後葉に属するもの。

C 1類 江別太式、後北A・B式

C 2類 後北CI式

D類 末葉に属するもの。

D 1類 後北C2・D式

D 2類 北大I・II式

第VII群土器 擦文時代に属する土器群。

- A類 北大Ⅲ式
- B類 擦文式
- C類 土師器および須恵器

2. 剥片石器

剥片石器は器種名で大別し、形態等で細分した。

ポイント類

- A 石鏃（便宜的に長軸5cm未満のものとした）
 - 1. 細身で薄手のもの
 - 2. 無茎
 - 3. 木葉形
 - 4. 有茎
 - 5. その他（欠損品・未成品と思われるもの）
- B 石槍・石銛（便宜的に長軸5cm以上のものとした）
 - 1. 有茎
 - a. 基部端が尖るもの
 - b. 基部端が平坦なもの
 - 2. 木葉形・菱形
 - 3. その他（欠損品・未成品と思われるもの）

ナイフ・スクレーバー

- 1. エンドスクレーバー・ラウンドスクレーバー
- 2. 棒状のもの
- 3. 側縁に加工が施されているもの
 - a. 先端の尖るもの
 - b. 先端の尖らないもの
- 4. 刃部が内湾するもの
- 5. その他（欠損品）

つまみ付きナイフ

- 1. 素材の形状を残さないもの（両面加工のもの）
- 2. 素材の形状を残すもの（片面加工のもの）
 - a. 縦長剥片を使用しているもの
 - b. 不定形剥片を使用しているもの
- 3. 他石器からの転用品

ドリル

1. 剥片の一部に機能部を作出したもの
2. 柄と機能部の区別が明瞭なもの
3. 柄と機能部の区別が不明瞭で、幅広なもの
4. 柄と機能部の区別が不明瞭で、棒状のもの
5. 他石器からの転用品と思われるもの

抉入石器

ピエスエスキュー

RF・UF

石核

3. 磨石器

磨石器は器種名で大別し、素材磨の形態等で細分した。なお、砥石・石皿・台石については、大まかに、次のような基準を設けて分類した。

・砥石：平面的な使用面で、一定方向の擦痕や線条痕が観察できるもの。大型の置き砥石と小型で完形品の手持ち砥石があり、他に、破損品、破片が多量に出土している。

・石皿：設置により使用されたと考えられる大型もの。僅かに湾曲した使用面で、擦痕がほとんど観察できず、使用による滑沢面が見られるもの。使用面は大きく窪むものと、皿状に窪むもの、ほぼ平坦なものとがあり、台石と併用され、敲打痕が見られるものが多い。

・台石：磨の平面に敲打痕が観察されるもので、設置により使用されたと考えられる大型ものとして、敲石とは区別した。石皿と併用されるものがあるが、便宜的に、使用面の観察から主体的使用頻度によって石皿と台石に分類した。

石斧

1. 磨製石斧：完形品・破損品（刃部・基部破片）
2. 未成品1：剥離・敲打調整により完成品と思われる大きさまで成形されているもの。
3. 未成品2：磨皮を残すが、擦り切りや剥離・敲打調整により素材磨の形状が不明瞭なもの。
4. 未成品3：剥離・敲打調整が部分的に施され、素材磨の形状を大きく残すもの。

敲 石

1. 球状の礫を使用するもの。
2. 楕円形の礫を使用するもの。
3. 三角柱状の礫を使用するもの。
4. 扁平円礫もしくは楕円形の礫を使用するもの。
5. 扁平の方形もしくは三角形状の礫を使用するもの。
6. いわゆる「凹石」と称するもの。
7. その他。大型礫もしくはその破片を使用するもの。

擦 石

1. 断面形が三角形の礫の稜に擦り面があるもの。
2. 断面形が楕円形の礫の側縁に擦り面があるもの。
3. 扁平礫の側縁に擦り面があるもの。
4. 北海道式石冠。
5. その他

砥 石：素材礫の形状より細分した。

1. 板状（層理剥離）のものを使用したもの。
A : 片面 B : 両面 C : 対面しない2面もしくは3面以上
2. 転礫もしくはその破片を使用したもの。
A : 片面 B : 両面 C : 対面しない2面もしくは3面以上
3. 角柱状のもの
A : 片面 B : 両面 C : 対面しない2面もしくは3面以上
4. 破片・その他

石皿・台石

1. 板状礫を使用するもの。
2. 転礫を使用するもの。
3. その他、破片等。

石 錘

1. 長軸端2抉のもの。
2. 長軸端および短軸端の4抉のもの。

加工痕のある礫

1. 転礫の一部に剥離があるもの。
2. 矿の側縁に連続した剥離があるもの。
3. その他

石製小玉

今回の調査では、滑石製の未成品が1点出土している。

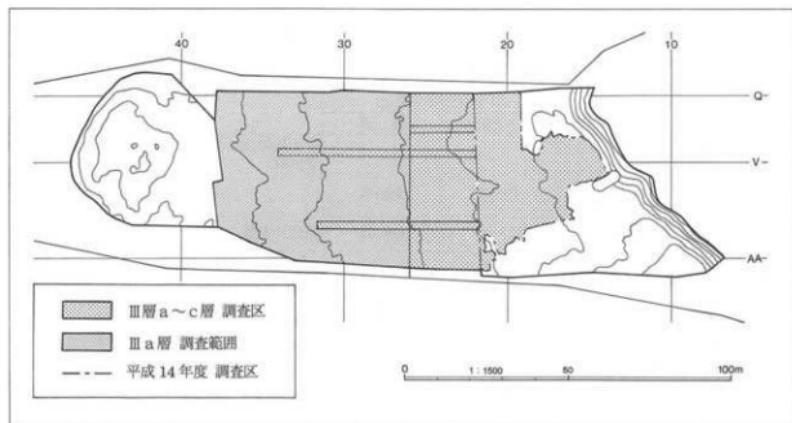
第II章 III層出土の遺構と遺物

第1節 概要

厚幌1遺跡における樽前b火山灰～樽前c火山灰に挟まれた近世初頭～縄文時代晚期にかけてのIII層は、当初、試掘調査の結果から発掘調査対象外となっていた。しかし、平成14年度の火山灰除去中に灰層を伴う炉と礫点数を確認し、周辺を精査したところ、ほぼ同一レベルで礫が出土していることから、アイヌ期の包含層と断定し、発掘調査対象となった。平成14年度は8月26日～9月11日までに1,001.1m²を調査した。調査の結果、焼土6基、集石6ヶ所、炭化物集中区17ヶ所、獸骨集中7ヶ所を検出した。焼土は、灰層を伴う比較的規模の大きいものは周囲の柱穴精査を重点的に行ったが、不明であった。

炭化物集中区17ヶ所のうち、W-18区のIII CB-03からは多量の炭化した栽培種子が出土している。平成14年度調査区の西側縁辺部まで遺物が出土していたことから、平成15年度調査区へ東西に長いトレーニチを3列掘開した(図II-1)。トレーニチは、表土層および樽前b火山灰を重機で除去し、残存火山灰を人力でジョレンを用いて除去、III層を移植ゴテにより精査した。この結果、トレーニチ内で遺物が1点出土したに留まつたことから、平成15年度調査は25ラインまで20m延長する程度に止める範囲とした。

平成15年度は5月15日～5月27日まで調査を行った。前年度のトレーニチ調査により1,090m²を予定面積としたが、遺構遺物数が少なかったため、III a層のみC地区全域を調査対象とした。III a層の調査で、下層から上がってくる遺物を確認し、場合によっては範囲の拡張を考慮したが、遺物はほとんど出土しなかった。ただし、Y-27区付近とW-37区付近で樹木跡に伴う灰集中を検出することができた。B地区以外の範囲はすべてIII層の状況を把握できたと思うが、遺構検出、遺物出土の傾向から平成14



図II-1 III層調査範囲

年度調査したA地区がアイヌ期の遺跡としての主体部であったことが判明した。調査の結果、焼土1基、集石2ヶ所、炭化物集中区5ヶ所を検出した。

2カ年の検出遺構は焼土7基、集石7ヶ所、炭化物集中区22ヶ所、灰集中2ヶ所で、Ⅲ層の遺物出土点数(遺物観測点)は1,897点で内訳は、土器6点、剥片石器3点、礫石器33点、金属製品25点、礫1,765点である。なお、この一部は風倒木によりV層より混入したものも若干含まれている。

第2節 焼 土 (ⅢF)(図II-3)

Ⅲ層の焼土は7基検出した。大きさは2つのタイプがあり、比較的大型で、焼骨片を含む薄い灰層を伴うもの(ⅢF-01・03・06)と焼土と若干の炭化物で形成されるもの(ⅢF-02・04・05)とがある。前者のタイプは建物跡に伴う可能性があったことから、焼土検出面およびTa-c上面での柱穴確認を行った。後者については、U-20・21区の焼骨片で構成される獸骨集中区(ⅢBB-02)と隣接していることから、掲き出しされたものと思われる。平面図および堆積図は図II-3に一括して記載している。

表II-1 Ⅲ層焼土計測一覧表

遺構名	グリッド	層位	灰層	平面形	規模(cm)		
					長軸	短軸	厚さ
ⅢF-01	T-18	-	◎	楕円形	86	68	11
ⅢF-02	T-19	Ⅲ b 層下位	○	楕円形	37	30	5
ⅢF-03	U-18	Ⅲ b 層下位	◎	楕円形	87	63	8
ⅢF-04	T-19	Ⅲ c 層中位	×	楕円形	55	40	8
ⅢF-05	T-19・20	Ⅲ c 層上位	×	不整楕円形	71	44	21
ⅢF-06	Y-19	Ⅲ b 層下位	◎	不整楕円形	100	93	9
ⅢF-07	U-22	Ⅲ b 層下位	○	楕円形	51	42	4
遺構名	採取土量(ℓ)	70-ーション回収物(g)		備 考			
		浮遊物	残渣				
ⅢF-01	0.4	0.94	222.61	火山灰除去中に破壊。推定位置。灰層の一部を回収。			
ⅢF-02	未採取	未回収	未回収				
ⅢF-03	22.9	123.58	1475.33	焼骨片多量。			
ⅢF-04	不明	19.03	51.31	土壤乾燥中に混同。			
ⅢF-05	1.8	6.5	不明				
ⅢF-06	24.4	92.63	343.34				
ⅢF-07	5.0	6.45	105.65				

※「灰層」観中 ◎:多量 ○:少量 ×:検出されず。

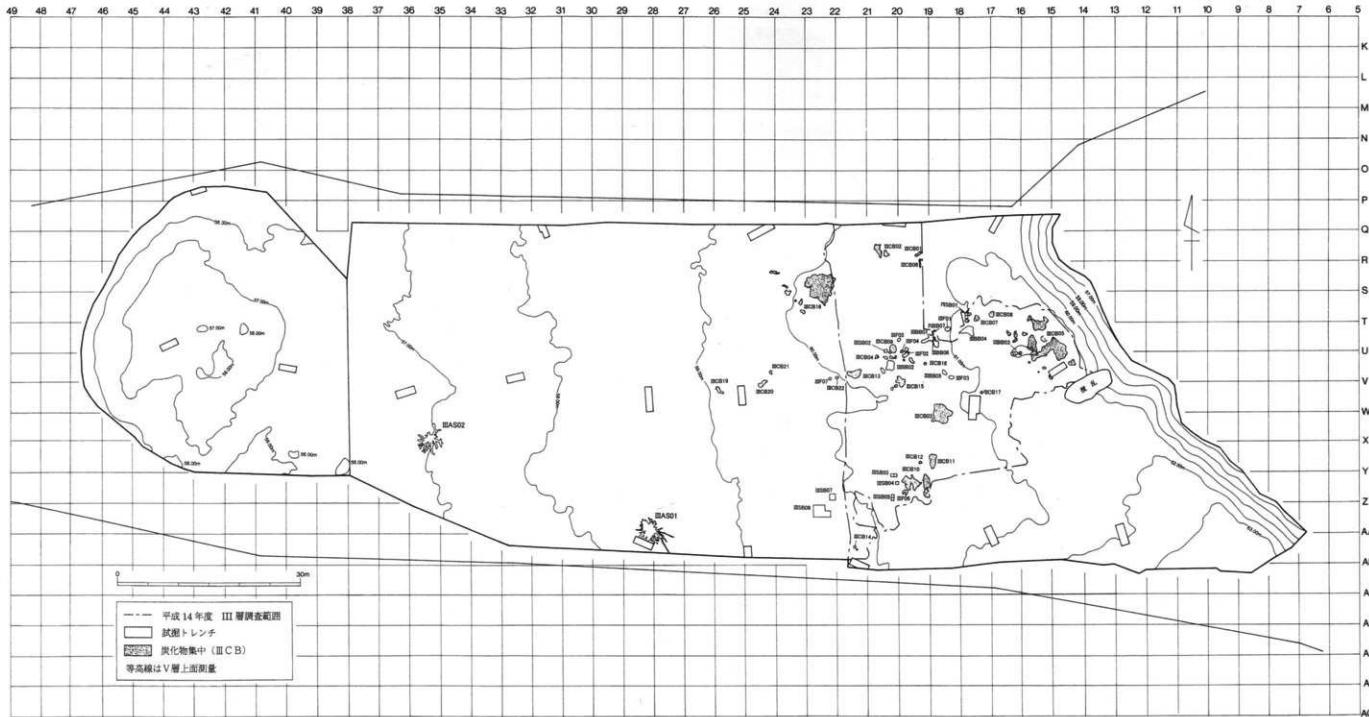


図 II-2 III層遺構配図

III F - 0 1

グリッド：T-18

検出層位：不明

平面形：楕円形

規模：86cm×68cm×11cm

検出状況：重機によるV層上面までの火山灰除去中に確認したため、除去後の土砂の中から灰層のブロックを回収し、おおよその位置を記録した。

堆積状況：回収した灰層ブロックの観察から層厚は3～5cm程度で、白色化した多量の焼骨片を含む。灰層ブロック(0.4ℓ)をフローテーション処理したところサケ科やニホンジカの焼骨片が含まれていた。

III F - 0 2

グリッド：T-19

検出層位：III b 層下位

平面形：楕円形

規模：37cm×30cm×5cm

検出状況：周囲の4グリッドに広がる焼骨片で構成されるIII BB-02をIII b 層上位で検出し、焼土はやや下がったIII b 層下位で検出した。

堆積状況：焼土上面に焼骨片を少量含む薄い焼土面層があり、III b 層下位の地山が被熱している。

III F - 0 3 (図版7-3・4)

グリッド：U-18

検出層位：III b 層下位

平面形：楕円形

規模：87cm×63cm×8cm

検出状況：当初、III b 層上位で79cm×51cmの範囲で炭化物集中を検出し、炭化物集中番号を付した。炭化物回収後、下層から多量の焼骨片と斑状の焼土面を確認し、焼土番号を付した。

堆積状況：1層は炭化物、焼骨片を多量に含み、灰層は伴わない。この層のフローテーションサンプル2・3層は炭化物、焼骨片を不整合に堆積していることから、攪拌されている可能性がある。1～3層までは焼土形成時に関わる層と判断し、サンプリングを行った。土量22.9ℓのフローテーションサンプルからは123.58gの炭化物を回収し、うち、ブドウ科の炭化種子が破片も含めて75点出土している。鰐魚骨はサケ科やニホンジカなどの哺乳綱の焼骨片が2,915点、21.0gを回収している。4層は炭化物、焼骨片をほとんど含まず、地山の被熱赤色化層と思われる。

III F - 0 4

グリッド：T-19 検出層位：III c 層中位 平面形：楕円形 規模：55cm×40cm×8cm

検出状況：III b 層上位のIII BB-02の調査終了後、遺物等の出土面からさらに下層のIII c 層上位で検出した。

堆積状況：灰層を伴わず、1層に炭化物、焼骨片を少量含む。2層は、焼土縁辺部に広がる黒色の付帯層で炭化物を少量含む。3～5層は地山のIII c 層の被熱赤色化層である。フローテーション処理の結果、1・2層よりブトウ科の炭化種子が少量出土している。

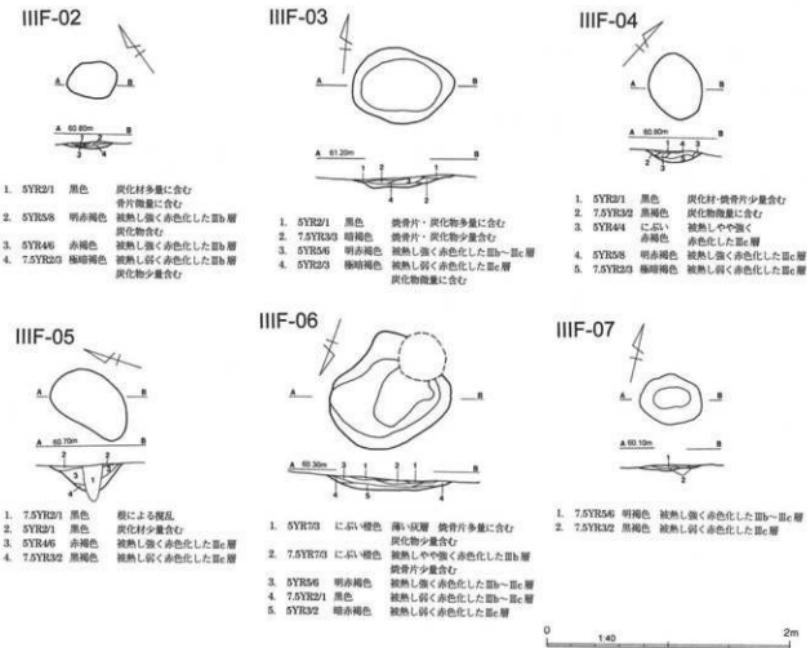


図 II - 3 焼土(III F - 02~07)

III F - 0 5

グリッド : T-19 + 20

検出層位 : Ⅲc層上位

平面形 : 不整梢円形

規模 : 71cm × 44cm × 21cm

検出状況 : Ⅲ b 層上位のⅢ BB-02 の調査終了後、遺物等の出土面からさらに下層のⅢ c 層上位で検出した。

堆積状況 : 2 層は炭化物を含みやや赤色化し、焼土面の可能性がある。焼骨片は含まない。3・4 層は地山のⅢ c 層が被熱層で、強く被熱し、赤色化している。なお、中心部付近に根によるしまりのない搅乱層（1 層）がある。

III F - 0 6 (図版7-5・6)

グリッド : Q-16

検出層位 : Ⅲ b 層下位

平面形 : 不整梢円形

規模 : 100cm × 93cm × 9cm

検出状況 : 焼土の南側に空洞化したポンプ孔と思われる搅乱穴の壁面で焼土を確認し、北東側のⅢ CB-01 調査中に面的に検出した。Ⅲ CB-01 よりやや下層での検出であるが、同一時期と思われ、焼土面は若

干掘り込まれている可能性がある。

堆積状況：1層は焼骨片を多量に含む層厚2cm前後の灰層を伴う。2・3層はIII b～III c層にかけての地山被熱層で、1層・2層の間が焼土面と思われる。2層には焼骨片を微量に含むことから、焼土使用時の搅拌などで混入したものと思われる。1層と2層で24.4ℓのフローテーションサンプルを探取し、うち炭化物92.63g、焼骨片343.34gを回収している。焼骨片はサケ科、コイ科の魚骨を主体に構成されている。

III F - O 7

グリッド：U-22 検出層位：III b層下位 平面形：楕円形 規模：51cm×42cm×4cm

検出状況：III b層下位～III c層上位にかけて包含層調査中に強く赤色化した焼土を検出した。

堆積状況：1層には極微量ではあるが焼骨片も含まれている。2層は赤色化した焼土の縁辺部をリンク状に広がる付帯黒色土層である。検出確認層位が周囲の遺物レベルより低いことから、焼土面が若干掘り込まれているか、焼土面をとばした可能性がある。

第3節 集中出土遺物等

1. 磨集中（III S B）（図II-4～10）

III層の包含層中に破片点数1,764点の磨が出土しているが、その中で、複数個体がまとまりをもって出土したものに磨集中番号を付した。磨集中は、7カ所検出した。構成磨は全て砂岩・泥岩などの堆積岩で、扁平のものも含めた棒状の転磨もしくは亜角磨である。土坑や焼土などに伴うものはない。被熱磨によるもの（III SB-01）と未被熱（III SB-02～05・07・08）の磨で構成されるものがある。なお、III SB-06としたものは、同一個体の磨が風化により破損したものであったことから欠番とした。

表II-2 III層磨集中計測一覧表

図版番号	捕図番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規格(cm)		出土遺物	備考
						長軸	短軸		
9-1・41-1	II-4	III SB-01	S-17	III b層上位	不整円形	58	52	内耳鉄鍋 砥石	被熱磨で構成。
9-2・41-2	II-5	III SB-02	T-20	III b層上位	略三角形	45	40		
-	II-6	III SB-03	Y-20	III b層中位	長楕円形	78	31		
-	II-7	III SB-04	Y-19・20	III b層下位 ～III c層	略楕円形	61	46	台石	
-	II-8	III SB-05	Y-20	III b層上位 ～III c層	不整 楕円形	92	52		
-	-	III SB-06			同一個体片集中のため欠番とした。				
9-3	II-9	III SB-07	Y-22	III b層上位	楕円形	46	20		
-	II-10	III SB-08	Z-22	III b層上位	略円形	57	56		

III SB-01 (図II-4、図版9-1・41-1)

グリッド: S-17 検出層位: III b層上位 平面形: 不整円形 規模: 58cm×52cm

検出状況: III a層調査中にIII b層上面～上位で検出した。比較的まとまっており、中心付近では2～3個重なった状態で出土している。遺物取上げ中に炭化材が微量に出土しており、礫も全て被熱していたことから、焼土の有無に注意したが検出されなかった。隣接して3分の1程度残存している一字湯口の内耳鉄鍋が出土している。底部片は礫集中縁辺部に内面を上に、底部から口縁部にかけての大型の破片は南側へ約40cm離れた場所に伏せた状態で出土している。

遺物: 確認できた個体数は38個体で、総重量は2,005.4gである。すべて被熱しており、黒色化や赤色化している。また、泥岩のものは被熱により細かく破碎したものが多い。うち、接合後に完形品・略完形品となったものは29点で、その長軸平均値は77.9mm、短軸平均値31.9mm、平均の厚さは19.9mmで、平均重量は61.3gである。1の内耳鉄鍋は、内耳部分は残存していないが口縁部の外反の状況などから内耳鉄鍋と判断した。2は板状の砥石で、被熱により細かく破碎、黒色化している。接合点数は6点で、4面とも使用している。遺物についての詳細は、第II章第4節にて後述する。

III SB-02 (図II-5、図版9-2・41-2)

グリッド: T-20 検出層位: III b層上位 平面形: 略三角形 規模: 45cm×40cm

検出状況: III b層上位のIII BB-02調査中に検出した。礫集中の中心部でIII b層が落ち込んでいることから、自然地形の若干の壅みに廃棄されたものと思われる。

遺物: 確認できた個体数は 個体で、すべて未被熱である。総重量は1,645.0gで、うち完形品・略完形品は15点で、その長軸平均値は86.0mm、短軸平均値20.9mm、平均の厚さは20.9mmで、平均重量は84.6gである。

III SB-03 (図II-6)

グリッド: Y-20 検出層位: III b層中位 平面形: 長楕円形 規模: 78cm×31cm

検出状況: III CB-10の調査終了後に検出した。隣接してIII SB-05・06があり、検出層位も同一面のIII b層下位である。

遺物: 確認できた個体数は16個体で、すべて略完形・完形の未被熱である。総重量は1,498.8gで、長軸平均値は86.2mm、短軸平均値34.9mm、平均の厚さは21.5mmで、平均重量は88.2gである。

III SB-04 (図II-7)

グリッド: Y-19・20 検出層位: III b下位～III c層 平面形: 略楕円形 規模: 61cm×46cm

検出状況: III b～III c層にかけて検出した。礫は比較的散逸しており、構成礫点数も破片を含めて20点と少ない。

遺物: 1は小型の台石で、台形状の礫の上底面に敲打痕がみられる。敲打範囲の縁辺部は比較的粒径の大きく粗い敲打痕を観察できる。確認できた礫の個体数は9個体で、すべて未被熱である。総重量は1,245.0gで、うち完形品・略完形品は6点で、台石以外の礫の長軸平均値は70.7mm、短軸平均値31.3mm、平均の厚さは16.5mm、平均重量は177.9gである。

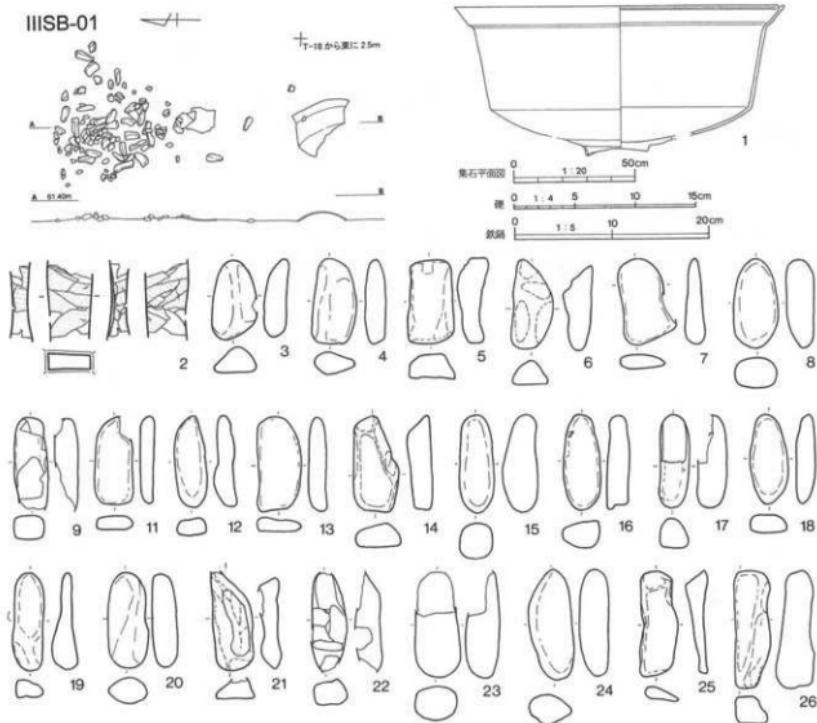


図 II-4 磚集中(III S B -01)

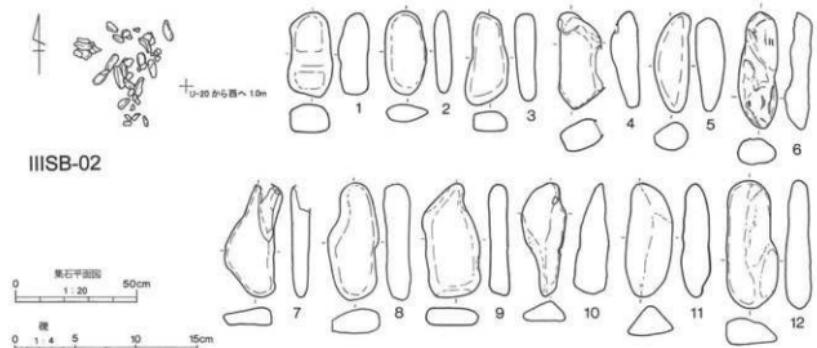


図 II-5 磚集中(III S B -02)

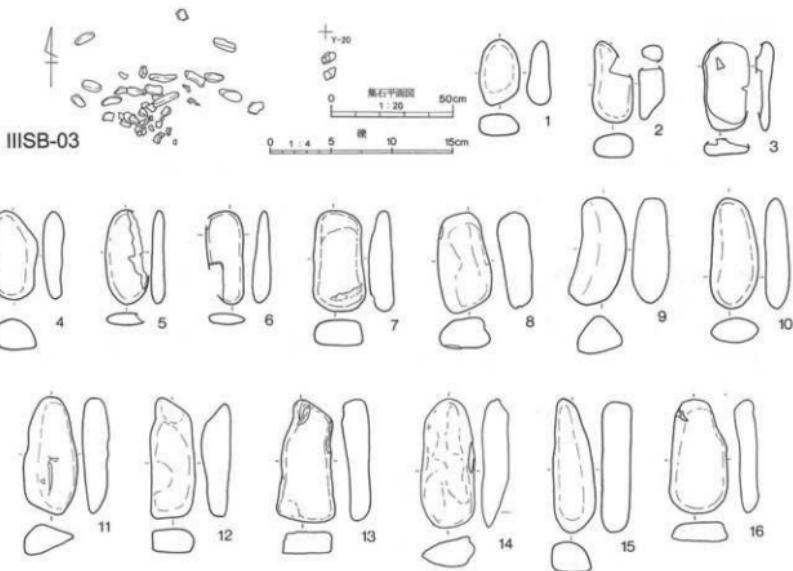


図 II-6 碓集中(III SB-03)

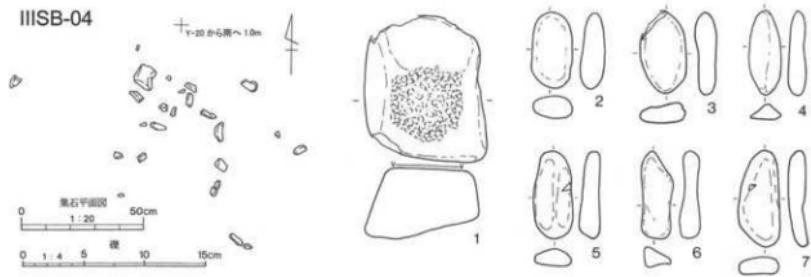


図 II-7 碓集中(III SB-04)

III SB-05

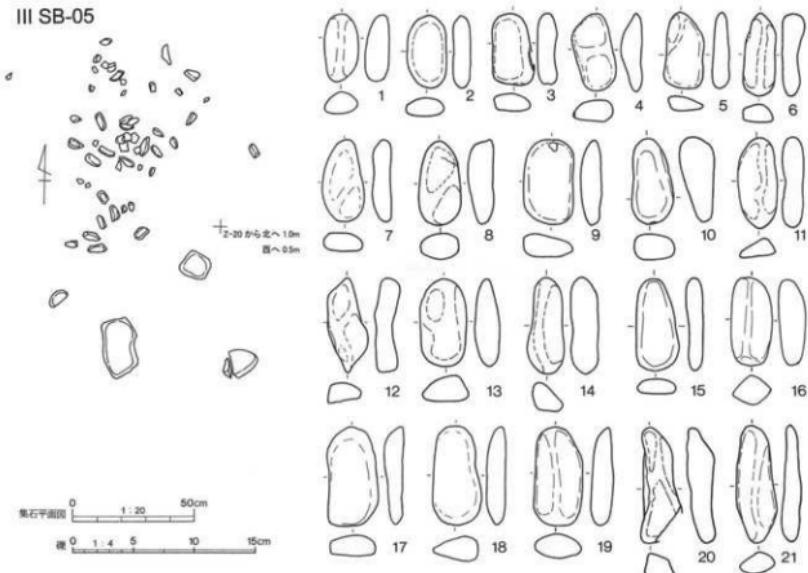


図 II-8 碓集中(III SB-05)

III SB-07

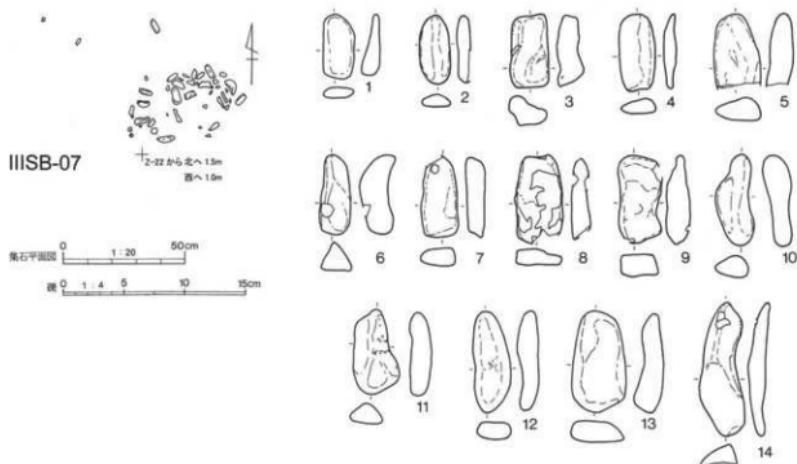


図 II-9 碓集中(III SB-07)

III SB-08

+ 2-23 分布圖 2m



図 II - 10 磚集中(III S B - 08)

III SB-05 (図II-8)

グリッド：Y-20 検出層位：III b上位～III c層 平面形：不整楕円形 規模：92cm×52cm

検出状況：カラマツの根付近で検出したため個々のレベル、層位に差が生じており、平面においてもやや散逸して検出した。

遺物：確認できた個体数は9個体で、うち6個体が完形・略完形である。総重量は1,108.2gで、完形品・略完形品の長軸平均値は72.5mm、短軸平均値32.5mm、平均の厚さは18.4mm、平均重量は56.7gである。

III SB-07 (図II-9、図版9-3)

グリッド：Y-22 検出層位：III b層上位 平面形：楕円形 規模：46cm×20cm

検出状況：比較的密集して出土している。

遺物：確認できた個体数は20個体で、うち完形品・略完形品は13点で、すべて未被熱である。総重量は949.2gで、完形品・略完形品の長軸平均値は65.7mm、短軸平均値30.8mm、平均の厚さは16.1mm、平均重量は38.0gである。

III SB-08 (図II-10)

グリッド：Z-22 検出層位：III b層上位 平面形：略円形 規模：57cm×56cm

検出状況：Z-21・22区にかけてIII層上位で面的に散逸している礫群の中で密集して出土したものに礫集中番号を付した。08の東側約1mにも小規模な集中区がある。

遺物：確認できた個体数は20個体で、すべて未被熱である。総重量は1,989.8gで、うち完形品・略完形品は24点で、その長軸平均値は67.6mm、短軸平均値27.7mm、平均の厚さは18.5mm、平均重量は45.3gである。

表 II-3 III層疊集中構成機計測一覽表 (1)

遺跡名	図	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被然	規模(cm)		長軸	短軸	厚さ	重量(g)	接合	備考
								Mod.	Sa.	Mod.	Sa.	Mod.	Sa.	Mod.	Sa.
III-SB-01	II-1-2	639 III-a	砾石	欠損	被然	被然	被然	66.0	38.0	21.8	-	1.7	-	31.9	841.843.844.845.846.847
	3	639 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	68.8	34.1	17.8	2.0	1.7	-	58.9	651
	4	619 III-a	砾石	略完形	被然	被然	被然	71.0	37.0	19.7	1.9	1.9	-	51.7	-
	5	585 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	72.8	31.4	27.6	2.3	1.9	-	64.0	-
	6	577 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	68.7	44.0	13.5	1.6	1.6	-	55.9	-
	7	631 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	71.3	35.7	24.7	2.0	2.0	-	51.7	633
	8	613 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	78.0	38.0	18.6	2.1	2.1	-	86.2	-
	9	612 III-a	砾石	略完形	被然	被然	被然	78.0	28.0	18.5	2.8	2.8	-	12.5	687.691.701
	10	634 III-a	砾石	略完形	被然	被然	被然	70.5	29.5	12.1	2.4	2.4	-	38.3	661
	11	650 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	74.1	34.8	15.1	3.0	3.0	-	29.0	-
III-SB-01	12	631 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	75.4	33.4	17.6	2.3	2.3	-	65.3	-
	13	618 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	78.0	38.0	18.6	2.1	2.1	-	70.3	-
	14	611 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	79.9	28.7	28.4	2.8	2.8	-	92.1	-
	15	599 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	73.0	34.9	25.2	2.1	2.1	-	84.1	660.662.614
	16	640 III-a	砾石	略完形	被然	被然	被然	76.0	24.0	25.0	3.2	3.2	-	51.0	-
	17	676 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	72.3	31.5	13.9	2.3	2.3	-	37.6	-
	18	662 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	79.8	21.0	21.7	3.8	3.8	-	48.1	-
	19	576 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	77.5	31.4	19.0	2.5	2.5	-	67.3	-
	20	591 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	81.0	33.0	15.3	2.5	2.5	-	45.9	-
	21	668 III-a	砾石	略完形	被然	被然	被然	83.6	26.7	26.7	3.0	3.0	-	10.2	670.671.683.825
III-SB-01	22	78 III-a	砾石	略完形	被然	被然	被然	85.5	34.8	25.5	2.5	2.5	-	88.0	675.829
	23	654 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	89.1	35.7	24.1	2.5	2.5	-	95.3	660
	24	634 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	86.8	28.6	15.1	3.0	3.0	-	34.6	643.655
	25	584 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	96.1	28.7	28.6	3.3	3.3	-	103.3	827.828
	26	590 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	98.0	34.6	11.9	2.0	2.0	-	32.0	821
	27	610 III-a	砾石	欠損	被然	被然	被然	-	-	-	-	-	-	33.5	644.810.811.819
	28	612 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	80.0	44.7	11.2	1.8	1.8	-	41.8	-
	29	617 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	77.0	26.7	21.9	2.9	2.9	-	70.2	-
	30	652 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	87.8	34.5	22.3	2.5	2.5	-	85.4	-
	31	665 III-a	砾石	完形	被然	被然	被然	88.9	27.8	14.3	3.2	3.2	-	51.6	-
点数小計		674 III-a	-	平均値	被然	被然	被然	69.0	27.7	17.4	2.5	2.5	-	41.0	-
その他破片重量(g)		849.1	重複小計(g)	77.5	31.9	19.9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	59.7	1821.3
総重量(g)		2715.4													

表 II-4 III層集中構成礫計測一覧表(2)

遺構名	図	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被熱	規格(mm)			接合	重量(g)	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-5-1		778	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	68.1	32.7	23.2	2.1	78.9	
-2		757	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	67.6	33.1	13.1	2.0	37.9	
-3		747	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	76.0	31.6	18.7	2.4	58.2	
4		731	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	80.3	34.6	25.5	2.3	81.8	
5		765	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	80.6	26.8	22.0	3.0	56.2	
6		761	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	95.5	31.7	21.0	3.0	70.9	
7		774	III bu	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	95.2	40.2	16.0	2.4	65.0	775, 776, 780-1
8		764	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	95.8	40.1	21.5	2.4	110.4	
9		781	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	91.9	39.4	14.3	2.3	97.7	
10		763	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	93.4	35.1	23.8	2.7	74.8	766
11		777	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	93.7	37.5	26.1	2.5	94.5	
12		784	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	105.2	41.9	20.8	2.5	119.2	
		750	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	79.2	30.1	23.0	2.6	100.0	
		752	III bu	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	98.7	36.1	17.1	2.7	92.8	753, 754, 755, 759, 771, 1281
		756	III bu	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	69.0	32.6	23.6	2.1	62.5	
		772	III bu	完形	Sa.	Sa.	Sa.	79.2	44.9	20.7	1.8	68.5	
点数小計		16		平均値				86.0	34.9	20.9	2.5	80.1	
その他の破片重量(g)		306.6		重量小計(g)				1577.7				1271.1	
総重量(g)		1577.7											
II-6-1		1287	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	53.4	32.0	19.7	1.7	41.9	
-2		321	III a	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	67.0	31.2	16.4	2.1	47.5	914, 922
-3		924	III b	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	73.2	37.8	14.0	1.9	52.1	926, 939
-4		932	III b	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	71.9	35.8	19.3	2.0	52.5	
-5		923	III b	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	78.0	32.2	11.4	2.4	35.9	925
-6		919	III b	略完形	Sa.	Sa.	Sa.	77.6	29.2	14.6	2.7	33.3	1301
-7		940	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	83.3	42.4	19.2	2.0	101.4	
-8		323	III a	完形	Sa.	Sa.	Sa.	83.5	44.3	28.2	1.9	135.5	
-9		903	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	87.4	39.0	30.8	2.2	133.6	
-10		938	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	90.4	38.2	19.9	2.1	85.7	
-11		902	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	96.4	40.3	24.6	2.4	104.3	
-12		931	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	100.1	45.6	25.1	2.8	120.6	
-13		904	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	99.9	47.3	24.0	2.1	136.4	
-14		905	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	106.5	44.6	24.5	2.4	134.9	
-15		920	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	109.1	30.7	24.0	3.6	126.7	
-16		907	III b	完形	Sa.	Sa.	Sa.	93.3	46.6	16.0	2.0	112.2	911, 912, 913, 916, 917, 930, 1288
点数小計		17		平均値				86.2	37.8	21.5	2.3	138.2	
その他の破片重量(g)		-		重量小計(g)								1581.6	
総重量(g)													1584.6

表 II - 5 III層集中構成繰計測一覧表 (3)

遺構名	図	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	板然	規模(mm)			長短比	重量(g)	接合	備考		
								長軸	短軸	厚さ						
III SB-04	II-7-1	946	Ⅲb	台石	完形	Sa.	-	131.0	102.0	59.5	1.3	955.0	-	-		
	2	932	Ⅲb	一字形	Sa.	-	62.6	32.0	20.1	2.0	-	58.5	-	-		
	3	904	Ⅲb	完形	Sa.	-	61.7	37.3	17.5	1.8	-	56.1	-	-		
	4	936	Ⅲb	完形	Sa.	-	69.7	36.5	13.5	2.6	-	27.2	-	-		
	5	932	Ⅲb	完形	Sa.	-	72.5	32.3	17.1	2.2	-	44.3	-	-		
	6	951	Ⅲb	完形	Mod.	-	72.3	25.2	16.6	2.9	-	35.4	-	-		
	7	963	Ⅲb	完形	Sa.	-	79.1	34.2	14.3	2.3	-	55.3	-	-		
点数小計				7	平均値	-	70.7	31.3	16.5	2.2	-	176.0	-	-		
その他の断片・重量(g)				-	重量小計(g)	-	-	-	-	-	-	1231.9	-	-		
III SB-05	II-8-1	990	Ⅲb	完形	Sa.	-	55.2	27.7	21.5	2.0	-	36.9	-	-		
	2	988	Ⅲb	完形	Sa.	-	58.5	31.0	13.9	1.9	-	32.6	-	-		
	3	999	Ⅲb	完形	Sa.	-	58.7	33.7	15.2	1.7	-	43.1	1203	-		
	4	1217	Ⅲb	完形	Mod.	-	63.7	34.1	17.4	1.9	-	39.8	-	-		
	5	994	Ⅲb	完形	Sa.	-	62.0	32.5	14.7	1.9	-	30.3	-	-		
	6	983	Ⅲb	完形	Sa.	-	65.9	22.6	16.5	2.9	-	31.9	-	-		
	7	989	Ⅲb	完形	Sa.	-	67.8	32.8	14.5	2.1	-	43.6	-	-		
点数小計				8	975	Ⅲb	完形	Sa.	67.4	31.9	20.6	2.1	54.5	-	-	
その他の断片・重量(g)				9	1213	Ⅲb	完形	Sa.	69.2	40.4	18.6	1.7	74.1	-	-	
点数小計				10	990	Ⅲb	完形	Sa.	-	53.0	28.1	1.7	-	-	-	-
その他の断片・重量(g)				11	1206	Ⅲb	完形	Sa.	71.0	33.0	28.1	2.1	83.6	984	-	
点数小計				12	979	Ⅲb	完形	Mod.	74.5	28.4	18.0	2.6	47.6	1214	-	
その他の断片・重量(g)				13	1211	Ⅲb	完形	Sa.	78.1	29.2	15.8	2.7	45.3	-	-	
点数小計				14	992	Ⅲb	完形	Mod.	71.2	37.9	21.5	1.9	73.7	-	-	
その他の断片・重量(g)				15	1212	Ⅲb	完形	Sa.	79.5	39.9	22.3	2.7	60.6	-	-	
点数小計				16	987	Ⅲb	完形	Sa.	75.7	34.0	12.4	2.2	48.5	-	-	
その他の断片・重量(g)				17	972	Ⅲb	完形	Mod.	72.8	24.4	21.3	3.0	62.6	-	-	
点数小計				18	1222	Ⅲb	完形	Sa.	78.0	38.5	16.2	2.0	73.7	-	-	
その他の断片・重量(g)				19	1201	Ⅲb	完形	Sa.	81.4	39.5	18.7	2.1	71.6	-	-	
点数小計				20	974	Ⅲb	断片	Mod.	78.7	37.0	18.1	2.1	71.8	-	-	
その他の断片・重量(g)				21	1207	Ⅲb	完形	Sa.	95.2	34.7	23.0	2.7	62.1	-	-	
点数小計				21	平均値	-	96.3	27.1	17.2	54.3	-	3.6	-	-		
その他の断片・重量(g)				21	62.6	平均値	72.5	32.5	18.4	2.3	55.7	-	-	-		
点数小計				21	1214.0	重量小計(g)	-	-	-	-	1151.4	-	-	-		

表 II-6 III層集中構成蝶形計測一覧表 (4)

遺構名	図	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被熱	規模 (mm)			接合	重量 (g)
								長軸	短軸	厚さ		
III SB-07	II-9-1	10331	III bu	完全形	Sa.			52.8	25.2	14.0	2.1	23.0
	2	10375	III bu	完全形	Sa.			56.5	24.2	10.7	2.3	18.5
	3	10365	III bu	断芯形	Mod.			60.7	22.2	2.0	2.0	52.8
	4	10352	III bu	完全形	Mod.			63.6	29.0	11.1	2.2	55.4
	5	10464	III bu	欠損	Sa.			36.5	19.7	-	-	55.9
	6	10369	III bu	断芯形	Mod.			60.3	28.0	22.6	2.3	43.2
	7	10368	III bu	断芯形	Mod.			66.2	28.4	16.2	2.3	44.2
	8	10349	III bu	断芯形	Mod.			70.8	38.5	18.1	1.8	50.6
	9	10347	III bu	断芯形	Con.			72.2	35.4	18.5	2.0	60.1
	10	10336	III bu	完全形	Sa.			76.2	28.5	17.3	2.7	42.3
	11	10342	III bu	完全形	Sa.			61.5	36.8	17.0	1.8	53.7
	12	10344	III bu	完全形	Sa.			83.1	30.0	13.9	2.8	51.0
	13	10378	III bu	完全形	Mod.			83.2	14.9	23.5	1.9	94.2
	14	10224	III a1		Mod.			29.3	13.9	-	-	20.8
		10337	III bu		欠損			31.8	9.6	-	-	14.7
		10343	III bu		欠損			29.2	-	-	-	18.1
		10346	III bu		欠損			68.5	-	11.8	-	14.1
		10348	III bu		欠損			-	-	-	-	22.8
		10386	III bu		欠損			-	-	18.0	-	30.6
		10465	III bu		欠損			-	-	22.2	-	50.9
点数小計				20	平均値		68.5	31.7	16.7	2.2	38.8	
その他破片重量(g)				151.2	重り小計(g)		795.8					
総重量(g)				947.0								

表 II-7 III層集中構成累計測一覽表(5)

遺構名	図	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被然	規模(mm)			長短比	重量(g)	接合	備考	
								長軸	短軸	厚さ					
II-10-1		10315 III bu		完形	Sa.			56.2	28.4	15.4	2.0	31.9			
2		10316 III bu		完形	Sa.			58.7	29.0	16.3	2.0	35.8			
3		10253 III bu		完形	Mud.			59.1	25.8	26.9	2.3	44.3			
4		10254 III bu		完形	Sa.			62.3	25.0	11.5	2.2	28.9			
5		10366 III bu		完形	Mud.			65.6	31.9	9.5	2.1	32.7			
6		10611 III c		完形	Sa.			63.7	29.8	16.3	2.1	43.1			
7		10252 III bu		完形	Sa.			66.4	25.6	10.9	2.6	41.2	10267, 10319, 10320		
8		10173 III bu		完形	Mud.			61.8	25.4	27.3	2.4	43.2			
9		10256 III bu		完形	Mud.			61.9	24.0	16.5	2.5	42.7			
10		10164 III bu		完形	Sa.			66.0	25.3	14.4	2.6	30.2	10265		
11		10272 III bu		略完形	Mud.			66.9	29.8	17.0	2.2	40.1	10278, 10279, 10289		
12		10241 III bu		完形	Mud.			70.9	32.3	21.1	2.2	56.5			
13		10273 III bu		完形	Sa.			66.4	25.6	14.7	2.6	30.0	10274		
14		10276 III bu		略完形	Mud.			72.8	20.1	22.3	3.0	40.0	10277		
15		10265 III bu		斷完形	Sa.			69.2	25.7	21.4	2.7	49.6	10266, 10401		
16		10167 III bu		略完形	Mud.			76.0	33.6	12.1	2.3	33.4	10180, 10314, 10601, 10602		
17		10261 III bu		完形	Mud.			53.1	30.7	16.8	2.4	37.9			
18		10290 III bu		完形	Sa.			73.0	28.3	17.5	2.6	38.1			
19		10171 III bu		略完形	Mud.			24.5	15.8	5.5	2.2	32.5	10196		
20		10275 III bu		完形	Sa.			76.7	33.8	15.0	2.3	50.3			
21		10503 III c		完形	Sa.			69.4	18.8	16.2	3.7	32.2			
22		10265 III bu		完形	Sa.			80.5	21.1	9.8	3.8	47.3			
23		10286 III bu		完形	Mud.			79.8	19.8	17.7	4.0	45.9	10291		
	10190 III al		欠損		Mud.			-	-	-	-	10181, 10182, 10186, 10187, 10188, 10189,			
	10152 III bu		欠損		Mud.			-	-	-	-	10191, 10192, 10193, 10197, 10198, 10199,			
	10156 III bu		欠損		Sa.			68.8	28.7	17.1	2.4	132.8	10202, 10205, 10207, 10211, 10215, 10216,		
	10259 III bu		欠損		Sa.			-	56.5	41.8	-	-	10417, 10418, 10419, 10421,		
	10262 III bu		完形		Mud.			54.1	20.8	11.9	2.6	45.9	10153, 10172, 10657, 2, 10668, 10670, 10672		
	10114 III bi		欠損		Sa.			-	35.7	31.2	-	-	10468		
	10604 III bi		欠損		Mud.			-	-	-	-	10280, 10621			
	30		平均値					67.6	28.2	19.0	2.6	47.4			
	点数小計		541.5		重量小計(g)			1420.8							
	その他焼片重量(g)		1062.3		總重量(g)										

2. 獣骨集中 (III BB)

包含層中の獣骨は、碎片化した焼骨片のおおよその分布範囲を記録し、未被熱の動物遺存体は全て骨番号を付して単独の点として取上げ、その中でも意図的に集積されたものや複数個体片がある程度広がるものについて獣骨集中番号を付した。前者については出土状況を実測し、微細図で記録した。後者については、現場段階で複数の集中番号を付したが、出土状況等から統合したものもある。また、同一層位面、近位置で検出し、かつ同様な構成状況のものはアルファベットの枝記を付した。

全体で7ヵ所検出し、全て平成14年度の調査で検出した。分布は発掘区の東側で、南北間の中央ラインや北側のT・Uラインに帶状に広がり、礫等の遺物分布とは異なって出土する(図II-2・11・20)。大きく4タイプがあり、焼骨片と未被熱の動物遺存体と礫や金属製品などの遺物を伴うもの(III BB-01)、焼骨片を中心に構成されるもの(III BB-02)、未被熱の動物遺存体で構成されや広がりをもって検出したもの(III BB-03~05)、未被熱の動物遺存体で構成され、密集して検出したもの(III BB-06・07)がある。

表II-8 III層獣骨集中計測等一覧表

新遺構名	旧遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)	
					長軸	短軸
III BB-01	01・05・06上位	T-18・19	III b層上位	略長楕円形	290	220
220	02	U-19・20 T-19・20	III b層上位	不整形	560	355
III BB-02	03	T-15・16 U-15・16	III b層上位	略長楕円形	410	200
355	04	T-17	III b層上位	不整三角形	225	180
III BB-03	08	U-18	III b層上位	略長楕円形	100	45
200	06下位	T-18	III c層	不整形	40	27
III BB-04	07	T-18	IV層下位	略三角形	59	23
新遺構名	構成		採取土量 (ℓ)	プローチン回収物(g)		備考
				浮遊物	残渣	
III BB-01	焼骨片・未被熱骨		38.1	1,213.70	1,213.70	
III BB-02	焼骨片		74.6	553.06	2,695.48	
III BB-03	未被熱骨		—	—	—	
III BB-04	未被熱骨		—	—	—	
III BB-05	未被熱骨		—	—	—	
III BB-06	未被熱骨		—	—	—	
III BB-07	未被熱骨		—	—	—	

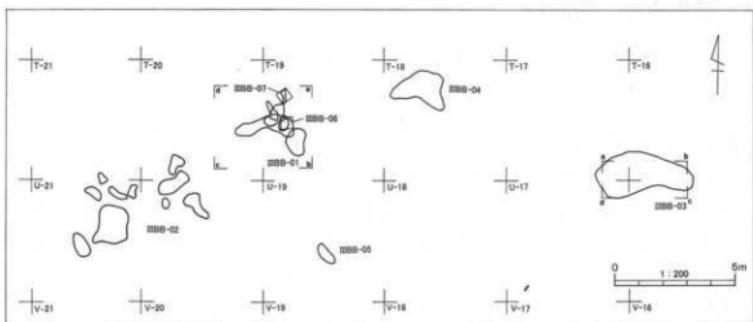


図 II-11 獣骨集中(III BB-01~07)位置図

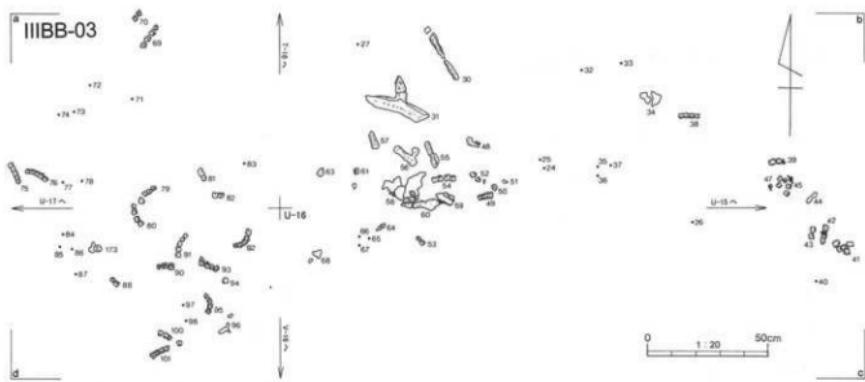


図 II-12 獣骨集中(III BB-03)

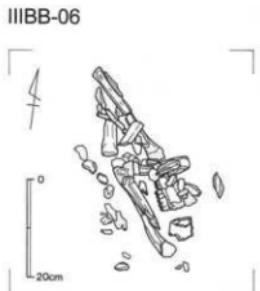


図 II-13 獣骨集中(III BB-06)



図 II-14 獣骨集中(III BB-07)

III BB - 0 1 (図 II-15)

グリッド: T-18・19 検出層位: III b 層上位 平面形: 不整形 規模: 290cm×220cm

検出状況: III a 層調査中に III b 層上面で焼骨片や少量の未被熱動物遺存体が散逸した状態で検出した。当初、この範囲を III BB-01 とし、3ヶ所の枝記を付したが、連続して下層の III b 層上位にかけて範囲が広がり、図 II-15 に記載した複数の輪郭線となった。これらは整理作業段階で同定観察表と共に統合・修正した。分布は III b 層上面で検出した焼骨片と少量の未被熱の動物遺存体は北西-南東軸に 290cm × 92cm の不整形円形の範囲に検出した。南側に隣接して細片化した泥岩が多量に出土している。また、一部重複する範囲で、北西側から 130cm × 82cm の帯状に星兜の細片が出土している。特に III BB-01 の中心部にまとめて星兜細片が出土し、細片のため、範囲を記録し、土壤ごと回収した。土壤を乾燥させた後、乾ふるいで遺物を抽出した。比較的大きいものは、単独に位置を記録して取上げた。

III BB - 0 2

グリッド: U-19・20, T-19・20 検出層位: III b 層上位

平面形: 不整形 規模: 560cm × 355cm

検出状況: III b 層を調査中に焼骨片のみが点在して出土し、写真撮影のための清掃も兼ねて精査した。なおこの時、IIISB-02 も検出しているが、周囲からは礫等の遺物はほとんど出土していない。10地点の小ブロックを確認し、A～J の枝記を付した。上記の規模はこれらを統合した範囲の規模である。小ブロック毎にフローテーションサンプルを採取した。総土量は 72.6 ℥ で、回収した焼骨片重量は 36.9g である。このなかから 1 点だけ、イネ科の炭化種子が回収されている。

III BB - 0 3 (図 II-12, 図版 7-7・8, 8-1)

グリッド: T-15・16, U-15・16 検出層位: III b 層上位

平面形: 略長楕円形 規模: 410cm × 200cm

検出状況: Ta-b を人力で除去中に数点の未被熱の動物遺存体を確認したため、注意を払いながら III a 層を調査したところ、U-16 グリッド杭付近で Ta-c を被覆する V 層の風倒木痕の浅いくぼみに多量の動物遺存体を検出した。III b 層上面から上位にかけて出土し、ニホンジカの上下顎歯を主体とする。周囲からは礫等の遺物はほとんど出土していない。調査、検出にあたっては、遺存形状を崩さないよう細心の注意を払い専属の作業員を従事させた。記録については、個々の動物遺存体に番号を付し、歯冠個数や鹿角、中手中足骨などの主要部位名を台帳に記載し、歯冠列や四肢骨は長軸ラインを、頭蓋骨や鹿角などの大型のものについてはその範囲をトータルステーションで記録した。取上げ前には、主体部や歯冠列など良好な出土状態のものも 35mm カメラで撮影し、デジタルカメラで個々に近接撮影した。取上げにあたっては水で希釈した水溶性の酢酸ビニル系接着剤を数回にわたって塗布、補強し、土壤毎に採取した。取上げ後も補強作業をしながら、余分な土壤を除去し、データを作成し、同定を依頼した。動物遺存体の詳細については第 V 章第 2 節にある。

III BB - 0 4

グリッド: T-17 検出層位: III b 層上位 平面形: 不整三角形 規模: 225cm × 180cm

検出状況: III b 層上位を調査中に未被熱の動物遺存体をやや広い範囲に散逸した状態で検出した。同

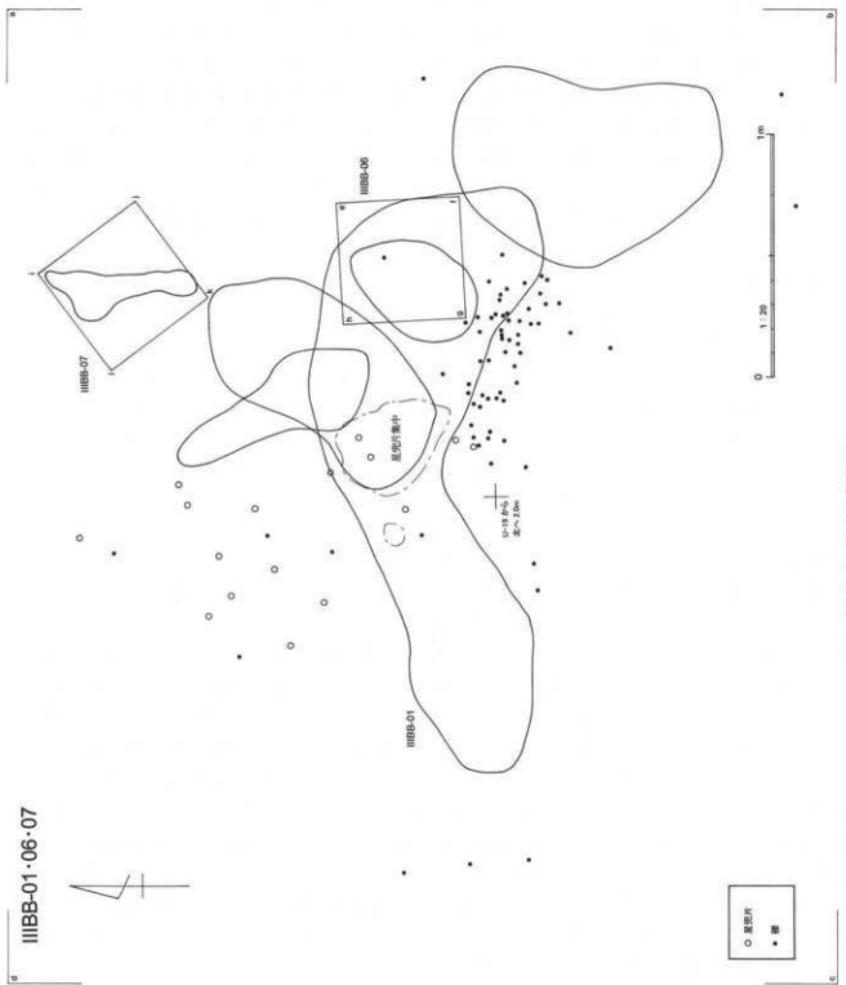


图 II-15 獣骨集中(III BB-01·06·07)及び星兜片·螺出土位置図

一層面において約1.9m北側にはIII SB-01を検出している。

III BB-05

グリッド：U-18 検出層位：III b層上位 平面形：略長楕円形 規模：100cm×45cm

検出状況：III a層調査中、III b層上面から上位にかけて比較的狭い範囲に未被熱のニホンジカの上下頸骨のみで構成された動物遺存体が出土した。周囲には全く他の遺物は出土していない。

III BB-06 (図II-13、図版8-2・3)

グリッド：T-18 検出層位：III c層 平面形：不整形 規模：40cm×27.3cm

検出状況：III BB-01調査終了後、III b層下位～III c層にかけて未被熱で保存状態が比較的良好な動物遺存体が、2、3個折り重なって密集した状態で出土した。ニホンジカの中手中足骨などの四肢骨を主体とし、長軸方向を北西～南東軸に揃えた状態であるが、全て破碎されている。上層のIII BB-01との関連は、構成内容も異なり、層位も不連続なことから一応区別した。ただし、土坑の平面プランを検出できなかったものの、周囲のIII層の遺物包含層面より確実に下がった層位より出土していること、遺存体の長軸方向も揃って散逸していないことから、浅い土坑を構築し、埋納・廃棄した可能性も十分に考慮される。

取上げは、微細図実測、撮影の後、土壤ごと一括しての回収を試みたが破損したため、番号は付けないで個々に行った。

なお、当初上層に広がる動物遺存体も同一の遺構名を付したが、層位および出土状態が異なることから細分し、上層をIII BB-01と一括し、下層の密集したものとIII BB-06とした。

III BB-07 (図II-14、図版8-4)

グリッド：T-18 検出層位：IV層下位 平面形：略三角形 規模：59cm×22.5cm

検出状況：ジョレンを用いて人力でTa-cを除去中に、密集した良好な保存状況の動物遺存体をV層上面に近いIV層(Ta-c)下位に相当するレベルで検出した。III BB-06と同様に土坑底面に埋納・廃棄された可能性がある。動物遺存体を被覆する堆積土は暗褐色のTa-cを主体とするもので、基本土層のIV層に近いが、プライマリーな堆積状況では、斑状にIII c層またはIV b層(Ta-c本層)を含むことから土坑覆土の可能性が考えられる。出土した動物遺存体はニホンジカの多種の部位にわたって構成されている。また保存状態によるものと思われるが、個々の破片においても、III BB-06と比べて細かい破片が多い。しかし、比較的大型の四肢骨も出土しているが長軸の方向性や部位によるまとまりは見受けられることができず、煩雑としており、折り重なっての出土も見られなかった。

取上げは、微細図実測、撮影の後、全面に水溶性酢酸ビニル樹脂系接着剤を数回にわたって塗布し、V層毎切り取ってコンテナへ収納し、陰干しの後、遺存体の補強作業と土壤の除去作業を行いながら破片抽出を行った。

3. 炭化物集中 (III CB) (表II-5)

22ヶ所の炭化物集中区を検出した。包含層中にも炭化物は点在するが、焼土に伴わなく、複数の炭化材等が混在し、ある程度のまとまりをもって広がるものに集中番号を付け、同時に検出した近接するブロックには枝記を付した。調査時点では、2カ年で37ヶ所の炭化物集中番号を付けたが、分布などからこれらの一部を統合した。統合、変更した遺構名等は一覧表に記載している。なお、層位については、集中区のほとんどがIII b層上位での検出である。

分布状況は発掘区東側の段丘縁辺部のS-14区を中心にIII CB-05、南側のX-18区を中心にIII CB-10・11、北西のQ-2I区を中心にIII CB-21と比較的広範囲に広がる炭化物集中区があり、これらの中心部に大量の炭化種子で構成されるIII CB-03がある。また、III CB-03とIII CB-05、III CB-21の間には小規模な集中区(III CB-04・07~09・15・16・18)が比較的狭い範囲に点在している。

調査は炭化物範囲を精査し、おおよその範囲を記録し、フローテーションサンプルとしてほぼ全ての土壌812.2ℓを回収した。そのなかで、III CB-03は短粒裸性オオムギやアワ、アズキを主とするマメ科などの栽培種炭化種子が多量に出土しており、他の炭化物集中区と性格が異なるようである。他の集中区ではIII CB-05で微量のオオムギと少量のブドウ科やミズキ属を主体とする野生種が出土している。他の炭化物集中区もフローテーション処理を行ったが炭化種子はほとんど出土していないことから、炭化材のみで構成されていたものと思われる。

各集中区の詳述については一覧表にて割愛させていただき、規模の大きいIII CB-03、III CB-05、III CB-10・11、III CB-21について記載する。

III CB - 0 3

グリッド: V・W-18 検出層位: III b層上位 平面形: 略隅丸方形 規模: 376cm×350cm

検出状況: III b層上位を調査中にコナラ属の子葉を数点検出した。周囲を精査すると小粒径の炭化物が点在していたため、範囲を記録し、肉眼で検出を確認できたコナラ属子葉やマメ科のものは位置を記録して取上げた。取上げドットからは、2つのブロックがあるが、種子構成に区別は無いようである。出土層位はIII b層上位を中心にIII c層中位まで連続し、出土地点も層位とは関係なく点在していることから、土坑などの遺構はない。精査時の土壌は全てフローテーションサンプルとして回収し、調査期間中や整理作業時にバケツ法によるフローテーション処理を行った。採取土量は305.3ℓで、浮遊物は1,063.4g、残渣14,657.7gを回収した。炭化種子抽出は、椿坂恭代氏の指導を受けた作業員が行い、平成14年度には調査時におけるハンドピックの種子を、平成15年度にはフローテーション処理で回収した小型の炭化種子を中心に同定を委託した。詳細については、第V章第1節に記載している。

III CB - 0 5

グリッド: S-14~16、U-14~16 検出層位: III b層上位~下位

平面形: 不整形 規模: I, 253cm×900cm

検出状況: III b層上位を調査中に、段丘縁辺部のやや高地に広い範囲に検出した。調査時点では複数の集中区番号を付けたが、III b層中の検出であることから統合した。西側の一部は、同一層面でIII BB-03と分布範囲が重複するが、周辺も含め、礫などの遺物はほとんど出土していない。炭化物の包含

表II-9 III層炭化物集中計測等一覧表

遺構名	旧番号	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		土量(ℓ)	回収物(g)	
					長軸	短軸		浮遊物	残渣
III CB-01	01	Q-19	III b 層上位	略楕円形	130	50	3.6	46.8	121.0
III CB-02	02, 05	Q-20	III 層上位	略楕丸方形	300	185	5.8	101.4	302.5
III CB-03	03	V・W-18	III b 層上位 ～III b 層下位	略楕丸方形	376	350	305.3	1063.4	14657.7
III CB-04	06	U-20	III c	略三角形	70	58	7.2	97.2	667.7
III CB-05	07, 13～ 18, 20, 23, 27	S～U-14～16	III b 層上位 ～III b 層下位	不整形	1,253	900	103.2	2918.4	11047.1
III CB-06	08	Q・R-19	III b 層	略三角形	150	35	6.6	149.9	210.5
III CB-07	09, 28(H14)	S-17	III b 層	略三角形	260	170	2.2	71.6	465.3
III CB-08	10	S-16	III b 層	略楕円形	105	90	未計測	30.0	147.1
III CB-09	11	T-20	III b 層	略三角形	170	140	未計測	38.5	134.4
III CB-10	12	X・Y-19	III b 層下位	略三角形	540	370	30.2	349.2	1722.7
III CB-11	19A	X-18	III b 層上位	略三角形	237	128	85.8	1190.1	2963.3
III CB-12	19B	X-19	III b 層上位	略楕円形	53	43	16.6	105.9	318.5
III CB-13	21	U-21	III b 層下位	略三角形	243	135	9.4	48.1	887.8
III CB-14	22	AA-21	III b 層上位	略楕丸方形	185	93	2.6	56.8	541.2
III CB-15	24	U・V-19・20	III b 層下位	略三角形	225	170	12.3	107.6	220.7
III CB-16	25	U-19	III c 層上位	略三角形	50	45	2.6	27.3	125.8
III CB-17	26	V-17	III c 層上位	略楕円形	50	40	1.2	3.6	30.4
III CB-18	28(H15)～32	R・S-22～24	III b 層上位	略台形	1,070	800	178.8	1327.6	3736.6
III CB-19	33	V-25	III b 層	略楕円形	153	80	24.0	153.3	380.2
III CB-20	34	U・V-24	III b 層	略楕円形	170	80	10.0	112.5	650.5
III CB-21	35	U-24	III b 層上位	略楕丸方形	67	40	2.2	5.3	208.4
III CB-22	36	U-21・22	III b 層	略楕円形	60	40	2.6	36.3	20.1
合計							812.2	8040.5	39559.5

度合いが強く、103.2ℓの土壌をサンプリングし、フローテーション処理で浮遊回収した炭化材は2918.4gを回収している。調査時点では炭化材やササと思われる茎状の炭化物が目立ったが、フローテーション処理の結果、ブドウ科やミズキ属、アリノトウグサ科などの野生種の炭化種子が少量出土している。

III C B - 10・11

グリッド：X-18・19、Y-19

検出層位：III b 層上位・下位

平面形：略三角形

規模：(10) 540cm×370cm・(11) 237cm×128cm

検出状況：III b 層上位を調査中に炭化物の包含度合いが強い集中区をやや広い範囲にわたって検出した。調査時点でも細片化した炭化材で構成されていることが肉眼でも観察できたが、116ℓの土壌をサンプリングした。フローテーション処理の結果は回収した浮遊炭化物は1539.3gにもよるんだが、炭化種子は8点しか出土していない。南西に隣接して、ほぼ同時期と思われるIII F-06を検出しているが、この遺構からも魚骨を中心とした焼骨片は回収しているが、炭化種子は出土していない。

III C B - 21

グリッド：U-24 検出層位：III b 層上位 平面形：略隅丸方形 規模：67cm×40cm

検出状況：III b 層上面で広範囲にわたり細片化した炭化物の広がりを検出し、集中番号を付した。周囲からは少量の礫が隣接して出土している。フローテーション処理を行ったが炭化種子は出土しなかった。

4. 灰層集中（III AS）

C地区は25ラインまでがIII層の調査区であったが、遺構・遺物数が予定より少なかったため、III a 層のみC地区全域を調査することとし、III層の状況把握に努めた。26ライン以西の発掘区においても遺物は皆無に近い状況であったが、2カ所の木質部を残す立ち枯れの大木跡を確認した。この周辺もIII a 層の調査を行ったところ、樽前b火山灰降下以前からの大木跡に付随して灰集中を検出し、III AS の遺構名を付した。樹木はおそらく、樽前b火山灰降下後も二重根を発達させ、近現代まで自生していたものと思われる。しかし、明治後期以降の造材や製炭のため森林開発で伐採され、枯死したものと思われる。このため、風倒木ともならず樹根部分がそのままの形状で残ったものと思われる。

III A S - 01 (図II-16、図版5-1~4)

グリッド：Z-27、AA-27・28

検出層位：III 層上面

規模：樹根部700cm×536cm

AS1 : 30cm×7.4cm×1.5cm

検出状況：III a 層調査に腐植し、木質部が軟質化した樹根跡を検出、確認した。重機による火山灰除去時に樹幹部である中心部のIII a 層は削平していた。枝根は北東側を除いて放射状に広がり、暗赤褐色で先端部はほど腐植化し、III b 層やIII c 層まで達している。枝根形状を残し周囲のIII a 層の調査を進めたところ、樹幹部の北東側に褐灰色土を検出した。当初、被熱の形跡もなく、炭化物も少量しか確認できなかったことから焼土に伴うものではなく、大木の自然影響で樽前b火山灰もしくは白頭山

苦小牧火山灰が溜まったものと考え、灰層の多くを掘り下げてしまった。しかし、この中から微量の炭化物のほか、ニホンジカの頭蓋骨（188・189）や鹿角（187・193）等の動物遺存体が出土し、樽前b火山灰の軽石を含まず、白頭山苦小牧火山灰に特徴的な粒度が細かく粘性のない火山ガラスで構成されてもいなないことから灰層と判断し、樹根部も含め灰集中の番号を付した。頭蓋骨や鹿角は灰層面の下から出土している。出土状態は189の頭蓋骨は灰層の下から根の間のやや深いくぼみに数十点がまとまって、III b層の直上に出土している（図版5-1）。保存状況が悪く、ほとんどが糊状化していたため、多くは取り上げ時点やクリーニング時に遺失してしまっている。頭蓋骨は薄いため、著しく風化、腐食が進んだものと思われる。187の左前頭骨から角座骨・第一分岐までの鹿角で、保存状況は良く、比較的硬質である。灰層とほぼ同レベルあるいは下層の縁辺部で、III b層を若干被る枝根の上から出土している。193は鹿角先端部で灰層より下のIII b層直上から出土している。

堆積状態：樹幹部の木質部は赤褐色で表面は腐植していたが、保存状態が比較的良好で、一部は移植ゴテでは切断できないほど硬質であった。樹幹部下の根は、さらに下層へと伸び、V層へ貫入していた。樹幹部からの枝根はIII b層上位を水平方向からやや下方へ向かって這うように伸びている。灰層は根の腐植層に直接被覆する状態であるが、根の下はプライマリーなIII層堆積であることから、この樹木がある程度の根の大きさをもつてから灰層が発達、集積されたものと思われる。また、樽前b火山灰も根の腐植層（2層）の上位や腐植部の内側に紛れ込む状況で出土し、根の下縁、下層には見られないことから、樽前b火山灰降下後に貫入してきたものではないことが分かる。樹幹部付近の2層からは、現代のものであるビニール片が少量出土しているが、樹木伐採後、腐植の進む上位の空洞化で紛れ込んできたものと思われる。1層の灰層には炭化物を微量に含み、土壤0.3ℓのフローテーション処理の結果からは、浮遊物0.97gと残渣43.71gを回収した。炭化種子は含まれていなかった。しかし、この中からはバツラマイマイタイプやキセルガイタイプ等の陸産微小貝を多量に回収した。検出時点では樹幹部のIII a層がなかったことから、他のIII層の遺構・遺物群との厳密な層位対比は判断しかねるが、根の下のIII b層下位に白頭山苦小牧火山灰がブロック状に堆積しており、擦文期までは古くならないことが判明している。

III A S - 02 (図II-17図版6-1~5)

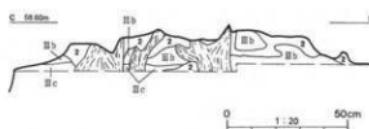
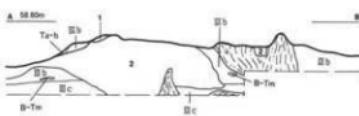
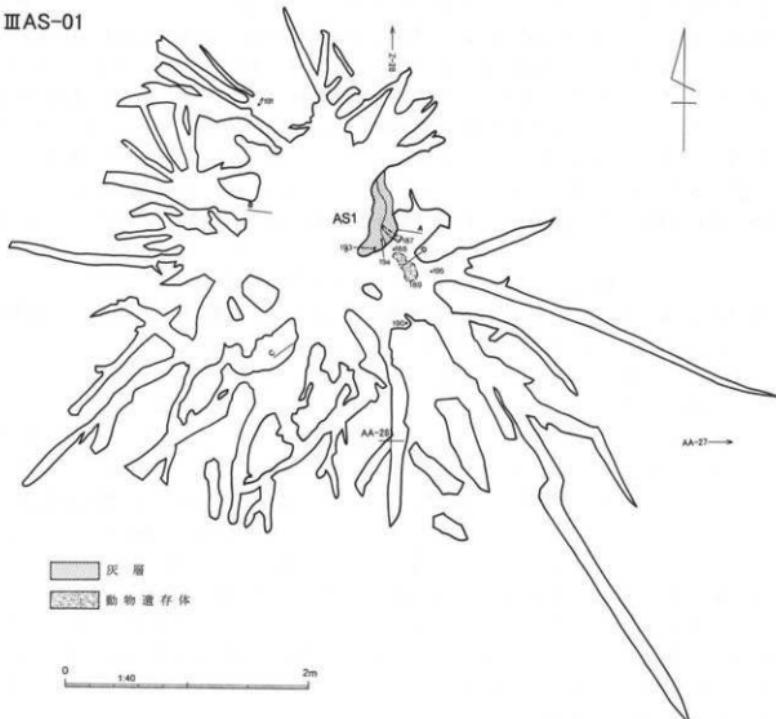
グリッド：X-34・35、W-34・35 検出層位：III層上面

規 模 樹根部：520cm×442cm AS1：38cm×30cm×8cm AS2：34cm×18cm×4.5cm

AS3：12cm×11cm

検出状況：樽前b火山灰除去時にV・W-34区において枝根部分に樽前b火山灰が堆積し、中心部には木質部を残す立ち枯れの大木の樹根部を確認した。当初は近年まで自生していた自然の樹根跡と認識し、注意していないかった。周囲のIII a層調査時に樹根部に伴って褐灰色土を検出した。被然の形跡もなく、炭化物も少量しか確認できなかったことから焼土に伴うものではなく、大木の自然影響で樽前b火山灰もしくは白頭山苦小牧火山灰が溜まったものと考えた。しかし、樽前b火山灰の軽石を含まず、白頭山苦小牧火山灰に特徴的な粒度が細かく粘性のない火山ガラスで構成されてもいなかったので、III AS-01と同様な灰層のみで構成される灰集中と判断した。火山灰除去時に枝根部分に樽前b火山灰が入り込んでいたがIII層上面の清掃作業時にほとんど除去していた。このため、枝根部分は樹幹と思われる中心部より放射状に広がり、幅20cm前後、深さ30cm前後のV層上位まで達する溝状に落ち込

III AS-01



III AS-01

1. 10YR 4/1 灰 灰色 灰層 = 水化物
2. 5YR 3/2 增赤褐色 枯葉の腐植質ビニール片が少量出土

図 II-16 灰集中(III AS-01)

III AS-02

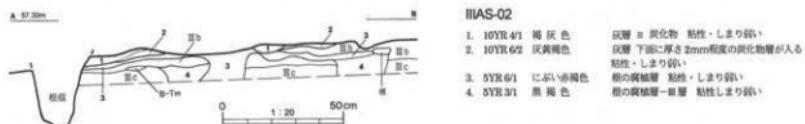
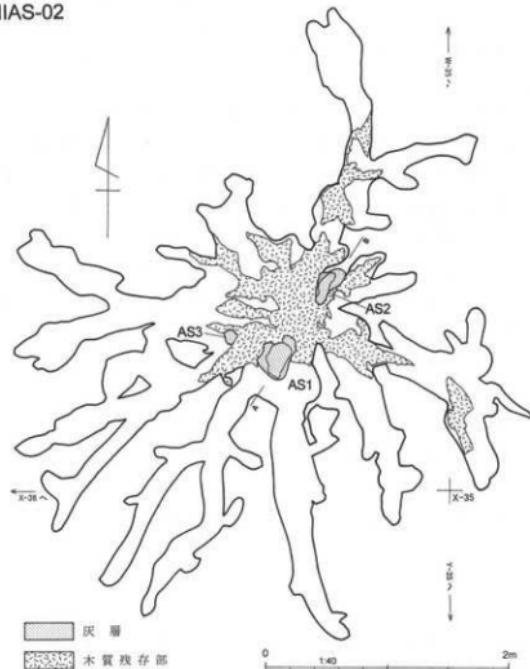


図 II-17 灰集中(III AS-02)

んでいた。平面図は枝根部分の上端と中心部の木質部残存範囲、灰層範囲を記録した。灰層は樹幹部に接して3ヵ所検出し、樹幹部を挟んで北東-南西軸に対置する2ヵ所（南西：AS1、北東：AS2）と南西の灰層から枝根を挟んで西側に1ヵ所（AS3）の位置である。AS1とAS2は比較的規模の大きく、AS3は小規模である。

堆積状態：樹幹部を半断するラインで、AS1とAS2を確認した。堆積状態から、根の腐植層の下に樽前b火山灰がみられないことから、樽前b火山灰降下以前からの樹木と判断される。灰層は3・4層の木の腐植層に直接被覆する状態であることから、この樹木灰層は色調の異なる2層あり、かつAS1の底面には極薄い炭化物層が堆積していた。おそらく数回にわたって廃棄されたものと思われ、平面図では未記録であったが、(写真図版6-1)の検出状況からも判断できる。また、Ⅲb層とⅢc層との層界に白頭山苦小牧火山灰がブロック状に堆積しており、擦文期までは古くならないことも分かる。灰層を全て回収し、6.5ℓを処理した。浮遊物は49.99gで残渣644.9gを回収したが、炭化種子は出土していない。残渣の中にはバツラマイマイタイプを主とする陸産微小貝が多量に含まれていた。

以上の検出・堆積状態からⅢAS-01と02は同じ性格の遺構と考えられ、次のように整理できる。

樹木について

- ・樽前b火山灰降下以前にはある程度の大きさまで成長が進んでいた。
- ・樽前b火山灰降下後も、二重根を発達させ、自生していたものと思われる。
- ・近現代に伐採され、樹根部のみが残されたため、風倒木ともならず、樹根部のみが徐々に腐植していった。木質部腐植の過程で生じる空洞化において、ⅢAS-01は木質部の遺存状況が良く、ⅢAS-02は腐食が進行し、樽前b火山灰が堆積していた。このことは、樹種によるものか、伐採時期によるものかは不明である。

灰層等について

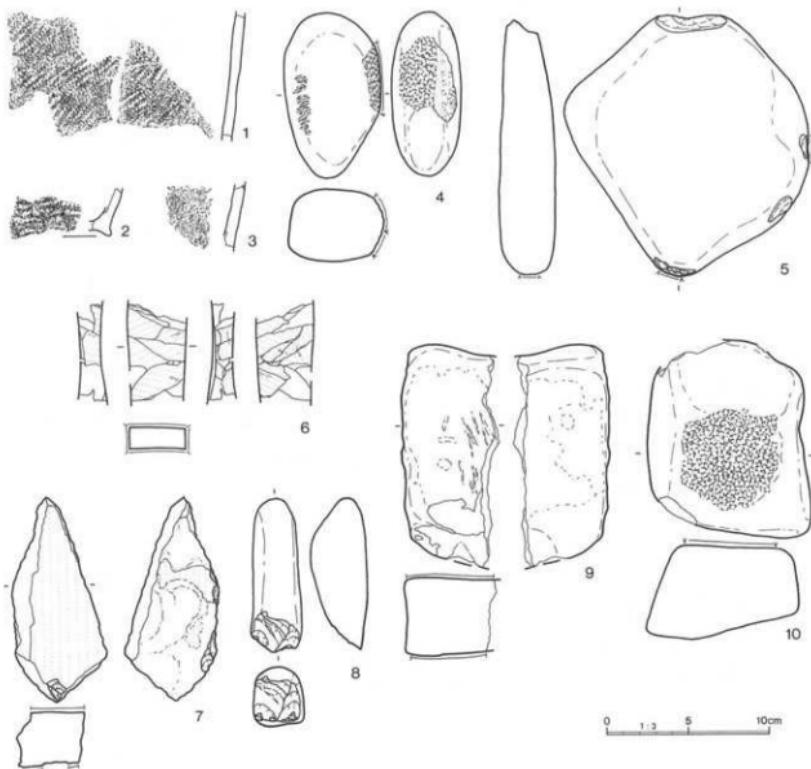
- ・いずれの灰層も樹木がある程度の大木になってから、樹幹部根元に廃棄され、焼土、焼土粒は伴わない。
- ・時期は樽前b火山灰降下以前の所産で、白頭山苦小牧火山灰の降下年代よりかなり時間を経過している。ⅢAS-01の動物遺存体出土状態から、Ⅲa層よりはⅢb層形成時に残された可能性がある。しかし、A地区に主体的な広がりを見せる中世アイヌ期の遺構・遺物群との関係は不明である。
- ・ⅢAS-01は、樹幹部の北東側に1ヵ所の灰層を検出したが、灰層をほとんど除去してしまったことから詳細は不明である。動物遺存体との関係において、樹幹部に接した根元にニホンジカ頭蓋骨を置き、その上に灰層を廃棄している。周囲からは動物遺存体が出土していないことから、シカの頭蓋骨は意図的にこの位置に廃棄したものと思われる。
- ・ⅢAS-02は、樹幹部を挟んで北東側と南西側の大きく2ヵ所の灰層を検出した。検出平面状況や堆積状況から灰層は2回以上にわたって廃棄されている。
- ・いずれの灰層も炭化物を微量に含むが炭化種子は出土していない。自然遺物の陸産微小貝を多量に包含する。

上記より、大木を意識した「送り場」跡と考えられⅢAS-01は「シカ送り」もされている。また、周囲からは遺物が一切出土していないことから、非日常的な空間と思われる。遺構名も「送り場」と記載すべきかもしれないが、考古学的事実にしたがって「灰集中」とした。

第4節 III層出土の遺物

1. 土器・礫石器（図II-18、図版44-2）

III層からはVI群とVII群の2個体の土器が出土している。1・2は、同一個体の続縄文前期の在地系土器片である。1は胴部片で、圧痕の極めて浅い斜行縄文が施文されている。2は上げ底の底部片で、横走する縄文が施文されている。出土位置は、アイヌ期の遺物分布より30m以上離れたAA-12区に集中している。上層は重機で掘削していたことから1個体分が置かれていた可能性がある。3は擦文土器で、深鉢形土器の肩部の破片である。破片上端の肩部にあたる部分には縦位の刻み列が施文されている。器面調整はナデ調整の後、縦位のミガキ調整がなされている。内面は横位のミガキ調整。破断面観察や器表面の弱い凹凸から幅1cm前後の粘土紐による成形痕が観察できる。



図II-18 III層出土土器・石器

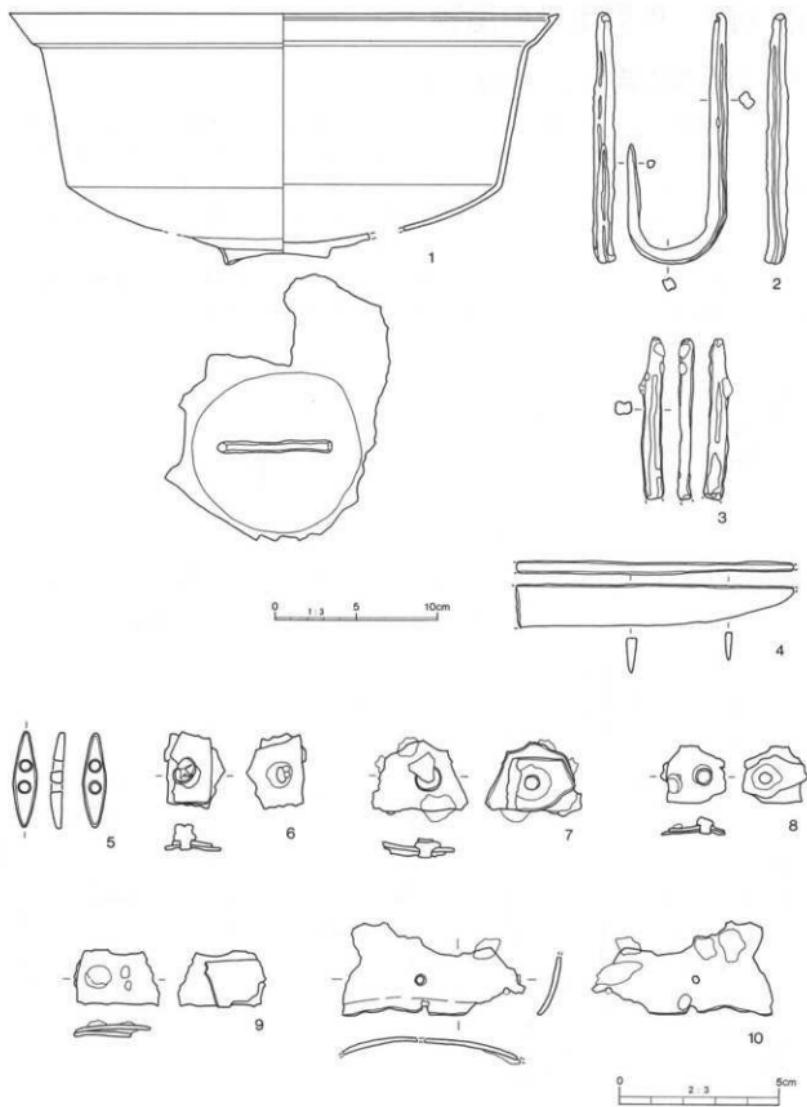


図 II-19 III層出土金属製品

4・5は敲石で、4は丁度、手中に収まる楕円形礫の弱く膨らむ側縁を利用していている。敲打痕は細かく、敲打面の右側の一部は擦石として利用されている。擦り面は弱い凸状に膨らみ、自然転礫面と明瞭な稜線が観察できる。また、正面左側にはやや深い直線状の傷が数条ある。5は扁平礫を利用した敲石で、突出した一端と弧状に膨らむ側縁に弱い敲打痕がある。上端は剥離加工が施されている。6・7は砥石で、6はⅢSB-01出土の遺物である。被熱により黒色化し、細かく破碎した破片13点が接合している。粒度の細かい凝灰岩製の板状砥石で、四面とも使用されている。使用面は極めて滑らかで、一部に鋭く直線的な傷がある。裏面の右側面角には金属製利器で付けられたと思われる細かい傷が3ヶ所ある。7は砂岩製の板状砥石片。表面は極めて平滑で、ほとんど擦痕は観察できない。裏面も砥石として利用されたようだが、摺理面を残す。8は棒状礫の長軸端に3枚以上の剥離が施されている加工痕のある礫である。9は砥石片。方形状？の礫の表面は若干使用され左側縁の一部には転礫面との稜線がある。ややくぼむ中央付近にはキズが残されている。裏面は弱い凹凸がある礫皮面の状態を残しているが、光沢面がみられ、植物や獸皮などの柔らかい対象物により擦られたものと思われる下端は黒色化し被熱の痕跡が認められる。10はⅢSB-04出土の遺物で、台形状礫の上底面を使用面とする小型の台石である。縁辺部はやや粗い敲打痕が残る。

2. 金属製品（図II-19、図版45-1）

金属製品は礫集中、獸骨集中等と同様Ⅲb層上面付近から出土している。

1はⅢSB-01と共に出土した鉄鍋である。資料は土圧により歪んでいたため、実測にあたっては良好な部分を用いた復元実測を行っている。全体の約1/3程の胴部片と、湯口跡を残す底部片が出土している。接合はしていないが両者は同一個体と考えられる。推定口径は33.8cm、推定の器高は15.4cm、深さは14.0cmである。胴部での厚さは3.0mmである。口縁部は胴部との境に段が付き、28°の角度で外側へ開く形をしている。口唇部断面は内側に張り出した形をしている。底部片に認められる湯口跡は長さ7.0cm、幅6.0mm、高さ0.2~1.0cmの一文字形をしている。湯口跡周囲は僅かに厚みを増し、盛り上がりをみせている。鋳型製作時に木型鳥目部分が位置した痕跡と思われる。今回出土した破片に耳部は付いていないが、鉄鍋の形状より内耳鉄鍋であると考えられる。

2は刀剣類の先端部片である。出土した部分での長さは16.9cm、幅2.6cm、厚さ7.0mmである。身幅が刀子のような小振りの刃物よりも広く、また太刀や打刀よりも狭いことから、脇差のような短刀の先端部かと思われる。平棟平造、もしくは刃部断面左側が僅かに切刃状を呈していることから、平棟片切刃造のいずれかと考えられる。

3は鉤状鉄製品である。長さ15.3cm、鉤状部での幅は6.1cmで、全体がねじれながら鉤状部を形成している。断面は1辺6.0~9.0mm程の方形をしており、2面に溝が認められる。

4は一端が折れている棒状鉄製品である。断面形は1辺6.0~10.0mmの長方形で、3と同様2面に溝が入っている。

5~10はⅢBB-01周辺から出土したもので、いずれも星兜の一部と思われる金属製品片である。5は銅製の鉗（こはぜ）、6~9は鉄板の重なりが確認できる破片で、6~8には径7.0mm程の鉈頭をもった鉈が留められている。10は兜の裾部に当たると思われる破片で、鉈留の孔と思われる径2.5mm程の孔が資料中央と、正面右端の2ヶ所で確認できる。

鉄鍋について

これら金属製品の時間的位置づけを考えるため、鉄鍋について若干ふれてみたい。

本遺跡で出土した鉄鍋の特徴は、胸部での厚さが3mmで、口唇部断面内側に張り出しを持ち、口縁部は段がついた後、大きく開くという3点である。前2つの特徴は14世紀後半以降の本州日本海側地域で流行する製作方法であると考えられることから(小野 投稿中)、上限は14世紀後半である可能性が高い。一方下限については、上ノ国町勝山館跡出土資料と比較することで考えてみたい。上ノ国町教育委員会のご好意で資料を実見したところ、16世紀代に交易拠点として機能したとされる勝山館跡出土の鉄鍋は、吊耳鉄鍋、内耳鉄鍋を問わず日本海側地域の製作方法によるものであることが解った。これらの口縁部は小さな段がついた後、胸部とほぼ同じ角度で口縁が形成されているもの、もしくは段のつかないものと構成され、厚幌1遺跡出土資料のように口縁が大きく開く形のものは出土していないかった。この勝山館跡における鉄鍋の様相は、16世紀代の日本海側地域で流通していた製品の組成を示すものとして考えられる。従て厚幌1遺跡出土資料にみる形態のものは、16世紀代には既に流通していなかった可能性が高い。以上より、本遺跡の鉄鍋は14世紀後半～15世紀代のものとして位置づけられるのではないかと考えられる。

3. その他の遺物 (図II-20)

Ⅲ層からは総計1,897点の遺物が出土している。うち、1,765点が礫で、全遺物点数に占める割合は97%に当たる。礫は集石を構成しているものと同様な棒状の転礫が主体で、計測できた完形品204点の平均値(標準偏差・平均値/標準偏差)は、長軸77.7mm(19.0・0.24)、短軸34.0mm(8.1・0.24)、厚さ20.0mm(4.9・0.25)、重さ78.5g(55.5・0.71)、長短比は2.31(0.47・0.20)である。平均値に対する標準偏差の比率において、重さ以外は、0.25以下である。これに対し、重さは0.71と高い比率を示し、礫の採取にあたって、形状を主たる選択肢としているものと思われる。

分布は大きく3ヶ所に分かれ、発掘区北側のQ-19～R-21区にかけて14.4m×9mの不整楕円形状に広がる範囲①と、発掘区南側のY-21区を中心とした約15mのほぼ円形状(南東1/4は出土していない)に広がる範囲②、範囲②と③の中間のやや東よりに分布するもの(範囲③)とがある。

範囲①は僅かな炭化物集中区を伴うだけで、遺構分布とは一致しない。また礫の出土状況も集石を伴わず、散逸した状態で出土している。

範囲②も遺構等はほとんど重複せず、ⅢF-06の西側に位置する。

範囲③は焼土や集石、獸骨集中区が分布する範囲で、集中するドットは集石を表している。範囲①・②とは性格の異なる遺物分布領域で、一種の捨て場的な領域だった可能性がある。

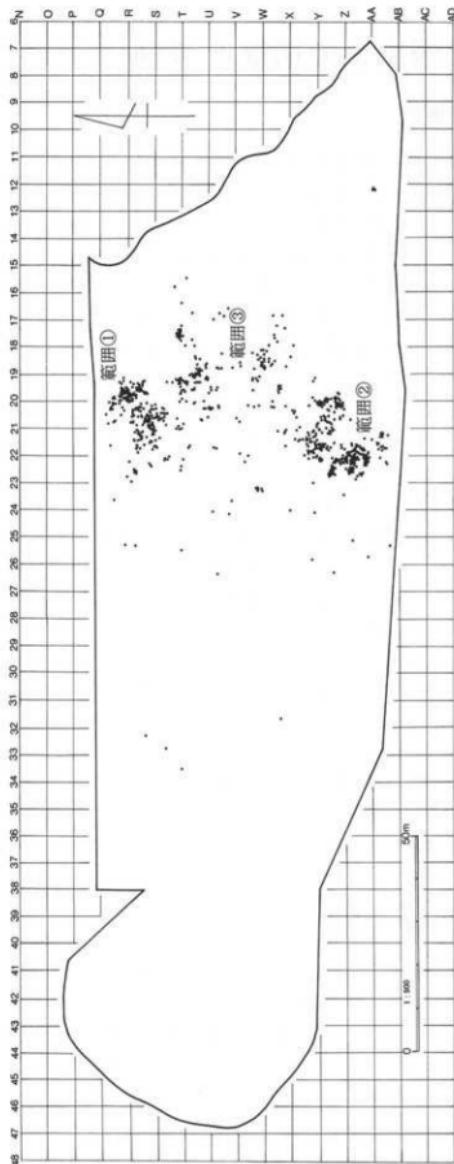


図 II-20 Ⅲ層遺物分布図

第Ⅲ章 V層出土の遺構と遺物

第1節 V層の概要

Ta-c火山灰（IV層）とTa-d再堆積層（VII層）に挟まれた縄文時代の地層に相当する黒色腐植土のV層からは縄文時代早期後葉の中茶路式から中期末葉ないしは後期初頭の余市式までの時期の遺物が時期をわいて出土している。時期の判別できる土器からみると、中期末葉から後期初頭にかけての余市式が最も多く、次いで中期後葉の天神山式あるいはこれに並行する土器が多い。その他に、個体数の順に中期の柏木川式、前期の静内中野式、早期の中茶路式・東釧路IV式、中期の円筒上層式、北筒式が出土している。Tピット以外の遺構や石器類なども、これらの時期のものと思われる。

遺構は、住居址2軒とTピット95基、土坑11基、焼土16ヶ所、礫集中10ヶ所、フレイク・チップ集中7ヶ所を検出している。Tピット以外の遺構のほとんどは、V層上位からの掘り込み、あるいは形成で、縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての所産と思われる。

住居址も余市式期の所産で、掘り掲げ土を伴ったやや大型のものと、南側に隣接して炉跡や柱穴のないものと2軒検出した。大型のものは、屋根土と思われる覆土中に屋根材と思われる炭化材を検出していることから焼失家屋の可能性が高い。

Tピットおよび焼土以外の遺構と遺物の分布は、発掘区の北半に集中し、段丘縁辺部からVII-01を検出した22ラインまでに広がり、さらに発掘区外の北側へ続くものと思われる。

Tピットについては、溝状のものから平面形が楕円形に近いものまでさまざまなタイプを検出した。分布は、発掘区の南側に多く検出し、C地区の西側と南東側に集中する。前者は発掘区外の沢状地形図に、後者はキウキチ沢の縁辺部から発掘区外の山裾にかけて分布し、集中の度合いが高い。また、切り合のあるものや掘り掲げ土を確認できたものなどもある。

土坑は、検出数が少ないが、初例のものとして、発掘区南側で小型の楕円形を呈する画一的なものが直線的な配列をもって検出している。

焼土は遺物の分布状況との関連性なく発掘区全域に点在する。

遺物は66,826点出土しているが、それらの大半は黒曜石のフレイク・チップで、ついで、礫が多い。土器や石器類は全体の13.0%に止まる。

第2節 住居址（VH）

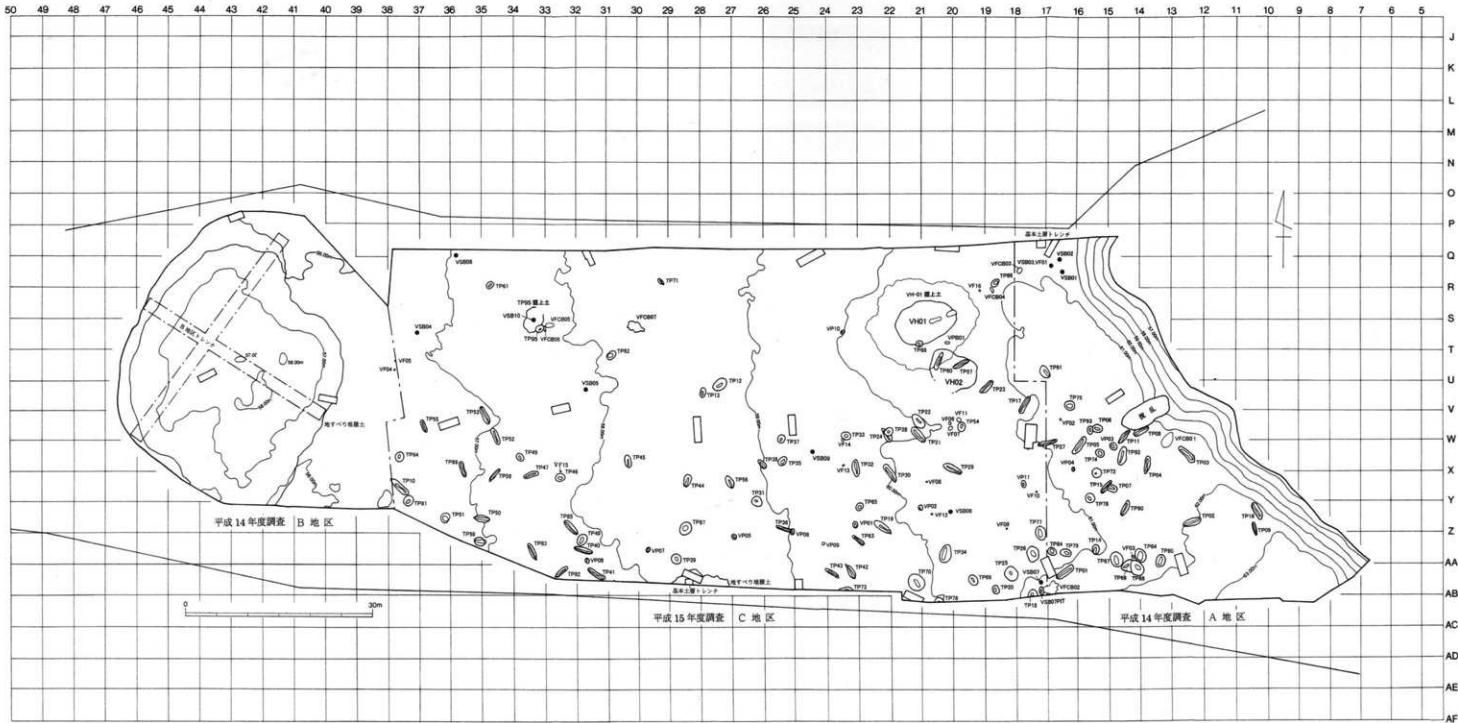
VH-01（図III-2~8、図版10-1・2・11-1~7・12-1~4）

グリッド：R-19~21、S-19~21 検出層位：Vb層上位

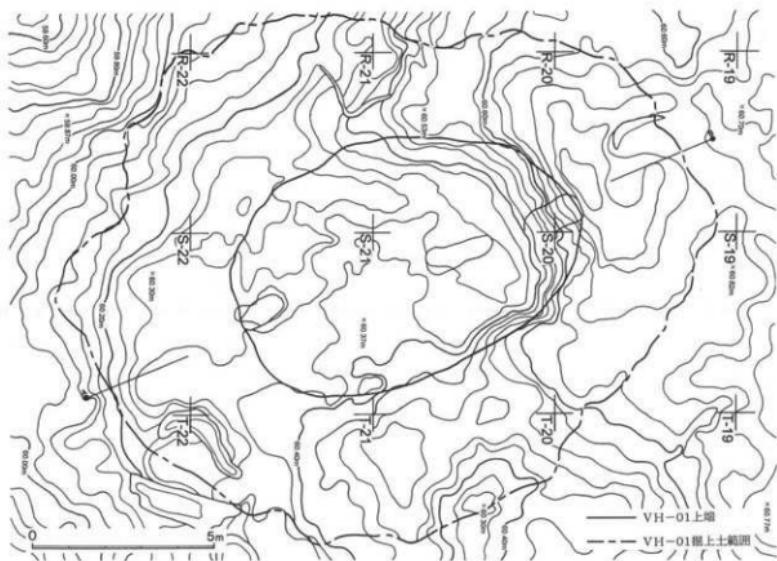
平面形：楕円形 規模：960cm×606cm×32cm 長軸方向：N-72° E

掘り掲げ土平面形：楕円形 掘り掲げ土規模：1,790cm×1,550cm×13cm

検出状況：平成14年度の調査において、樽前b火山灰除去後のⅢ層上面から馬蹄形の掘り掲げ土と緩やかな窪地を確認しており、縄文期の竪穴住居跡の存在を想定していた。平成15年度に樽前c火山灰を除去すると、より明瞭にS-21グリッド杭を中心とした楕円形の平坦部と、隣接して東北東の沢側に馬蹄形の掘り掲げ土を検出した。発掘区V層上面の地形測量時に合わせて、検出状況の地形測量を



図III-1 V層遺構配置図



図III-2 1号住居址(VH-01)調査前地形図

行った(図III-2)。なお、事前に掘り掲げ土のマウンドを想定していたので、Ta-c除去に細心の注意を払っていたが、一部重機により削平してしまった範囲がある。また、隣接して南南東に大きな楕円形の窪地も検出したが、掘り掲げ土を確認できなかつたことから、この時点では、住居跡とは認定しなかつた。検出確認は、まず、堆積状況観察のベルトをVII-01の長軸方向の東北東～西南西軸に18m(A-Bライン)と、北北西～南南東軸にVII-01とVII-02にまたがる24mのベルト(C-Dライン)を直交する十字に設定した後、V a層の除去を行い、掘り掲げ土の範囲検出を行つた。検出状況の撮影はV a層除去後の撮影である(図版10-1)。

調査および遺物出土状況：堆積状態観察のベルトに並行して、調査に先行してトレンチを掘開し、土層堆積状態と壁立ち上がりを確認、土層堆積状態を実測した後、ベルトを残しながら層位毎に調査を進めた。中央部付近は覆土の堆積が薄いため、早くから床面を検出した。壁際は、壁立ち上がりを慎重に確認しながら調査を進めたが、南東部を幅約310cmにわたり、約45cm外側へ掘り過ぎてしまった。平面図は掘り過ぎ部分を推定修正している。覆土の調査中に北東側で3・4層上面から上位にかけて土器片（図III-8-3～5）およびつまみ付きナイフ（図III-8-12）が集中して出土している（図III-7）。つまみ付きナイフは前・中期のものと思われることから、集中出土の土器でも掘り掲げ土中のものが流れ込んだ可能性もあるため、床面出土の土器との編年的位置関係は明確ではない。HP40付近に堆積する3・4層中から多量の炭化材が出土している。材は最大のものは、84cm×18cmあり、長軸が竪穴中心部方向で、やや中心部へ傾斜をもっていた。おそらくは竪穴住居の屋根材と思われる。ほぼ床面および壁面を検出した時点では土層観察のベルトを除去し、炉跡（HF01）とHP01を検出した。HP01を当初、竪穴住居の「先端部ピット」と思われたが、住居平面形の卵形の底部方向であったことから

先端部ピットとは別のものと思われる。先端部ピットは炉よりのHP40と思われ、この坑底面より大型の土器片（図III-8-1）が出土している。床面精査とともに柱穴の検出に努め、ほとんどの柱穴を確認した。完掘状況撮影後、柱穴は半分、方形状にトレンチを開け、土層堆積実測を行った。また、柱穴精査は引き続き行い、合わせて炉跡の調査を行った。掘り揚げ土および周囲の包含層調査は、隣接するVH-02の調査が完全に終了してから行った。

堆積状態：図III-4に堆積状態を示した。掘り揚げ土も含め、V a層を全面に被覆している。竪穴内の覆土は平均して15~20cmと浅く、掘り揚げ土が厚く堆積する東側の覆土はやや厚い。1層はV H-01廃棄後の埋没過程で堆積したV b層である。2・3層は掘り揚げ土で、竪穴の縁辺部に堆積し、南側はVII-02の竪穴内にも堆積する。2層は黒褐色土でV c・VI層を主体とし、VI層中の比較的中型から大型のシルト岩を多量に含み、掘り揚げ土の頂部に堆積する。3層はV b層を主体とする掘り揚げ土で、小型のシルト岩を多量に含むため、プライマリーなV b層とは容易に区別がつく。掘り込み構築面層位は、掘り揚げ土（3層）の底面の層位からV b層上位と思われる。4~6・8層は、竪穴住居内に堆積する掘り揚げ土の流れ込みまたは屋根土層と思われる覆土である。4層は掘り揚げ土2層に連続する黒褐色土で、掘り揚げ土から連続する屋根土層と思われる。多量の炭化材を含み、竪穴の東側の一部に堆積する（図III-7）。5層も4層に付随する範囲は屋根土層の一部と思われるが、竪穴中央部付近は掘り揚げ土からの流れ込みと思われる。6層は、掘り揚げ土2層から連続する流れ込み層で、掘り揚げ土2層と比較してシルト岩の粒径が小さいことから分層した。8層も炭化物を含み、屋根土の可能性がある。7層は壁際のV b層崩落層で、明瞭な立壁が構築されている範囲にみられる。プライマリーなV層と比較して、しまりが弱い。9層は床土の一部で、粘性が強く、微細な炭化物を少量含む。

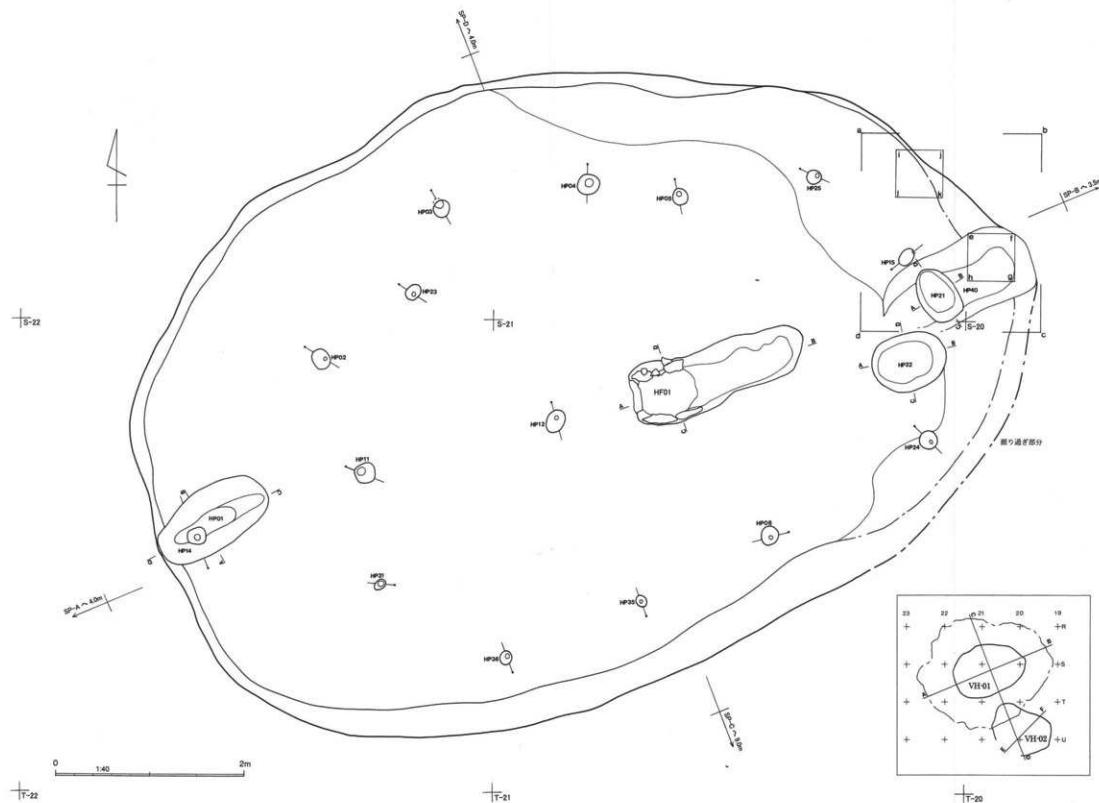
床面：やや凹凸があり、竪穴中央部がやや盛り上がる。床面は、特に強いしまりなどはなかったが、小粒径の炭化材を少量含み、粘性が強いローム層（9層）が堆積していた。床面構築層のVI層にシルト岩角礫を多量に含むことから、部分的に貼り床を施しているものと思われる。竪穴の東側は緩い傾斜のある段状の構造を有する。

壁面：構築地点の微地形が西側へ緩く傾斜していることから竪穴の東側半分はプライマリーな包含層で高い壁面が形成され、西側は掘り揚げ土との区別において確認し、極めて低い壁で立ち上がりとなった。壁はいずれも緩い傾斜をもって立ち上がる。

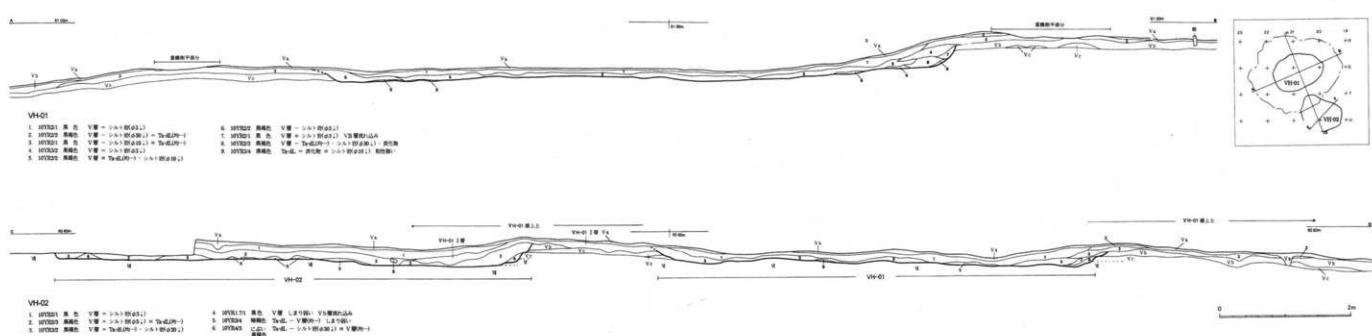
炉跡：堆積状況観察のベルトを除去した段階で検出した。竪穴長軸ライン中央部のやや東よりもコの字状に砂岩の板状礫を配した石組炉が設置されている。石組みの設置にあたっては、まず192cm×70cm×11cmの長方形の掘り込みを構築し、その西端に68cm×60cmの正方形に近い石組みを配し、東側には配石がなく、コの字状を呈する。焼土は石組み内に形成されており、礫も被熱赤色化している。焼土の堆積状況は、上面に極薄い炭化物混じりの層があり、以下、凸レンズ状にV層の被熱層が形成され、地山に包含するシルト岩も被熱により赤色化している。焼土の北東側の直上の2層より、未被熱の微細なフレイク・チップが比較的集中して130点出土している。

付属の土坑：柱穴以外の性格不明な土坑は、HP-01・21・22・40の4基検出した。いずれも、竪穴の東西長軸方向の両端にあり、HP01は西端の壁際に、HP21・22・40は東端に検出した。

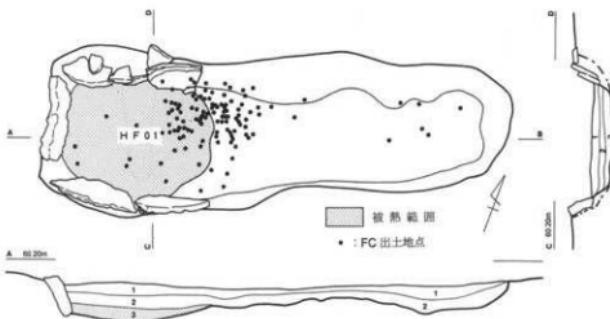
HP01はV層上面が窪んでいたことから、竪穴廃棄時には開口していたものと思われる。竪穴の東西セクションに一部かかるが、新しい掘り込み、切り合いは観察できなかったことから住居に付随する



図III-3 1号住居址(VH-01)平面図

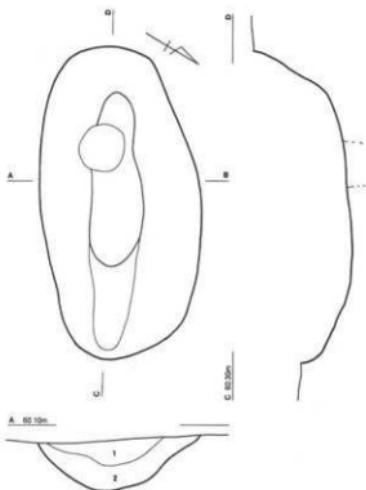


圖III-4 1:2量住屋址(Ⅷ日=01:02)土壘斷面圖



VH-01.HF01

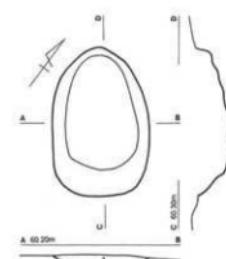
1. 10YR2/1 黒褐色 V層 = シルト岩(φ51) = TarDL均→
 2. 10YR2/2 黒褐色 V層 = TarDL(原状) = シルト岩(φ51)
 3. 7.5YR4/4 黄褐色 TarDL = シルト岩(φ30)
- 黄土 (V層被熱赤色化層、シルト岩も被熱赤色化)



VH-01.HP01

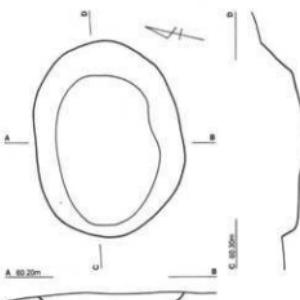
1. 10YR2/2 黒褐色 V層 = TarDP(φ31)・シルト岩(φ51) = TarDL均→
2. 10YR2/2 黒褐色 V層 = TarDP(φ31)・シルト岩(φ51) = TarDL均→

0 1:20 50cm



VH-01.HP21

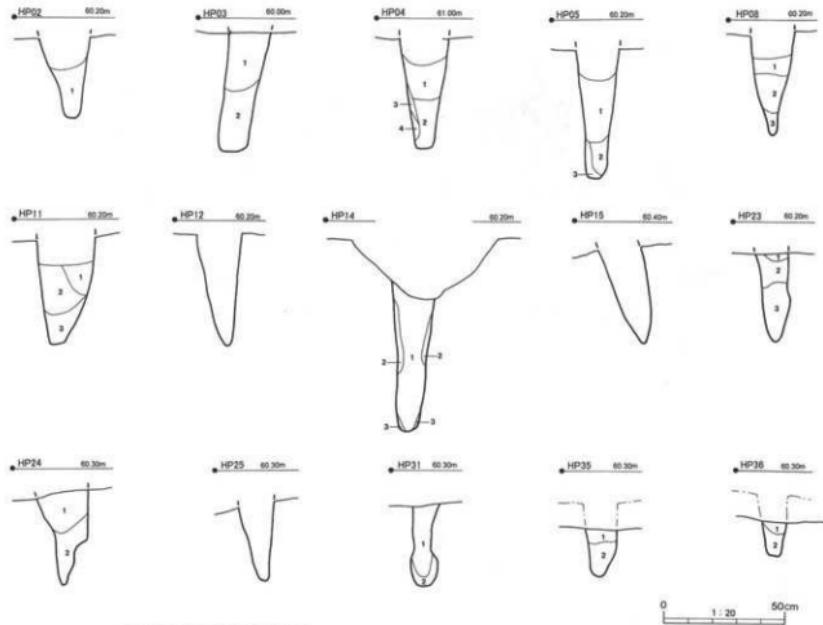
1. 10YR2/2 黒褐色 V層 = シルト岩(φ51)
= TarDL均→・TarDP(φ31)・炭化灰(φ51)



VH-01.HP22

1. 10YR2/2 黒褐色 V層 = シルト岩(φ51) = TarDL均→・TarDP(φ31)

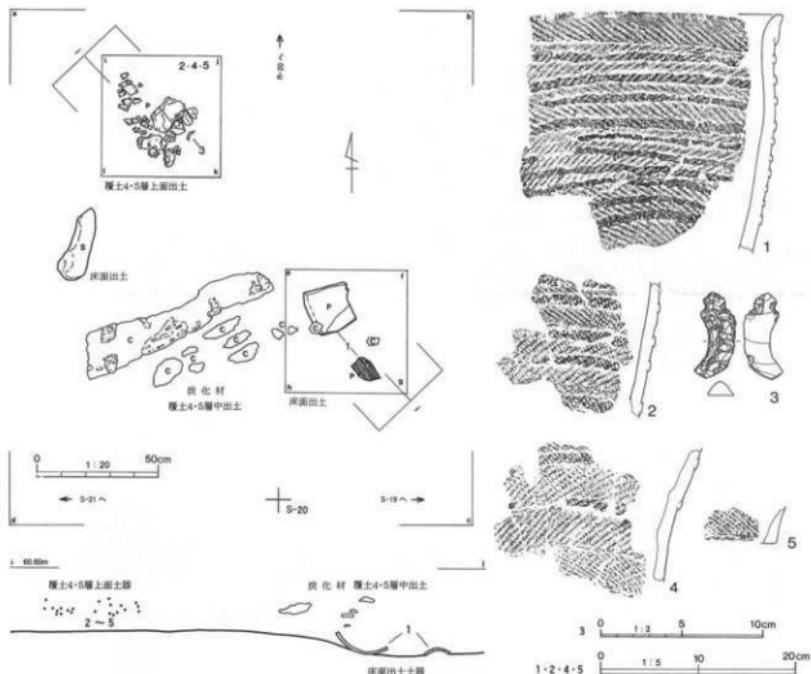
図III-5 1号住居址(VH-01)石組炉・付属土坑



VH-01 HP(柱穴) 土層注記

連構名	平面形	標高(cm)				層位	土色1	土色2	土質		
		上	中	下	深さ						
HP02	橢円形	22	18	4	3	23	1	10YR2/2	黒褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ10)	しまり無
HP03	円形	19	17	12	9	49	1	10YR2/1	黒色	V層=シルト粘(φ5)	しまり弱
HP04	不整円形	25	22	9	9	45	1	10YR2/1	黒褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ10)=Te-dp(φ3)	しまりなし
HP05	不整円形	18	16	5	5	52	1	10YR2/1	黒色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ10)	しまりなし
HP06	不整円形	21	18	4	4	42	1	10YR2/1	黒色	V層=シルト粘(φ5)=Te-dp(φ3)	しまりなし
HP11	楕円形	24	23	9	9	43	1	10YR2/2	黒褐色	V層=Te-d(均)=Te-dp(φ3)	しまり弱
HP12	楕円形	26	19	4	4	46	1	10YR2/2	黒褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ5)	エレベーション測
HP14	楕円形	20	18	6	6	42	1	10YR2/1	黒褐色	V層=Te-d(均)=Te-dp(均)	しまり弱
HP15	楕円形	29	14	3	3	40	1	10YR2/2	黒褐色	V層=シルト粘(φ5)=Te-d(均)	エレベーション測
HP23	楕円形	18	14	4	4	38	1	10YR2/1	黒褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ5)	しまり弱
HP24	円形	28	19	5	3	33	1	10YR2/2	黒褐色	V層=シルト粘(φ10)=Te-d(均)	しまりなし
HP25	円形	16	15	5	4	32	1	10YR2/2	黒褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ5)	エレベーション測
HP31	楕円形	14	10	7	7	33	1	10YR2/2	黒褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ5)	しまり弱
HP35	楕円形	14	13	3	3	31	1	10YR2/2	暗褐色	V層=Te-d(均)=シルト粘(φ5)	しまり弱
HP36	楕円形	15	13	5	5	28	1	10YR2/2	黒褐色	V層=シルト粘(φ5)=Te-d(均)	しまりなし

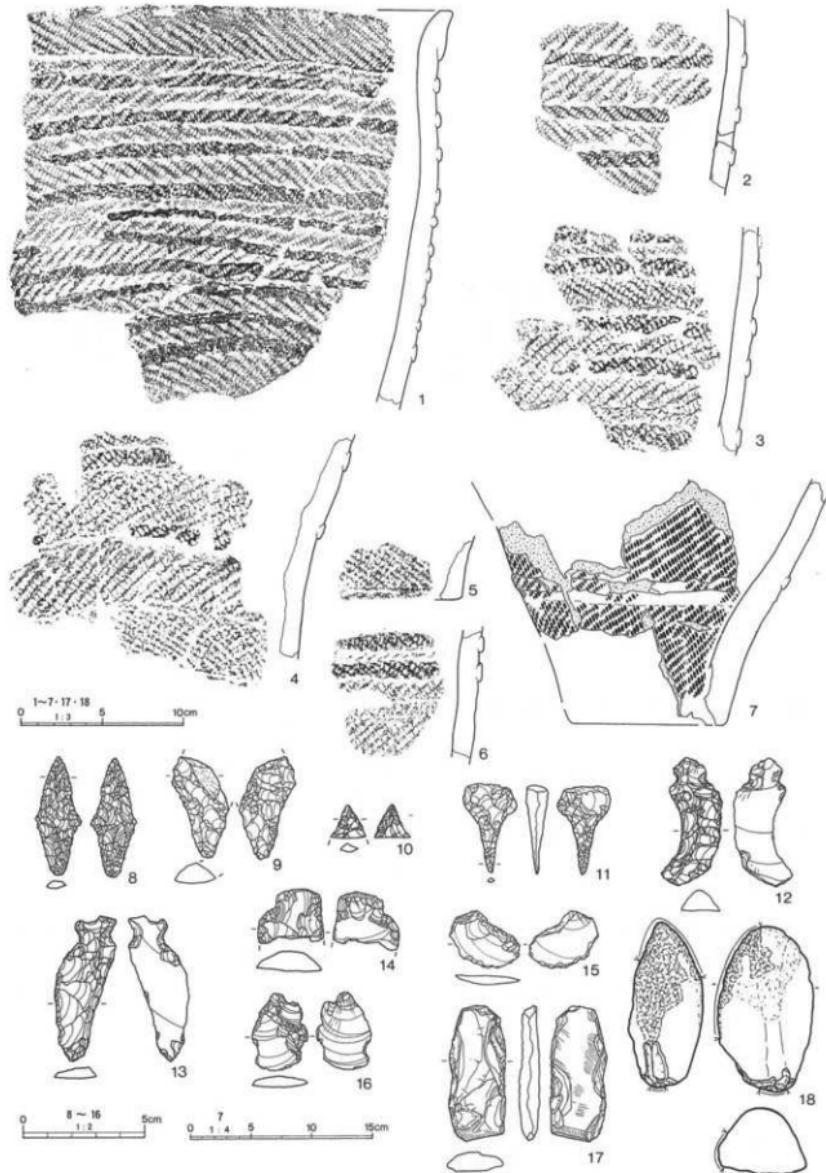
図III-6 1号住居址(VH-01)柱穴断面図



図III-7 1号住居址(VH-01)出土遺物(1)

土坑と判断した。HP21・22・40は集中しており、HP21・22は床面精査の段階で黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形が楕円形、坑底面はほぼ平坦で浅く、形態が類似する。HP40は土坑というより床面構築時の段差としたほうが良いかもしれない。しかし、竪穴長軸端に位置し、比較的炉に近いことからこの土坑は、縄文時代中期後葉から後期初頭にかけての住居跡に特徴的に見られる「先端部ピット」と思われる。

柱穴：竪穴覆土が薄いことから、上層より根穴が多数入り込んでいる。このため、主柱穴と思われるものの柱穴番号を付した。このため、欠番としたものも多い。検出にあたっては、3段階でを行い、まず生活面層で確認し、次に床面構築層(VI～VII層)、最終で生活面層より10cm程度掘下げたV層で確認調査を行った。柱穴は全部で15ヵ所検出した。配置は、13ヵ所(HP02～05・08・11・15・23～25・31・35・36)が卵形状で、南北は竪穴平面形に沿い、西側は竪穴上端より224cm内側へ入る。他の2ヶ所は竪穴長軸ライン上にあり、HP11を挟んで竪穴中心部にHP12、西端部にHP14がある。HP14はHP01の坑底面に設置されている。周回する柱穴間距離は、最も狭いところでHP03-23間とHP04-05間が96cm、最も間隔の広いのはHP08-24間で200cmであった。それぞれ、狭い2辺は竪穴の北部の列、間隔の広いものは南部の列で配置に偏りがある。柱穴の形態および堆積状態は平面形上端が円形、楕円形または卵



図III-8 1号住居址(VH-01)出土遺物(2)

表Ⅲ-1 VH-O1計測一覧表

図版番号	挿図番号	遺構名	タイプ	平面形	規模(cm)				深さ	備考		
					上端		下端					
					長軸	短軸	長軸	短軸				
10-1・2、 11-1~5	III-3	VII-01	住居址	椭円形	960	606	928	624	32			
	III-2	掘り揚げ土		椭円形	1,790	1,550	—	—	13			
11-6・7	III-5	HP01	土坑	長楕円形	128	70	72	22	40			
	III-6	HP02	柱穴	椭円形	22	18	4	3	33			
—	III-6	HP03	柱穴	円形	19	17	12	9	49			
—	III-6	HP04	柱穴	不整円形	25	22	9	9	45			
12-2	III-6	HP05	柱穴	不整円形	18	16	5	5	52			
—	III-6	HP08	柱穴	不整円形	21	18	4	4	42			
—	III-6	HP11	柱穴	隅丸方形	24	23	9	9	43			
—	III-6	HP12	柱穴	椭円形	26	19	4	4	46			
12-1	III-6	HP14	柱穴	隅丸方形	20	18	6	6	62			
—	III-6	HP15	柱穴	椭円形	20	14	3	3	40			
—	III-5	HP21	土坑	椭円形	61	40	47	30	14			
—	III-5	HP22	土坑	椭円形	81	61	62	42	18			
—	III-6	HP23	柱穴	椭円形	18	14	4	4	36			
—	III-6	HP24	柱穴	円形	20	19	5	3	33			
—	III-6	HP25	柱穴	円形	16	15	5	4	32			
—	III-6	HP31	柱穴	椭円形	14	10	7	7	33			
—	III-6	HP35	柱穴	椭円形	14	13	3	3	31			
—	III-6	HP36	柱穴	椭円形	15	13	5	5	26			

表Ⅲ-2 VH-O1出土遺物計測一覧表

図版番号	挿図番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
						長軸	短軸	厚さ			
46-1	III-8-1	21860	土器(口縁~胴)	III-B4	5層下位	(244.5)	(237.0)	11.4	940.0	—	床面・拓本
	III-8-2	3334	土器(胴部)	III-B4	4層	(106.5)	(108.0)	9.7	125.3	—	拓本
	III-8-3	21893	土器(胴部)	III-B4	4層	(139.5)	(138.0)	11.1	(210.0)	—	
	III-8-4	21887	土器(胴部)	III-B4	4層	(154.5)	(159.0)	(13.0)	260.0	—	同一個体・ 拓本
	III-8-5	21879	土器(底部)	III-B4	5層上位	(34.5)	(58.5)	(10.6)	24.9	—	
	III-8-6	27157	土器(胴部)	III-B4	1層下位	(78.0)	(69.0)	12.1	75.7	—	拓本
	III-8-7	20014	土器(底部)	III-B4	1層下位	(149.0)	(201.0)	16.3	(530.0)	—	実測
	III-8-8	19876	石槍・石銛	B1a	5層下位	48.2	18.5	5.5	2.8	Obs.	床面
	III-8-9	19982	石槍・石銛	B1a	5層下位	(42.7)	(24.4)	(8.1)	5.1	Obs.	床面
	III-8-10	23889	石槍・石銛	B3	5層下位	(13.5)	(14.5)	(3.5)	0.4	Obs.	床面
	III-8-11	21981	石錐	2	9層	36.8	21.8	9.0	3.5	Obs.	床面
	III-8-12	21948	つまみ付きナイフ	2a	5層上位	52.4	21.5	8.9	7.8	Sh.	
	III-8-13	19975	つまみ付きナイフ	2a	4層	59.1	22.2	6.9	8.0	Sh.	
	III-8-14	23008	ナイフ・ スクレイパー	5	5層	20.4	26.7	8.3	5.4	Obs.	
	III-8-15	19879	RF・UF	—	5層	29.4	22.1	5.7	2.5	Obs.	
	III-8-16	24515	RF・UF	—	9層	31.6	22.3	3.8	2.0	Obs.	床面
	III-8-17	19859	石斧未成品	1	5層下位	82.0	34.0	11.7	52.9	Gr-Mud.	床面
	III-8-18	21922	霰石	7	2層	112.0	72.0	47.5	255.0	Sa.	

形のものがある。深さは、生活面または床構築面から30cm以上のものが主体で、最も深いものはHP01に伴うHP14で、62cmほどある。坑底部は尖状のものが主体を占め、上端平面形に対し、偏るものが多く、柱穴の傾きに反映するものと思われる。柱穴の傾きは内側へ傾くものと垂直のものとがあり、外側へ傾斜するものはない。堆積状況はしまりのない、もしくは弱い黒色土ないしは黒褐色土が主体を占める。柱穴構築層のVII層は、角礫状のシルト岩を多量に含むことから、打ち込み杭（柱）ではなく、掘り方をもつものと思われるが、柱痕および掘り方埋め戻し土を確認できたものは無い。

出土遺物：詳述は第Ⅲ章第7節にて述べる。1・8～10・16・17は床面出土の遺物。1はⅢ群B4類の大型片（図版12-3）。8～11・16は黒曜石製の剥片石器類で、8～10は石槍、11は石錐、16はRF・UF、17は石斧未成品である。3～5は覆土4層から5層上位にかけて出土した同一個体で、頁岩製つまみ付きナイフの12と共に一括出土している（図Ⅲ-7）。前期ないしは中期の資料（12）と共に出土していることから、掘り揚げ土からの流れ込みの遺物と思われる。

VH-02 (図IV-2～8、図版12-5)

グリッド：T-19・20、U-19・20 検出層位：V b 層

平面形：不整楕円形 規模：820cm×(640cm)×32cm 長軸方向：N=53° W

検出状況：V層包含層調査において先行したUラインで、19・20区でV b層の発達する落ち込みとほぼ水平に堆積するV c層を確認した。しかし、Uラインは既に掘り下げてしまい、セクションでのみ確認にとどまった。当初、造構重複を想定していなかったことから、中間部にあったTP-57の掘り揚げ土を風倒木による可能性と考えていた。北側に隣接するVII-01の調査の際に、北北西～南南東軸にVII-01・02にかかるトレンチを設定し、確認したところ、VI層ないしはVII層の水平面が広がることが判明し、VII-02として調査することとした。

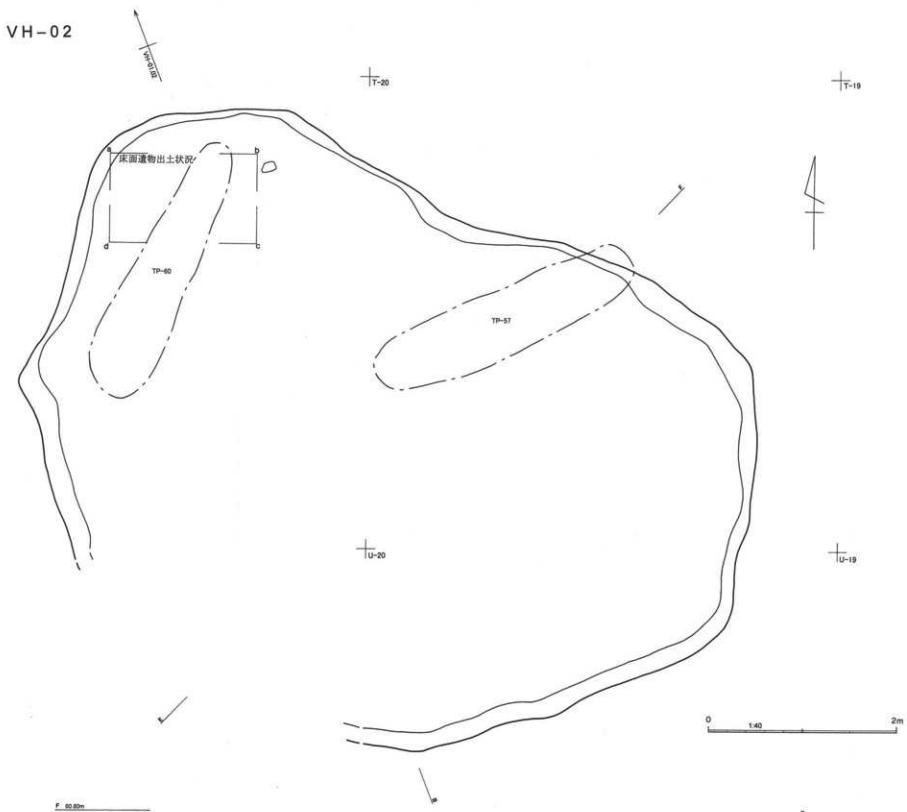
調査および遺物出土状態：VII-01の調査で、床面精査に入った段階からVII-02の調査を開始した。まず、VII-01の掘り揚げ土範囲を平面的に確認した後、竪穴中心部より放射状に北方向と北東方向のトレンチを2本掘り、床面から壁の立ち上がりを確認するようにした。また、Uラインに並行しても東西にトレンチを設け壁面の立ち上がりを確認した。床面精査にあたっては、TP-60の上層の床面は周囲より5cm程度下がったが、炭化物混じりの5層と遺物が面的に出土したことからこのレベルで止めた。TP-57はVII-02より新しい掘り込みと思われる造構であったことから、周囲の床面レベルを確認し、これに合わせた。

堆積状態：V a層を全面に被覆し、北側の一部はVII-01の掘り揚げ土が堆積する。1・2層はVII-01掘り揚げ土堆積後、樽前c火山灰が降下するまでに堆積したV b層を主体とする流れ込みである。3層はしまりが弱く、壁間に堆積する屋根土の可能性がある。4層は壁面の立ち上がりが明瞭に観察できた竪穴住居の北側に堆積し、壁面のV b層の崩落層でしまりが弱い。5・6層はVI・VII層を主体とする層で、主に竪穴の南側にみられ、不安定な堆積状態である。

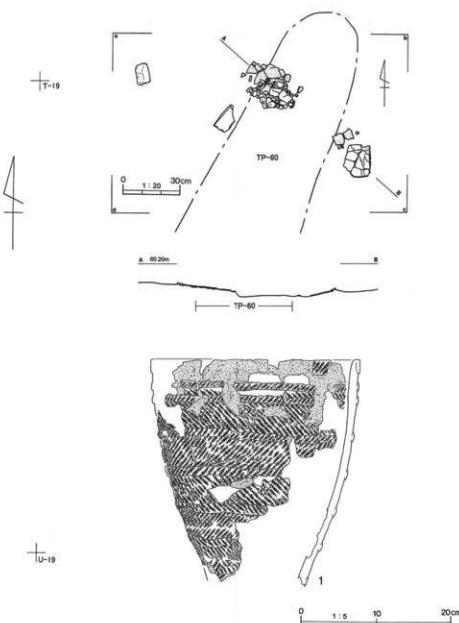
床面：TP-57との切り合付近は床面が5cm程度下がるが、他はやや凹凸があるもののほぼ水平である。TP-57付近は床面も硬く踏み絞まっており、覆土と床面の区別が明瞭であった。

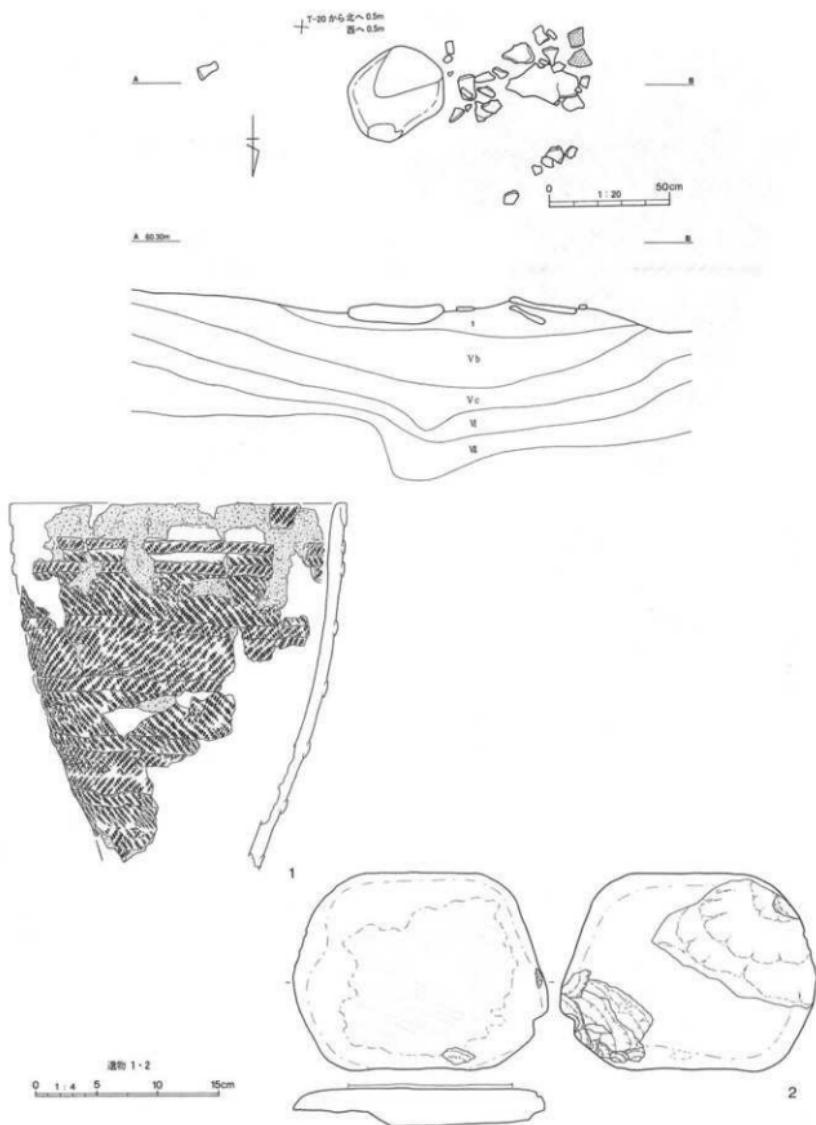
壁面：竪穴の北側および西側は急角度に壁面が立ち上がる。

炉跡・柱穴：床面精査で、炉跡および柱穴の検出に努めたが、いずれも明瞭なものは検出できなかった。柱穴に関しては13ヵ所ほど半断、調査したが、数センチと浅いうえ、覆土に全くしまりがなく、

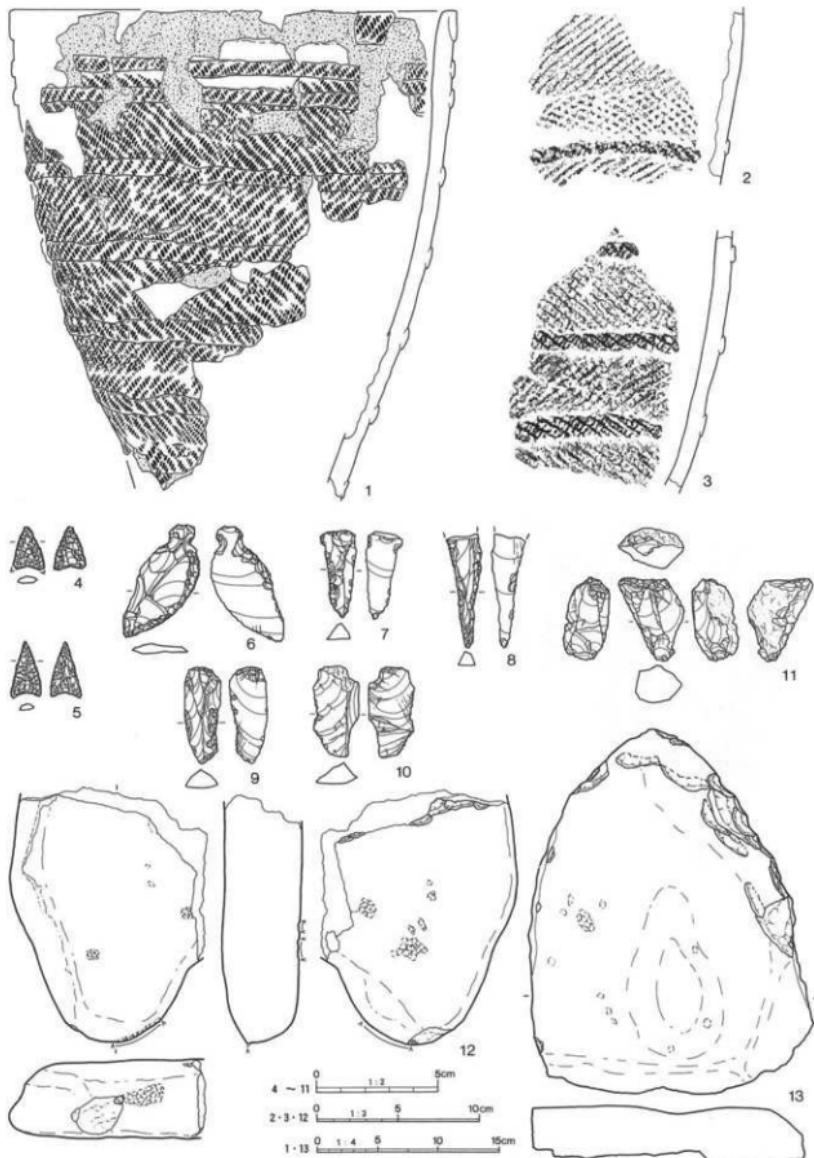


図III-9 2号住居址(VH-02)平面図

図III-10 2号住居址(VH-02)
床面遺物出土状態



図III-11 穫穴外接合土器集中(VPB-01)



图III-12 2号住居址(VH-02)出土遗物

横方向へ進むなど根穴であった。

遺物：詳述は第Ⅲ章第7節にて述べる。1～3・10・13は、床面出土の遺物。1は本遺構床面出土の破片と竪穴外の土器集中（VPB-01）からの出土破片の接合破片で主体を占めており、他にVII-01の覆土1層下位出土の2点とが接合している。VII-01から出土の2点は、VII-01の1層下位からの出土で、掘り揚げ土からの流れ込みであろう。床面出土のものはTP-60の検出面で集中して面的に出土している。Tピットの中央部にやや窪む状態で出土しており、覆土の沈着によるものと思われる（図Ⅲ-10）。土器集中（VPB-01）からの出土（図Ⅲ-11）は、VII-01の掘り揚げ土除去中に検出した。上層にはVII-01の掘り揚げ土が堆積していた。隣接して砂岩製の転轍を利用した砥石1点も出土している。2も同一個体がVII-01の1層下位からの出土（図Ⅲ-8-7）で、1と同様な出土状況である。重複縄文が施されている。床面出土の1～3はⅢ群B4類土器で、いずれも底部付近まで、多段の貼付帯が回る。

他は覆土中の遺物で、4～6は縄文前期から中期にかけての剥片石器類と思われ、掘り揚げ土の再堆積により混入したものであろう。

表Ⅲ-3 VH-O2計測一覧表

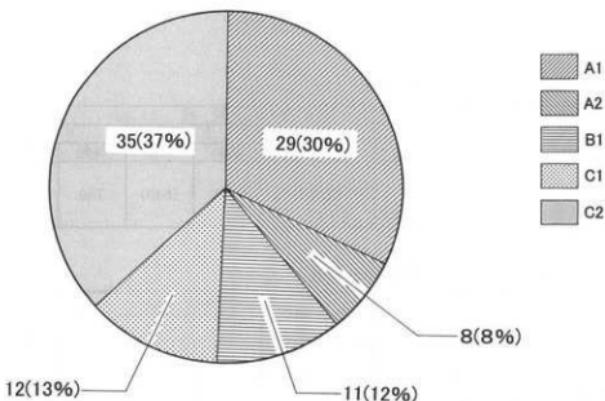
図版番号	挿図番号	遺構名	平面形	規 模 (cm)				深さ	備考		
				上 端		下 端					
				長軸	短軸	長軸	短軸				
12-5	IV-2	VII-02	不整梢円形	820	(640)	786	(607)	32	短軸壁立ち上り不明		

表Ⅲ-4 VH-O2出土遺物計測一覧表

図版番号	挿図番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
						長軸	短軸	厚さ			
47-1	III-11-01	24824	土器(口縁～脚部)	III B4	3層下位	(295.0)	275.0	11.0	(790.0)	-	実測・床面
	III-11-02	24826	土器(脚部)	III B4	3層下位	(111.0)	(105.0)	(7.5)	(86.4)	-	拓本・床面
	III-11-03	21972	土器(脚部)	III B4	3層下位	(102.0)	(159.0)	10.5	220.0	-	拓本・床面
	III-11-04	21870	石織	A2	3層	17.7	12.9	3.2	0.6	Obs.	
	III-11-05	21977	石織	A2	3層	22.7	12.1	3.8	0.6	Obs.	
	III-11-06	21801	つまみ付きナイフ	2a	3層	53.8	25.2	5.2	5.7	Obs.	
	III-11-07	23015	つまみ付きナイフ	2a	3層	35.7	14.4	5.3	2.3	Obs.	
	III-11-08	21924	つまみ付きナイフ	2a	3層	46.3	12.7	6.1	3.4	Sh.	
	III-11-09	23019	RF・UF	-	3層	39.2	14.4	7.5	3.9	Obs.	
	III-11-10	23505	RF・UF	-	5層	37.0	18.4	9.2	4.3	Sh.	床面
	III-11-11	21721	石核	-	2層	33.7	21.5	14.5	11.5	Obs.	
	III-11-12	28397	蔽石	7	5層	158.0	119.0	48.0	1235.0	Sa.	床面
	III-11-13	21832	台石	2	2層	300.0	235.0	46.0	3820.0	Sa.	

第3節 Tピット (TP)

平成14年度の調査期間中の10月中旬に、遺物がほとんど出土していなかった発掘区南側の山裾で、VI層を精査中にTピットを1基検出した。その後も11基検出したが、完掘したのは5基で、他は半断または検出のみで次年度に持ち越した。半断したものは土甕を詰め、さらに検出面にも土甕とシートで保護した。平成15年度は、包含層調査と並行して、新たに検出したものと合わせて持ち越しの遺構を調査した。当初、調査時点では、円形にちかいプランのものは土坑と判断したが、調査途中で、逆茂木跡の確認などによりTピット番号を付ける変更があった。整理段階で遺構名の変更等があり、最終的にTピットとしたものは2カ年で、95基検出した。以下に、検出状況および調査、Tピットの形態と分類、杭跡、堆積状況、分布、配列、切り合い、時期等を概括し、特徴のあるものに限って、個別に記載する。



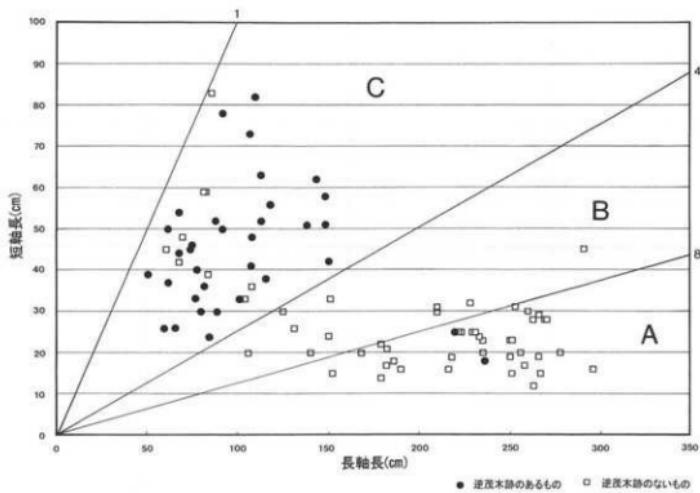
図III-13 Tピット分類別構成比率

表III-5 Tピット分類別遺構数

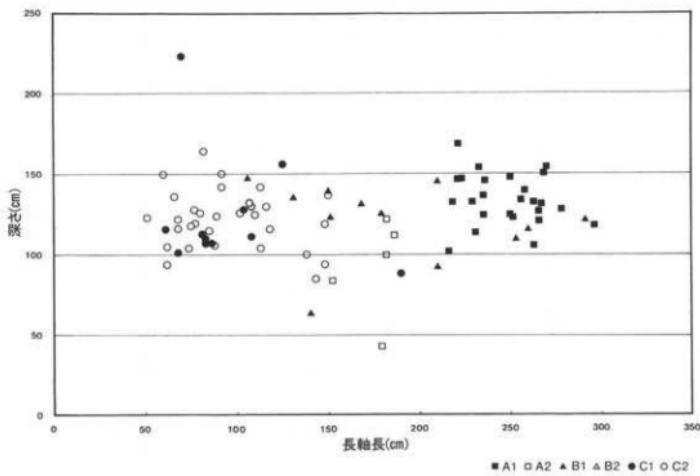
分類1	A型		B型		C型		D型
	遺構数	(%)	遺構数	(%)	遺構数	(%)	遺構数
分類2	A1型	A2型	B1型	B2型	C1型	C2型	D型
遺構数	29(30%)	8(8%)	11(12%)	0(0%)	12(13%)	35(37%)	0

表III-6 杭跡数毎の遺構数

杭跡数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
遺構数	57	4	17	7	5	3	1	0	0	1
比率	60.0%	4.2%	17.9%	7.3%	5.2%	3.2%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%



図III-14 Tピット長軸・短軸相関図



図III-15 Tピット長軸・深さ相関図

表III-7 Tビット計測一覧表(1)

番号	図版	選択名	分類	平面形	調査面/所定底面	グリッド	調査面	調査面底面(CD)	測定距離(CD)	長軸	短軸	深さ	長軸方向	杭跡	重複	調査面	底面	長短比
III-16	13-1-2	TP-01	A1	萬能V字状	Z・Aa-16	V1	235	109	266	19	121	N-58° E	無	-	2.98	14.00		
III-16	13-1-3-4	TP-02	A1	萬能V字状	Y-12	V1	283	117	250	23	125	N-60° E	無	-	2.42	10.87		
III-17	13-5-6	TP-03	A1	萬能V字状	W-12	V1	327	113	269	28	151	N-49° W	無	-	2.89	9.61		
III-17	14-1-2	TP-04	A1	萬能V字状	W-13	V1	294	84	218	19	133	N-8° E	無	-	3.50	11.47		
III-18	14-3-4	TP-05	B1	溝状/長柄円	V-15, W-15-16	V1	284	103	292	44	122	N-36° E	無	-	2.76	6.64		
III-18	—	TP-06	C2	椿円/楕円	V-15	V1	161	135	108	41	130	N-70° W	1	-	1.19	2.63		
III-18	—	TP-07	C1	椿円/楕円	X-14	V1	172	119	104	33	128	N-67° W	無	TP-15(占)	1.45	3.15		
III-19	14-5-6	TP-08	A1	萬能V字状	V-13・14	V1	253	95	223	25	147	N-59° E	無	-	2.66	8.92		
III-19	15-1-2	TP-09	A2	萬能V字状	Y・Z-10	V1	229	47	179	14	43	N-12° W	無	-	4.87	12.79		
III-20	15-3-4	TP-10	A1	萬能V字状	X-37	V1	372	112	229	25	133	N-52° W	無	-	3.32	9.16		
III-20	15-5-6	TP-11	A1	萬能V字状	V・W-14	V1	267	90	263	12	106	N-38° E	無	-	2.97	21.92		
III-21	15-7-8	TP-12	C2	椿円/楕円	T・U-27	V1	240	169	116	38	130	N-60° E	5	-	1.42	3.05		
III-21	15-1-2	TP-13	C2	椿円/楕円	U-27・28	V1	157	106	102	33	126	N-60° E	4	-	1.48	3.09		
III-22	16-3	TP-14	C1	椿円/楕円	Z-16	V1	154	122	108	36	111	N-13° E	無	-	1.26	3.00		
III-22	16-4-5	TP-15	A1	萬能V字状	X-14・15	V1	256	63	216	16	102	N-42° E	無	TP-07(新)	4.06	13.50		
III-22	16-6-7	TP-16	A1	萬能V字状	Y-10	V1	295	101	235	23	137	N-31° W	無	-	2.92	10.22		
III-23	16-8-9	TP-17	A1	萬能V字状	U-V-17	V1	314	91	260	30	116	N-35° E	無	-	3.45	8.67		
III-23	—	TP-18	(C1)	—	AA-17	V1	127	(127)	(138)	(62)	(41)	124	N-18° E	2	-	-	-	
III-24	17-2-3	TP-19	A1	萬能V字状	Y-22	V1	308	114	222	25	147	N-56° W	無	-	2.70	8.88		
III-24	17-4-5	TP-20	C1	椿円/楕円	AA-18	V1	141	116	68	42	101	N-14° W	無	-	1.22	1.62		
III-25	17-6-7	TP-21	A1	長柄円/長柄円	V-20-21, W-20	V1	299	121	266	29	127	N-41° W	無	-	2.47	9.17		
III-25	17-6-8-1	TP-22	B1	長柄円/長柄円	V-20・21	V1	256	155	125	30	156	N-43° W	無	-	1.65	4.17		
III-26	18-2-3	TP-23	A1	萬能V字状	U-18	V1	277	78	235	20	125	N-47° E	無	-	3.55	11.75		
III-26	18-4-5	TP-24	A1	長柄円/萬能V字状	V-21・22	V1	216	102	179	22	126	N-33° W	無	TP-28(新)	2.12	8.14		
III-27	18-6-7	TP-25	C1	椿円/楕円	AA-17・18	V1	242	186	70	48	223	N-22° W	無	-	1.30	1.46		
III-27	—	TP-26	C2	椿円/楕円	Z-17	V1	237	189	110	82	125	N-23° W	4	-	1.25	1.34		
III-28	19-1-2	TP-27	A1	萬能V字状	V-16, W-16-17	V1	316	81	250	19	148	N-78° E	無	-	3.90	13.16		
III-28	19-4-5	TP-28	C2	椿円/楕円	V-21・22	V1	136	131	51	39	123	N-15° W	2	TP-28(古)	1.04	1.31		
III-29	19-3-4	TP-29	A1	萬能V字状	W-19-20, X-19	V1	310	110	253	31	119	N-60° W	無	-	2.82	8.16		
III-29	19-5-6	TP-30	A1	萬能V字状	W-X-21・22	V1	319	92	270	28	154	N-35° W	無	-	3.47	9.64		
III-30	19-7-8	TP-31	C2	椿円/楕円	Y-X-26	V1	170	154	78	40	120	N-64° W	2	-	1.10	1.95		
III-30	—	TP-32	B1	長柄円/長柄円	W-X-22・23	V1	238	102	210	30	146	N-8° W	無	-	2.33	7.00		
III-31	20-1-2	TP-33	C2	椿円/楕円	V-23	V1	144	138	62	50	94	N-62° W	3	-	1.04	1.24		
III-31	20-3-4-5	TP-34	B1	—	Z-20	V1	292	(76)	170	(28)	106	N-22° E	無	-	-	-		
III-32	21-1-2	TP-35	C2	椿円/楕円	W-25	V1	168	130	88	52	106	N-20° E	4	-	1.29	1.69		
III-32	21-3	TP-36	A1	萬能V字状	Y-25	V1	310	60	256	20	134	N-74° W	無	-	5.17	12.80		
III-32	TP-37	C2	椿円/楕円	V-25	V1	144	120	60	26	150	N-22° E	3	-	1.20	2.31			
III-33	21-4-5-6	TP-38	B1	長柄円/長柄円	W-25・26	V1	176	78	140	20	64	N-38° W	無	-	2.26	7.00		
III-33	—	TP-39	C2	椿円/楕円	Z-28	Vb	172	154	68	44	116	N-46° W	4	-	1.12	1.55		
III-33	21-5-6	TP-40	A1	萬能V字状	Z-31-32	V1	306	80	296	16	118	N-75° W	無	-	3.83	18.50		

表Ⅲ-7 Tビット計測一覧表 (2)

掃図	図版	遺構名	分類	平面形	断面形	グリッド	調査面底面	調査面位置	長軸	短軸	角度	測量出発高(cm)	測量到達高(cm)	深さ	長軸方向	柱跡	重複	調査面	底面	長短比
III-34	22-3-4	TP-41	A1	溝状/溝状	Z・AA-31	V1	322	86	278	20	128	N-57° W	無	-	3.72	13.90				
III-34	22-3-4	TP-42	A1	長梢円/溝状	Z・AA-22	V1	236	100	236	18	146	N-32° W	1	-	2.22	13.11				
III-35	22-6	TP-43	A2	溝状/溝状	AA-23・24	V1	234	55	152	15	84	N-58° W	無	-	4.25	10.13				
III-35	22-7	TP-44	B1	長梢円/長梢円	W・X-28	V1	210	115	151	33	124	N-19° E	無	-	1.83	4.58				
III-35	22-8-9	TP-45	B1	長梢円/長梢円	W・X-32	V1	160	126	82	36	164	N-82° W	2	-	1.92	5.30				
III-36	23-1-2	TP-46	C2	梢円/梢円	W・X-33	V1	248	79	186	18	112	N-71° E	無	-	1.27	2.28				
III-36	-	TP-47	A2	溝状/溝状	Y・Z-31	V1	190	156	113	52	142	N-28° E	2	-	3.14	10.33				
III-37	23-3	TP-48	C2	梢円/梢円	W-33	V1	136	111	75	118	104	N-40° W	3	-	1.22	2.17				
III-37	-	TP-49	C2	梢円/梢円	Y-34・35	V1	244	96	(235)	(19)	110	N-85° W	無	-	1.23	1.63				
III-38	23-4-5	TP-50	A1	長梢円/溝状	Y-36	V1	162	141	(105)	(64)	131	N-20° W	2	-	2.46	12.37				
III-38	-	TP-51	C2	梢円/梢円	V-34	V1	266	88	210	31	92	N-19° W	無	-	1.15	1.64				
III-39	23-6	TP-52	B1	溝状/長梢円	U-35・V-34	V1	293	97	263	28	128	N-24° W	無	-	3.02	6.77				
III-39	23-7	TP-53	A1	溝状/溝状	V-19	V1	142	121	77	33	128	N-24° E	2	-	3.02	9.39				
III-40	24-3-4	TP-54	C2	梢円/梢円	V-36・37	V1	214	59	182	17	100	N-21° W	無	-	1.17	2.33				
III-40	24-5-6	TP-55	A2	溝状/溝状	X-26・27	V1	208	96	131	26	136	N-23° W	無	-	3.63	10.71				
III-41	24-7-8	TP-56	B1	長梢円/長梢円	T-19	V1	293	72	267	15	132	N-69° E	無	-	2.17	5.04				
III-41	25-1-2	TP-57	A1	溝状/溝状	W・X-34	V1	205	72	233	24	154	N-42° E	無	-	4.07	17.80				
III-42	25-4-5・6	TP-58	A1	梢円/梢円	Y-35・Z-34・35	V1	172	145	150	42	137	N-79° W	3	-	3.31	9.71				
III-42	25-7	TP-59	C2	梢円/梢円	T-20	V1	290	74	168	20	132	N-21° E	無	-	1.19	3.67				
III-43	25-1・3	TP-60	A2	溝状/溝状	Q-34	V1	130	100	92	26	136	N-53° E	2	-	3.92	8.40				
III-43	25-1・2	TP-61	C2	梢円/梢円	T-30・31	V1	156	132	92	50	150	N-90° E	2	-	1.30	2.54				
III-44	26-3-4	TP-62	C2	梢円/梢円	Y-23・Z-22・23	V1	232	60	190	16	88	N-50° W	無	-	1.18	1.84				
III-44	-	TP-63	A2	溝状/溝状	Z-14	V1	202	186	118	56	116	N-7° E	3	-	3.87	11.88				
III-45	26-5-6	TP-64	C2	梢円/梢円	Y-22	V1	136	114	68	54	122	N-37° E	2	-	1.09	2.11				
III-45	26-7-8	TP-65	C2	梢円/梢円	AA-19	V1	184	146	80	30	126	N-25° W	3	-	1.19	1.26				
III-46	-	TP-66	C2	梢円/梢円	Z・AA-14	V1	236	196	148	58	94	N-16° W	4	-	1.20	2.55				
III-46	27-1-2	TP-67	C2	梢円/梢円	AA-14	V1	(212)	200	108	48	126	N-32° E	6	TP-69(古)	-	2.25				
III-47	27-1-2・3	TP-68	C2	梢円/長梢円	Z・AA-14	V1	(287)	(268)	228	32	130	N-22° E	無	TP-68(新)	-	7.13				
III-48	28-1-2・3	TP-70	C2	梢円/梢円	AA-20・21	V1	286	247	148	51	119	N-35° W	9	-	1.16	2.90				
III-48	-	TP-71	C2	長梢円/溝状	Q-29	V1	110	67	85	24	115	N-40° W	2	-	1.64	3.64				
III-49	-	TP-72	C1	梢円/梢円	W・X-15	V1	158	150	86	83	107	N-43° W	無	-	1.05	1.04				
III-49	28-4-5	TP-73	(C1)	-	AA-23	V1	(218)	(57)	(78)	(20)	113	N-89° W	無	-	-	-				
III-50	-	TP-74	C1	梢円/梢円	W-15	V1	141	133	83	59	110	N-41° W	無	-	1.06	1.41				
III-50	-	TP-75	C2	梢円/梢円	U・V-16	V1	165	148	92	78	142	N-59° W	1	-	1.11	1.18				
III-51	29-1-2・3	TP-76	(C1)	-	AA・AB-20	V1	(153)	(69)	(40)	(12)	190	N-87° E	無	-	-	-				
III-51	29-4-5	TP-77	C2	梢円/梢円	Y-2-17	V1	225	170	143	62	85	N-14° E	3	-	1.32	2.31				
III-52	-	TP-78	C2	梢円/梢円	X-15	V1	154	144	74	45	104	N-45° W	2	-	1.07	1.64				
III-52	29-6	TP-79	C1	梢円/梢円	Y-25	V1	153	111	84	39	107	N-67° W	5	-	1.38	2.15				
III-53	-	TP-80	C2	梢円/梢円	Z・AA-13	V1	200	139	138	51	100	N-20° W	5	-	1.44	2.71				

表III-7 Tビット計測一覧表(3)

插図	図版	遺構名	分類	平面形状		グリッド		調査面		調査面規則(CMD)		実質面規則(CMD)		長軸		深さ		長軸方向		標跡		重複		調査面		実底面		長短比	
				層位	調査面所底面	層位	層位	長軸	短軸	層位	長軸	短軸	層位	長軸	短軸	層位	長軸	短軸	層位	長軸	短軸	層位	長軸	短軸	層位	長軸	短軸	層位	長軸
III-53	29-7	TP-81	C1	楕円/角円	X・Y-37	VI	171	159	82	59	112	N-43° E	無	-	-	1.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.39	-	
III-54	30-1	TP-82	A2	楕円/角円	Z-3A-32	VI	242	72	182	21	122	N-50° E	無	-	-	3.36	8.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.29	16.73
III-54	30-2-3	TP-83	A1	溝状/窓状	Z-33	VI	286	87	251	15	124	N-25° W	無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.20	1.89
III-55	-	TP-84	C2	楕円/角円	Z-16	VI	147	123	(87)	(46)	93	N-46° W	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
III-55	30-4-5	TP-85	A1	Y-31・32 -/窓状	Y-31・32	VI	295	(94)	251	23	151	N-42° W	無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.91
III-55	30-6	TP-86	C2	長楕円/角円	Q-R-18	VI	161	97	(94)	(42)	99	N-41° E	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.24
III-56	30-7-8	TP-87	C2	楕円/角円	Y-28	VI	209	186	107	73	132	N-55° E	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.12	1.47
III-57	31-1	TP-88	C2	楕円/角円	S-21	VI	112	117	62	37	105	N-36° W	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.96	1.68
III-57	31-2	TP-89	A1	溝状/窓状	W-X-35	VI	254	71	231	25	114	N-18° W	無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.58	9.24
III-58	31-3-4	TP-90	A1	溝状/窓状	X-Y-14	VI	265	78	258	17	140	N-22° E	無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.40	15.18
III-58	-	TP-91	B1	長楕円/長梢円	T-16・17	VI	220	110	150	24	140	N-40° W	無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00	6.25
III-59	31-5-6	TP-92	A1	長楕円/角円	W-14	VI	310	134	220	25	168	N-17° E	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.31	8.80
III-59	-	TP-93	C2	楕円/角円	V-15	VI	132	91	113	63	104	N-16° W	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.45	1.79
III-60	31-7-8	TP-94	C1	楕円/角円	W-37	VI	162	150	61	45	116	N-17° E	無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.08	1.36
III-60	32-1・2-4-5	TP-95	C2	楕円/角円	S-33	VI	139	106	89	30	124	N-54° W	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.31	2.97

1. 検出および調査

A 検出状況

TピットはVI層上面ないしはVI層中位で平面形を確認し、長軸の中間部付近で直交する短軸を堆積状況実測ラインとした。検出状況は、プランを黒色土のみで確認したものと、黒色土がリング状に回り、中央部にTa-dを主体とする再堆積土がみられるもの(TP-25・34・92)や黒色土に半月状または帯状にTa-dを主体とする再堆積土がみられるもの(TP-16・20・21・26・27・29・39・52・64・77・94)があった。後者は、Tピットが隣接するものや南側の山裾に立地するものに多い。これらは検出状況を撮影し、明瞭なものは土層範囲を記録した。紙面の都合上、実測図は割愛したが、堆積図および写真図版を参考とされたい。詳細は堆積状況の記載に後述する。

B 調査

まず、検出プランの長軸を半割し、堆積状況実測面を設定した。黒色系の堆積土を除去し、ある程度の掘開で壁面を止め、下層へと掘開を進めた。この時、明瞭な降下物堆積層であるTa-d1スコリア層を鍵層として行ったものが多い。坑底面を確認した後、半断面の覆土と二次堆積層(VII層)や降下物堆積層(VIII層)を比較しながら壁面の精査を行った。なお、初年度は、Tピット内に堆積する覆土の供給源、崩落過程を確認するため、横断するトレーナーを掘削したものもある(TP-01~08)。

2. Tピットの形態と分類

A 分類

(1) 分類基準

形態分類は確認面および坑底面の平面形、規模から行った。分類にあたっては、大泉博嗣氏が坑底面の規模・長短比、杭穴の有無などの諸条件から作成した分類基準に従った。この基準は『苦小牧東部工業地帯の遺跡群II』(佐藤・大泉他1987)で報告され、A1型～D型の形態分類を行っている。なお、本報告において、長短比の数値を若干変更しているが基本的には追従するものである。

本遺跡においては、B2型とD型は検出されていない。また、C型の中にはほぼ円形に近いものもあるが、形態分類においてC型からの連続性があり数値上の区分が難しかったことから、細分していない。なお、A1型とA2型に杭を有するもの(TP-42・92)もあったが、全体からの比率として極度に低いことから、あえて分類していない。

A型：長短比が8以上で、長さに比べて幅が狭い溝状のタイプ。

 A1型 長軸が2m以上のもの A2型 長軸が2m未満のもの

B型：長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ。

 B1型 杭穴がないもの B2型 杭穴があるもの

C型：長短比が4未満のもので、椭円形から円形に近いものまである。

D型：長さ1m、幅0.2m前後の小規模なタイプで、深さ0.5m以下のもの。

(2) 類型比率(図III-13)

形態分類で最も数多く検出したのはC2型35基(37%)で、次いでA1型の29基(30%)である。

この2類型で全体の67%を占め、2極化がみられる。この2極化は図III-12・13における相関図にも顕著に認められ、中間的形態であるB型の分布が少ない。C1型は12基(13%)、B1型は11基(12%)検出し、A2型が8基(8%)と少数である。B2型とD型は検出されなかった。

B 形 態

(1) 調査面平面形

調査面および壁面上部は再堆積層であることから壁面の崩落が激しく開口するものが多い。このため、基本的に構築時の形状を残すものはない。特に調査面平面形が不整に広がるものは、壁面崩落に由来するものと思われる(TP-75・84・87・88・92等)。しかし、B型の円形や楕円形のものは、坑底面より全周が直線的に開くもの(TP-39・66・72・74・80・94等)があり、平均して壁面が崩落している可能性がある。また、TP-33の壁面上部の崩落状況の確認調査例からも、平面形規模は大きくなっているものの、おおよその形状を現しているものと思われる。

A型は長軸端の開口が弱く、長軸に並行する部分が壁面中部より開くもの(TP-10・11・29・40・50・56・57・63・71・83・85)が多いことから、短軸は構築時点より広がり、長軸長はおおよそその長さを止めている可能性がある。これらは結果的に、調査面が長楕円形で、坑底面が溝状となるものが多く、一部はB型に分類されるものもある。また、特異な平面形として、長軸の一端が尖状のもの(TP-03・09・29・38・42・60・63)がある。これらの多くは、尖状になる長軸端坑底面がやや上がり、構築時の過程を反映している可能性も考えられる。

(2) 坑底面形態

構築時の状況を残すもので、坑底面は平坦である。B型やC型は調査面平面形と形状がほぼ一致するが、A型は、長軸端の壁面がオーバーハングするものは、調査面平面形に比べて偏るものが多い(TP-02・19・23・24)。C型は調査面平面形が長楕円形や楕円形、円形であるのに対し、坑底面は隅丸方形状(TP-61・64・71)のものもあった。

(3) 壁面の状態

壁面の上部の状態は、崩落状況を反映するものと思われ、A型は主に短軸方向の壁面において、調査面平面形と密接な関係をもつものと思われるが、調査面平面形にて述べたので省略する。ここでは、特異なものを除き、壁面下部の形状について述べたい。土層断面実測面において、短軸の壁面中下部がオーバーハングするもの(TP-25・32・37・46・48・52・55・56・83)が多く認められる。これらは、Ta-d1スコリア層の崩落によるものである。スコリア層は粘性がないため、降雨時の雨水流れ込みや凍結・融解時に一気に崩落することによる。堆積状態においても看取でき、実際、調査終了後のTビットにおいて、このような現象が数多く観察できた。この他の条件で、壁面中下部の長軸がオーバーハングするもの(TP-02・04・05・08・14・19・21・23・24・29・32・36・40・44・47・54・58・59・60・71・82・83・90)がA型を主体に極めて多くある。TP-02・14・19・21・23・24・29・36・44・47・60は長軸の一端がオーバーハングするものである。このうち、TP-02・21を除いて、対する長軸端は坑底面より直立気味に開くものや、TP-19・36・47の様に大きく壁面が開くものがある。坑底面にも傾斜があることから、壁面崩落により一端のみのハングが残ったものではなく、構築当初からの壁面形態で、Tビットの構築方法によるものと思われる。また、壁面中部にオーバーハングや段状(TP-22・43・45・92)となるものも、構築過程の要因によるものと思われる。特異なものに坑底面より直線的に壁が立ち上がるもの(TP-49・55・58)があり、これらは構築時の形状が袋状にちかく、壁面上

部または肩部の崩落により覆土が埋積し、壁面、坑口部の崩落を抑えた可能性がある。

C型で、坑底面より直線的に大きく開くものは、結果的に調査面平面規模も大きくなる。比較的小型のものは壁面中部より、開くものである。

(4) 深さ

調査面からの深さの平均は、A 1型が130.76cm、A 2型は106.13cm、B型は124.0cm、C 1型は123.89cm、C 2型は120.91cmで、A 1型とA 2型の関係は長軸長によって分類されるが、深さも大きく異なることが分かる。また、C 1型とC 2型は杭の有無に関係なく、規模の形態分類に反映されないことが言える。

最も深いものはA 1型で154cm (TP-30・58)、A 2型は168cm (TP-92)、B 1型156cm (TP-22)、C 1型は223cm (TP-25)、C 2型は164cm (TP-46) である。発掘区の壁面において、構築面が確認できたものはC型と思われるもののみで、V b層上位から掘り込まれるTP-18が116cm、V b層上位からのTP-73は104cm、V b層上位からのTP-76は180cm、V b層中位からのTP-80は84cmであった。いずれも、他のTピットの調査面と比較すると10cm前後深くなる可能性がある。

浅いものは、タイプ別でみるとA 1型で102cm (TP-15)、A 2型で43cm (TP-09)、B型64cm (TP-38)、C 1型101cm (TP-20)、C 2型85cm (TP-85) である。A 2型のTP-09とB型のTP-38は同じ類型のなかでも大幅に浅いことから、特異なものとしたほうが良いと思われる。それぞれ、ついで、A 2型はTP-43の84cm、B型はTP-52の92cmである。

3. 杭跡

杭跡を検出したものはC 2型の35基とA 1型 (TP-42) とA 2型 (TP-92) の2基の計37基である。1基当たりの杭の検出本数は、2本が17基、3本が7基で、順次、杭の増加とともにTピット数は減少する(表III-6)。杭跡の堆積土は黒褐色土が主体で、しまりは全くなかった。設置位置は、坑底面長軸上の範囲に並ぶものが主体であるが、杭列が2列並行のもの (TP-12)。ランダムに設置されるもの (TP-39・68・87)。長軸の中央付近の短軸ライン上に設置されるもの (TP-92)。1本で構成されるものは4基と少なくうち3基は坑底面中央部に設置される (TP-06・42・86)。最も多い9本のものは、C 2型のTP-70で、坑底面・調査面規模が共に大型で、杭穴に重複がみられることから、数回にわたって設置、利用されていたものと思われる。坑底面からの杭穴の刺しこみ深度は、一番深いもので、TP-77の3ヵ所で43~45cmほどあった。また、堆積図で確認できた杭の痕跡は、最も長いものでTP-12において、坑底面より68cmもあった。

4. 堆積状態

堆積状態の観察は基本的には短軸で観察したが、長軸方向を切ったもの (TP-34・64・73・91) が4基ほどある。うち、TP-34・91は調査面検出状況から意図的に行ったものである。また、初年度から継続しているものの一部は堆積状態実測面の崩壊によりエレベーション実測のみのものもある。堆積状態は大きく自然堆積のものと埋め戻し(人為堆積)、掘り揚げ土の3種類がある。

A 自然堆積

V層の自然堆積土である黒色系の覆土上部と、VI・VII層崩落層の覆土中部、覆土最下部に当たる坑底部に黒色土が堆積する。

V層の自然堆積土については、調査面平面形と一致し、A型は頂点を下方に向く三角の溝状に、B・C型は長楕円・楕円・円錐形状に堆積する。いずれも、覆土中部の壁面崩落による堆積後の最終段階である。ただし、V層堆積中に、Ta-dが供給、流入したもの（TP-06・13・19・30・33・34・42・46・54・68・76・77・82・95）もある。これらは、調査面検出状況において、縁辺部が黒色土でリング状となり、中央部がTa-dを均一に含む黒褐色土となる。堆積状態から推察すると、坑口部壁面のV層（黒色土）が崩落後、Tピットの掘り揚げ土や、発掘区南側の斜面より供給されるTa-dが流入したものと思われる。斜面より供給されるもの（TP-34）は、傾斜上方側に偏った堆積をしている。また、Ta-dを主体とする流れ込み層は、黒色土の中層から下層に溜まるように堆積するものが多い。後述する人為堆積のTa-dと比べ、均一に混じり、ロームは黒色土中に混じり合うため、バミスのみ肉眼で観察される。特異なものとしては、TP-39があり、南側の地すべり堆積土が流入・堆積している。

覆土中部はTピット本体の壁面崩落層で、この内、上層は、坑口部付近のVI層やVII層上部、下層はVII層ないしはVIII層の崩落層である。ただし、覆土中にV層黒色土ないしは黒褐色土が薄く堆積するもの（TP-01・10・20・28・46・50・60・64・71・75・80・87・91・95等）が多数あり、数回にかけて崩落したものと思われる。覆土中部の堆積から、壁面中下層の崩落に始まり、その後、壁面上層・坑口部の崩落が発生すると思われる。

覆土最下層には、厚さ3cm前後の黒色土が堆積するもの（TP-01・03・12・18・25・27・28・33・35・40・45・49・58・62・69・74・79・83・85・91・95等）が極めて多い。Tピット構築・使用期間中に坑口部のV層より供給されたものや枯葉等の有機質が堆積し、腐植したものと思われる。第V章第3節にて、この層よりサンプリングした土壤より花粉・植物珪酸体分析を行い、Tピット構築時の植生環境の復元を試みた。他の坑底面堆積状態の類型として、Ta-dスコリアを主体とする土壤が堆積するもの（TP-23・31・34・44・50・52・73・81）がある。

その他に、壁面両側が押し出され、もしくははずり落ちるもの（TP-53）がある。Tピットの覆土上層のV層堆積層および覆土下層の崩落層は1～16層で、17～20層は両側壁面の堆積層と同一で、しまりもあり、混入土層等は認められない。Tピット内部の空間と壁面土層の圧力差により生じたものと思われる。これに近い堆積状態のものは、TP-03・37・40・44・54・63があり、覆土上層が楔状に深く堆積する。

B 埋め戻し（人為堆積）

覆土上部に、ブロック状にVII層を堆積し、下底の層境が明瞭なもの（TP-20・21・58・64・73・87・91・92）8基を人為堆積とした。A型は覆土上層の中央部に堆積するもの（TP-21・58・92）で、TP-58は、埋め戻しの後、坑口部のV層、VI層上部が土圧により押し出されたものと思われる。C型はいずれかに偏る。おそらくは隣接する他のTピットの掘り揚げ土が投棄されたと思われ、TP-64は、黒色土の間層を挟むことから2回にわたって埋め戻されたものと思われる。

C 掘り揚げ土

掘り揚げ土を確認できたものは、発掘区壁面で堆積状況を確認したもの（TP-18・73・76）とTP-95の4基である。壁面で確認できた3基は、いずれも構築面において、傾斜する下方側に主体的な掘り揚げ土が堆積する。TP-18・76は10cm前後、TP-73は15～20cm前後、TP-95は5cm前後の堆積である。ただし、TP-95は、検出確認調査において上面を若干削平している。TP-18・73・76は両側に、掘り揚げ土が堆積しているが、TP-18は、東側のものと西側のものとで、掘り揚げ土下底面が異なっている。お

そらくは、斜面下方の西側のものが本遺構に伴うもので、東側の掘り揚げ土は、別のより古いTピットのものであろう。よって、TP-95と同様に、Tピットに対して、偏った一部に掘り揚げ土が堆積していたものと思われる。唯一掘り揚げ土を平面で検出できたTP-95は、掘り揚げ土上に検出したVS-B-10調査によるもので、TP-95の覆土にも再堆積している（覆土7層）。周囲の包含層と比べ、極僅かにマウンド状の高まりをもつ。

5. 分 布

95基検出したTピットの分布状況は、山裾の発掘区の南側に偏り、A地区からC地区にかけて広い範囲に検出した。特に東側に集中する傾向があり、地形面③面と②・④面の境界付近（図I-7）で緩斜面に構築されるもの（TP-01・14・18・20・25・26・64・67～69・77・79・80・84）が多く、他に②面のキウキチ沢からの登り口と思われる平坦面（TP-04～08・11・15・72・74・78・92）の2ヶ所に集中する。前者は14基からなり、TP-01を除いて全てC型で構成され、比較的大型のものが多い。後者は、A型5基、B型1基、C型5基の11基が集中する。C型は前者と対照的に小型のものが主体で、円形に近い形態のものも含まれている。

また、24～30ラインにかけての検出数がやや少ない傾向があり、C地区の中でも、B地区よりもやや多い。この分布状況は発掘区外の沢状地（図I-6）に対するものかもしれない。

これまで、他の遺跡において、平坦面や沢状地形、尾根状地形に分布する傾向が報告されている。今回の厚幌1遺跡では、河岸段丘平坦面よりも、背後の急傾斜地に対する分布状況があり、山間部における、Tピットを利用したシカ獵について興味深い1例となる。今後もダム関連の調査で、同様な立地条件の遺跡があり、類例の増加が待たれる。

6. 配 列

発掘調査中に確認できた明瞭な配列は1列のみで、他は整理期間中に遺構配置図より考察した。調査中に確認できた1列は、A1型の6基（南東側より、TP-90・07・05・17・23・60）で構成されるもので、X・Y-14区からT-20区にかけての南東～北西軸に約38mにわたって、北東側へ張り出す緩い弓状の列である。それぞれの間隔から、南東側のTP-90・07・05と北西側のTP-17・23・60との間が10.5mと広く、2つに分けられる可能性もあるが、全て同一類型で、長軸方向が北東方向に向くことから一括した。

他は、同一類型・規模・長軸方向の要素より、A型のTピットについて2基1対の組み合わせが想定しうる。例えば、明確なものとして、段丘縁辺部に立地するTP-03とTP-16は、A1型で、長軸方向も一致する。Tピットの間隔は14.5m。また、TP-01とTP-02はA1型で（間隔21.5m）、TP-43とTP-63はA2型（間隔6.5m）。付近に同一類型のものではなく、長軸方向が一致する。このことから長軸方向に限定すると、TP-19とTP-29（A1型、間隔7.5m）、TP-21とTP-30（A1型、間隔7.5m）、TP-24とTP-32（A1型とB1型、間隔7.0m）、TP-41とTP-85（A1型、間隔5.5m）、TP-40とTP-50（A1型、間隔17.5m）、TP-47とTP-82（A1型、間隔15.0m）、TP-52とTP-89（A1型、間隔7.5m）、TP-53とTP-55（A1型とA2型、間隔9.5m）。ただし、TP-03とTP-16の配列の様に長軸方向を揃えると、TP-19とTP-20、TP-21とTP-30、TP-24とTP-32の範囲のものとTP-52とTP-89、TP-53とTP-55の比較的集中するものは別の組み合わせが想定しうるが、いずれにせよ2基1対の組み合わせとなる。以上から、A型における各T

ピットの間隔は、7m前後のものが多い。

B型は検出件数が少ないが、X・Y-26区からW・X-28区にかけてほぼ東西軸に約13mで、南側へ張り出す弓状に1列確認した。構成は東側よりTP-38・56・44の3基で、全てB 1型である。長軸方向は、配列の弓状の中心部方向から放射状を示す。間隔は6mと7mと近い数値となる。配列の西側に同じB 1型のTP-75があるが、長軸方向が一致していないことから単独のものと思われる。

C型は2列想定できた。1列はY-22区からQ・R-34区にかけての東南東-西北西軸の約70mにわたりて、やや蛇行する配列である。構成は6基（東南東側より、TP-65・37・13・62・95・61）で、すべてC 2型である。Tピットの長軸方向は、南北方向を主体にTP-13のみ南側へ向く。西北西にある5基は、周囲にTピットを検出していないことから、この5基から配列軸を想定し、TP-65を組み入れた。Tピット間隔は西北西の3基の間が狭く、TP-61とTP-95間は約10.5mで、最長のものは、TP-65とTP-37、TP-13とTP-62の間隔で15mある。設置されている杭は2本が4基で、TP-37は3本、TP-13が4本である。TP-13は坑底面長軸上の2本が主体的なものである。

もう1列は、Z-AA-13区からAA-19区にかけてのほぼ東西軸の約33mにわたり、北側へ張り出す緩い弓状の列である。C 2型3基（東側より、TP-80・26・66）とC 1型1基（TP-14）の計4基で比較的中規模のもので構成される。坑底面の長軸が傾斜面に対し放射状に並び、Tピットの間隔は8.5～9mと規格性が伺われる。しかし、杭の設置本数は全て異なり、C 1型のTP-14は0本で、TP-66は3本、TP-26は4本、TP-80は5本である。

他のTピットについては判然としないため、配列は不明であった。

7. 新旧関係

各Tピット間の新旧関係を推察するうえで、最も確実な判断材料は、堆積状態から判断できる切り合い関係であろう。ここでは、Tピット本体の切り合い関係と、補足的に推察できる隣接するTピットからの掘り掻げ土の状況について述べる。

A Tピット本体の切り合い

切り合いのあるものは下記の4例を検出した。

- ・ TP-15（古 A 1型） - TP-07（新 C 1型）
- ・ TP-24（古 A 1型） - TP-28（新 C 2型）
- ・ TP-69（古 B 1型） - TP-68（新 C 2型）
- ・ TP-36（古 A 1型） - VP-06（新）

各類型における新旧相関 = (古) A 1型 → B 1型 → C 2型 (新)

このうち、TP-07とTP-15と、TP-36とVP-06については検出面の状況で確認し、TP-24とTP-28、TP-69とTP-68は堆積状況から確認できた。詳細については後述する。

B 掘り掻げ土からの新旧関係

堆積状態で、掘り掻げ土を確認できた4基について記述したが、いずれもTピットに隣接し、構築面傾斜の下方側に認められた。この状況を他のTピットにも仮定したうえで、埋め戻しと判断できた8基のうち、隣接するTピットとの新旧関係を推察できるものについて、以下に記す。

なお、発掘区壁面にてTP-73については発掘区外からの掘り掻げ土が想定されることから除外している。

- ・ TP-20（古 C 1型） ← 西側からの掘り掻げ土埋積：TP-66（新 C 2型）

- ・ TP-21 (古 A 1型) ← 北側からの掘り掲げ土埋積: TP-22 (新 B 1型)
- ・ TP-58 (古 A 1型) ← 方向不明: 可能性TP-47 (新 A 2型)、
: 可能性TP-52 (新 B 1型)、TP-89 (新 A 1型)
- ・ TP-64 (古 C 2型) ← 南側からの掘り掲げ土埋積: TP-68 (新 C 2型)
: TP-69 (新 B 1型)
- ← 東側からの掘り掲げ土埋積: TP-80 (新 C 2型)
- ・ TP-87 (古 C 2型) ← 南側からの掘り掲げ土埋積: TP-17 (新 C 2型)
- ・ TP-91 (古 B 1型) ← 南側からの掘り掲げ土埋積: 可能性TP-17 (新 A 1型)
: 可能性TP-75 (新 C 2型)
- ・ TP-92 (古 A 1型) ← 北側からの掘り掲げ土埋積: 可能性TP-11 (新 A 1型)
: 可能性TP-74 (新 C 1型)
: 可能性VP-03 (新)

想定した上記7基のうち、ほぼ断定できるものは、TP-20、TP-21、TP-64、TP-87の4基である。他のTビットについて詳述すると、TP-58については、坑口部の崩落前に埋め戻しがなされていることから、これまでのTビットの変遷過程から考えて、同類型のものと思われ、周囲に上記Tビットの他、C 2型のTP-49もあるが除外した。よってTP-47・52・89が想定しうるが、いずれも4m前後の距離にあり、断定したい。

TP-91については、TP-17が4m、TP-75が4.7mの距離にあり、判断したい。Tビットの変遷過程から考えると、TP-75とも思えるが想定の域を出ない。

TP-92は上記3基の他、TP-08も近位置にあるが、段丘縁辺部に立地しており、キウキチ沢側の斜面下へ投棄している可能性が強いことから除外した。TP-92の堆積状態から、覆土上層の黒色土V層の堆積が始まらないうちに、埋め戻しがなされている。このことから、TP-58と同様に考えると、TP-11が同類型であることから、最も可能性が高い。なお、VP-03の可能性があるが、TP-36とVP-06の検出状況における新旧関係から時間差を想定し、除外した。

上記をまとめると、Tビットの類型における新旧関係は下記のように推察できる。
(古) A 1型 → B 1型 (新) (古) C 1型 → C 2型 (新) (並存の可能性がある。)

8. 時 期

Tビットの構築時期を示すものとして、時期の判明している他の遺構との切り合いおよび重複、掘り掲げ土下底で判明する構築面層位と出土遺物の3種類が挙げられる。このうち、今回の調査で、時期を判断できるものに、TP-57 (A 1型) とTP-60 (A 2型) がある。それぞれ、VII-02と重複関係にあり、TP-60はVII-02の床面遺物（Ⅲ群B4類の土器、図III-10-1）が覆土上層に面的に出土している（図III-9）。また、覆土も非常に強くしまっていたことから、VII-02より古い時期のものである。TP-57は、覆土のしまりがないことから、VII-02より新しいものと思われる。

この他に、地割れ跡により歪んだTP-52 (B 2型) と地すべり堆積土を被覆するTP-39がある。個別記載で詳述するが、地震発生時は既に埋積していたものと思われる。地割れ跡は、地すべり堆積土の発生と同時期のものと思われる。地すべり堆積土の移動年代は、第V章第5節で、暦年代では約5,600年B.P以降、約3,000年B.P(Ta-c)以前の年代が与えられており、少なくとも約5,600年B.Pより新しい

年代が考えられる。

9. 個別記載

ここでは、上記記載にて取上げた特徴的なものに限って個別に詳述する。

TP-09 (A 2型) (図III-19、図版15-1・2)

グリッド: Y-Z-10 検出層位: VI層 平面形: 溝状/溝状

確認面規模: 229cm×47cm 坑底面規模: 179cm×14cm 深さ: 43cm 長軸方向: N-12° W

調査: 平成14年度調査終了のA地区のVII層面において、長軸225cm、短軸40cmで溝状に崩れ落ちている部分を確認した(図版15-1)。Tピットの形態と同様であることから、北側を半断し、堆積状態の確認調査を行った。

深さ40cm前後で、坑底面と思われるしまりのあるTa-d再堆積層に達したことから、一度この面で掘開を止めた。坑底と思われる面から深さ30cmのトレーナーを掘出し、確認調査を行ったが、下の層の堆積状況は両側の層序と変化がなく、しまりがあることから、この面が、坑底面であると断定し、堆積状況を実測、撮影後、残る南半の調査を行った。

堆積状態は、1~3層までがしまりのないブロック状の崩落土で、昨年度調査終了後の崩落層と思われる。4~6層はややしまりのある覆土で、V層主体土と互層に堆積している。

平成14年度からの凍結・融解により、覆土が沈着し、空洞に近い状況が発生したため、坑口部が崩落し、検出に至ったものであろうか。覆土がほとんど堆積していないことから考えると、構築当時の形態を残している可能性がある。性格としては、極端に浅いことから、Tピットとして使用されたものではなく、A 2型の構築途中で廃棄されたものであろうか。

TP-18 (推定C 1型) (図III-23)

グリッド: AA-17 検出層位: VI層 平面形: 一 確認面規模: (127cm)×(138cm)

坑底面規模: (62cm)×(41cm) 深さ: 124cm 長軸方向: N-18° E

調査: AA-27区で発掘区南側壁面にかかる黒色土の落ち込みを検出した。坑底面はほぼ水平で、3cm程度の黒褐色土(12層)が堆積している。壁面は、地山傾斜の上方である東側の崩落が進み、坑口部に向かって開く。平面において長軸中央ラインに2ヵ所の杭跡を検出したが、土層断面で確認できるものと一致するかは不明である。

Tピット外の発掘区壁面には、掘り掲げ土と思われる暗褐色~黒褐色土が堆積している。Tピットを挟んで、東西の掘り掲げ土下底の層位が異なっているが、本遺構に伴うものは西側の斜面下方に堆積する14・15層で、Vb層上位を下底面としている。東側の16・17層は、Vc層を下底面とし、より古い時期の別の遺構の掘り掲げ土と思われる。

TP-20 (C 2型) (図III-24、図版17-4・5)

グリッド: AA-18 検出層位: VI層 平面形: 楕円/楕円

確認面規模: 141cm×116cm 坑底面規模: 68cm×42cm 深さ: 101cm 長軸方向: N-14° W

TP-21 (A 1型) (図III-25、図版17-6・7)

グリッド: V-20・21, W-20 検出層位: VI層 平面形: 長楕円/溝状
 確認面規模: 299cm×121cm 坑底面規模: 266cm×29cm 深さ: 127cm 長軸方向: N-41° W
 調査: 切り合いはないが、隣接して検出したTピットである。TP-21とTP-22は長軸方向が並行する。検出時に、TP-21は北側にTa-dロームを主体にV層を斑状、少量含む人為堆積土(1層)を確認した。この層は、TP-21が窪みを残す状態まで埋積した段階で、北側に隣接するTP-22が構築され、その排土を埋めたものと思われる。よって下記の新旧関係が判明した。

(古) TP-21: A 1型 → (新) TP-22: B 1型

TP-24 (A 1型) (図III-26、図版18-4・5)

グリッド: V-21・22 検出層位: VI層 平面形: 長楕円/溝状
 確認面規模: 216cm×102cm 坑底面規模: 179cm×22cm 深さ: 126cm 長軸方向: N-33° W

TP-28 (C 2型) (図III-28、図版18-4・5)

グリッド: V-21・22 検出層位: VI層 平面形: 楕円/楕円
 確認面規模: 136cm×131cm 坑底面規模: 51cm×39cm 深さ: 123cm 長軸方向: N-15° W
 調査: VI層上面における黒褐色土落ち込みの状況から、2基の切り合いのあるTピットを検出した。
 うち、TP-28 (C 2型) は、黒褐色土が楕円形のプランで検出したことから、切り合いの新しいものと判断できた。切り合いの新旧関係をより明確に確認するため、2基のTピットにかかる土層観察面を設定し、半割した。

堆積状態でも、TP-24のVI層崩落層(3層)がTP-28に切られていることが判断でき、また、TP-28の堆積状態においても、切り合い部分の西側において、VI層ないしはVII層の崩落層を確認できず。TP-24の覆土上層(1層)黒色土が流れ込んでおり、TP-24がTP-28に切られていることがより確実に判断できた。

TP-25 (C 1型) (図III-27、図版18-6・7)

グリッド: AA-17・18 検出層位: VI層 平面形: 楕円/楕円
 確認面規模: 242cm×186cm 坑底面規模: 70cm×48cm 深さ: 223cm 長軸方向: N-22° W
 調査: VI層上面の調査面より深さ223cmあり、今回の調査で最も深いTピットである。坑底面は水平で、不整な楕円形を呈する。壁は、一部垂直気味に立ち上げるが、Ta-dスコリア層の崩落により大きく湾入し、VII層とVIII層の境が強く張り出している。坑口部へは直線的に大きく開き、特に地山傾斜面上方は強く開いている。

堆積状態は、壁面崩落が構築後、極めて短時間に発生したためか、坑底に黒色土の堆積前に壁面崩落が発生している(14・15層)。覆土上層の2~5層は、Tピット窪地に再堆積したTa-dロームで、上面は漸移的に堆積している。傾斜面のため、自然流入の可能性がある。

TP-33 (C 2型) (図III-31、図版20-1・2)

グリッド: V-23 検出層位: VI層 平面形: 楕円/楕円
 確認面規模: 144cm×138cm 坑底面規模: 62cm×50cm 深さ: 94cm 長軸方向: N-62° W

調査：VI層面でほぼ円形のV層落ち込みを検出した。円形プランのTピットの壁面崩落状況を確認するため、覆土上層のV層を主体とする黒色～黒褐色土を除去し、覆土中層の上面で掘開を中断し、4cm間隔のコンターを記録した。コンターはほぼ同心円状になり、坑口部の壁面が平均して崩落しているものと思われる。このことは、堆積図や断面図において、左右対称状に坑口部が開くことからも想定できよう。しかし、坑底面は楕円形であったことから、坑口部のみ円形に構築している可能性がある。

TP-52 (B 1型) (図I-10・III-39、図版23-6・7)

グリッド：V-34

検出層位：VI層

平面形：溝状/長楕円

確認面規模：266cm×88cm 坑底面規模：210cm×31cm 深さ：92cm 長軸方向：N-19° W

調査：V-34区のVI層上面で帶状のV層落ち込みを検出した。南側を半断し、堆積状態を実測・撮影の後、北半の調査を進めた。長軸北端部約1/5の坑底面が、約20cm程度ほぼ垂直の段差をもって下がり、壁面もTa-dスコリア層で大きく膨らむ歪んだ形態となった。特に東側の壁面においてTa-dスコリア層が下層のTa-dバミス層に落ち込んでいたことから、地割れ跡と思われ、地震による搅乱の可能性を想定した。

TP-52調査終了後、この落ち込みに対し、堆積状態を確認すべく、壁面を拡張した。堆積状態は、図I-10に掲載しているが、Ta-dスコリア層がTa-dバミス層に台形状に落ち込み、上層のVII層が混合した状態となっている。

本遺構と地割れ跡との時間的な関係は、検出面の平面形に影響が見られず、Tピットが大きく崩壊していないことから、覆土が堆積した後の影響と思われる。

他に地震による影響を受けたものとしては、TP-49の壁面に同様な地割れ跡を確認し、TP-57・87の壁面では、幅2cm前後の細い亀裂状に黒色土やTa-dの混合層と下層に風化により粘土化したTa-dバミスを検出している。

TP-53 (A 1型) (図III-39、図版24-1・2)

グリッド：U-35、V-34

検出層位：VI層

平面形：溝状/溝状

確認面規模：293cm×97cm 坑底面規模：263cm×28cm 深さ：133cm 長軸方向：N-24° W

調査：VI層上面で溝状のV層黒色土の落ち込みを検出した。検出状況は他のA 1型のTピットと同様であったが、堆積状態で壁面の「ずり落ち」を確認したので個別記載する。覆土中下層の6～16層が本来のTピット覆土で、17～20層がこれに相当する。17・18層はVII層相当土。19層はVIIa層のTa-dスコリア層。20層はVIIb層のTa-dバミス層である。いずれも、これらの層はしまりがあり、他の混入土層は確認できない。6～16層の本来の覆土が軟質でしまりがないため両側の土圧により壁面が押し出され、ずり落ちたものと思われる。覆土上層が楔状に中層まで入り込む堆積状態のTP-44やTP-54などは類似したケースと思われる。

TP-57 (A 1型) (図III-41、図版25-1・2)

グリッド：T-19

検出層位：VI層

平面形：溝状/溝状

確認面規模：293cm×72cm 坑底面規模：267cm×15cm 深さ：132cm 長軸方向：N-69° E

TP-60 (A2型) (図III-43、図版25-1・3)

グリッド: T-20 検出層位: VI層 平面形: 溝状/溝状
 確認面規模: 290cm×74cm 坑底面規模: 168cm×22cm 深さ: 132cm 長軸方向: N-21° E

調査: VII-02調査中に検出した。TP-60は、VII-02の床面遺物の土器が検出面に出土している(図III-10)。TP-60の覆土上層に緩く窪んだ状態で面的に出土している。覆土も、極めて硬く締まっていたことから、VII-02より古い遺構と判断できる。これに対し、TP-57はVII-02の覆土調査中より不明瞭な黒色土の落ち込みがあり、覆土も締まりがなかったことからVII-02より新しい時期のものと思われる。

TP-58 (A1型) (図III-42、図版25-4~6)

グリッド: W-X-34 検出層位: VI層 平面形: 溝状/溝状
 確認面規模: 205cm×62cm 坑底面規模: 233cm×24cm 深さ: 154cm 長軸方向: N-42° E
 調査: VI層上面において、A1型の溝状の黒色土落ち込みの中央ラインに、黄褐色のTa-dロームが直線状に落ち込むTピットを検出した。

堆積状態は、坑底面に薄く黒褐色土が堆積し、上部まで、Ta-dロームを主体とする覆土が堆積し、間にブロック状のV層主体土(12・14層)がある。検出面で溝状に確認したTa-dロームは土層観察面において、袋状に堆積している。この層はしまりが弱く、ボソボソしている。覆土上層は両側より押し出されるように、V層・VI層が堆積する。

Tピット形態は、長軸両端がオーバーハングし、短軸においては、壁面が坑底より坑口部までほぼ垂直に立ち上がる。

上記の記述から推察すると、坑底部に黒褐色の腐植土が堆積していることから、ある程度の期間をおいて壁面崩落が始まったものと思われる。しかし、壁面を大きく崩すことなく構築時の状態を残して覆土中位の11層まで埋積したのち、壁面崩落が一時止まり、坑口部のV層黒色土が徐々に崩落、堆積したもの(5層)と思われる。その後、他の遺構より1~4層までのTa-dロームが投棄され、時間の経過と共に、坑口部のV層が土圧により押し出され、結果的に1~4層の上層が両側より圧迫され、袋状になったものと思われる。

類似した堆積状況として浦河町西倉7遺跡のTP-10がある(川内 1994)。

TP-64 (C2型) (図III-45、図版26-5・6)

グリッド: Z-14 検出層位: VI層 平面形: 楕円/楕円
 確認面規模: 202cm×186cm 坑底面規模: 118cm×56cm 深さ: 116cm 長軸方向: N-7° E

TP-68 (C2型) (図III-47、図版27-1~3)

グリッド: AA-14 検出層位: VI層 平面形: 一/楕円
 確認面規模: (212cm)×200cm 坑底面規模: 108cm×48cm 深さ: 126cm 長軸方向: N-32° E

TP-69 (B1型) (図III-47、図版27-1~3)

グリッド: Z-AA-14 検出層位: VI層 平面形: 楕円/長楕円
 確認面規模: (287cm)×(208cm) 坑底面規模: 260cm×32cm 深さ: 130cm 長軸方向: N-72° E

TP-80 (C2型) (図III-53)

グリッド: Z-AA-13 検出層位: VI層 平面形: 楕円/楕円

確認面規模：200cm×139cm 坑底面規模：138cm×51cm 深さ：100cm 長軸方向：N-20° W
調査：これらの3基はZ-AA-14区において一括して検出した（図版27-1）。調査は3基同時に着手し、TP-64は単独に、TP-68とTP-69は切り合い関係があることから両Tビットにかかる土層堆積観察面を設定した。TP-64は、切り合はないが、TP-68とTP-69より古い遺構で、覆土上層にTa-dロームの埋め戻し土2層と4層が堆積している。埋め戻し土の間に黒色土3層が10cm程度帯状に堆積していることから、ある程度時間差のある2回の埋め戻しが行われたものと思われる。埋め戻し土の方向は上層の2層は南方向から投棄され、4層は東から投棄されている。これに該当するTビットとして、2層はTP-68とTP-69のいずれか、4層はTP-80のものと思われる。

また、TP-68とTP-69の切り合い関係は、検出および堆積状態よりTP-68が古く、TP-69が新しい。検出状況において、TP-69は覆土上層が黒色土で、TP-68はTa-d混じりの黒褐色土であり、検出面上層の切り合いかからも判断できた。堆積状態においても、TP-69の覆土中層のTa-dローム主体層である2層と11層がTP-68に切られている。TP-68の覆土の堆積状態は、TP-69が構築されている東側からのTa-dロームの壁面崩落層が堆積しておらず、TP-69の覆土上層の黒色土（TP-69の1層）の流れ込みが堆積している。このことからも両者の切り合い関係はTP-68が古く、TP-69が新しいことが確認できる。覆土上層の埋め戻し土と合わせて、遺構間の新旧関係を整理すると、以下の様になる。

(古) TP-68 (C 2型)・TP-80 (C 2型) → TP-69 (B 1型) → TP-64 (C 2型) (新)

TP-73 (C 1型) (図III-49、図版28-4・5)

グリッド：AA-23 検出層位：VI層 平面形：—
確認面規模：(218cm)×(57cm) 坑底面規模：(78cm)×(20cm) 深さ：113cm
長軸方向：N-89° W

調査：AA-23区のVI層上面で、発掘区南側の壁面にかかって半楕円形のV層落ち込みを検出した。調査区外への完掘はしていないが、C 1型ないしはC 2型のTビットと思われ、調査区壁面で堆積状態を観察したところ、Tビット外に掘り掲げ土の堆積を確認することができた。以下に堆積状態について記述する。

坑底には青灰色のTa-dスコリアを主体とする20層が堆積し、Tビット構築後、比較的短時間に壁面崩落が始まったものと思われ、上層に8～19層までの壁面崩落層が堆積する。このうち、8・10～13層は坑口部のV層～VI層にかけての崩落層で、覆土上層に相当する。2・3・5～7・9層は掘り掲げ土で、5層の一部と7層は坑口部の壁面崩落により、Tビット内へずり落ちたものと思われる。7層は、青灰色砂が斑状に含むことから、Tビット下位のTa-dスコリア層の掘り掲げ土の可能性がある。また、5層の堆積状態から、Tビットの縁辺部に掘り掲げ土が厚く堆積していたものと思われ、主に構築面傾斜の下方より、西側に堆積している。掘り掲げ土下層の3層と9層の下底面から、構築面層位は、V b層上位である。4層と6層は、掘り掲げ土上層のTビット内への流れ込み層で、層境が判然とせず、窪みの中央部付近に堆積する。

TP-76 (C 1型) (図III-51、図版29-1～3)

グリッド：AA・AB-20 検出層位：VI層 平面形：—
確認面規模：(153cm)×(69cm) 坑底面規模：(40cm)×(12cm) 深さ：190cm

長軸方向：N-87° E

調査：AA・AB-20区のVI層上面で、発掘区南側の壁面にかかる半円形のV層落ち込みを検出した。VI層上面からの深さが170cmほどあったため、重機でレンチを掘開し、堆積状態の実測および撮影を行い、調査を終了した。以下に堆積状態について記述する。

坑底付近にはTa-dバミスを主体とする19～22層が堆積し、Tピット構築後、比較的短時間に壁面崩落が始まったものと思われる。また、Ta-dスコリア層（17層）の堆積状態から、壁面崩落が3回以上にわたって発生したことがわかる。覆土中層の7～15層にかけてはVII層の崩落層で、4～6層はV層およびVI層を主体とする坑口部壁面の崩落層である。2・3層は掘り揚げ土で、3層の厚さから、西側に掘り揚げ土の主体があるものと思われる。

TP-95 (C2型) (図III-60、図版32-1・2・4・5)

グリッド：S-33

検出層位：VI層

平面形：楕円/楕円

確認面規模：139cm×106cm 坑底面規模：89cm×30cm 深さ：124cm 長軸方向：N-54° W

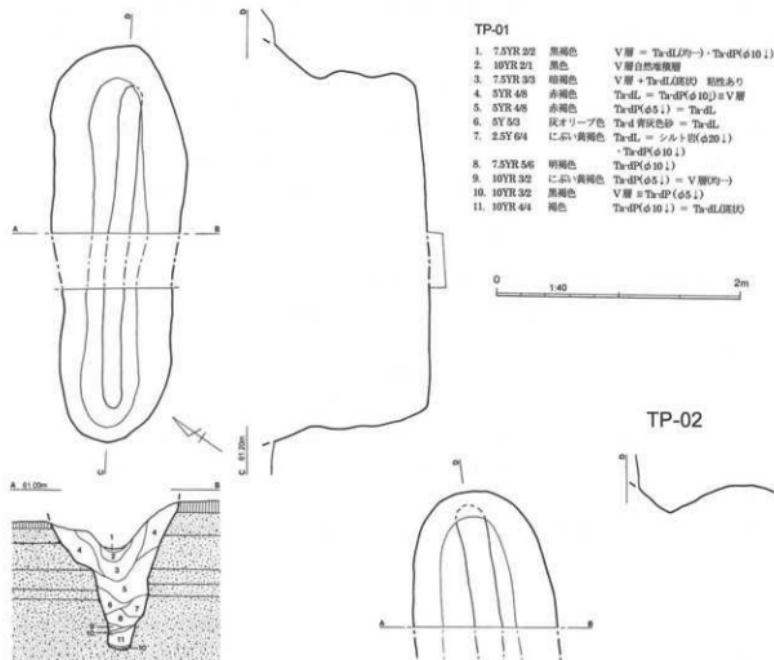
調査：S-33区のV a層調査でVSB-10を検出し、掘り揚げ土を面的に確認した。調査終了後、VI層面まで掘り下げたところ、VSB-10の一部を伴う楕円形のV層の落ち込みを検出した。当初、VP-11と遺構名を付し、VSB-10の板状礫を取上げ、調査を進めたところ、堆積状態や坑底面で杭穴を検出したことからTピットと判明した。よって、VSB-10検出面の暗褐色土はこの遺構に起因する掘り揚げ土であることがわかった。

掘り揚げ土はTピットの北側に4m×3mの略楕円形の範囲に広がり、最も厚いところで、12cm程度あり、下底面層位はV b層上位である。また、掘り揚げ土の一部は、Tピット内にも流れ込んでいる。

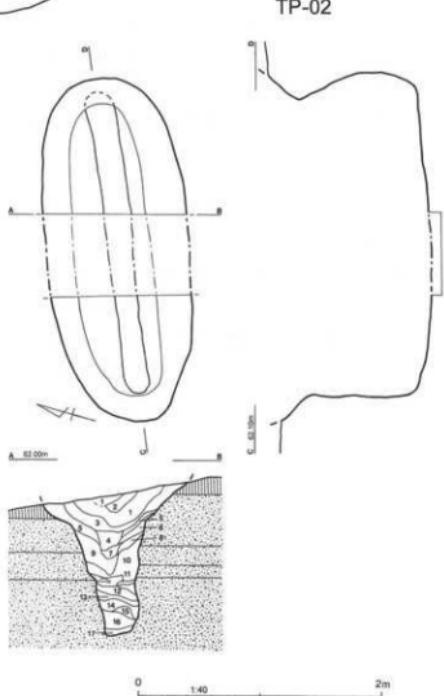
Tピットの形態は、坑底面は水平で、やや丸味をもち、長軸両端の2ヶ所に杭穴を検出した。壁面は、坑口部まではほぼ直線的に全周が開く。

堆積状態は、坑底に黒褐色土(16層)がやや厚く堆積し、構築後、壁面崩落が始まるまでの期間がやや長かったものと思われる。6～15層は壁面崩落土で、6・7層は坑口部のV層ないしはVI層の崩落層である。Tピットの壁面崩落が落ち着いて時間差を空けずにVSB-10の廃棄があり、その後、掘り揚げ土の流れ込みやV層の堆積が始まったものと思われる。

TP-01

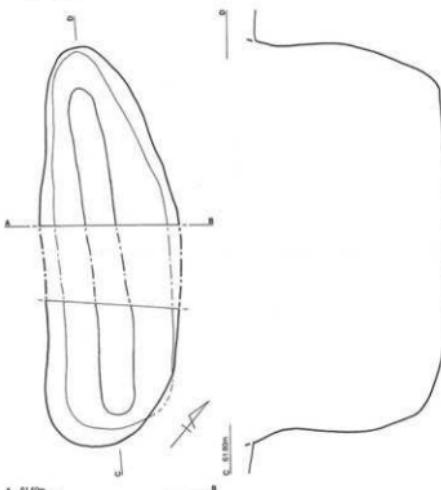


TP-02



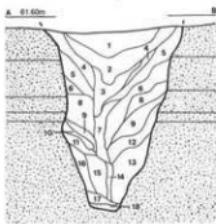
図III-16 TP-01・02

TP-03



TP-03

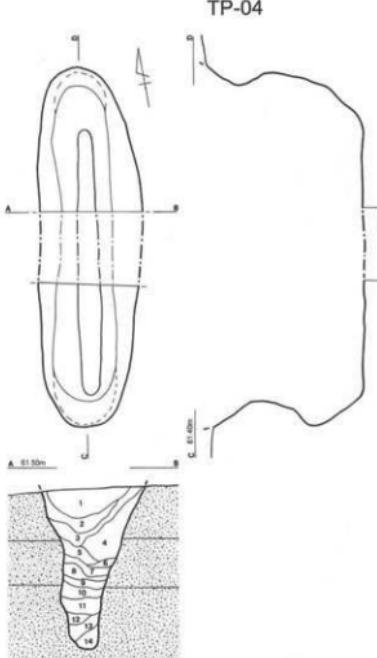
1. 10YR 1.71 黒色 V層 = TardP(δ3.1)・シルト層(δ3.1)
2. 10YR 2.1 黒色 V層 = TardP(δ3.1)・シルト層(δ5.1)
3. 10YR 2.2 黒褐色 V層 - シルト層(δ3.0) = TardL(δ9-) = TardP(δ5.1)
4. 10YR 3.2 黒褐色 TardL - V層(現状) = シルト層(δ10)
5. 7.5YR 4.4 暗色 TardL = TardP(δ5.1) = V層(現状)
6. 7.5YR 4.6 暗色 + シルト層(δ5.1)
7. 7.5YR 3.2 黒褐色 TardL - 黒灰色層(δ3.1)・TardP(δ3.1)
8. 2.5Y 5.2 噴灰黄色 TardL - シルト層(δ5.1) = V層(現状)
9. 7.5YR 5.1 緑灰色 TardL - TardP(δ5.1)
10. 2.5Y 5.4 黄褐色 TardL - TardP(δ5.1)
11. 2.5Y 5.7 オリーブ灰色 TardL - TardP(δ5.1)
12. 7.5YR 5.8 明褐色 TardP(δ5.1) = TardL - V層(現状)
13. 10YR 5.8 黄褐色 TardL = TardP(δ5.1)・青灰色層(δ1)
14. 10YR 3.4 噴灰褐色 V層 - TardL(δ9-) = TardP(δ5.1)
15. 10YR 4.5 にじみ 黄褐色 TardL - 青灰色層(δ9) = TardP(δ5.1)
16. 10YR 4.2 反黄褐色 TardL - 黄灰色層(δ9) = TardP(δ5.1)
17. 10YR 3.3 黒褐色 TardL - TardP(δ5) = V層(δ9-)
18. 10YR 2.3 黒褐色 V層 = TardL(δ9-)・TardP(δ5.1)



TP-04

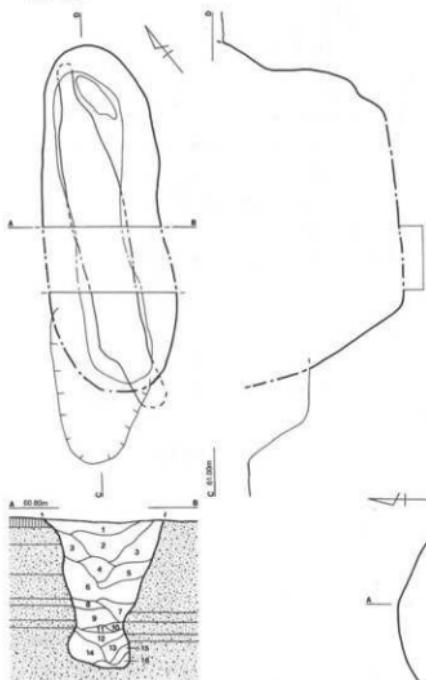
1. 10YR 1.71 黒色 V層 = シルト層(δ2.5) = TardP(δ5.1)
2. 10YR 2.2 黒褐色 V層 - シルト層(δ5.1) = TardL(δ9-)
3. 10YR 4.3 にじみ 黄褐色 V層・TardL(δ9.2) = TardP(δ5.1)
4. 10YR 5.6 黄褐色 TardL - TardP(δ5.1) = 青灰色層(δ9)
5. 10YR 4.4 暗色 TardL - TardP(δ5.1) = シルト層(δ5.1)
6. 10YR 6.8 明褐色 TardL - TardP(δ5.1) = 青灰色層(δ9)
7. 2.5Y 4.5 オリーブ褐色 青灰色層 = シルト層(δ1.0) = TardL(δ9-)
8. 10YR 5.6 黄褐色 TardL - TardP(δ5.1) = 青灰色層(δ9)
9. 2.5Y 5.2 噴灰褐色 TardL - シルト層(δ5.1)
10. 2.5Y 6.6 明褐色 TardL - 青灰色層(δ9-) = TardP(δ5.1)
11. 7.5YR 5.6 暗褐色 TardP(δ5.1) = TardL(δ9-)
12. 10YR 3.3 黒褐色 V層 - TardP(δ5.1) = TardL(δ9-)
13. 10YR 4.3 にじみ 黄褐色 TardP(δ5.1)
14. 2.5Y 5.4 黄褐色 TardP(δ5.1)

0 140 2m



図III-17 TP-03・04

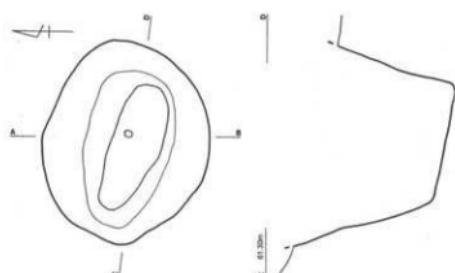
TP-05



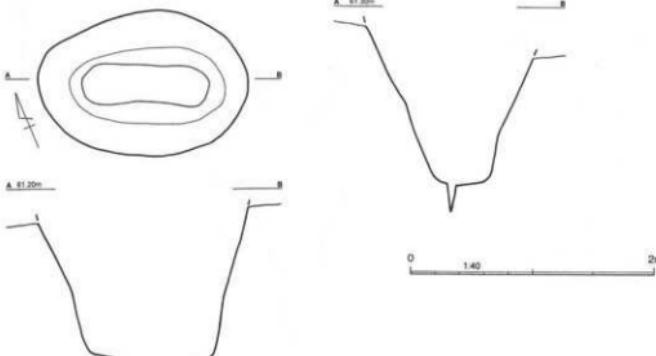
TP-05

- | | | |
|--------------|--------|--|
| 1. 10YR 1.21 | 黑色 | V層 = シルト岩(δ5.1) |
| 2. 10YR 2.1 | 黑色 | V層 - シルト岩(δ5.1) = Tar-dP(δ5.1) |
| 3. 10YR 3.2 | 褐色 | V層 - シルト岩(δ5.1) = Tar-dL(δ5.1) |
| | | = Tar-dP(δ5.1) |
| 4. 10YR 2.2 | 黒褐色 | V層 - シルト岩(δ2.1) = Tar-dL(δ2.1) |
| 5. 7.5YR 4.4 | 褐色 | Tar-dL = シルト岩(δ5.1) = V層(δ5.1) |
| 6. 7.5YR 5.4 | 明褐色 | Tar-dL = シルト岩(δ5.1) = Tar-dP(δ5.1) |
| 7. 7.5YR 4.4 | 褐色 | Tar-dL = シルト岩(δ5.1) = Tar-dP(δ5.1) |
| | | 粘性弱 |
| 8. 10YR 3.5 | 暗褐色 | V層 - シルト岩(δ5.1) = Tar-dL(δ5.1) |
| | | - Tar-dP(δ5.1) しまり弱 粘性弱 |
| 9. 7.5YR 4.4 | 褐色 | シルト岩(δ5.1) = Tar-dL(δ5.1) - Tar-dP(δ5.1) |
| 10. 10YR 4.4 | 褐色 | シルト岩(δ5.1) = Tar-dL - 青灰色砂(δ5.1) |
| | | = Tar-dP(δ5.1) |
| 11. 10YR 3.4 | 暗褐色 | Tar-dL - シルト岩(δ5.1) = V層(δ5.1) |
| | | = Tar-dP(δ5.1) |
| 12. 10YR 4.4 | 暗褐色 | Tar-dL = シルト岩(δ5.1) = Tar-dP(δ5.1) |
| | | 粘性強 |
| 13. 10YR 5.4 | にじい黄褐色 | Tar-dL - シルト岩(δ5.1) = Tar-dL(δ5.1) |
| | | - Tar-dP(δ5.1) |
| 14. 2.5Y 4.2 | 暗灰黄色 | Tar-dL - 青灰色砂(δ5.1) = Tar-dP(δ5.1) |
| 15. 2.5Y 5.4 | 黄褐色 | Tar-dL - シルト岩(δ5.1) = Tar-dL(δ5.1) |
| | | - 青灰色砂(δ5.1) |
| 16. 2.5Y 4.3 | オリーブ褐色 | 青灰色砂 = Tar-dL(δ5.1) = Tar-dP(δ5.1) |

TP-06

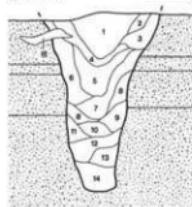
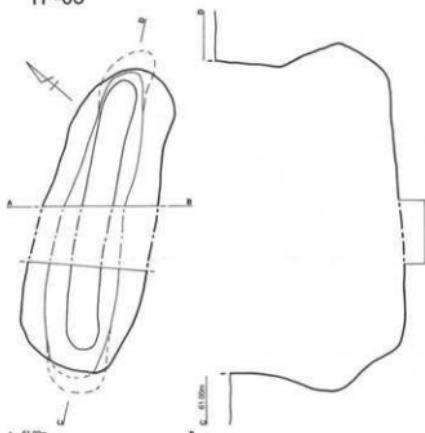


TP-07



図III-18 TP-05~07

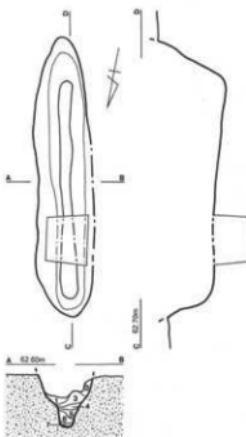
TP-08



TP-08

1. 10YR 1.71 黒色 V層 = TrdL1(均)
2. 10YR 32 黒褐色 V層 - TrdL1(均)
3. 7.5YR 31 黒褐色 V層 - TrdL1(均)
4. 7.5YR 31 黒色 V層 - TrdL1(均) - シルト層(φ30+) TrdL1 - V層均 - シルト層(φ20+) · TrdP(φ10+)
5. 7.5YR 31 黒褐色 V層 - TrdL1(均) - シルト層(φ20+) · TrdP(φ10+)
6. 7.5YR 52 反褐色 TrdL1 = V層均 - シルト層(φ20+) · TrdP(φ10+)
7. 7.5YR 41 黑灰色 TrdL1 = V層(均) - TrdP(φ10+)
8. 10YR 54 こぶし・黄褐色 TrdL1 = 青灰色砂(斑状)
9. 10YR 52 反黃褐色 TrdL1 = TrdP(φ5+)
10. 10YR 51 青灰色 TrdL1 = 青灰色砂
11. 10YR 52 反黃褐色 TrdL1 = TrdP(φ20+)
12. 10YR 54 こぶし・黃褐色 TrdL1 - 青灰色砂(斑状) - TrdP(φ3+)
13. 10YR 52 反黃褐色 青灰色砂 - TrdL1(斑状)
14. 10YR 54 こぶし・黃褐色 TrdP(φ20+) - TrdL1(均) = 青灰色砂(斑状)

TP-09



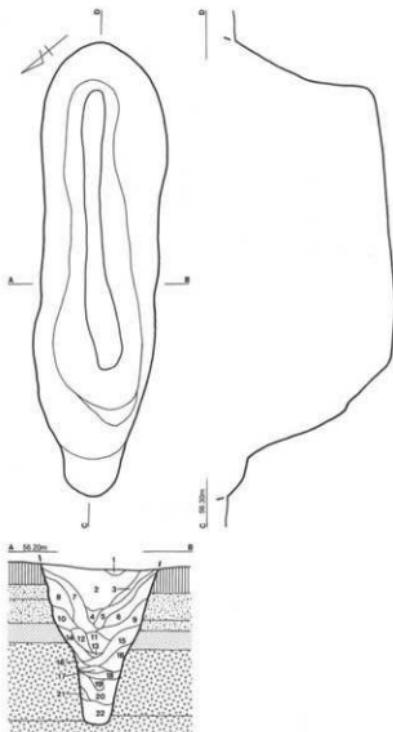
TP-09

1. 10YR 3/1 黒褐色 TrdL - シルト層(φ10+) = V層(均)
2. 10YR 63 こぶし・黄褐色 V層 - TrdL(均)
3. 10YR 64 こぶし・黄褐色 TrdL
4. 10YR 4/1 灰灰色 V層 = TrdL(均) - シルト層(φ5)
5. 10YR 4/4 こぶし・黄褐色 TrdL = V層(均)
6. 10YR 5/1 灰灰色 V層 - TrdL(均) = TrdP(φ5)
7. 5YR 5/3 こぶし・赤褐色 TrdP(φ5+) = V層(均)

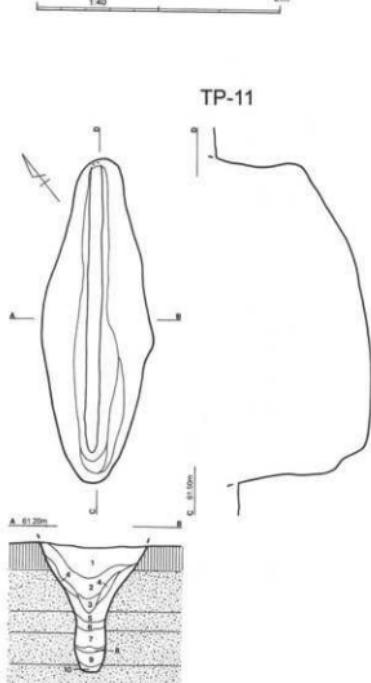
0 140 2m

図III-19 TP-08・09

TP-10

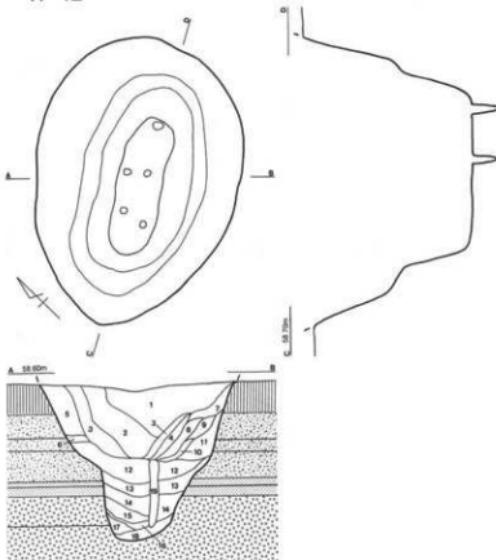


TP-11



図III-20 TP-10・11

TP-12



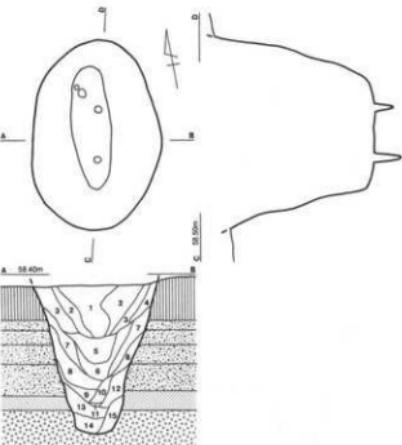
TP-12

1. 10YR 2/1 黒色
V層 - シルト岩(φ10.1)
= TrdL(D6)
2. 10YR 4/1 黄灰色
V層 - TrdL(D6)-シルト岩(φ20.1)
= TrdL(D6)
3. 10YR 3/1 黒褐色
V層 - TrdL(D6)
4. 10YR 5/4 にぶい黄褐色
TrdL = TrdP(φ10.1)
シルト岩(φ2.1) = V層(現状)
5. 10YR 5/1 褐灰色
TrdL
シルト岩(φ10.1)
6. 10YR 6/6 明褐色
TrdL
7. 10YR 6/3 にぶい黄褐色
TrdL = シルト岩(φ10.1)
= V層(現状)
8. 10YR 3/1 黒褐色
V層 - TrdL(D6)
9. 10YR 5/1 黄灰色
TrdL - V層(現状)
シルト岩(φ2.1)
10. 10YR 4/1 黄灰色
V層 - TrdL(D6)
シルト岩(φ2.1)
11. 10YR 6/4 にぶい黄褐色
TrdL = シルト岩(φ5.1)
= V層(現状)
12. 10YR 4/1 褐灰色
V層 - TrdL(D6)
シルト岩(φ1.1)
13. 2.5YR 6/4 にぶい黄褐色
TrdL = シルト岩(φ10.1)
14. 10YR 5/1 黄灰色
TrdL スコリヤ - TrdL(D6)
= V層(現状)
15. 7.5YR 5/4 にぶい褐色
TrdL = TrdL スコリヤ(G6)
= TrdP(φ5.1)
16. 10YR 4/1 褐色
V層 - TrdL(D6)
TrdL スコリヤ(G6)
17. 7.5YR 5/4 にぶい褐色
TrdL = TrdP(φ10.1)
= V層(現状)
18. 10YR 2/1 黒褐色
V層 - TrdL(D6)
TrdP(φ5.1)
19. 10YR 3/1 黑褐色
V層 - TrdL(D6)

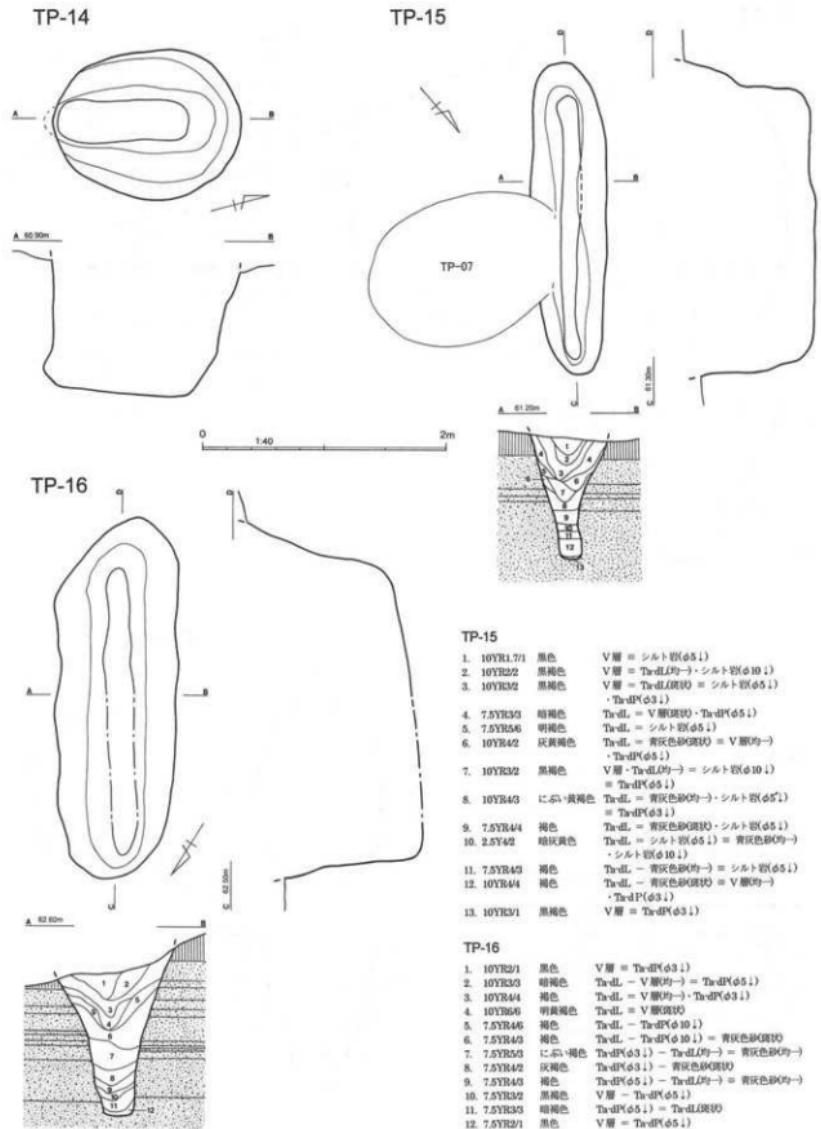
TP-13



TP-13

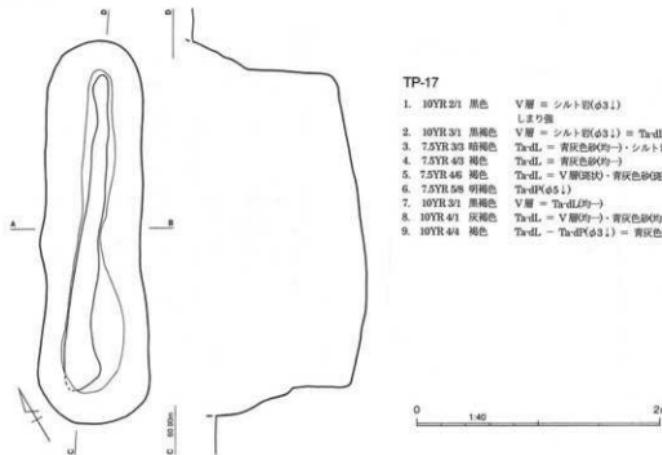


図III-21 TP-12・13



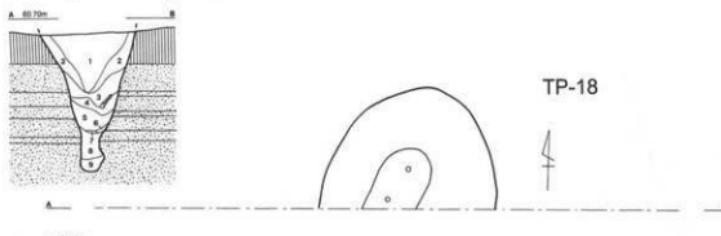
図III-22 TP-14~16

TP-17

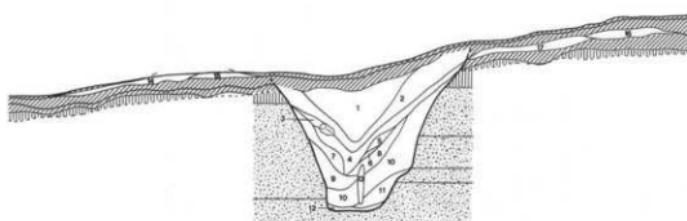


TP-17

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト岩(φ31) しまり無
2. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = シルト岩(φ31) = TardL(φ9)→
3. 7.5YR 3/3 暗褐色 TardL = 青灰色B(φ31)・シルト岩(φ31)
4. 7.5YR 4/3 褐色 TardL = 青褐色B(φ31)→
5. 7.5YR 4/5 褐色 TardL = V層(φ9)・青灰色B(φ31)・TardP(φ51)
6. 7.5YR 5/6 暗褐色 TardP(φ51)→
7. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TardL(φ9)→
8. 10YR 4/1 灰褐色 TardL = V層(φ9)・青灰色B(φ9)・TardP(φ51)
9. 10YR 4/4 褐色 TardL = TardP(φ31) = 青灰色B(φ31)



TP-18

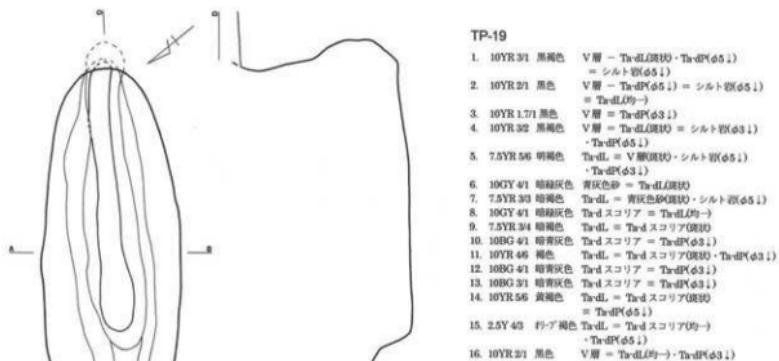


TP-18

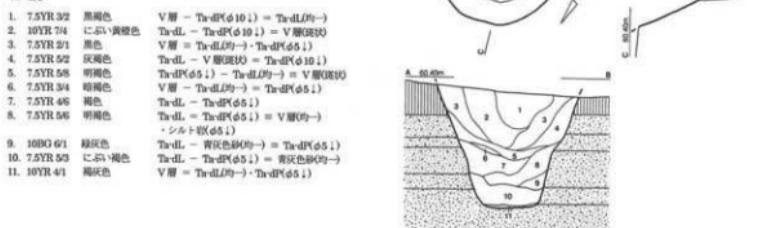
- | | | | |
|-------------------|-------------------------------|---------------------|---------------------------------|
| 1. 10YR 2/1 黒色 | V層 = シルト岩(φ51)・TardP(φ51) | 9. 2.5YR 4/3 にぶい赤褐色 | TardL = V層(φ2) = TardP(φ31) |
| 2. 10YR 4/1 褐灰色 | V層 = TardP(φ51) = TardL(φ9)→ | 10. 2.5YR 4/6 赤褐色 | TardP(φ51) = TardL(φ9) = V層(φ2) |
| | ・シルト岩(φ2) | 11. 2.5YR 5/3 黄褐色 | TardL = V層(φ2) |
| 3. 10YR 4/2 暗黄褐色 | V層 = TardL(φ9)→ = TardP(φ11) | 12. 7.5YR 2/1 黑褐色 | V層 = TardP(φ2) = TardL(φ9)→ |
| 4. 10YR 3/2 黑褐色 | V層 = TardL(φ9)→・TardP(φ10) | 13. 7.5YR 2/1 黑褐色 | V層 = TardL(φ9)→ = TardP(φ51) |
| 5. 5YR 5/4 にぶい赤褐色 | TardL = TardP(φ10) = シルト岩(φ2) | 14. 10YR 3/5 喧褐色 | V層 = TardL(φ9) = TardP(φ51) |
| | = V層(φ10) | 15. 10YR 2/2 黑褐色 | V層 = TardL(φ9)→・シルト岩(φ31) |
| 6. 10YR 2/1 黒色 | V層 = TardP(φ51) = TardL(φ9) | 16. 10YR 3/3 暗褐色 | V層 = TardL(φ9) = TardP(φ51) |
| 7. 2.5YR 4/2 暗赤色 | TardL = V層(φ9)→・TardP(φ51) | 17. 10YR 2/3 黑褐色 | V層 = TardP(φ51) = TardL(φ9) |
| 8. 5YR 5/4 にぶい赤褐色 | TardL = V層(φ9)→・TardP(φ51) | | |

図III-23 TP-17・18

TP-19

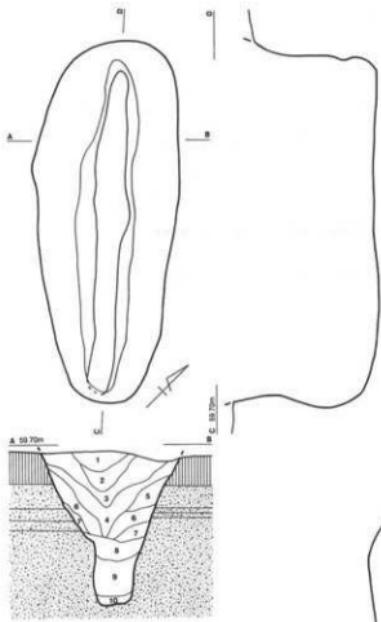


TP-20



図III-24 TP-19・20

TP-21

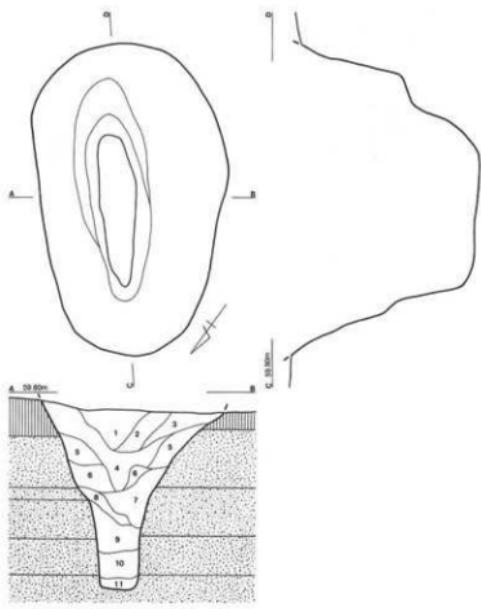


TP-21

1. 10YR 6B 明眞褐色
2. 10YR 3/1 黒褐色
3. 10YR 2/1 黒色
4. 10YR 3/1 黒褐色
5. 10YR 4/4 褐色
6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色
7. 10YR 6/2 にぶい黄褐色
8. 10YR 3/2 暗褐色
9. 10YR 4/2 暗黄褐色
10. 10YR 5/1 黑褐色
- Tar-dL = V層(d5)・Tar-dP(d5)
V層 = Tar-dL(d9) = Tar-dL(d9)→
・シルト層(d5)
V層 = シルト層(d2)・Tar-dP(d2)
V層 = Tar-dL(d9)→・シルト層(d5)
Tar-dL = シルト層(d20)
Tar-dL = V層(d9)→

0 1:40 2m

TP-22

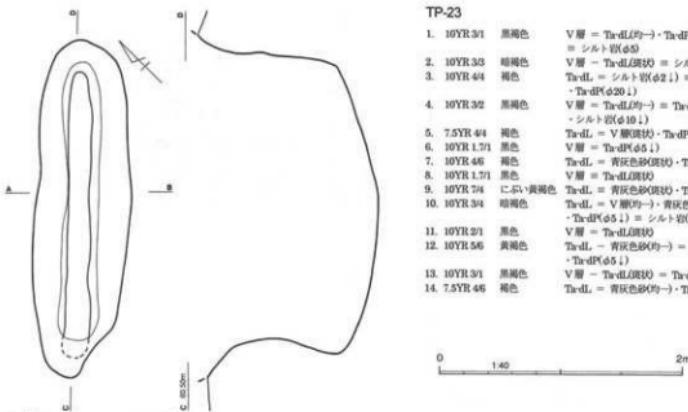


TP-22

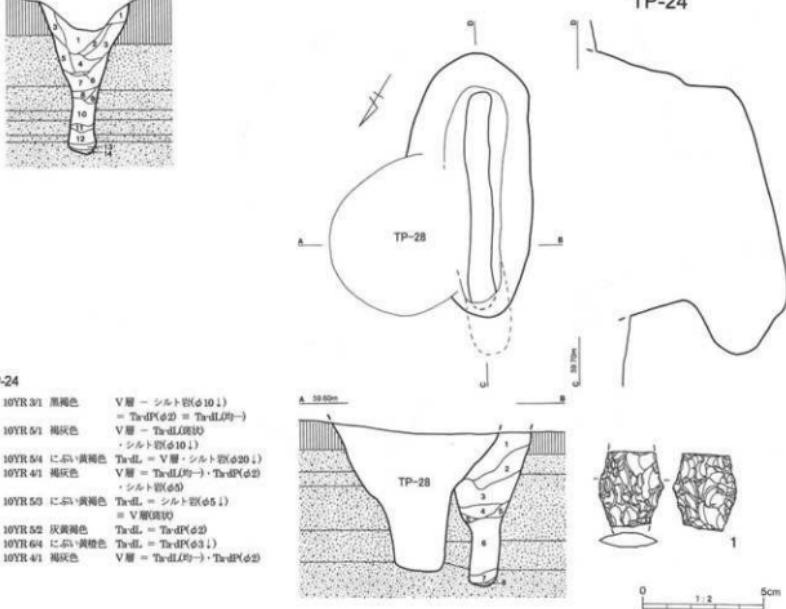
1. 10YR 2/1 黒色 V層 = Tar-dP(d2)
2. 10YR 2/2 黒褐色 = Tar-dL(d9)
3. 10YR 2/3 黒褐色 V層 = Tar-dP(d5)
4. 10YR 4/1 褐灰色 V層 = Tar-dL(d9)→
5. 10YR 3/4 暗褐色 = Tar-dL = V層(d9)→
6. 10YR 5/6 黄褐色 Tar-dL = V層(d5)
7. 10YR 6/8 明眞褐色 Tar-dL = Tar-dP(d2)
8. 10GY 5/1 糙灰色 Tar-dL = 青灰色層(d5)→
9. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 Tar-dL = 青灰色層(d5)
10. 10YR 4/2 暗黄褐色 Tar-dL = V層(d9)→
11. 10GY 4/1 明綠灰色 V層 = Tar-dL(d9)

図III-25 TP-21・22

TP-23

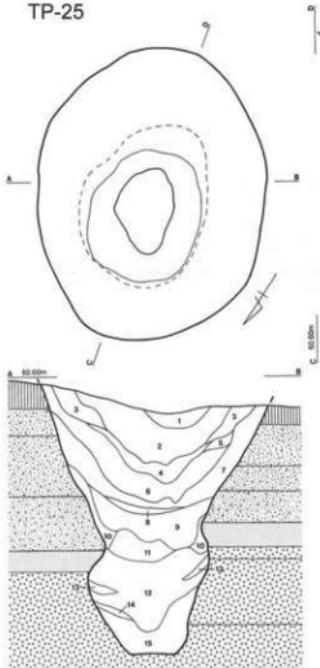


TP-24



図III-26 TP-23・24

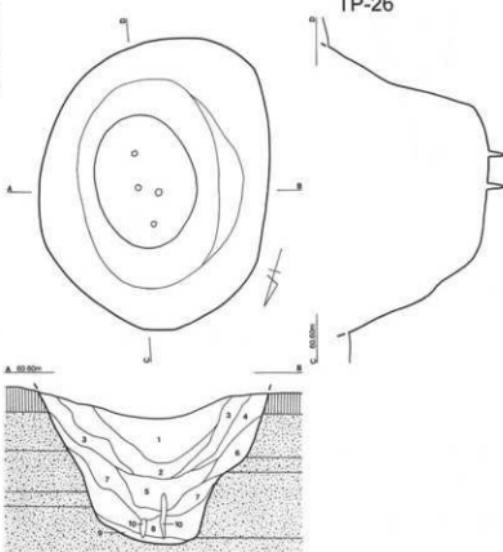
TP-25



TP-25

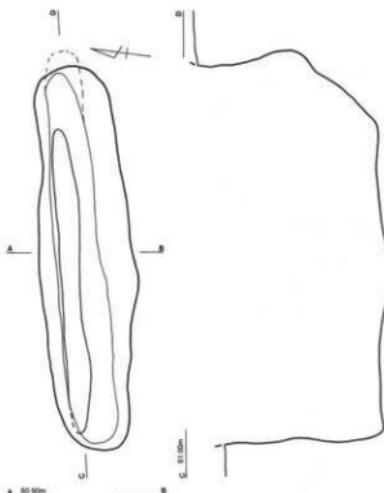
1. 10YR 2/1 黒色
V層 = Tr-dP(φ10 1)
Tr-dL(-)
2. 10YR 3/1 黒褐色
V層 = Tr-dL(φ10 1) - · Tr-dP(φ10 1)
3. 10YR 2/1 黒色
V層 = Tr-dL(φ10 1) - · Tr-dP(φ10 1)
4. 10YR 5/6 黄褐色
Tr-dL - V層(φ10 1) - · Tr-dP(φ10 1)
5. 10YR 3/1 黒褐色
V層 = Tr-dP(φ10 1) - · Tr-dL(φ10 1)
6. 10YR 2/1 黒色
V層 = Tr-dL(φ10 1) - · Tr-dP(φ10 1) - · シルト(φ10 1)
7. 5YR 4/4 にぶい赤褐色
Tr-dL - Tr-dP(φ10 1) - V層(φ10 1)
8. 7.5YR 2/1 黒色
V層 = Tr-dL(φ10 1) - · Tr-dP(φ10 1)
9. 5YR 4/6 赤褐色
Tr-dP = Tr-dL(φ10 1)
10. 10YR 6/3 にぶい黄褐色
Tr-dL - 褐色(φ10 1)
11. 7.5YR 4/2 深褐色
Tr-dL - V層(φ10 1) - · Tr-dP(φ10 1)
12. 5YR 4/4 にぶい赤褐色
Tr-dP = Tr-dL(φ10 1)
13. 10YR 6/4 にぶい黄褐色
Tr-dL - V層(φ10 1)
14. 10BG 5/1 青灰色
Tr-dL スコリア = Tr-dL(φ10 1)
15. 10YR 6/3 にぶい黄褐色
Tr-dL - Tr-dP(φ10 1)

TP-26



図III-27 TP-25・26

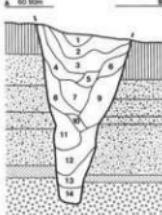
TP-27



TP-27

1. 10YR 5/2 黄褐色 $Ta-dL - V\text{層}(\phi-1) = Ta-dP(\phi 2)$
- シルト岩(φ2)
2. 10YR 2/1 黒色 $V\text{層} - \text{シルト岩}(\phi 1) = Ta-dL(\text{底})$
- $Ta-dP(\phi 2)$
3. 10YR 3/1 黑褐色 $V\text{層} - \text{シルト岩}(\phi 1 \sim) = Ta-dL(\phi 1 \sim)$
- $Ta-dP(\phi 2)$
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 $Ta-dL - V\text{層}(\phi-1) = \text{シルト岩}(\phi 5 \sim)$
 $Ta-dL = V\text{層}(\text{底})$
5. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 $Ta-dL = \text{シルト岩}(\phi 10) - Ta-dP(\phi 2)$
6. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 $Ta-dL = \text{シルト岩}(\phi 10) - Ta-dP(\phi 2)$
 $= V\text{層}(\text{底})$
7. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 $Ta-dL - V\text{層}(\phi-1) - \text{シルト岩}(\phi 30 \sim)$
青灰色砂 = $Ta-dP(\phi 2)$
8. 10BG 5/1 青灰色 $Ta-dL - Ta-dP(\phi 1) = \text{青灰色砂}(\text{底})$
9. 7.5YR 5/4 にぶい褐色 $Ta-dL - Ta-dP(\phi 1) = \text{褐色}$
10. 7.5YR 4/1 褐灰色 $Ta-dL - Ta-dP(\phi 1) - \text{シルト岩}(\phi 5)$
11. 10YR 6/4 にぶい黄褐色 $Ta-dL - \text{青灰色砂}(\text{底}) = Ta-dP(\phi 2)$
青灰色砂 = $Ta-dL(\text{底}) - Ta-dP(\phi 2)$
12. 10BG 5/1 青灰色 $Ta-dL - Ta-dP(\phi 2) = V\text{層}(\text{底})$
13. 7.5YR 6/4 にぶい褐色 $V\text{層} = Ta-dL(\text{底}) - Ta-dP(\phi 2)$
14. 10YR 3/1 黑褐色 $V\text{層} = Ta-dL(\text{底}) = Ta-dP(\phi 2)$

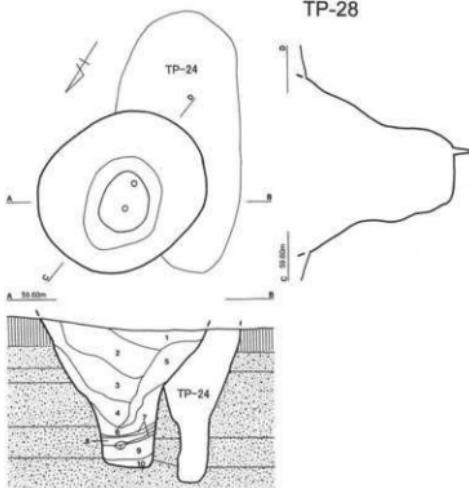
0 140 2m



TP-28

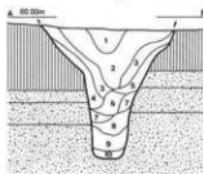
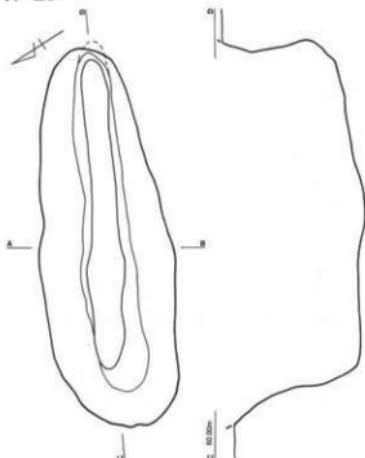
1. 10YR 3/1 黑褐色 $V\text{層} - Ta-dP(\phi 2 \sim) = Ta-dP(\phi-1)$
- シルト岩(φ30)
2. 10YR 2/1 黒色 $V\text{層} - Ta-dP(\phi 2) = Ta-dL(\text{底})$
- シルト岩(φ2)
3. 10YR 4/1 褐灰色 $V\text{層} - Ta-dL(\text{底}) = \text{シルト岩}(\phi 5 \sim)$
4. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 $Ta-dL = Ta-dP(\phi 1) = V\text{層}(\text{底})$
5. 10YR 3/1 黑褐色 $V\text{層} - \text{シルト岩}(\phi 5 \sim) = Ta-dL(\text{底})$
- $Ta-dP(\phi 2)$
6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 $Ta-dL = Ta-dP(\phi 2) - \text{シルト岩}(\phi 3 \sim)$
 $= V\text{層}(\phi-1)$
7. 10YR 2/1 黒色 $V\text{層} = Ta-dL(\phi-1)$
8. 10YR 6/4 にぶい黄褐色 $Ta-dL = Ta-dP(\phi 2) = V\text{層}(\phi-1)$
9. 10YR 5/2 灰黃褐色 $Ta-dL = V\text{層}(\phi-1)$
10. 10YR 3/1 黑褐色 $V\text{層} = Ta-dL(\text{底}) = Ta-dP(\phi 2)$

TP-28



図III-28 TP-27・28

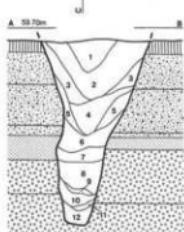
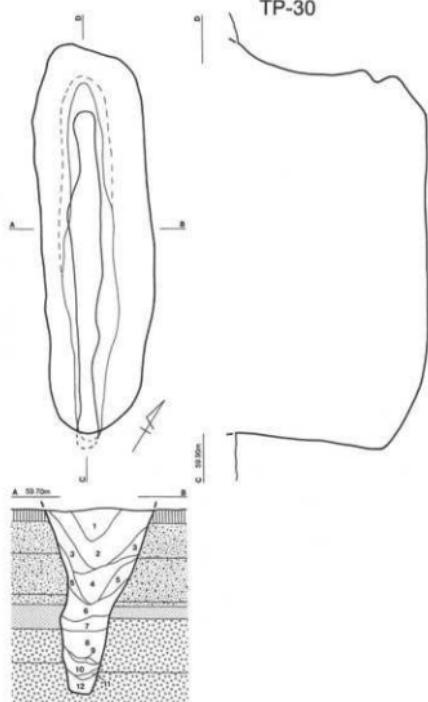
TP-29



TP-29

- | | | |
|--------------|---------|-----------------------------|
| 1. 10YR 5/3 | 暗褐色 | TardL = シルト層(φ10↓) = V層(現状) |
| 2. 10YR 2/1 | 黒色 | V層 = シルト層(φ30↓) = TardL(現状) |
| 3. 10YR 5/3 | 暗褐色 | V層 = TardL(現状)・シルト層(φ30↓) |
| 4. 10YR 4/3 | にぶい・黄褐色 | TardL = シルト層(φ10) = V層(現状) |
| 5. 10YR 6/4 | にぶい・黄褐色 | TardL = TardP(φ1) = V層(現状) |
| | | ・シルト層(φ1) |
| 6. 10YR 2/5 | 黒褐色 | V層 = シルト層(φ21↓) = TardL(現状) |
| 7. 10YR 4/6 | 褐色 | TardL = V層(現状) |
| 8. 10YR 3/4 | 暗褐色 | TardL = V層(現状)・シルト層(φ30↓) |
| 9. 10YR 4/6 | 褐色 | TardL = V層(現状)・シルト層(φ5) |
| 10. 10YR 3/3 | 暗褐色 | V層 = TardL(現状) = TardP(φ2) |

TP-30



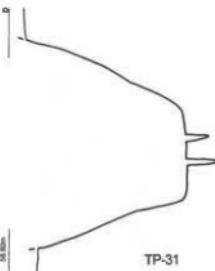
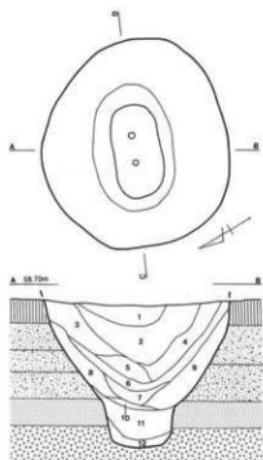
TP-30

- | | | |
|--------------|---------|---|
| 1. 10YR 2/2 | 黒褐色 | V層 = TardL(現状)・TardP(φ2)
= シルト層(φ5↓) |
| 2. 10YR 2/1 | 黒色 | V層 = シルト層(φ30↓) = TardL(現状)
・TardP(φ2) |
| 3. 10YR 4/2 | にぶい・黄褐色 | TardL = V層(現状)・シルト層(φ3) |
| 4. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V層 = TardL(現状) = シルト層(φ10) |
| 5. 10YR 5/5 | 黄褐色 | TardL = V層(現状)・シルト層(φ2) |
| 6. 10YR 5/8 | 黄褐色 | TardL = V層(現状)・シルト層(φ10) |
| 7. 10YR 5/4 | にぶい・黄褐色 | TardL = シルト層(φ5) = V層(現状) |
| 8. 10YR 6/6 | 明黄褐色 | TardP(φ1)・Tardスコリフ(φ2)
・TardP(φ5↓) |
| 9. 10BG 4/1 | 暗青灰色 | Tardスコリフ = TardL(現状)・TardP(φ2) |
| 10. 2.5Y 5/3 | 黄褐色 | TardL = Tardスコリフ(φ9) = TardP(φ2) |
| 11. 10BG 3/1 | 暗青灰色 | Tardスコリフ = TardL(現状) |
| 12. 7.5Y 4/6 | 褐色 | TardL = TardP(φ3) = V層(φ9) |



図III-29 TP-29・30

TP-31



TP-31

1. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = シルト層(δ5.1) = Tar-dL(0)→→ Tar-dP(δ5.1)
2. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = Tar-dP(δ10.1) = Tar-dL(0.8) = シルト層(δ2.1)
3. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(δ2.1) = Tar-dP(δ1.0)
4. 10YR 2/1 黒色 V層 = Tar-dL(0.8) - Tar-dP(δ2.1) + シルト層(δ2.1)
5. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = シルト層(δ10.1) = Tar-dL(0)
6. 10YR 3/4 暗褐色 Tar-dL = V層(δ8.0) = Tar-dP(δ2) + シルト層(δ2)
7. 10YR 4/1 暗灰色 V層 = Tar-dL(0.8) = Tar-dP(δ5.1) + シルト層(δ5.1)
8. 10YR 6/3 にぶい・黄褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ2) = V層(δ6.0)
9. 10YR 5/3 にぶい・黄褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ2) = 青灰色斑状
10. 10YR 2/3 黒褐色 V層 = Tar-dL(0)→→ Tar-dP(δ5.1)
11. 10YR 5/4 にぶい・黄褐色 Tar-dL = Tar-dスコリア(0)→→ Tar-dP(δ2)
12. 10BG 3/1 喬青灰色 Tar-dスコリア = V層(δ8.0) + Tar-dP(δ2.1)

TP-32

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(δ5.1) = Tar-dL(0)→→
2. 10YR 4/4 暗褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ2) = V層(δ4.0)
3. 10YR 5/6 黄褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ5.1) = V層(δ6.0)
4. 10YR 2/3 黑褐色 V層 = Tar-dL(0)→→ Tar-dP(δ5)
5. 10YR 5/4 にぶい・褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ5) = V層(δ6.0)
6. 10YR 4/3 にぶい・黄褐色 Tar-dL = 青灰色斑状(0)→→ Tar-dP(δ2)
7. 7.5TR 4/6 暗褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ5) = V層(δ6.0)
8. 10BG 4/1 喬青灰色 Tar-dスコリア = Tar-dL(0.8) = Tar-dP(δ2)
9. 2.5Y 6/6 明黄褐色 Tar-dL = Tar-dスコリア(δ8.0) + Tar-dP(δ2)
10. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = Tar-dL(0)→→ Tar-dP(δ2)
11. 7.5TR 4/6 暗褐色 Tar-dL = Tar-dP(δ5) = Tar-dスコリア(δ6.0)
12. 10YR 4/3 暗灰色 V層 = Tar-dL(0)→→ Tar-dP(δ2)

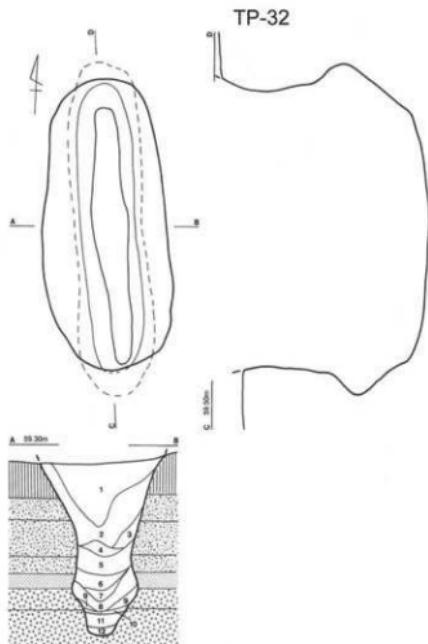
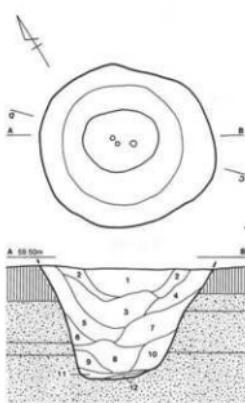
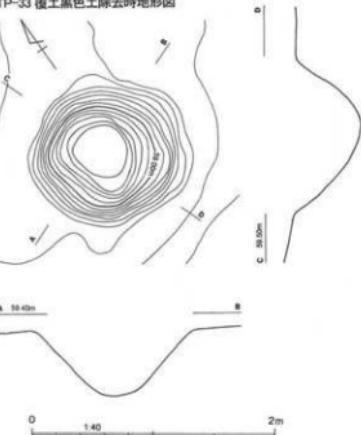


図 III-30 TP-31・32

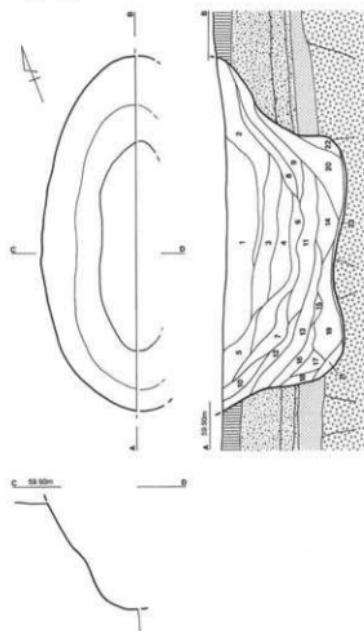
TP-33



TP-33 覆土黒色土除去時地形図



TP-34



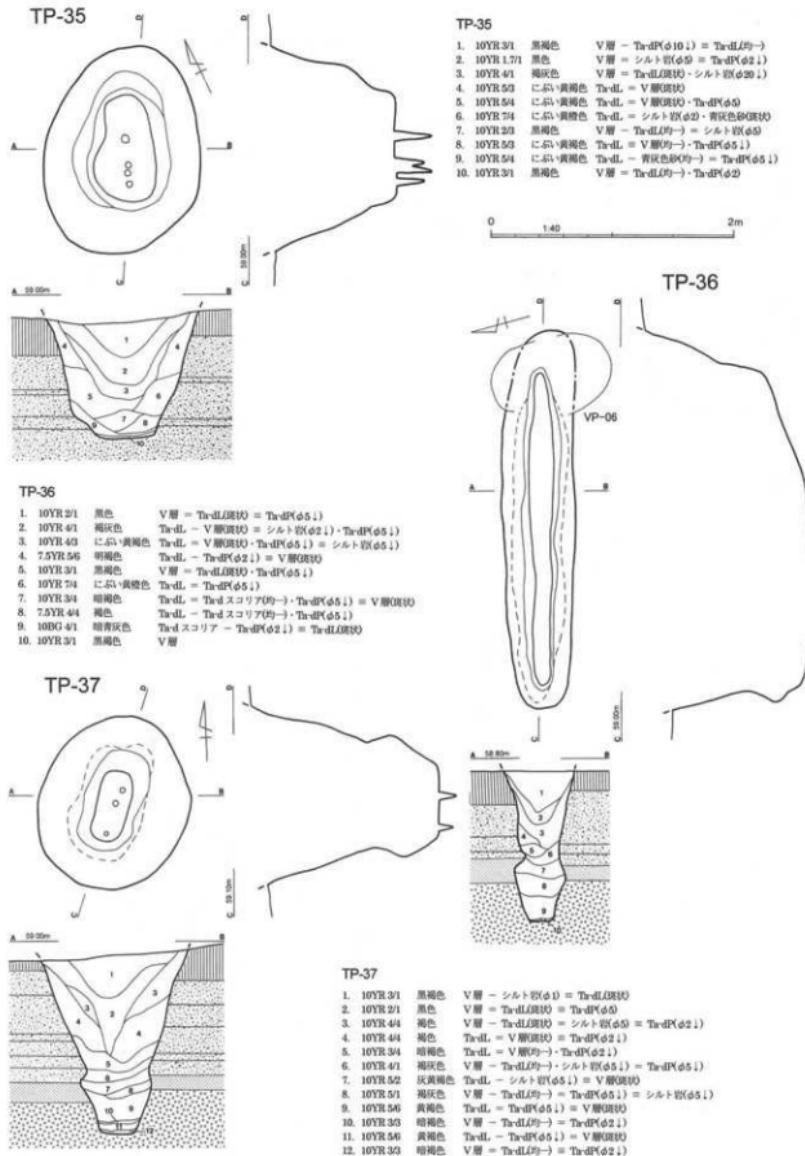
TP-33

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(φ51)・TrdL(φ31)
= TrdL・V層(状)
2. 10YR 1.7/1 黒色 V層 = TrdP(φ31)
3. 10YR 2/1 黒色 V層 = TrdP(φ31) = シルト層(φ10.1)
= TrdL(φ9)
4. 10YR 3/3 單褐色 V層 = TrdL(φ9) = シルト層(φ51)
, TrdP(φ51)
5. 10YR 3/3 單褐色 TrdL = V層(状) = シルト層(φ10.1)
6. 7.5YR 4/6 黄褐色 TrdL = TrdP(φ51) = V層(状)
7. 10YR 4/6 黄褐色 TrdL = TrdP(φ51)
8. 10YR 4/6 黄褐色 TrdL = V層(状) = シルト層(φ10.1)
9. 10YR 4/6 黄褐色 TrdL = TrdP(φ51)
10. 10YR 5/6 黄褐色 TrdL = TrdP(φ51) = シルト層(φ51)
11. 10YR 2/1 黒色 V層 = TrdL(φ51) = TrdP(φ2.1)
12. 10YR 5/6 黄褐色 TrdL = V層(状) = TrdP(φ51)

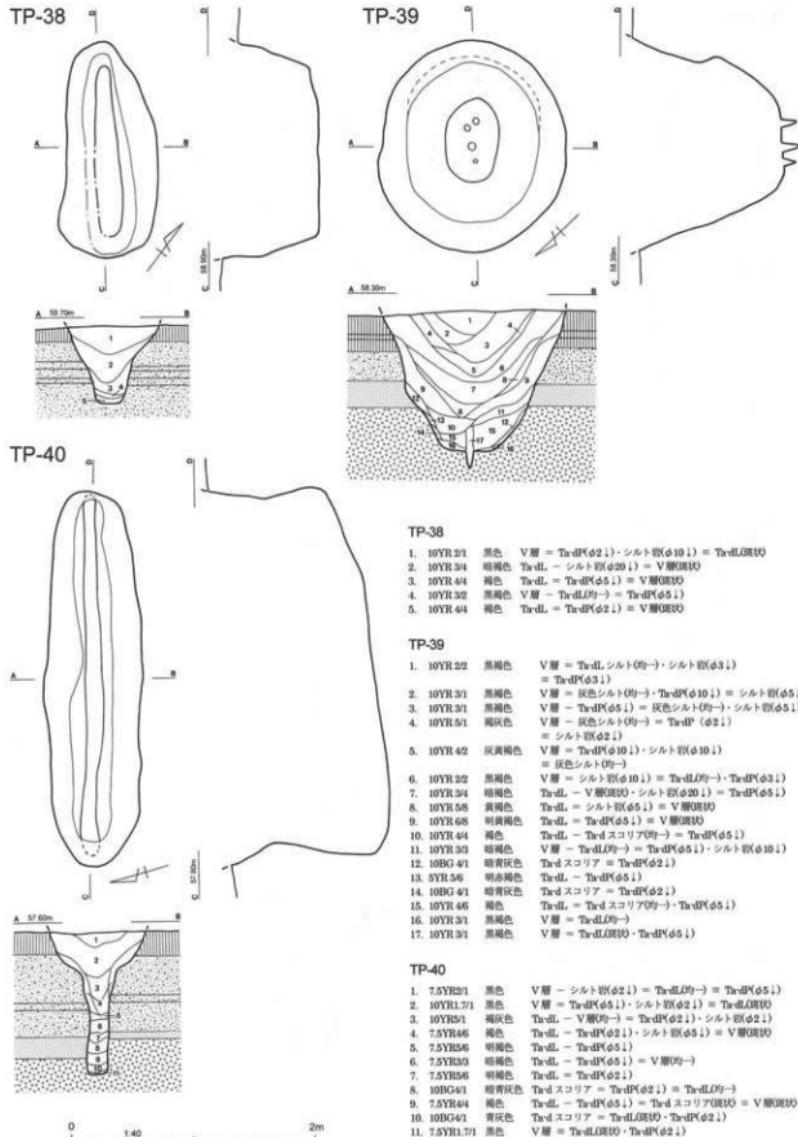
TP-34

1. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TrdP(φ2.1) = TrdL(φ9) = シルト層(φ51)
2. 10YR 2/1 黑色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ2.1)
, TrdP(φ2.1) = シルト層(φ2.1)
3. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = TrdL(φ51) = TrdL(φ9) = シルト層(φ51)
TrdL = TrdP(φ51) = シルト層(φ51)
4. 7.5YR 4/4 黄褐色 V層 = V層(状)
5. 10YR 3/3 單褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51) = シルト層(φ2.1)
6. 10YR 3/4 單褐色 V層 = V層(状) = TrdP(φ51)
7. 10YR 3/4 單褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51) = シルト層(φ2.1)
8. 10YR 2/2 黑褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51)
9. 10YR 2/1 黑褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51)
10. 10YR 2/1 黑色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ2.1) = シルト層(φ2.1)
11. 10YR 2/2 黑褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51)
12. 10YR 3/4 單褐色 TrdL = V層(状) = TrdP(φ2.1)
13. 10YR 3/4 單褐色 TrdL = V層(状) = TrdP(φ51)
14. 10YR 3/4 單褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51)
15. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = TrdL(φ9) = TrdP(φ51)
16. 7.5YR 4/6 黄褐色 TrdL = V層(状) = TrdP(φ2.1)
17. 10YR 4/3 にじみ黄褐色 TrdL = 青灰色(状) =
18. 7.5YR 4/4 黄褐色 TrdL = TrdP(φ51) = 青灰色(状)
19. 7.5YR 3/4 單褐色 TrdL = Trdスコリア(状) = TrdP(φ51) = V層(状)
20. 7.5YR 3/4 單褐色 TrdL = TrdP(φ51) = V層(状)
21. 2.5YR 4/1 黑褐色 V層 = Trdスコリア(状) = TrdP(φ51)
22. 10YR 4/1 單褐色 Trdスコリア = TrdL(状)
23. 2.5YR 3/1 單褐色 Trdスコリア = TrdL(状)

図III-31 TP-33・34

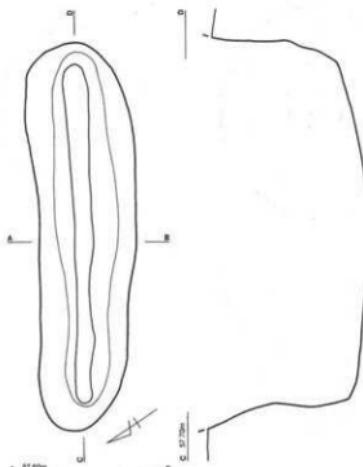


図III-32 TP-35~37



図III-33 TP-38~40

TP-41



TP-42

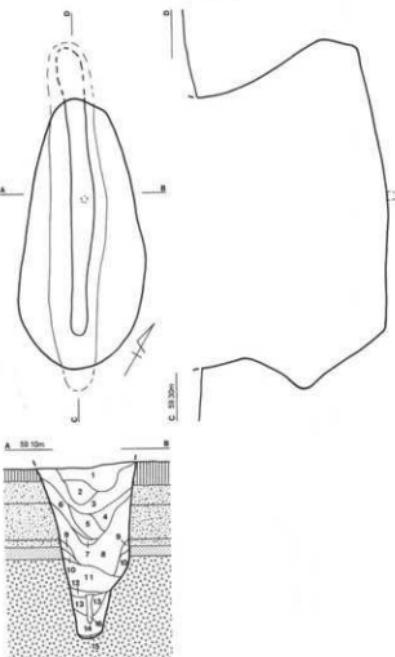
1. 10YR 2/1 黒色 V層 = TarDL(δ9-) · TarDP(δ51)
2. 10YR 22 黒褐色 V層 = TarDL(δ9-) · TarDP(δ51)
3. 10YR 2/1 黒色 = シルト岩(δ51)
4. 10YR 3/3 暗褐色 TarDL - V層(δ9) = TarDP(δ101)
5. 10YR 2/3 黒褐色 V層 = TarDL(δ9-) = TarDP(δ51)
6. 10YR 3/3 暗褐色 TarDL - V層(δ9) = TarDP(δ51)
7. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = TarDL(δ9-) = TarDP(δ51)
8. 7.5YR 4/6 黄褐色 TarDL = TarDP(δ51) = V層(δ51)
9. 10YR 5/4 黄褐色 TarDL = TarDP(δ51) = V層(δ51)
10. 10BG 5/1 黑灰色 TarDL = TarDP(δ51) = V層(δ51)
11. 10YR 5/1 黑灰色 TarDL = TarDP(δ51) = V層(δ51)
12. 7.5YR 4/1 黑褐色 TarDL = TarDP(δ51) = V層(δ51)
13. 7.5YR 4/4 黑褐色 TarDL = TarDP(δ51)
14. 7.5YR 4/6 黄褐色 TarDL = TarDP(δ101)
15. 10TR 3/1 黑褐色 V層 = TarDL(δ9-) · TarDP(δ21)
16. 10YR 4/1 黑灰色 V層 = TarDL(δ9)

0 1:40 2m

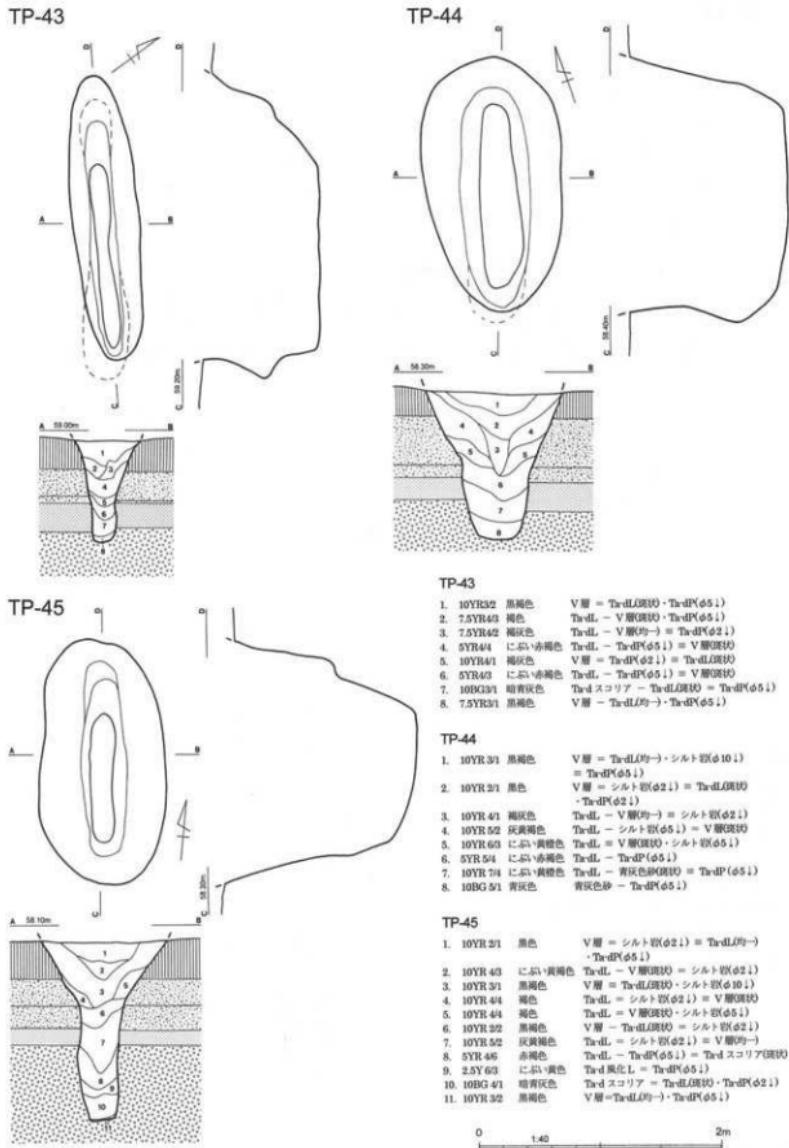
TP-41

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト岩(δ21) = TarDL(δ51)
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 TarDL = V層(δ9) = シルト岩(δ21)
3. 10YR 4/1 褐灰色 TarDL = V層(δ9) = シルト岩(δ51)
4. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TarDL(δ9-) · シルト岩(δ21) = TarDP(δ21)
5. 2.5Y 2/1 黒色 V層 = TarDL(δ9-) = シルト岩(δ21)
6. 10YR 4/2 灰黄褐色 TarDL = V層(δ9-) · シルト岩(δ21)
7. 7.5YR 4/4 黄褐色 TarDL = TarDP(δ51) = V層(δ51)
8. 10YR 5/2 灰黄褐色 TarDL = シルト岩(δ51) = V層(δ51)
9. 10BG 5/1 黑灰色 TarDL = TarD スコリア(δ9) = TarDP(δ21)
10. 10YR 5/1 黑灰色 TarDL = V層(δ9) · TarDP(δ51)
11. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 TarDL = TarDP(δ51) · TarD スコリア(δ9)
12. 7.5YR 4/3 黄褐色 TarDL = TarDL(δ9-) = TarD スコリア(δ9)
13. 7.5YR 2/1 黑褐色 V層 = TarDL(δ9) · TarDP(δ51)

TP-42

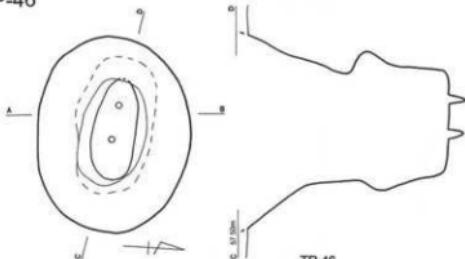


図III-34 TP-41・42



図III-35 TP-43~45

TP-46



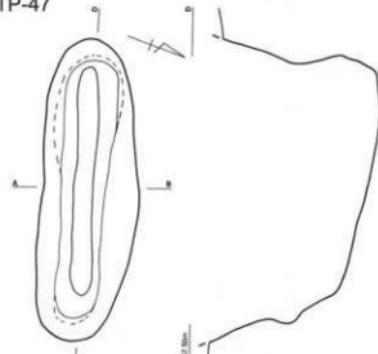
TP-46

1. 2.5YR 3/2 黒褐色 V層 = シルト層(φ2.1) = TardL(φ2.1)
2. 10YR 3/2 黒褐色 V層 = TardL(φ2.1)・TardP(φ2.1)・シルト層(φ2.1)
3. 7.5YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(φ10.1) = TardL(φ2.1)・TardP(φ2.1)
4. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = TardL(φ2.1)・シルト層(φ10.1) = TardP(φ2.1)
5. 10YR 4/6 棕褐色 Tr-dL = V層(φ3.0)・シルト層(φ2.1)・シルト層(φ2.1)
6. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = TardL(φ2.1)・シルト層(φ2.1)
7. 10YR 4/4 棕褐色 V層 = TardL(φ2.1)・青灰色層(φ2.1)・TardP(φ2.1)
8. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = TardL(φ2.1)・シルト層(φ2.1)
9. 10YR 3/2 棕褐色 Tr-dL = 青灰色層(φ2.1)・TardP(φ2.1)・シルト層(φ2.1)
10. 7.5GY 3/1 喀斯特灰岩 Tr-dL = Tard スコリア(φ9.1) = Tard 氧化 L斑状
11. 10YR 1.7/1 黑色 V層 = TardL(φ2.1)
12. 10YR 7/4 にじみ黄褐色 Tr-dL = シルト層(φ2.1) = Tard スコリア(φ9.1)
13. 10YR 4/1 棕褐色 V層 = TardL(φ2.1)・Tard スコリア(φ9.1)・シルト層(φ10.1)

TP-47



TP-47

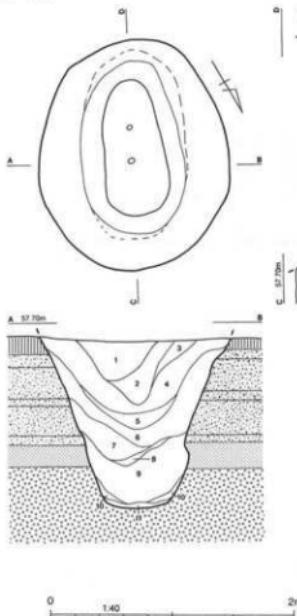


TP-47

1. 2.5YR 3/2 黒褐色 V層 = TardL(均一) = TardP(φ2.1)
2. 10YR 2/1 黒色 V層 = TardL(均一)・シルト層(φ5.1)
3. 10YR 4/1 棕褐色 V層 = TardL(均一)・シルト層(φ5.1) = TardP(φ2.1)
4. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(φ10.1) = TardL(φ2.1)
5. 7.5YR 4/6 棕褐色 Tr-dL = V層(φ3.0)・シルト層(φ2.1)
6. 2.5YR 6/4 にじみ黄色 TardL(均一) = TardN(φ2.1)
7. 10YR 5/1 黒褐色 Tr-dL = V層(均一)・シルト層(φ5.1)
8. 5YR 3/6 喀斯特褐岩 Tr-dL = Tard(φ5.1) = V層(喀斯特)・TardP(φ2.1)
9. 2.5YR 6/4 にじみ黄色 Tr-dL = Tard スコリア(均一) = シルト層(φ2.1)
10. 10BG 5/1 棕褐色 Tr-dL = Tard スコリア = TardL(均一)・TardP(φ5.1)・シルト層(φ5.1)
11. 2.5Y 2/1 黑褐色 V層 = TardL(均一)・TardP(φ5.1)
12. 2.5Y 4/2 喀斯特黄色 Tr-dL = Tard スコリア(均一) = TardP(φ5.1)
13. 10BG 5/1 棕褐色 Tr-dL = TardL(均一)・TardP(φ5.1)
14. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = TardL(均一)・TardP(φ5.1)

図III-36 TP-46・47

TP-48



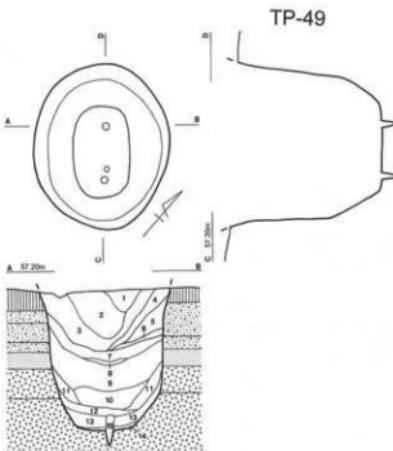
TP-48

1. 7.SYR 3/1 黒褐色 V層 = シルト岩(φ2.1) = TardL(φ9→)
2. 7.SYR 3/1 黒褐色 V層 = TardP(φ10.1) = TardL(φ9→) = シルト岩(φ5.1)
3. 10YR 4/4 褐色 TardL = TardP(φ10.1) = V層(φ10)・シルト岩(φ10.1)
4. 10YR 2/1 黒色 V層 = TardL(薄焼)・TardP(φ5.1)・シルト岩(φ10.1)
5. 10YR 5/1 濃灰色 V層 = TardL(φ9→)
6. 10YR 4/4 灰黄褐色 TardL = V層(薄焼)・シルト岩(φ2.1)
7. 10YR 4/2 黄褐色 TardL = TardP(φ10.1)
8. 10YR 4/1 濃灰色 TardL = V層(φ9→)
9. 5YR 4/3 にじみ褐色 TardL = TardP(φ10.1) = V層(薄焼)
10. 10BG 3/1 明青灰色 TardP スコリア = TardL(φ9→)
11. 10YR 3/2 黒褐色 V層 = TardL(φ9→)

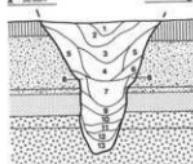
TP-49

1. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = TardP(φ5.1)・シルト岩(φ2.1)
= TardL(φ9→)
2. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = TardP(φ20.1) = シルト岩(φ2.1)
= TardL(φ9→)
3. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト岩(φ2.1) = TardL(薄焼)
= TardP(φ2.1)
4. 7.SYR 3/1 黒褐色 V層 = TardL(φ9→)・シルト岩(φ2.1)
= TardP(φ2.1)
5. 7.SYR 4/3 褐色 TardL = V層(薄焼)・TardP(φ2.1)
6. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = TardL(φ9→)・TardP(φ5.1)
7. 7.SYR 5/4 にじみ褐色 TardL = TardP(φ5.1) = V層(薄焼)
・シルト岩(φ5.1)
8. 7.SYR 2/2 黒褐色 V層 = TardL(薄焼)・TardP(φ5.1)
・シルト岩(φ5.1)
9. 2.5Y 6/3 にじみ黄色 TardL = TardP(φ5.1) = V層(薄焼)
10. 7.SYR 4/2 灰褐色 TardL = V層(薄焼)・TardP(φ5.1)
11. 10BG 5/1 青灰色 TardP スコリア = TardP(φ5.1) = TardL(薄焼)
12. 5YR 1/1 にじみ赤褐色 TardL = TardP(φ5.1) = V層(薄焼)
13. 5YR 4/4 にじみ赤褐色 TardL = TardP(φ5.1) = V層(薄焼)
14. 10YR 3/1 黒褐色 V層 = TardL(φ9→) = TardP(φ5.1)
15. 10YR 4/1 濃灰色 V層 = TardL(φ9→) = TardP(φ5.1)

図III-37 TP-48・49

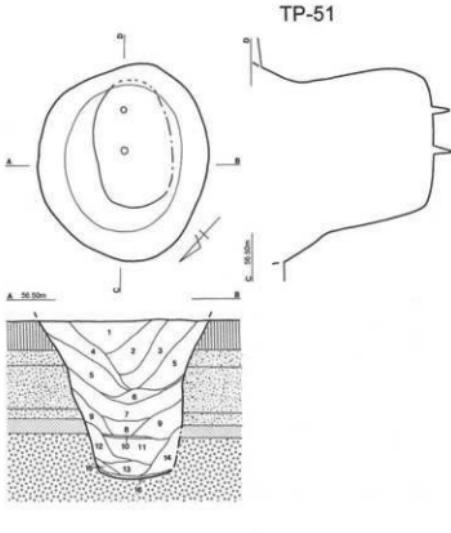


TP-50



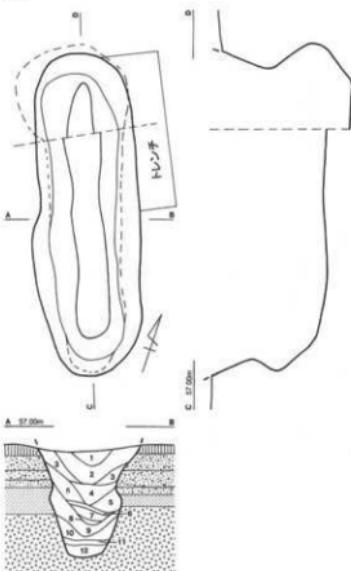
0 2m

TP-51



図III-38 TP-50・51

TP-52

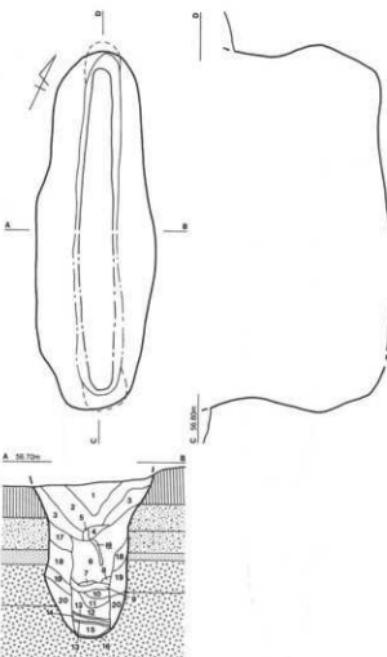


TP-52

1. 10YR 3/5 暗褐色 V層 = TardL(B5) → TardP(φ10↓)
2. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト段(φ25↓)
3. 7.5YR 4/6 褐色 TardL = シルト段(φ10↓) = V層(現状)
4. 10YR 2/1 黒色 V層 = TardL(B5) → TardP(φ5↓)
5. 10YR 4/2 暗黄褐色 TardL = シルト段(φ25↓) = V層(現状)
6. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TardL(B5) → シルト段(φ10↓)
7. 7.5YR 4/6 褐色 TardL = シルト段(φ10↓) = V層(現状)
8. 10YR 2/1 黒色 V層 = TardL(B5) → シルト段(φ25↓)
9. 7.5YR 5/8 明褐色 TardL = TardP(φ10↓)
10. 10BG 3/1 暗青灰褐色 Tardスコリア = TardL(B5)
11. 10YR 1/7I 黑色 V層 = TardL(B5) → Tardスコリア(現状)
12. 10BG 3/1 暗青灰色 Tardスコリア = TardL(B5) → TardP(φ25↓)

0 1.40 2m
1.50m

TP-53

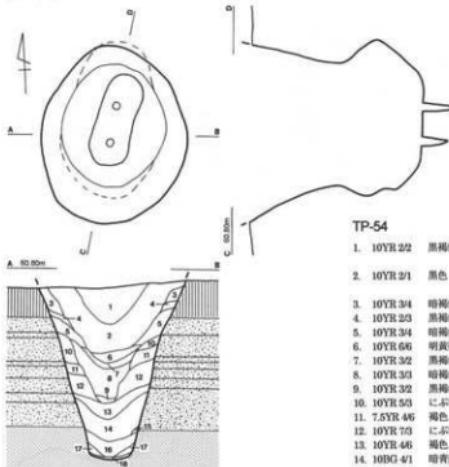


TP-53

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = TardL(B5) = TardP(φ2↓)
- シルト段(φ1↓)
2. 10YR 1.7I 黑色 V層 = TardP(φ5↓) - シルト段(φ1↓)
3. 10YR 3/4 暗褐色 TardL = V層(現状) - シルト段(φ10↓)
= TardP(φ2↓)
4. 10YR 2/3 黑褐色 V層 = TardL(B5) = TardP(φ2↓)
5. 10YR 4/4 褐色 TardL = V層(現状) - シルト段(φ2↓)
6. 7.5YR 5/4 にじみ、黃褐色 TardL = V層(現状) = TardP(φ5↓)
7. 10YR 2/1 黑色 V層 = TardL(B5)
8. 10YR 4/2 暗黄褐色 TardL = Tardスコリア(現状) = シルト段(φ2↓)
9. 10YR 4/3 にじみ、黃褐色 TardL = V層(現状) = シルト段(φ1↓)
10. 10YR 7/5 にじみ、黃褐色 TardL = V層(現状) = シルト段(φ1↓)
11. 10BG 6/1 青灰色 Tardスコリア = TardL(B5) = TardP(φ5↓)
12. 10YR 4/4 褐色 TardL = TardP(φ5↓) = Tardスコリア(現状)
13. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = TardL(B5) = TardP(φ2↓)
14. 10YR 3/4 暗褐色 TardL = V層(現状) = TardP(φ2↓)
15. 10YR 4/6 褐色 TardL = V層(現状) = TardP(φ5↓)
16. 10YR 2/3 黑褐色 V層 = TardL(B5)
17. 10YR 5/6 黄褐色 TardL = TardP(φ5↓)
18. 10YR 6/8 明褐色 TardL = TardP(φ5↓)
19. 10BG 5/1 青灰色 Tardスコリア
20. 10YR 7/8 黄褐色 Tardスコリア = TardP(φ10↓)

図III-39 TP-52・53

TP-54

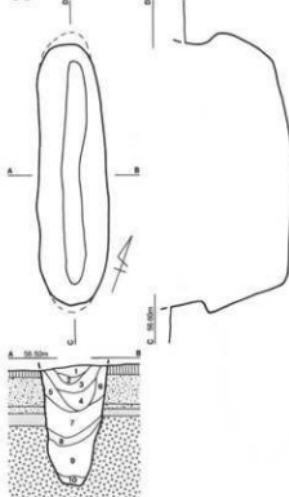


TP-54

V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$) → TardP(φ5.1)
= シルトV层(φ10.1)
V層 = シルトV层(φ5.1) = TardL(D $\frac{1}{2}$) →
TardP(φ5.1)

TardL = V層頂状
V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$)
TardL = V層頂状・シルトV层(φ5.1)
Tard風化L = V層頂状・TardP(φ5.1)
V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$) → TardP(φ5.1)
TardL = V層(φ10.1) → TardP(φ5.1)
V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$) → TardP(φ5.1)
TardL = シルトV层(φ5.1)
TardL = シルトV层(φ5.1) → TardP(φ10.1)
Tard風化L = 青灰色(砂質)
Tard風化L = シルトV层(φ5.1)
Tard風化L = TardL(D $\frac{1}{2}$) → TardP(φ10.1)
Tard風化L = TardP(φ5.1)
Tardスコリア
V層 = Tardスコリア(砂質) = TardL(D $\frac{1}{2}$) →
Tardスコリア
V層 = TardP(φ5.1)

TP-55

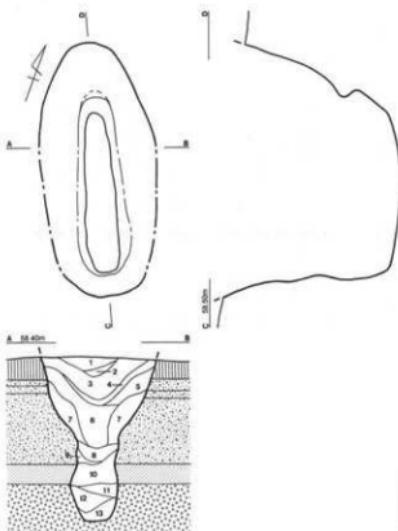


TP-55

V層 = シルトV层(φ2.1)
V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$) = シルトV层(φ2.1)
- TardP(φ2.1)
V層 = シルトV层(φ5.1) = TardL(D $\frac{1}{2}$)
V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$) = TardP(φ2.1)
- シルトV层(φ2.1)
V層 = TardL(D $\frac{1}{2}$) = TardP(φ1.1)
- シルトV层(φ5.1)
TardL = V層(砂質) - TardP(φ5.1)
TardL = V層(砂質) - TardP(φ5.1)
Tardスコリア = TardL(D $\frac{1}{2}$)
V層 - Tardスコリア(砂質) - シルトV层(φ5.1)
V層 - Tardスコリア(砂質) - TardP(φ5.1)

図III-40 TP-54・55

TP-56



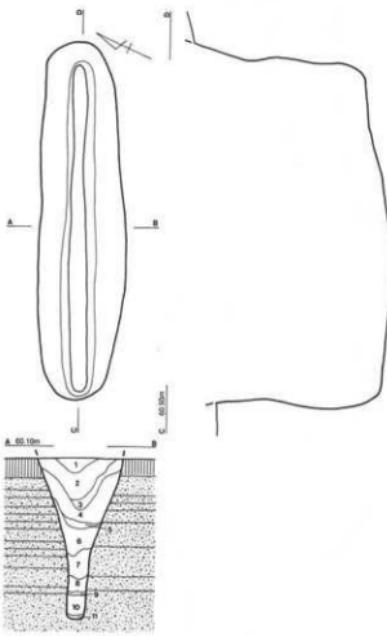
TP-57

1. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = シルト岩(φ51) = Tardl(L均→)
2. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト岩(φ51)
3. 10YR 3/2 黒褐色 V層 = Tardl(L均) = シルト岩(φ51)
4. 10YR 3/4 暗褐色 Tardl = V層(砂質)・シルト岩(φ31)
= Tardp(φ31)
5. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = Tardl(L均)・シルト岩(φ51)
= Tardp(φ51)
6. 10YR 4/6 褐色 Tardl = 黄褐色(砂質) = シルト岩(φ51)
= Tardp(φ51)
7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 Tardl + 褐灰色(砂質) = シルト岩(φ51)
8. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 V層 = Tardl(L均) = Tardp
9. 10YR 3/3 黑褐色 Tardl = 黄褐色(砂質) = Tardp(φ51)
10. 10YR 4/4 褐色 .シルト岩(φ51) しまり弱
11. 10YR 3/3 黑褐色 V層 = Tardl(L均→) = シルト岩(φ51)
= Tardp(φ31) 稼働強

TP-56

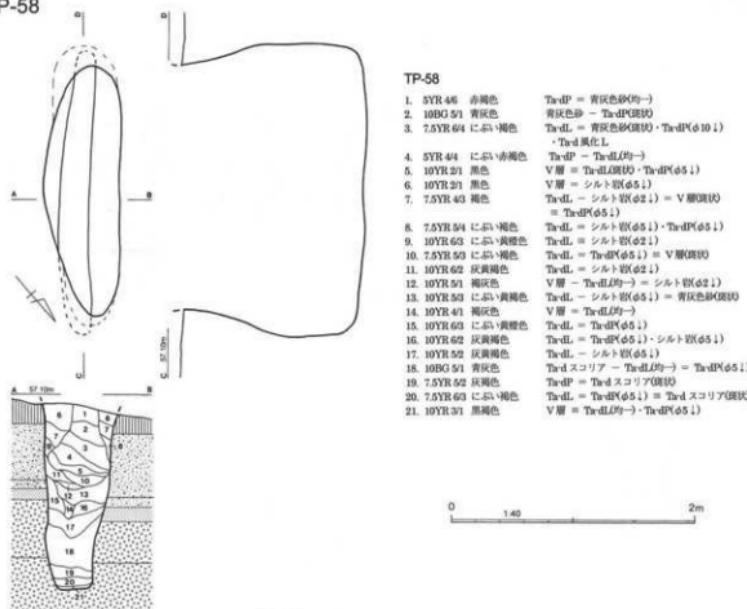
1. 10YR 2/1 黒色
Tardl - V層(砂質) = Tardp(φ51)
2. 10YR 5/4 黄褐色
V層 = シルト岩(φ10.1) = Tardl(L均)
3. 10YR 2/1 黒褐色
V層 = Tardl(L均) = シルト岩(φ10.1)
4. 10YR 2/3 黑褐色
Tardl = V層(砂質) = Tardp(φ5.1)
5. 7.5YR 4/4 褐色
Tardl = Tardp(φ10.1)
6. 10YR 5/6 黄褐色
Tardl = Tardp(φ5.1)
7. 5YR 4/8 褐褐色
Tardl = Tardp(φ10.1)
8. 10YR 5/6 黄褐色
Tardl = Tardp(φ5.1)
9. 5YR 4/8 褐褐色
Tardl = Tardp(φ10.1)
10. 5YR 4/8 褐褐色
Tardl = Tardp(φ5.1)
11. 10YR 5/2 黄褐色
V層 = シルト岩(φ5.1)
12. 5YR 4/4 にぶい黄褐色
Tardl = Tardl(スコリア)断続
· Tardp(φ10.1)
13. 10YR 5/1 褐灰色
Tardl スコリア = V層(砂質)
· Tardp(φ5.1)

TP-57

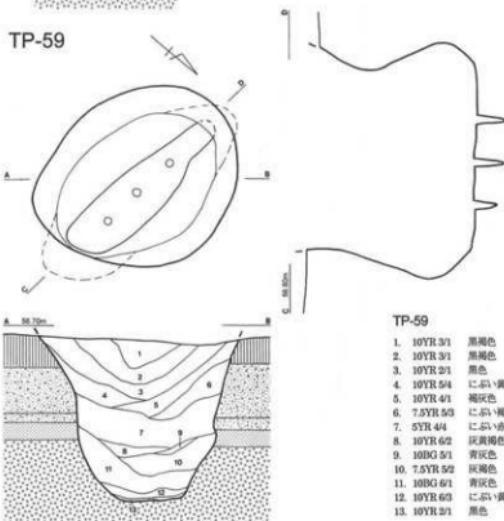


図III-41 TP-56・57

TP-58

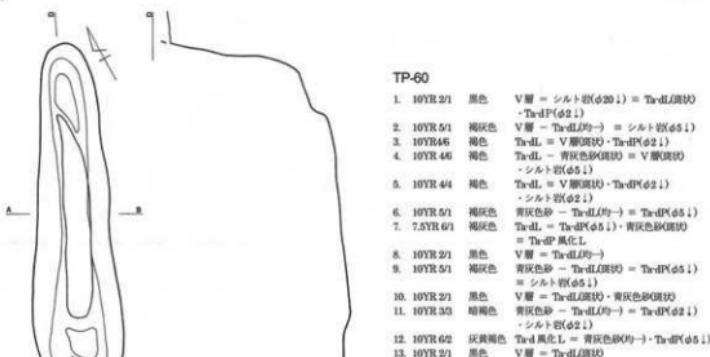


TP-59

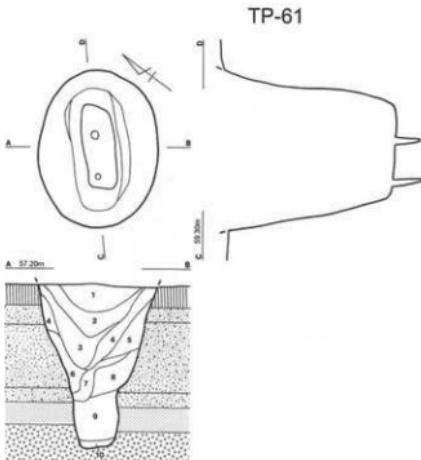


図III-42 TP-58・59

TP-60

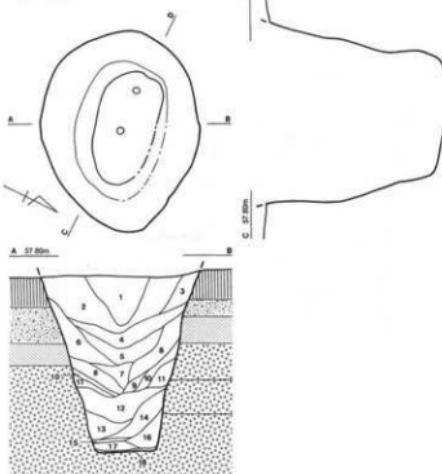


TP-61



図III-43 TP-60・61

TP-62



TP-62

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = TrdIP(φ10 1) → - シルト岩(φ10 1)
2. 10YR 2/1 黒色 V層 = TrdIP(φ2 1) → - シルト岩(φ2 1)
3. 10YR 3/3 暗褐色 TrdL = V層(固状) = シルト岩(φ2 1)
4. 10YR 3/4 暗褐色 V層 = TrdIP(φ2 1)
5. 10YR 3/5 暗褐色 TrdL = TrdIP(φ2 1) = V層(均一)
6. 10YR 4/4 褐色 V層 = TrdIP(φ2 1) → - シルト岩(φ10 1)
7. 10YR 3/3 暗褐色 V層 = TrdIP(φ2 1) = シルト岩(φ5 1)
8. 10YR 4/6 褐色 TrdL = TrdIP(φ5 1) → - Trd スコリニア(Φ5 1)
9. 10YR 3/4 暗褐色 TrdL = シルト岩(φ2 1)
10. 10BG 4/1 暗褐色 Trd スコリニア = TrdIP(Φ5 1) → - シルト岩(Φ2 1)
11. 7.5YR 4/1 褐色 TrdL = Trd スコリニア(Φ5 1)
12. 10YR 3/4 明褐色 V層 = TrdIP(Φ5 1) → - シルト岩(Φ5 1) = Trd スコリニア(Φ5 1)
13. 10YR 7/6 明褐色 TrdIP 黒色 L = TrdIP(Φ2 1) → - Trd スコリニア(Φ2 1)
14. 7.5YR 4/4 褐色 TrdP = Trd スコリニア(Φ5 1)
15. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TrdIP(Φ2 1)
16. 10YR 4/4 褐色 TrdP = Trd スコリニア(Φ5 1)
17. 10TR 5/6 黄褐色 TrdIP 黑色 L = TrdIP(Φ5 1) → - Trd スコリニア(Φ5 1)
18. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TrdIP(Φ2 1)

TP-63

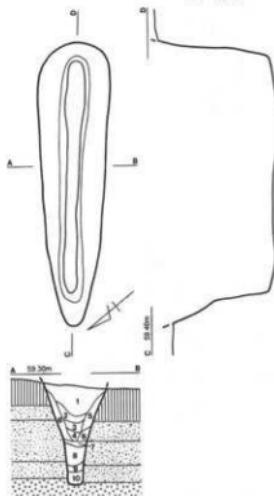
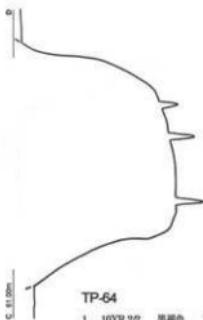
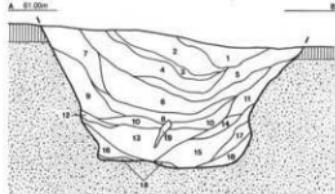
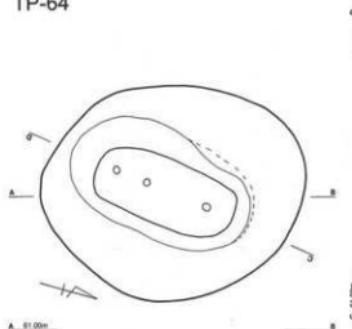


図 III-44 TP-62・63

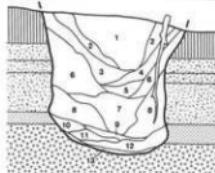
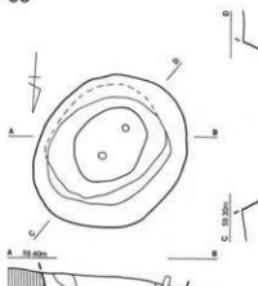
TP-64



TP-64

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 10YR 2/2 黒褐色 | V層 - シルト段(φ10.1) = TardLφ9→-TardP(φ5.1) |
| 2. 10YR 6/8 黄褐色 | TardL = TardP(φ5.1) = シルト段(φ20.1) |
| 3. 10YR 2/3 黒褐色 | V層 = TardLφ9→-TardP(φ5.1) = シルト段(φ3.1) |
| 4. 7.5YR 5/6 明褐色 | TardL = TardP(φ5.1) + シルト段(φ3.1) = TardLφ10 |
| 5. 10YR 2/1 黒色 | V層 = TardLφ9→-TardP(φ5.1) |
| 6. 7.5YR 3/2 黒褐色 | V層 = TardLφ10→-TardP(φ10.1) |
| 7. 10YR 2/2 黒褐色 | V層 = TardLφ9→-TardP(φ5.1) |
| 8. 7.5YR 4/9 褐色 | TardL = V層(段) = TardP(φ5.1) = シルト段(φ5.1) |
| 9. 7.5YR 3/3 明褐色 | TardL = V層(段) + シルト段(φ3.1) = TardP(φ3.1) |
| 10. 7.5YR 2/2 黒褐色 | V層 = TardLφ9→-TardP(φ10.1) |
| 11. 7.5YR 4/6 黃褐色 | TardL = TardP(φ5.1) = シルト段(φ3.1) |
| 12. 10YR 1/6 黑色 | TardL = TardLφ10→-TardP(φ5.1) |
| 13. 7.5YR 4/6 黃褐色 | TardL = TardP(φ5.1) = シルト段(φ5.1) = V層(段) |
| 14. 10YR 1/3 黑色 | V層 = TardP(φ10.1) |
| 15. 7.5YR 3/4 單褐色 | TardL = V層(段) = TardP(φ10.1) |
| 16. 7.5YR 5/6 明褐色 | TardL = TardP(φ5.1) |
| 17. 10YR 6/8 明黃褐色 | TardL = V層(段) |
| 18. 10YR 3/2 黑褐色 | V層 = TardLφ9→-TardP(φ5.1) |
| 19. 10YR 2/1 黑褐色 | V層 = TardLφ10 = TardP(φ5.1) + シルト段(φ5.1) |

TP-65

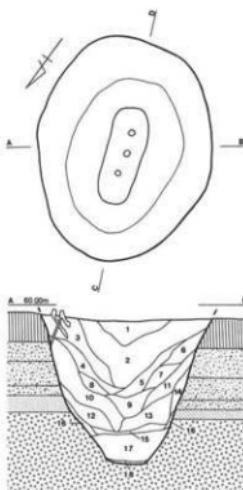


TP-65

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 10YR 3/1 黑褐色 | V層 - シルト段(φ2.1) = TardLφ→-TardP(φ2.1) |
| 2. 10YR 2/1 黑色 | V層 = TardLφ10 = シルト段(φ2.1) |
| 3. 10YR 3/1 黑褐色 | V層 = TardLφ10 = TardP(φ5.1) + シルト段(φ2.1) |
| 4. 10YR 4/2 灰黃褐色 | TardL = V層(段) = TardP(φ5.1) + シルト段(φ2.1) |
| 5. 7.5YR 5/4 ぶら・褐色 | TardL = TardP(φ2.1) = V層(段) |
| 6. 10YR 6/3 ぶら・黄褐色 | TardL = 青灰色段(段) = TardP(φ2.2) |
| 7. 7.5YR 4/1 海灰色 | V層 = TardLφ10 = TardP(φ10.1) |
| 8. 10YR 5/2 灰黃褐色 | TardL + シルト段(φ5.1) = 青灰色段(段) = TardP(φ5.1) |
| 9. 10YR 3/1 黑褐色 | V層 = TardLφ10 = TardP(φ5.1) |
| 10. 10BG 4/1 單褐色 | Tardスクリア = TardP(φ2.1) = TardLφ10 |
| 11. 10YR 6/4 ぶら・黄褐色 | Tardスクリア = Tardスクリア段 |
| 12. 10BG 4/1 單褐色 | Tardスクリア = TardLφ10 = TardP(φ5.1) |
| 13. 7.5YR 4/1 海灰色 | TardP(φ5.1) = V層(段) |

図III-45 TP-64・65

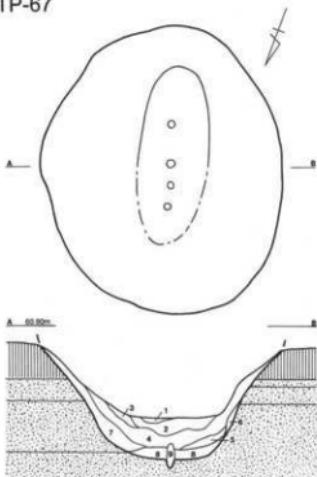
TP-66



TP-66

- | | | |
|---------------|--------|---|
| 1. 10YR 2/1 | 黑色 | V 層 = TrdP(δ51) |
| 2. 7.5YR 3/1 | 黒褐色 | = TrdL(OR3) シルト(δ10↓) |
| 3. 10YR 1.7/1 | 黑色 | V 層 = TrdL(OR3) |
| 4. 7.5YR 4/6 | 褐色 | TrdL = V 厚斑状
- TrdP(δ51) |
| 5. 10YR 1.7/1 | 黑色 | V 層 = TrdL(OR3)
- TrdP(δ21) |
| 6. 7.5YR 4/3 | 褐色 | TrdL = シルト層(δ21)
= V 厚斑状 - TrdP(δ51) |
| 7. 10YR 5/1 | 褐灰色 | TrdL = V 厚斑状
= シルト層(δ1) |
| 8. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V 層 = TrdL(δ1) |
| 9. 7.5YR 2/3 | 極暗褐色 | TrdL = V 厚斑状
- TrdP(δ21) |
| 10. 5YR 3/4 | 暗赤褐色 | TrdL = V 厚斑状
- TrdP(δ10↓) |
| 11. 5YR 4/4 | にじみ赤褐色 | TrdL = TrdP(δ51)
= V 厚斑状 |
| 12. 7.5YR 6/4 | にじみ褐色 | TrdL = TrdP(δ51)
= V 厚斑状 |
| 13. 7.5YR 2/2 | 黒褐色 | V 層 = シルト(δ610↓)
= TrdL(δ10↓) |
| 14. 10YR 5/5 | にじみ黄褐色 | TrdL = TrdP(δ51)
= V 層 = TrdL(δ10↓) |
| 15. 7.5YR 2/1 | 黑色 | = TrdP(δ51) |
| 16. 10BG 4/1 | 暗青灰色 | TrdL = クリオリ - TrdL(OR3)
= TrdP(δ21) |
| 17. 10YR 5/2 | 灰黃褐色 | TrdL = TrdL スクリップ(δ10↓)
= TrdP(δ51) |
| 18. 7.5YR 3/1 | 黒褐色 | V 層 = TrdL(OR3) シルト(δ21) |

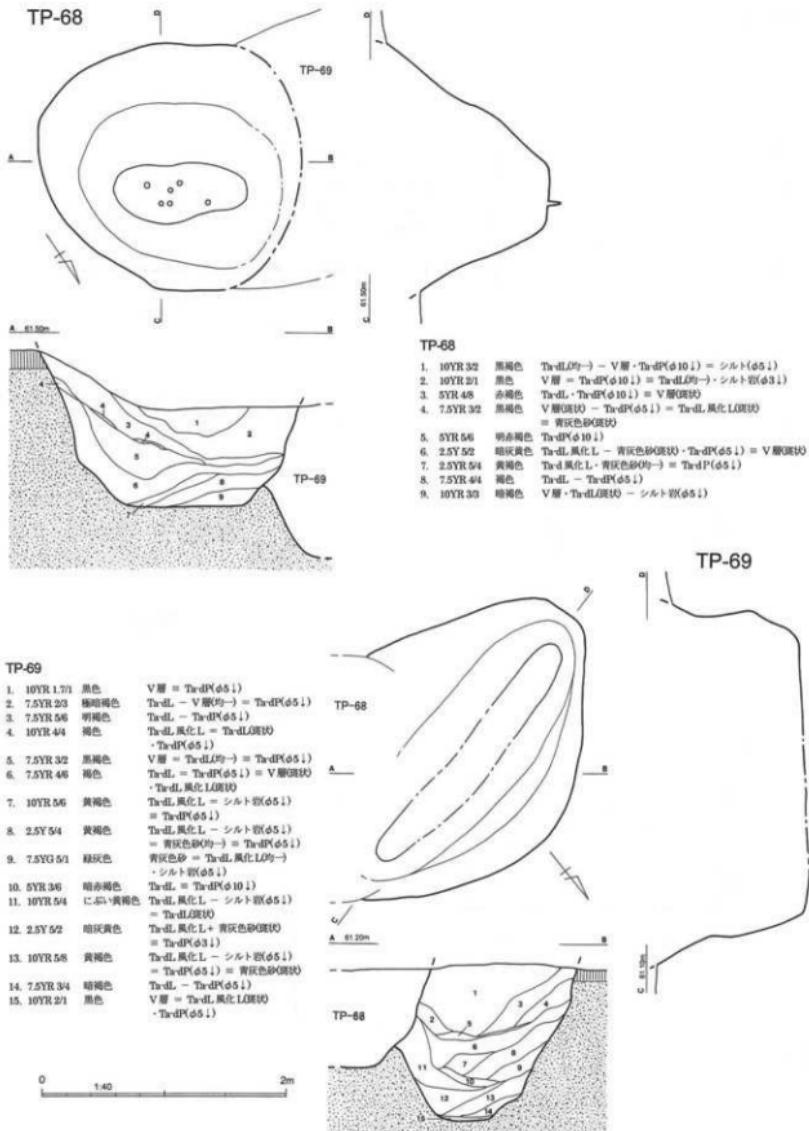
TP-67



TP-67

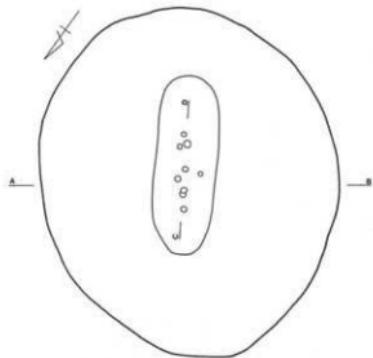
- | | | |
|--------------|--------|--|
| 1. 10YR 5/3 | にじみ黄褐色 | TrdL = TrdP(δ51) シルト(δ51)
= V 厚斑状 |
| 2. 10YR 4/1 | 褐灰色 | V 層 = TrdL(δ10↓) - TrdP(δ51)
= シルト(δ51) |
| 3. 10YR 4/2 | 灰黃褐色 | TrdL = V 厚斑状 |
| 4. 10YR 5/3 | にじみ黄褐色 | TrdL = シルト(δ51) = V 厚斑状
- TrdP(δ51) |
| 5. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V 層 = シルト(δ21) = TrdL(δ10↓)
- TrdP(δ21) |
| 6. 5YR 4/6 | 赤褐色 | TrdP = 青灰色砂礫(δ1)
シルト(δ51) |
| 7. 10YR 5/3 | にじみ黄褐色 | = TrdL(δ51) |
| 8. 10YR 5/2 | 灰黃褐色 | TrdL = V 厚斑状 - シルト(δ51)
= TrdP(δ21) |
| 9. 7.5YR 4/1 | 褐灰色 | TrdL = V 厚斑状 - シルト(δ51) |

図III-46 TP-66・67



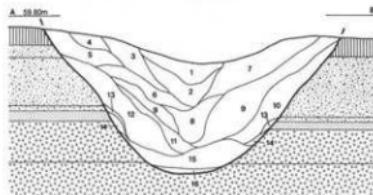
図III-47 TP-68・69

TP-70



TP-70

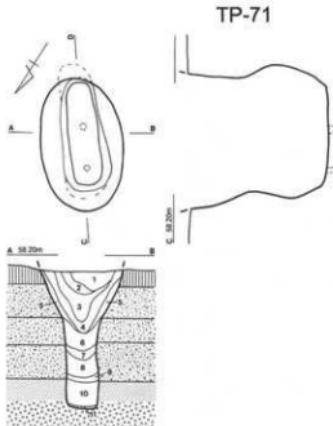
1. 10YR 3/1 黒褐色
= シルト岩(φ21)
V層 = TarDL(φ9) - TarDP(φ51)
2. 10YR 2/1 黒色
V層 = TarDL(φ9) - シルト岩(φ21)
3. 10YR 3/1 黒褐色
V層 = TarDL(φ9) - TarDP(φ101)
4. 10YR 6/6 明黄色
TarDL = V層(底) - TarDP(φ51)
= シルト岩(φ21)
5. 10YR 2/1 黑褐色
V層 = TarDL(φ9) - シルト岩(φ21)
6. 10YR 4/1 灰褐色
V層 = TarDL(φ9) - TarDP(φ51)
7. 10YR 5/4 にぶ・黄褐色
TarDL = V層(底) - TarDP(φ101)
= シルト岩(φ101)
8. 10YR 4/1 灰褐色
V層 = TarDL(φ9) = シルト岩(φ21)
9. 10YR 2/1 黒色
V層 = TarDL(φ9) - TarDP(φ51)
10. 10YR 5/4 にぶ・黄褐色
TarDL = V層(底) - シルト岩(φ51)
= TarDP(φ21)
11. 10YR 3/1 黑褐色
V層 = TarDL(φ9) = シルト岩(φ51)
12. 7.5YR 4/6 棕褐色
TarDL = TarDP(φ51) = V層(底)
13. 2.5Y 5/4 浅黄色
TarDL = Tarスクリア(φ60) = TarDP(φ51)
14. 10BG 4/1 暗青灰色
Tarスクリア = Tar(φ51)
15. 7.5YR 4/2 反褐色
TarDL = V層(底) - TarDP(φ51)
16. 10YR 4/1 棕褐色
V層 = TarDL(φ9) = TarDP(φ51)
- シルト岩(φ51)



TP-71

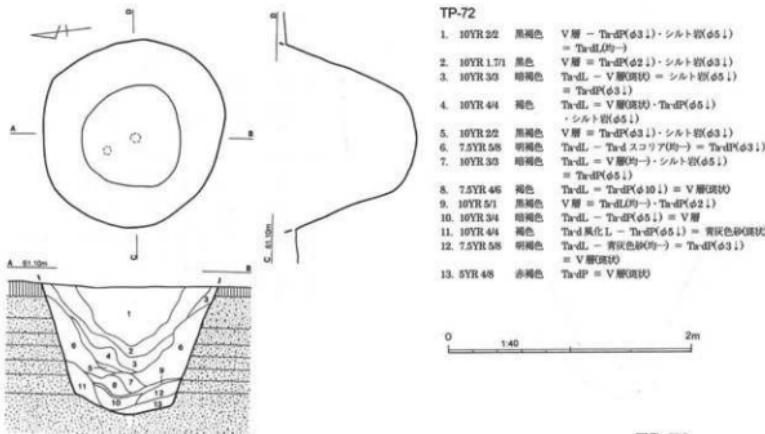
1. 10YR 2/1 黑色
V層 = シルト岩(φ21) = TarDL(φ9)
にぶ・黄褐色 TarDL = TarDP(φ21) = V層(底)
2. 10YR 5/4 黑褐色
V層 = シルト岩(φ30) = TarDL(φ9)
3. 10YR 2/1 黑色
V層 = TarDL(底) = シルト岩(φ101)
4. 10YR 4/1 灰灰色
V層 = TarDL(底) = シルト岩(φ51)
5. 10YR 5/3 にぶ・黄褐色
TarDL = V層(底) - シルト(φ51)
- シルト岩(φ30)
6. 10YR 5/3 にぶ・黄褐色
TarDL = V層(底) - TarDP(φ21)
7. 10YR 4/1 灰灰色
V層 = TarDL(φ9) - シルト(φ51)
8. 10YR 5/2 灰黄褐色
TarDL = シルト岩(φ51) = V層(底)
9. 10YR 3/1 黑褐色
V層 = TarDL(底) = シルト岩(φ21) = V層(底)
10. 10YR 5/2 灰黄褐色
TarDL = シルト岩(φ51) = V層(底)
- TarDP(φ51)
11. 10YR 3/1 黑褐色
V層 = TarDP(φ21) = TarDL(底)

0 140 2m

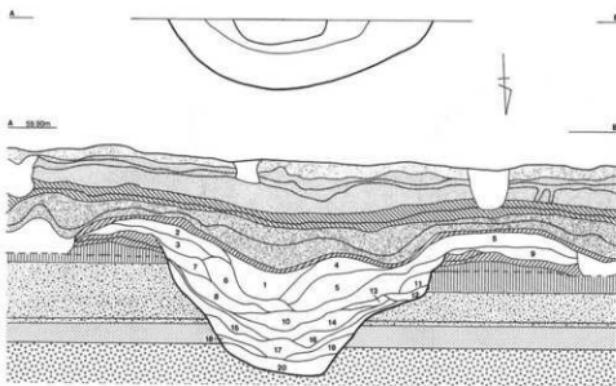


図III-48 TP-70・71

TP-72



TP-73

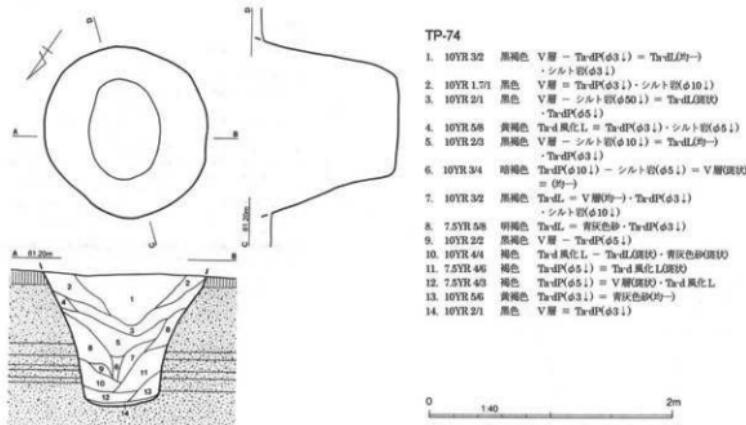


TP-73

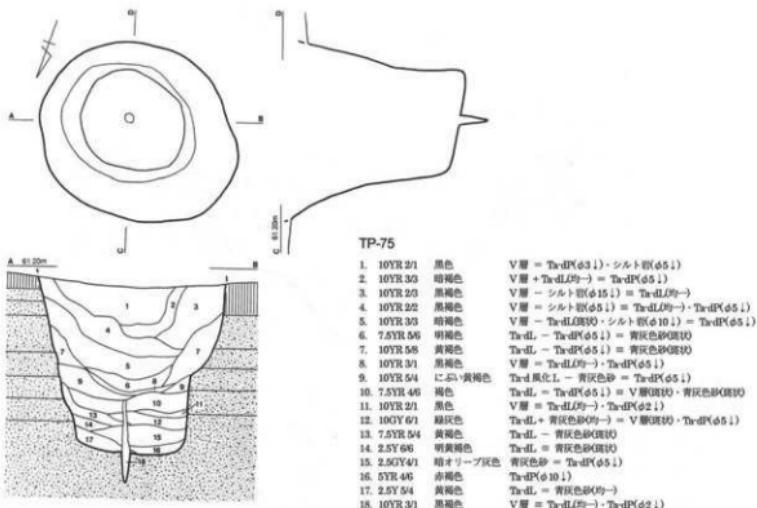
1. 10YR 3/1	黒褐色	V層 = TardP(φ10.1) = TardL(風化)	10. 10YR 3/1	黒褐色	V層 = TardL(風化)・TardP(φ5.1)
2. 10YR 3/2	黒褐色	V層 = TardP(φ10.1) = TardL(φ1.9→) ・シルト層(φ5.1)	11. 10YR 2/1	黒色	V層 = TardL(φ10.1) = TardL(風化)
3. 10YR 4/1	褐灰色	V層 = TardL(風化)・TardP(φ10.1) ・シルト層(φ5.1)	12. 10YR 4/3	にじく黄褐色	TardL = V層(φ10.0)・TardP(φ5.1)
4. 10YR 4/2	灰黃褐色	V層 = TardL(風化)・TardP(φ10.1) ・シルト層(φ5.1)	13. 10YR 4/1	地灰色	V層 = TardL(φ1.9→)・TardP(φ5.1)
5. 10YR 4/1	褐灰色	V層 = TardP(φ2.0) = TardL(φ1.9→)	14. 7.5YR 5.6	明褐色	TardL = TardP(φ5.1) = V層(φ3.1)
6. 7.5YR 5.6	明褐色	TardL = TardP(φ1.9) = V層(φ3.1) ・シルト層(φ5.1)	15. 7.5YR 4/3	褐色	TardL = V層(φ3.1)・TardP(φ5.1)
7. 7.5YR 4/4	褐色	TardL = 薄灰色砂(φ3.1) = TardP(φ2.1)	16. 7.5YR 4/4	褐色	TardL = TardP(φ2.1) = V層(φ3.1)
8. 10YR 2/3	黒色	V層 = TardP(φ5.1)	17. 7.5YR 4/4	褐色	TardL = V層(φ3.1)・TardP(φ5.1)
9. 10YR 4/1	褐灰色	V層 = TardL(φ2.1→)・TardP(φ5.1) ・シルト層(φ6.1)	18. 7.5YR 4/6	褐色	TardL = TardP(φ5.1) = V層(φ3.1) ・シルト層(φ5.1)
			19. 7.5YR 5/4	にじく褐色	TardL = Tardスコリア(φ3.1) = TardP(φ2.1)
			20. 10BQ 5/1	青褐色	Tardスコリア = TardL(風化)・TardP(φ5.1)

図III-49 TP-72・73

TP-74

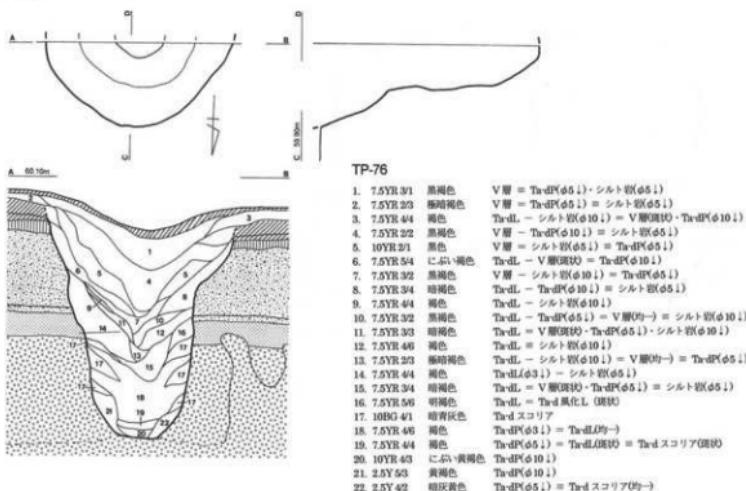


TP-75

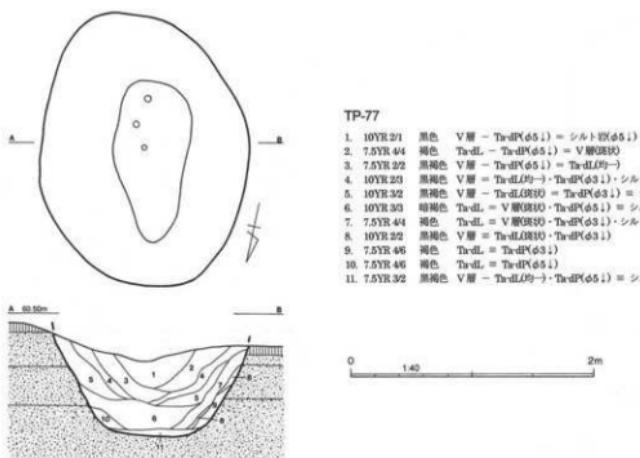


図III-50 TP-74・75

TP-76

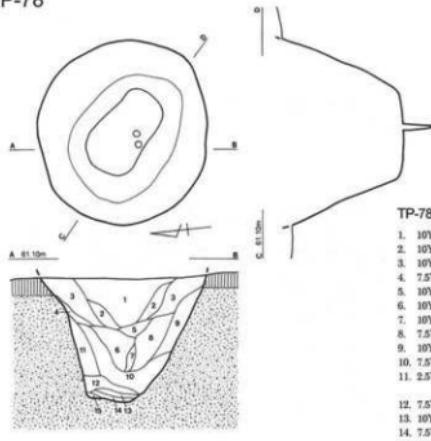


TP-77



図III-51 TP-76・77

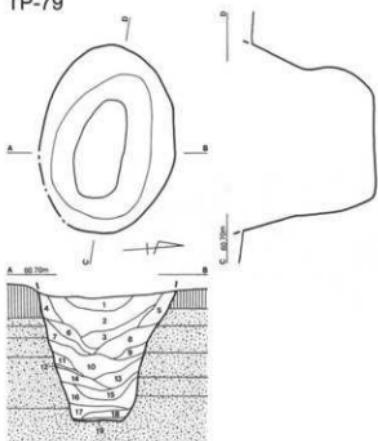
TP-78



TP-78

1. 10YR 2/1 黒褐色 V層 = Tar dP(φ5.1) + シルト岩(φ5.1) = Tar dL(φ5) →
2. 10YR 4/4 褐色 Tar dL - シルト岩(φ5.1) = Tar dP(φ5.1)
3. 10YR 1.3/1 黒色 V層 = Tar dL(φ5)
4. 7.5YR 4/6 褐色 Tar dL = Tar dP(φ3.1) = V層風化地・シルト岩(φ3.1)
5. 10YR 2/3 黒褐色 V層 + Tar dL(風化) - シルト岩(φ5.1) = Tar dP(φ5.1)
6. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = Tar dP(φ5.1) - Tar dL(φ5) → シルト岩(φ5.1)
7. 10YR 4/1 褐灰色 V層 = Tar dL(φ5) → = Tar dP(φ5.1)
8. 7.5YR 4/4 褐色 Tar dL - シルト岩(φ5.1) = Tar dP(φ5.1)
9. 10YR 4/6 褐色 Tar dL - シルト岩(φ5.1) = Tar dP(φ5.1)
10. 7.5YR 4/4 褐色 Tar dL = V層風化地
11. 2.5YR 5/3 黄褐色 Tar dL風化地 - シルト岩(φ3.1) = 青灰色砂礫地
= Tar dP(φ3.1)
12. 7.5YR 4/4 褐色 Tar dL風化地(φ14.1) - シルト岩(φ3.1) + Tar dP(φ5.1)
13. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = Tar dL(φ5) → = Tar dP(φ5.1)
14. 7.5YR 5/8 明褐色 Tar dL - Tar dP(φ5.1) = V層風化地
15. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = Tar dL(φ5)

TP-79

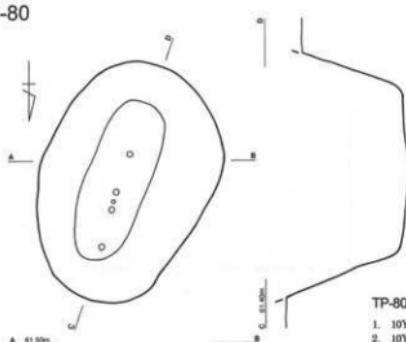


TP-79

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = Tar dP(φ5.1)
2. 10YR 2/2 黑褐色 V層 = Tar dP(φ10.1) = Tar dL(φ5) →
3. 10YR 2/1 黑褐色 V層 = Tar dP(φ10.1)
4. 10YR 3/5 單褐色 Tar dL = V層風化地 = Tar dP(φ5.1)
5. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = Tar dL(風化) - Tar dP(φ5.1)
6. 10YR 4/5 褐色 Tar dL = Tar dP(φ5.1) - シルト岩(φ5.1)
7. 7.5YR 4/6 褐色 Tar dL = Tar dP(φ5.1)
8. 10YR 3/5 單褐色 Tar dL = V層(φ5) - 青灰色砂礫地 + Tar dP(φ5.1)
+ シルト岩(φ5.1)
9. 7.5YR 4/4 褐色 青灰色砂 = Tar dL(φ5) → - Tar dP(φ5) →
10. 10YR 2/2 黑褐色 V層 = シルト岩(φ5.1) = Tar dL(φ5) →
- Tar dP(φ5.1) = V層風化地
11. 10YR 3/4 單褐色 Tar dL = V層(φ5) - Tar dP(φ5.1)
12. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = Tar dL(風化)
13. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 Tar dL - Tar dP(φ5.1) = 青灰色砂(φ5.1)
+ シルト岩(φ5.1) = V層(φ5)
14. 7.5YR 3/4 單褐色 Tar dP(φ5.1) = Tar dL(φ5) →
15. 7.5YR 4/6 褐色 Tar dL = 青灰色砂(φ5.1) + Tar dP(φ5.1)
16. 7.5YR 3/5 單褐色 Tar dP(φ5.1) = 青灰色砂(φ5.1) = Tar dL(φ5) →
17. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 Tar dL = Tar dL(風化) - Tar dP(φ5.1)
18. 10YR 3/3 單褐色 Tar dL - 青灰色砂(φ5.1) = Tar dP(φ5.1) = V層(φ5)
19. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = Tar dL(φ5) →

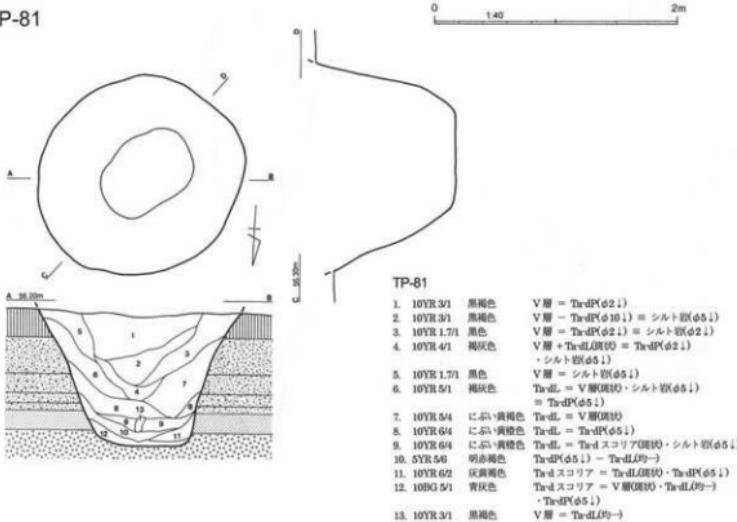
図III-52 TP-78・79

TP-80



- | | | |
|---------------|-------|-------------------------------|
| 1. 10YR 4/4 | 褐色 | TardL = V層(0.05) |
| 2. 10YR 2/2 | 黒褐色 | V層 = TardL(0.0~) + TardP(0.1) |
| 3. 7.5YR 3/2 | 暗褐色 | TardL = V層(0.0~) + TardP(0.1) |
| 4. 7.5YR 3/2 | 黒褐色 | V層 = TardL(0.05) = TardP(0.1) |
| 5. 7.5YR 3/2 | 暗褐色 | TardL = V層(0.05) = TardP(0.1) |
| 6. 7.5YR 4/4 | 褐色 | TardL = TardP(0.1) = V層(0.05) |
| 7. 7.5YR 2/2 | 黒褐色 | V層 = TardP(0.1) = TardL(0.05) |
| 8. 5YR 3/4 | 暗褐色 | TardL = TardP(0.1) |
| 9. 7.5YR 4/4 | 褐色 | TardL = TardP(0.1) |
| 10. 10YR 6/6 | 明褐色 | TardL = 黄化L = TardP(0.1) |
| 11. 7.5YR 4/5 | 褐色 | TardL = TardP(0.1) |
| 12. 7.5YR 4/2 | 灰マリープ | 褐色 |
| 13. 2.5YR 3/2 | 黒褐色 | V層 + TardP(0.0~) = TardP(0.5) |
| 14. 7.5YR 4/5 | 褐色 | TardL(0.5) = 青灰色(0.0~) |
| 15. 7.5YR 3/3 | 暗褐色 | V層 = TardL(0.5) = TardP(0.5) |

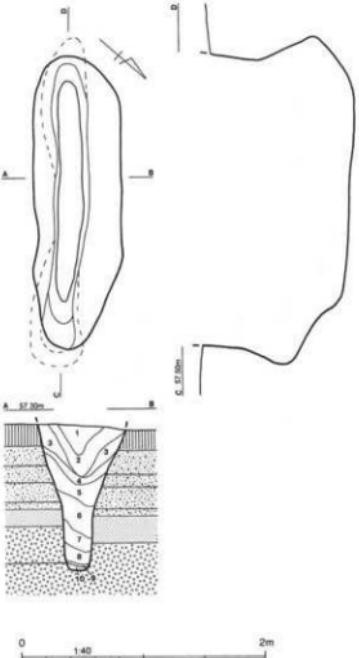
TP-81



- | | | |
|---------------|--------|---|
| 1. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V層 = TardP(0.2) |
| 2. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V層 = TardP(0.2) = シルト層(0.5) |
| 3. 10YR 1.7/1 | 黒色 | V層 = TardP(0.2) = シルト層(0.2) |
| 4. 10YR 4/1 | 褐色 | V層 + TardP(0.05) = TardP(0.5) |
| 5. 10YR 1.7/1 | 黒色 | V層 = シルト層(0.5) |
| 6. 10YR 5/1 | 褐色 | TardL = V層(0.05) + シルト層(0.5) = TardP(0.5) |
| 7. 10YR 5/1 | にじ・黄褐色 | TardL = V層(0.05) |
| 8. 10YR 6/4 | にじ・黄褐色 | TardL = TardP(0.5) |
| 9. 10YR 6/4 | にじ・黄褐色 | TardL = TardP(0.5) + シルト層(0.5) |
| 10. 5YR 5/6 | 明赤褐色 | TardP(0.5) = TardL(0.0~) |
| 11. 10YR 6/2 | 灰黄色 | TardP(0.5) = TardL(0.0~) + TardP(0.5) |
| 12. 10BG 5/1 | 灰黄色 | TardP(0.5) = TardL(0.0~) + TardP(0.5) |
| 13. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V層 = TardL(0.5) |

図III-53 TP-80・81

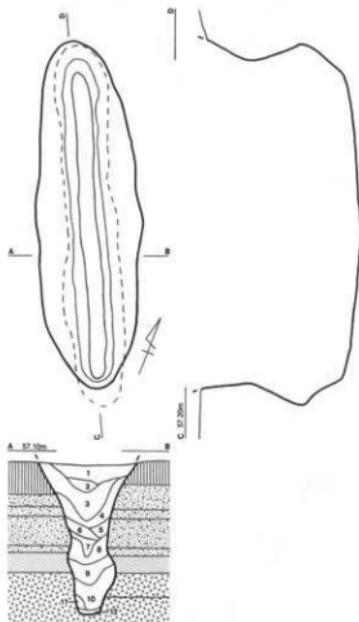
TP-82



TP-82

- V層 - シルト状(φ51) = TardL(固状)
= TardP(φ21)
V層 = シルト状(φ51) = TardP(φ21)
= TardL(固状)
3. 10YR 5/4 にじみ黄褐色
TardL - V層(固状) = シルト状(φ201)
- TardP(φ21)
4. 10YR 3/1 黒褐色
V層 = TardL(固状) = TardP(φ51)
- シルト状(φ51)
5. 10YR 4/2 灰黄褐色
V層 - TardL(固状) = シルト状(φ21)
= TardP(φ51)
6. 10YR 4/4 褐色
TardL - シルト状(φ21) = V層(固状)
7. 10YR 5/6 黄褐色
TardL - Tardスコリア(固状) = TardP(φ51)
8. 10YR 4/6 褐色
TardL - Tardスコリア(固状) = TardP(φ51)
9. 10YR 2/2 黑褐色
V層 = TardL(固状)
10. 10YR 4/3 にじみ黄褐色
TardL = V層(固状) = Tardスコリア(固状)

TP-83

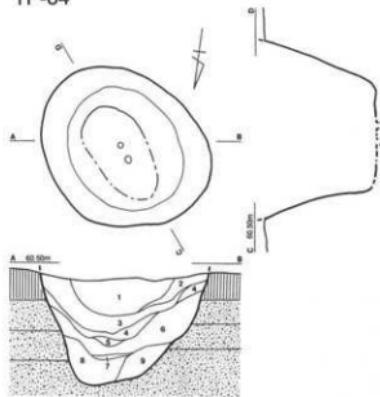


TP-83

1. 10YR 2/1 黒色
V層 = TardL(固状) = シルト状(φ21)
2. 10YR 3/1 黒褐色
V層 = TardL(固状) = TardP(φ51)
- シルト状(φ51)
3. 10YR 2/1 黒色
V層 = TardP(φ21) = シルト状(φ51)
= TardL(固状)
4. 10YR 5/3 にじみ黄褐色
TardL - V層(固状) = シルト状(φ51)
= TardP(φ21)
5. 10YR 4/2 灰黄褐色
TardL - V層(固状) = シルト状(φ51)
= TardP(φ11)
6. 10YR 3/2 黑褐色
V層 = シルト状(φ21) = TardL(固状)
7. 10YR 4/2 灰黄褐色
V層 = TardL(固状) = シルト状(φ51)
8. 10YR 5/3 にじみ黄褐色
TardL = TardP(φ51) = V層(固状)
9. 7.5YR 5/4 にじみ褐色
TardL = TardP(φ51) = Tardスコリア(固状)
10. 10BG 3/1 灰褐色
Tardスコリア = TardL(固状) = TardP(φ51)
11. 10YR 6/3 にじみ黒褐色
TardL = Tardスコリア(固状) = TardP(φ51)
- TardP(φ51)
12. 10YR 3/1 黑褐色
V層 = TardL(固状) = Tardスコリア(固状)
- TardP(φ51)

図III-54 TP-82・83

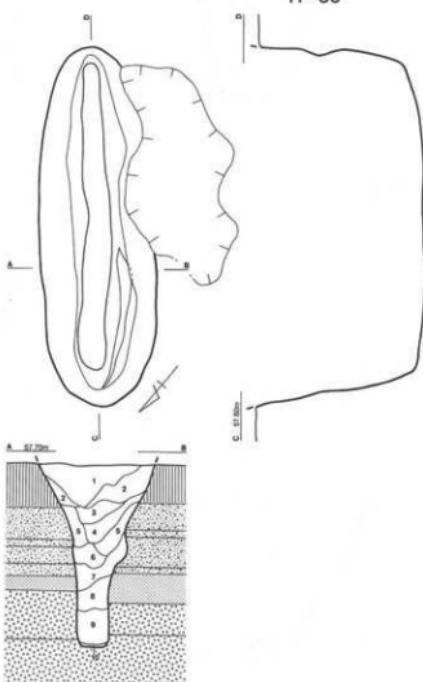
TP-84



TP-84

- | | | |
|--------------|--------|---|
| 1. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V層 = Tar _d P(φ20.1) = Tar _d LOR状
・シルト泥(φ2.1) |
| 2. 10YR 5/4 | にじみ黄褐色 | Tar _d L - Tar _d P(φ10.1) = V層(現状) |
| 3. 10YR 2/1 | 黒色 | V層 = Tar _d LOR状 · Tar _d P(φ5.1)
・シルト泥(φ2.1) |
| 4. 10YR 4/3 | にじみ黄褐色 | Tar _d L - V層(約1) = Tar _d P(φ5.1) |
| 5. 7.5YR 3/4 | 暗褐色 | Tar _d L - V層(約1) = Tar _d P(φ5.1) |
| 6. 7.5YR 4/4 | 褐色 | Tar _d L - Tar _d P(φ5.1) = V層(現状) |
| 7. 10YR 3/1 | 黒褐色 | V層 = Tar _d P(φ5.1) = Tar _d LOR状 |
| 8. 7.5YR 3/4 | 暗褐色 | Tar _d L - Tar _d P(φ10.1) = V層(現状) |
| 9. 10YR 4/2 | 灰黄褐色 | Tar _d L - Tar _d P(φ5.1) = Tar _d LOR状 |

TP-85

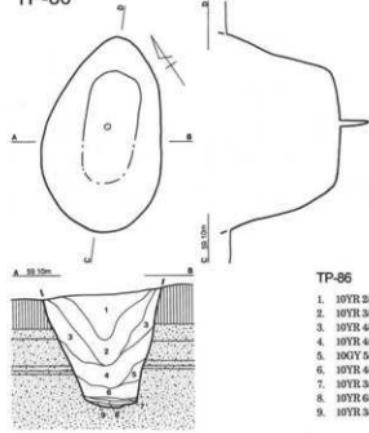


TP-85

- | | | |
|--------------|--------|---|
| 1. 10YR 2/1 | 黒色 | V層 - シルト泥(φ5.1) = Tar _d LOR状
· Tar _d P(φ2.1) |
| 2. 10YR 2/3 | 黒褐色 | V層 - Tar _d LOR状 = シルト泥(φ5.1) |
| 3. 10YR 2/2 | 黒褐色 | V層 - シルト泥(φ5.1) = Tar _d LOR状 |
| 4. 10YR 4/2 | 灰黄褐色 | Tar _d L - V層(約1) = シルト泥(φ5.1) |
| 5. 10YR 5/4 | 褐褐色 | Tar _d L - シルト泥(φ5.1) = V層(現状) |
| 6. 10YR 3/2 | 黒褐色 | V層 - Tar _d LOR状 · シルト泥(φ5.1) |
| 7. 10YR 5/3 | にじみ黄褐色 | Tar _d L - Tar _d P(φ10.1) = V層(現状) |
| 8. 10YR 4/4 | 褐色 | Tar _d L - Tar _d P(φ5.1) = Tar _d スコリア(現状) |
| 9. 10YR 5/1 | 褐色 | Tar _d L - Tar _d スコリア(約1) = Tar _d P(φ5.1) |
| 10. 10YR 3/2 | 黒褐色 | V層 = Tar _d LOR状 |

図III-55 TP-84・85

TP-86

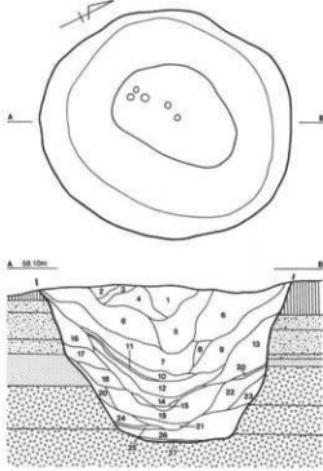


TP-86

1. 10YR 21 黒色 V層 = シルト層(φ2.1) - Tar-dL(B3)
2. 10YR 33 暗褐色 V層 = Tar-dL(φ2.1) - シルト層(φ2.0)
3. 10YR 44 黒色 Tar-dL = V層(堅実)・シルト層(φ1.1) = Tar-dP(φ2.1)
4. 10YR 49 にぶい黄褐色 Tar-dL = 青灰色(弱め) = V層(堅実)・Tar-dP(φ5.1)
5. 10GY 51 暗褐色 青灰色層 = Tar-dL(堅固)
6. 10YR 42 灰黃褐色 Tar-dL = 青灰色(弱め) = Tar-dL(φ5.1) - シルト層(φ5.1)
7. 10YR 31 黑褐色 V層 = Tar-dL(B3)
8. 10TR 65 明黄色層 Tar-dL = Tar-dP(φ5.1) = 青灰色(堅実)
9. 10YR 31 黑褐色 V層 = Tar-dL(B3) - Tar-dP(φ5.1)

0 1.40 2m

TP-87

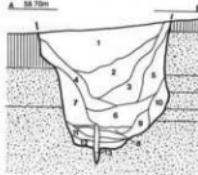
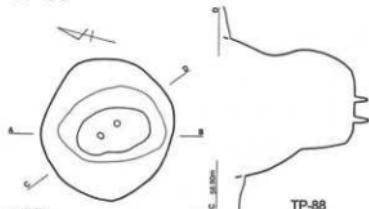


TP-87

1. 10YR 42 灰黃褐色 Tar-dL = Tar-dP(φ5.1) = V層(堅実)
2. 10YR 45 にぶい黄褐色 Tar-dL = V層(堅実) - Tar-dP(φ10.1)
3. 10YR 31 黑褐色 V層 = Tar-dL(B3) = Tar-dP(φ5.1)
4. 10YR 45 黑色 Tar-dL = Tar-dP(φ5.1) = V層(堅実)
5. 10YR 22 黑褐色 V層 = Tar-dL(φ10.1) = Tar-dL(B3)
6. 10YR 21 黑色 V層 = シルト層(φ5.1) = Tar-dL(B3) - Tar-dP(φ5.1)
7. 10YR 32 黑褐色 V層 = Tar-dL(弱め) - シルト層(φ5.1)
8. 10YR 43 にぶい黄褐色 Tar-dL = V層(堅実) - シルト層(φ5.1)
9. 10YR 33 暗褐色 V層 = Tar-dL(B3) - シルト層(φ5.1) = Tar-dP(φ20.1)
10. 10YR 34 暗褐色 Tar-dL = シルト層(φ5.1) = V層(堅実)
11. 10YR 31 黑褐色 V層 = Tar-dL(B3) - シルト層(φ5.1)
12. 10YR 34 暗褐色 Tar-dL = Tar-dP(φ10.1) - シルト層(φ10.1) = V層(堅実)
13. 10YR 31 黑褐色 Tar-dL = Tar-dP(φ20.1) = V層(堅実)
14. 10YR 31 黑褐色 V層 = Tar-dL(B3) = Tar-dV(φ10.1) - シルト層(φ10.1)
15. 10YR 54 にぶい黄褐色 Tar-dL = V層(堅実) - シルト層(φ2.1)
16. 10YR 55 黄褐色 Tar-dL = Tar-dP(φ5.1) - シルト層(φ5.1) = V層(堅実)
17. 2.5Y 42 暗褐色 Tar-dL = シルト層(φ5.1) = Tar-dP(φ5.1) = V層(弱め)
18. 10YR 56 黄褐色 Tar-dL = Tar-dP(φ10.1) = シルト層(φ5.1) = V層(弱め)
19. 10YR 34 暗褐色 Tar-dL = Tar-dP(φ10.1) - シルト層(φ10.1) = V層(堅実)
20. 10BG 47 青灰色層 Tar-dL = Tar-dL(B3) - Tar-dP(φ10.1)
21. 10YR 31 黑褐色 V層 = Tar-dL(φ2.1) - Tar-dP(φ10.1)
22. 10YR 46 黑色 Tar-dL = Tar-dP(φ10.1) - シルト層(φ5.1) = V層(堅実)
23. 10BG 41 青灰色層 青灰色層 = Tar-dV(φ10.1) = Tar-dL(堅実)
24. 10YR 44 暗褐色 Tar-dL = V層(弱め) - Tar-dP(φ5.1) - シルト層(φ5.1) = V層(弱め)
25. 10YR 21 黑色 V層 = Tar-dL(B3) = Tar-dV(φ10.1)
26. 10YR 44 黑色 Tar-dL = Tar-dP(φ20.1) - シルト層(φ10.1)
27. 10YR 21 黑色 V層 = シルト層(φ5.1) = Tar-dL(B3)

図III-56 TP-86・87

TP-88



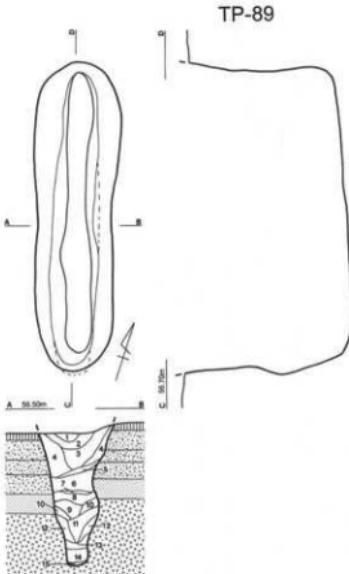
TP-88

1. 10YR 2/1 黒色
V層 = シルト岩(φ51) = TardL(BE0)・TardP(φ51)
2. 10YR 3/1 黒褐色
V層 = シルト岩(φ101) = TardL(BE0)
3. 10YR 4/1 黑灰色
TardL = V層(深状) = シルト岩(φ201)
4. 10YR 4/2 深黄褐色
TardL = V層(均) = シルト岩(φ21)
5. 10YR 5/1 にぶい黄褐色
TardL = V層(深状)・シルト岩(φ101)・TardP(φ51)
6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色
TardL = V層(均) = シルト岩(φ51)
7. 10YR 7/0 にぶい黄褐色
Tard風化L = V層(深状)
8. 10YR 3/1 黑褐色
V層 = TardL(深状)
9. 10YR 4/1 にぶい黄褐色
Tard風化L = 青灰色砂(薄状)・TardP(φ31)
10. 7.5YR 4/4 褐色
TardL = TardP(φ31) = 青灰色砂(均)
11. 10YR 2/1 黑褐色
V層 = Tard風化L(深状)・TardP(φ31) = シルト岩(φ51)
12. 10YR 4/2 深黄褐色
Tard風化L = 青灰色砂(均)・シルト岩(φ101) = V層(均)
13. 10YR 2/1 黑褐色
V層 = Tard風化L(均)

TP-89

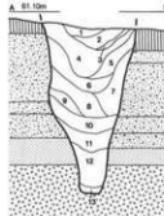
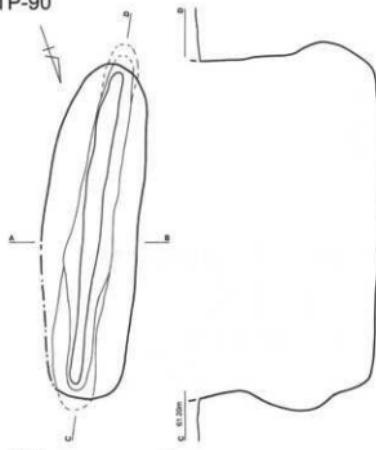
1. 10YR 2/1 黑褐色 V層 = Tard風化L(均)・シルト岩(φ31)
= TardP(φ31)
2. 10YR 1.7/1 黑褐色 V層 = TardP(φ31)・シルト岩(φ31)
3. 10YR 2/1 黑褐色 V層 = TardL(BE0)・TardP(φ51)
= シルト岩(φ101)
4. 10YR 4/1 褐色 Tard風化L = シルト岩(φ51)
= TardP(φ31)
5. 10YR 2/1 黑褐色 V層 = Tard風化L(均)
6. 10YR 4/1 にぶい黄褐色 Tard風化L = 青灰色砂(薄状)・TardP(φ51)
・シルト岩(φ101) = V層(深状)
7. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TardL(深状) = TardP(φ51)・シルト岩(φ51)
8. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 Tard風化L = Tardスコリア(薄状) = TardP(φ31)
= シルト岩(φ51)
9. 2.5Y 4/2 暗灰褐色 Tard風化L = Tardスコリア(薄状) = TardP(φ51)
10. 10YR 5/4 黄褐色 Tard風化L
11. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 Tard風化L = Tardスコリア(均) = V層(深状)
12. 7.5Y 4/1 墓塚灰色 青灰色砂 = Tard風化L(深状)
13. 10YR 4/6 褐色 Tard風化L = Tardスコリア(均) = TardP(φ51)
14. 10YR 3/3 墓塚灰色 Tard風化L = TardP(φ51) = V層(深状)
・Tardスコリア(薄状)
15. 10YR 3/2 墓塚灰色 Tard風化L = TardP(φ51) = V層(均)

0 1.40 2m



図III-57 TP-88・89

TP-90



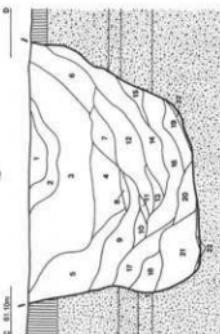
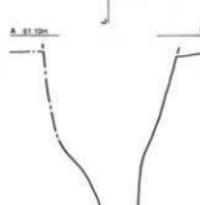
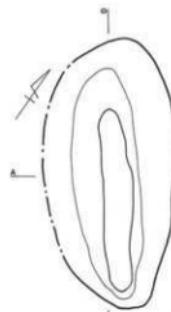
TP-91

1. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(δ51) = Tard風化U
2. 10YR 5/4 にぶい・黄褐色 TardL = V層風化U
3. 10YR 3/2 黒褐色 TardL = シルト層(δ101) = Tard風化U
4. 10YR 4/4 褐色 TardL = TardP(δ51) = V層風化U
・シルト層(δ51)
5. 10YR 4/2 灰青褐色 TardL = V層風化U
・シルト層(δ51)
6. 10YR 5/2 灰黄褐色 TardL = シルト層(δ51) = V層風化U
= TardP(δ51)
7. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = Tard風化U
= TardP(δ51)
8. 10BG 4/1 灰青灰褐色 TardL = Tard風化U
9. 7.5YR 4/4 褐色 TardL = TardP(δ51) = 青灰色砂礫風化U
10. 10YR 6/4 明黄色褐色 TardL = TardP(δ51) = 青灰色砂礫風化U
= シルト層(δ51)
11. 10YR 5/4 灰褐色 TardL = V層風化U
= シルト層(δ51)
12. 10YR 4/2 灰黄褐色 TardL = 青灰色砂礫風化U
= V層風化U
・シルト層(δ51)
13. 10YR 5/3 にぶい・黄褐色 TardL = V層風化U
14. 10YR 5/4 にぶい・褐褐色 TardL = 青灰色砂礫風化U
= TardP(δ21)
15. 10YR 2/2 黒褐色 V層 = Tard風化U
= TardP(δ51)
16. 10YR 7/4 にぶい・黄褐色 TardL = V層風化U
= TardP(δ51)
17. 10YR 4/2 灰黄褐色 TardL = 青灰色砂礫風化U
= シルト層(δ51)
18. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = Tard風化U
= TardP(δ51)
19. 7.5YR 4/3 褐色 TardL = TardP(δ51)
20. 7.5YR 4/2 灰褐色 TardL = TardP(δ51) = V層風化U
21. 10YR 2/1 にぶい・黄褐色 TardL = V層風化U
22. 10YR 2/1 黒色 V層 = Tard風化U

TP-90

1. 10YR 3/3 單褐色 TardL = V層(δ4-1)・シルト層(δ51)
= TardP(δ31)
2. 10YR 2/1 黒色 V層 = シルト層(δ51) = Tard風化U
・TardP(δ31)
3. 10YR 4/4 褐色 TardL = TardP(δ31) = V層風化U
V層 = シルト層(δ51)
4. 10YR 1/7 黒色 Tard風化L = V層風化U
・シルト層(δ51)
5. 10YR 4/4 褐色 Tard風化L = V層風化U
= TardP(δ51)
6. 10YR 4/3 にぶい・黄褐色 Tard風化L = シルト層(δ101) = V層風化U
・TardP(δ31)
7. 7.5YR 4/6 褐色 TardL = Tard風化U
= TardP(δ51)
8. 10YR 5/4 にぶい・黄褐色 Tard風化L = Tard風化U
・シルト層(δ51)
9. 7.5YR 4/6 褐色 TardP(δ31)
10. 5YR 4/4 にぶい・单褐色 TardL = TardP(δ51) = 单褐色砂礫風化U
11. 10YR 5/3 にぶい・黄褐色 Tard風化L = Tard風化U
= TardP(δ51)
12. 10YR 4/4 褐色 Tard風化L = Tard風化U
= TardP(δ51)
13. 10YR 2/1 黑色 V層 = TardP(δ31)

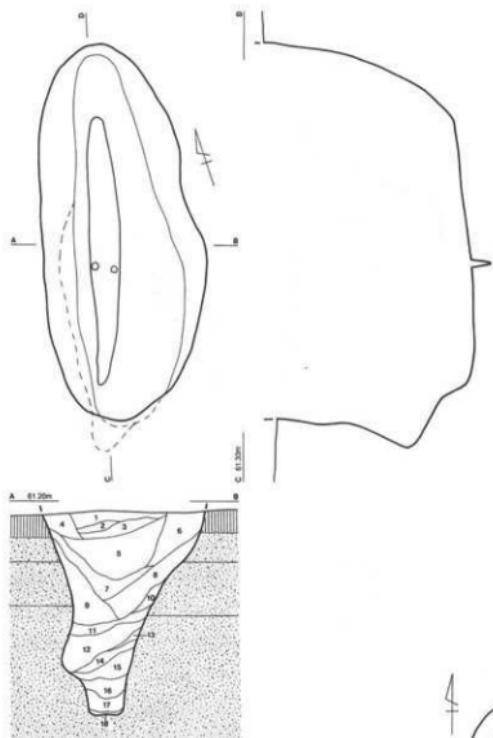
TP-91



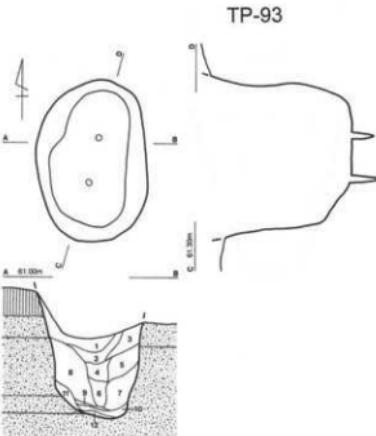
0 1:40 2m

図III-58 TP-90・91

TP-92

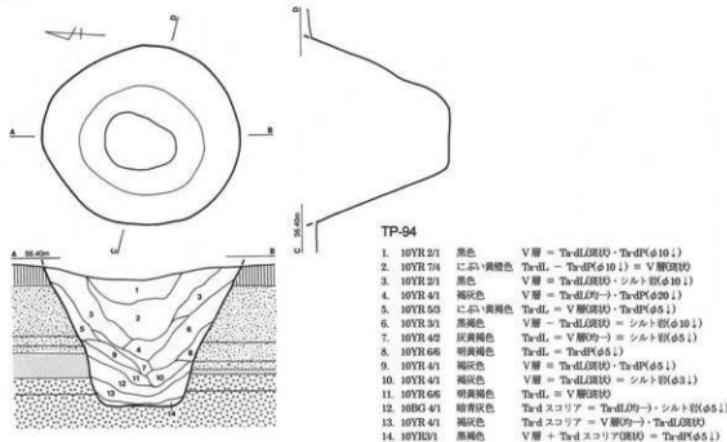


TP-93

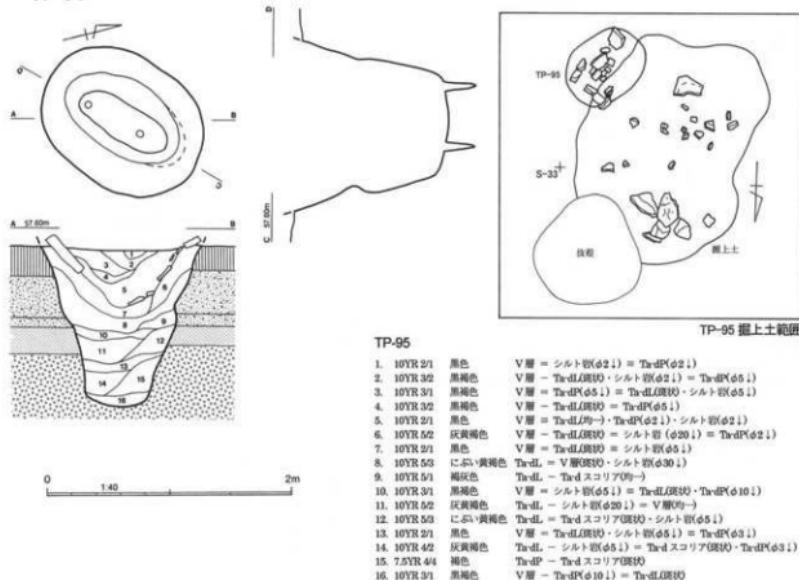


図III-59 TP-92・93

TP-94



TP-95



図III-60 TP-94・95

第4節 土坑 (VP) (図III-61・62、表III-10・11)

V層の土坑は11基検出した。調査時点では、Tピットとの混同があり、整理段階で遺構名の整理を行っている。このうち、9基 (VP-01~08・11) は、W-14区からZ-31区の若干振れる東西軸の約87mにわたってやや蛇行する1列に並ぶ。いずれも形態が類似し、坑底面規模で長軸62cm ~ 96cm、短軸24cm ~ 48cm、深さ58cm ~ 70cmの小型の楕円形の土坑である。坑底面には杭跡を検出するものが多く、長軸の一方へ偏る傾向がある。堆積状態は自然堆積と思われ、坑底面付近までV層を主体とする黒色または黒褐色土が堆積する。また、坑底面直上より遺物が出土するものもある。時期は不明であるが、遺構の切り合はTP-36 (A 1型) より新しく、他の遺構の掘り揚げ土を被覆することもないことから本遺跡内においても、比較的新しい時期のものであることが分かっている。性格は不明で、同様な類例はなく、初見であろう。あえて、想定しうる可能性としては、C 2型などのTピットの配列前に構築した、目印的な土坑かもしれない。

他2基は、性格および時期不明の浅い円形の土坑である。

VP-01 (図III-61、図版33-1)

グリッド: Y-23

検出層位: VI層

平面形: 楕円形

調査面規模: 104cm × 72cm 坑底面規模: (74)cm × 32cm 深さ: 44cm 長軸方向: N-17° W

調査: 坑底面は短軸方向において丸底で、長軸方向は水平である。坑底面には、長軸中央部よりやや北側の位置に、径3cm前後、深さ約18cmの杭穴を1ヵ所検出した。壁面は、西側がやや傾斜をもって立ち上がる他は、ほぼ垂直に近い。堆積状態は、坑底面までV層あるいはTa-dを主体とする黒・黒褐色土が堆積する。

VP-02 (図III-61、図版33-2・3)

グリッド: Y-20・21

検出層位: VI層

平面形: 楕円形/楕円形

調査面規模: 88cm × 70cm 坑底面規模: 65cm × 42cm 深さ: 48cm 長軸方向: N-14° W

調査: 壁面は坑底面より若干の角度をもって直線的に開く。坑底面は、長軸両端部が3cm前後窪む。長軸中央部付近よりやや南側の位置に、長軸に直交して2ヵ所の杭穴を検出した。深さは12cmと16cmである。堆積状態は坑底面までV層を主体とする黒褐色土が堆積する。南側は壁面崩落によるものと思われる2・4層が堆積している。

VP-03 (図III-61、図版33-4・5)

グリッド: W-14

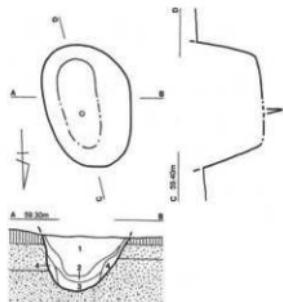
検出層位: VI層

平面形: 楕円形/楕円形

調査面規模: 132cm × 105cm 坑底面規模: 74cm × 48cm 深さ: 60cm 長軸方向: N-14° E

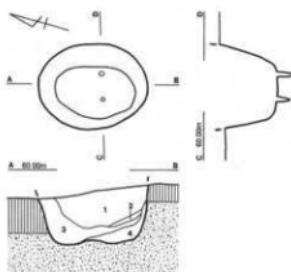
調査: やや大型の楕円形の土坑である。平成14年度の調査時点では、調査面規模よりTピットとして遺構番号を付したが、Tピットとしては浅いことから除外し、VP-01からの一連の土坑とした。坑底面はほぼ水平で、やや内湾気味に壁が立ち上がる。堆積状態は、坑底面までV層を主体とする黒褐色土が堆積する。4層は壁面の掘り過ぎの可能性が強い。

VP-01



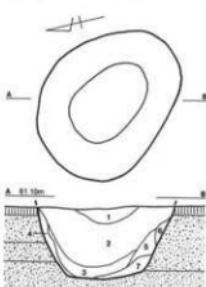
1. 10YR 2/1 黒色 V層 - TrdP(φ51)・
シルト(EKφ51) = TrdL(φ7)
2. 10YR 2/1 黒色 V層 - TrdL(OH)U・TrdP(φ21)
・シルト(EKφ21)
3. 7.5YR 2/2 黒褐色 TrdL - V層 OHU = TrdP(φ51)
・シルト(EKφ21)
4. 7.5YR 3/4 略褐色 TrdL - V層 OHU・TrdP(φ51)
= シルト(EKφ51)

VP-02



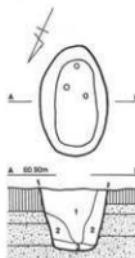
1. 10YR 2/1 黒色 V層 - シルト(EKφ51)
= TrdL(OH)U・TrdP(φ51)
2. 10YR 5/3 にぶ・黄褐色 TrdL - V層 OHU = TrdP(φ51)
V層 - TrdL(OH)U = シルト(EKφ21)
3. 10YR 3/1 黒褐色 V層 - TrdL(OH)U
= TrdP(φ21)
4. 10YR 4/3 にぶ・黄褐色 TrdL - V層 OHU = TrdP(φ51)
・シルト(EKφ21)

VP-03



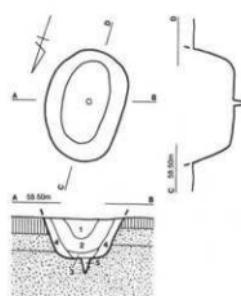
1. 10YR 3/2 黒褐色 V層 - TrdL(φ7)
・シルト(EKφ10.1)・TrdP(φ8.1)
2. 10YR 2/2 黑褐色 V層 - シルト(EKφ10.1)
・TrdP(φ5.1) = TrdL(φ7)
3. 10YR 3/4 略褐色 TrdL - V層 OHU = TrdP(φ5.1)
・シルト(EKφ10.1)
4. 10YR 3/3 略褐色 TrdL = V層 OHU - TrdP(φ3.1)
5. 10YR 2/2 黑褐色 V層 = TrdL(OH)U・TrdP(φ3.1)
6. 7.5YR 3/4 略褐色 TrdL = V層 OHU
7. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TrdP(φ3.1)

VP-04



1. 10YR 2/1 黑褐色 V層 - シルト(EKφ10.1)
2. 10YR 2/3 黑褐色 V層 - TrdP(φ5.1)
・シルト(EKφ5.1)
3. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = シルト(EKφ5.1)

VP-05



1. 10YR 2/1 黑褐色 V層 - TrdL(φ5.1)
・シルト(EKφ5.1) = TrdL(OH)U
2. 10YR 2/1 黑褐色 V層 = TrdP(φ10.1)
・シルト(EKφ5.1) = TrdL(OH)U
3. 10YR 3/2 黑褐色 V層 = TrdL(φ7)
= シルト(EKφ5.1)
4. 10YR 3/3 略褐色 V層 - TrdL(φ7)
= シルト(EKφ5.1)
5. 10YR 3/1 黑褐色 V層 = TrdL(OH)U

0 1.40 2m

図 III-61 土坑(VP-01~05)

VP-04 (図III-61、図版33-6)

グリッド：W・X-16 検出層位：VI層 平面形：楕円形/楕円形
 調査面規模：90cm×54cm 坑底面規模：70cm×34cm 深さ：52cm 長軸方向：N-25° W
 調査：坑底面は水平で、南側に3ヵ所の杭跡を検出した。壁面とは角状に変換し、壁面は垂直に近い立ち上がりとなる。堆積状態は坑底面まで、V層主体の黒褐色土が堆積する。

VP-05 (図III-61、図版33-7・8)

グリッド：Y・Z-26・Y-27 検出層位：VI層 平面形：楕円形
 調査面規模：92cm×64cm 坑底面規模：68cm×36cm 深さ：34cm 長軸方向：N-18° W
 調査：坑底面は水平で、ほぼ中央に黒褐色土の明瞭な杭跡を1ヵ所検出した。杭跡は直径3cm程度で、深さは12cmほどであった。セクション面にかかっているが、坑底面より上層に杭の痕跡は認められない。堆積状態は、上層の中央部にV層主体にTa-dを均一に少量含む黒褐色土（1層）が堆積し、その下層に黑色土が入る。検出状況においても、黒褐色土の1層をリング状に囲むように、2層の黑色土がみられた。この様な検出状況は、Tビットと同様である。覆土下層は、他の土坑と同様に、坑底面までV層を主体とする黒褐色土が堆積する。

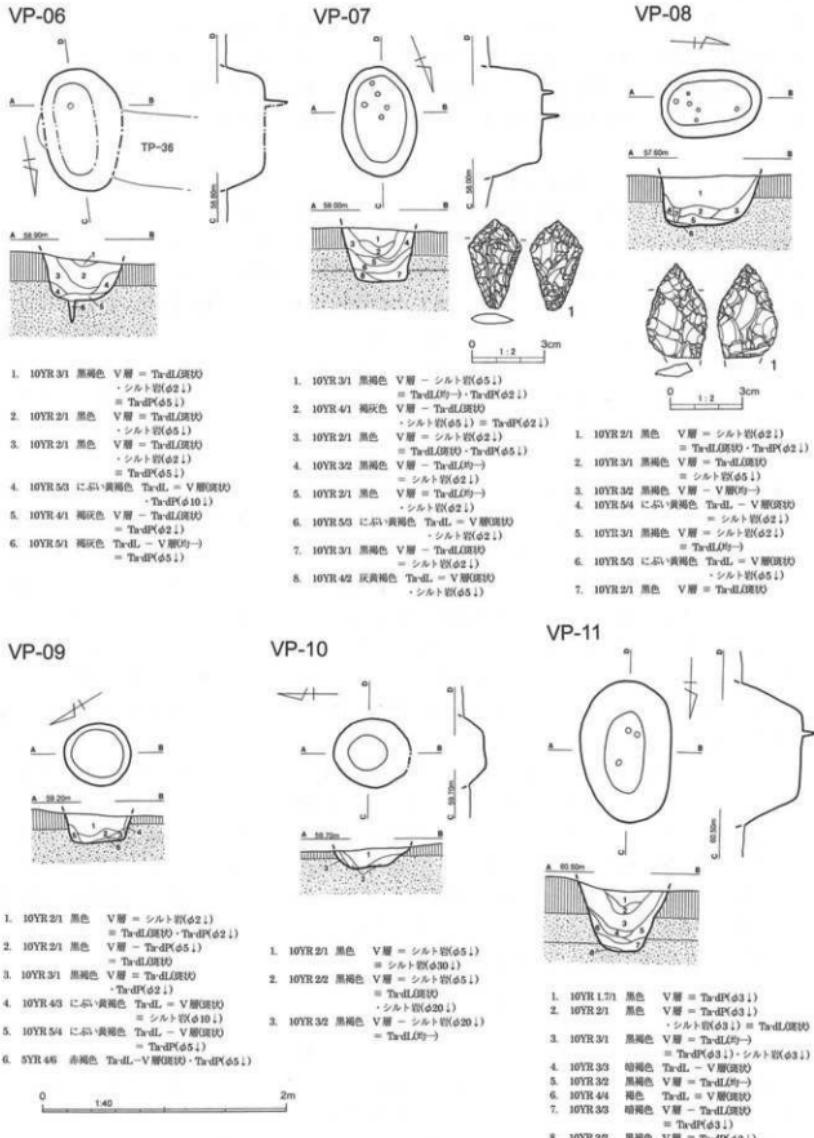
VP-06 (図III-62、図版34-1)

グリッド：Y-25 検出層位：VI層 平面形：楕円形/長楕円形
 調査面規模：100cm×64cm 坑底面規模：76cm×32cm 深さ：38cm 長軸方向：N-20° E
 調査：TP-36(A 1型)検出時に切り合う小規模な黒色土の落ち込みを確認していた。検出状況から、TP-36より新しい土坑と判断し、切り合い関係を堆積状態で確認するためTP-36の長軸中央ラインにトレンチを掘削した。しかし、TP-36の覆土上層の黒色土と判然としないため、TP-36の調査を優先し、遺構名を付けなかった。調査が進み直線状に同類の土坑が配列することが判明し、形態の類似や、一列の配列上にあり、土坑の間隔もVP-04とVP-05のほぼ中間位置にあることから遺構番号を付し、再調査するに至った。

まず、TP-36の壁面を利用して、VII層までの垂直の土層観察面を設定した。この時、杭穴も観察面にかかり、少なくとも1ヵ所の杭跡があることが判明した。堆積図を実測した後、残りの南側とTP-36の北側に確認できた僅かな部分を調査した。坑底面はほぼ水平と思われ、壁は角度をもって、直線的に立ち上がる。堆積状態は覆土上部にTa-dを含む黒褐色土を僅かに確認でき、下層に黑色土が堆積する。壁際の4層は、斑状にTa-dを含み、坑底付近に三角状に堆積していることから、壁面からの崩落層の可能性がある。杭跡は、Ta-dを主体とする褐灰色土で、覆土と比べてしまが弱い。垂直に深さ20cm程度あり、杭底は尖状で、直径は推定で4cm前後と思われる。

VP-07 (図III-62、図版34-2~4)

グリッド：Z-29 検出層位：VI層 平面形：楕円形/楕円形
 調査面規模：90cm×58cm 坑底面規模：70cm×42cm 深さ：46cm 長軸方向：N-20° E
 調査：坑底面は水平で、壁面への立ち上がりは角状を呈する。坑底面の南側に5ヵ所の杭跡を検出した。最南端の杭跡は深さ25cmあり、他は10cm程度の浅いものである。壁は直線的に垂直に近い角度で



図III-62 土坑(VP-06~11)

立ち上がる。堆積状態は、覆土上層の3層黒色土が堆積し、窪みとなった状態で、周囲よりTa-dロームの流れ込みがあったものと思われる（1・2層）。覆土下層は互層状に堆積し、6～8層は斑状に堆積しており、比較的短時間に堆積したものと思われる。最下層の8層からは黒曜石製の石槍が1点、ほぼ水平状態で出土している。

VP-08 (図III-62)

グリッド：Z-31 検出層位：VI層 平面形：楕円形/長楕円形
調査面規模：80cm×56cm 坑底面規模：68cm×35cm 深さ：52cm 長軸方向：N-3° W

調査：坑底面は南側へ若干の傾斜をもち、南側に5カ所、北側に1カ所の杭跡を検出した。壁立ち上がりは、南側はほぼ垂直に、北側はやや角度をもって直線的に開く。堆積状態は覆土中位まで黒色土が堆積し、下層はV層主体にTa-dを斑状に含む黒褐色土である。2層と4層間に黒色土（7層）が直線状に落ち込み、坑底面で検出した杭跡へ続く可能性があるが、杭穴には黒褐色土が堆積していた。また、7層は、Tピット杭跡と違い、周囲の覆土と同様なしまりがあることから、杭跡と明確な断定はできない。坑底面直上の5層中より、黒曜石製の石槍が1点出土している。

VP-09 (図III-62、図版34-5・6)

グリッド：Z-24 検出層位：VI層 平面形：円形/円形
調査面規模：54cm×52cm 坑底面規模：42cm×38cm 深さ：28cm 長軸方向：N-30° E
調査：VI層中位で、円形のV層落ち込みを検出した。坑底面も円形を呈し、ほぼ水平である。壁への立ち上がりは角状で、垂直に近い角度で直線的な壁面である。堆積状態は坑底付近までV層を主体とする黒色土が堆積し、壁際および坑底付近にTa-dを主体とし、V層を斑状に含むにぶい黄褐色土が堆積する。

VP-10 (図III-62)

グリッド：S-23 検出層位：VI層 平面形：円形/円形
調査面規模：62cm×54cm 坑底面規模：32cm×28cm 深さ：18cm 長軸方向：N-2° E
調査：S-23区のシルト岩を極めて多く含むVI層中位で、ほぼ円形のシルト岩を少量含むV層落ち込みを検出した。坑底面は中央部が若干高く盛り上がり、壁への立ち上がりは不明瞭で、壁面は内湾気味に開く。浅い皿状の土坑である。堆積状態は、坑底面までV層を主体とし、やや大きめのシルト岩を少量含む黒褐色土が堆積する。

VP-11 (図III-62、図版34-7・8)

グリッド：X-17 検出層位：VI層 平面形：楕円形/長楕円形
調査面規模：116cm×72cm 坑底面規模：66cm×32cm 深さ：56cm 長軸方向：N-2° E
調査：坑底面は長楕円形で、ほぼ水平である。坑底面のほぼ中央部付近に1カ所、南側に2ヶ所の杭跡を検出した。南側のものは坑底面より5cm程度下の青灰色砂層面で、黒褐色土の円形の落ち込みとして確認している。深さは10cm程度である。壁立ち上がりは直線的に開く。堆積状態は、坑底の一部に薄く黒褐色土が堆積し、中位はTa-dを主体とする褐色系の土層（4・6・7層）が堆積する。いず

表III-10 V層土坑計測一覽表

遺構名	グリッド	平面形	調査面 調査面/底面	坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向 短軸 短軸	杭跡	調査面 長軸比	坑底面 長軸比	出土遺物	備考
				長軸	短軸							
VP-01	Y-23	VI	楕円形 長椭円形	104	72	(74)	32	70	N-17° W	1	1.44	—
VP-02	Y-20-21	VI	楕円形 椭円形	88	70	65	42	62	N-14° W	2	1.26	1.55
VP-03	W-14	VI	楕円形 椭円形	118	105	74	48	68	N-14° E	0	1.12	1.54
VP-04	W-X-16	VI	楕円形 長椭円形	90	54	62	24	64	N-25° W	3	1.67	2.58
VP-05	Z-26	VI	楕円形 椭円形	92	64	92	36	58	N-18° -W	1	1.44	2.56
VP-06	Y-25	VI	楕円形 長椭円形	100	64	96	32	68	N-20° -E	1	1.56	3.00
VP-07	Z-29	VI	楕円形 椭円形	90	58	78	42	60	N-20° -E	5	1.55	1.86
VP-08	Z-31	VI	楕円形 長椭円形	80	56	68	35	58	N-3° -W	6	1.43	1.94
VP-09	Z-24	VI	円形/円形	54	52	42	38	34	N-30° -E	0	1.04	1.11
VP-10	S-23	VI	円形/円形	62	54	32	28	24	N-2° -E	0	1.15	1.14
VP-11	Y-17	VI	楕円形 長椭円形	116	72	66	32	64	N-2° -E	2	1.61	2.06

表III-11 V層土坑出土遺物計測一覽表

捕獲番号	遺物番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計 長軸	短軸	厚さ	重量	材質	備考
III-02-01	22417	石槍・石鉛	B3	TP-24	6層	(31.4)	26.2	6.9	5.83	Obs.	
III-02-01	31335	石槍・石鉛	B2	TP-81	3層	37.0	21.8	5.5	3.68	Obs.	

れも斑状にV層を含み、壁面からの崩落層と思われる。5層もVI層からの崩落層と思われる。2層は土坑がある程度埋積した窓みの状態の時に溜まったと思われるバミスやシルト岩をやや多く含む。

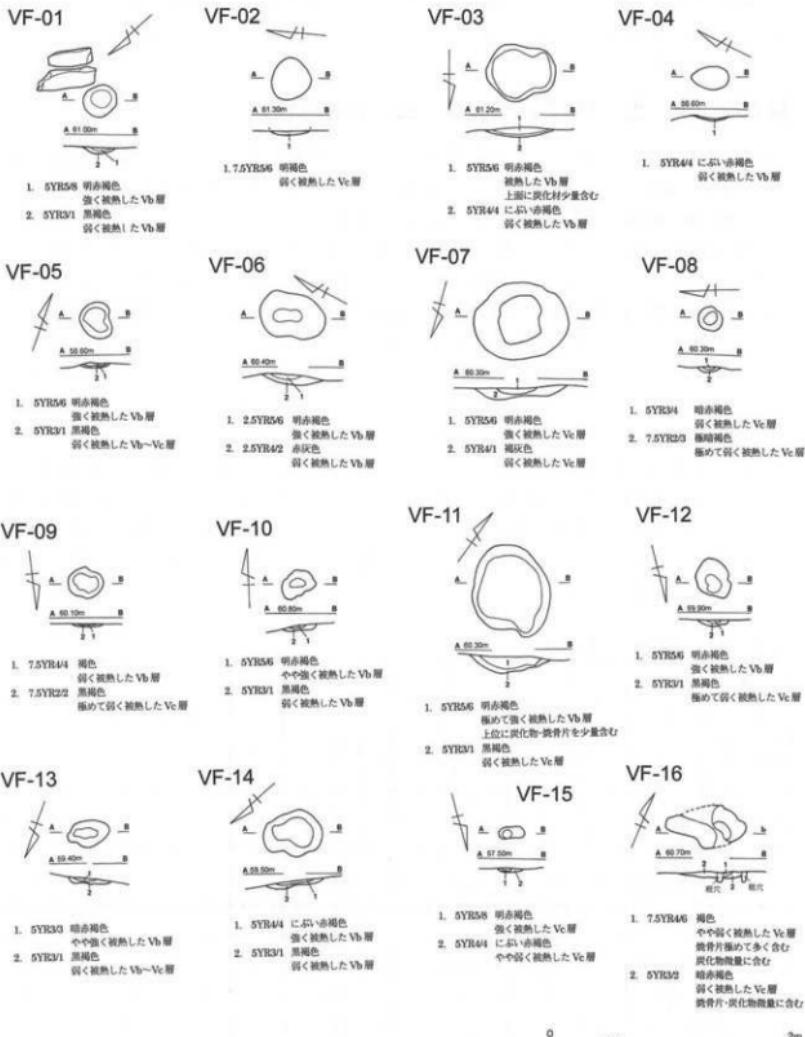
第5節 焼 土 (VF) (図III-63、表III-12)

V層の焼土は、Vb層上位からVc層上位にかけて16カ所検出した。いずれも、炭化物はほとんど見られない。時間的あるいは自然的影響により散逸したものと思われ、焼土検出面は、当時の焼土面より下層の地山被熱層において確認しているものと思われる。

VF-06・07・11はV-19・20区に3基、B地区とC地区の境界付近であるT-37区でVF-04・05の2基が隣接して出土している。前者のVF-06・07・11はVb層～Vc層にかけての検出で、後者のVF-04・05はVc層下位の検出である。前者は周囲の調査状況からTP-54のものと思われる掘り揚げ土の上下から検出している。3基とも比較的大型で厚い焼土を形成している。これら3基のうち、VF-06は掘り揚げ土の上、VF-07・11はほぼ同時期と思われ、掘り揚げ土の下から検出しており、VF-06より若干古い時期の可能性があるが、時間差は極僅かであろう。後者は同じグリッド内のVb層上位よりⅢ群B4類が出土しており、他の時期の遺物が出土していないことから、縄文中期末葉から後期初頭の所産と思われる。他に時期を特定できるものとして、VF-01があり、Vb層上位のVSB-03の直下で検出した。同一面で隣接するVSB-01からはⅢ群B4類土器の底部が出土しており、集石の縄文中期末葉から後期初頭あるいは直前期の所産と考えられる。また、VF-03はTP-64・68・69のいずれかの掘り揚げ土と思われる褐色土の下から検出した。以下に個々の焼土について記述する。なお個々の平面図は、図III-63に掲載している。

表III-12 V層焼土計測一覧表

遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備 考
				長軸	短軸	厚さ	
VF-01	Q-16	Vb層上位	円形	28	27	3	VSB-03に伴う？
VF-02	V-16	Vb層下位	円形	34	32	7	
VF-03	Z-14	Vb層上位	不整橢円形	57	47	4	
VF-04	T-37	Vb層上位	橢円形	31	19	2	
VF-05	T-37	Vb層	不整橢円形	25	30	4	
VF-06	V-20	Vb層上位	橢円形	53	38	8	
VF-07	V-19-20	Vb層下位	橢円形	76	63	9	
VF-08	X-20	Vc層上位	円形	20	20	5	
VF-09	Y-18	Vb層下位	橢円形	28	24	2	
VF-10	X-17	Vb層下位	不整橢円形	27	22	4	
VF-11	V-19	Vc層上位	不整橢円形	68	64	14	
VF-12	Y-20	Vc層上位	不整橢円形	30	28	3	
VF-13	W-23	Vb層下位	橢円形	32	22	5	
VF-14	V-23	Vb層	不整橢円形	48	39	6	
VF-15	X-32	Vc層	長橢円形	21	10	4	
VF-16	R-19	Vc層上位	不整橢円形	66	36	5	



図III-63 燃土(VF-01~16)

VF-01 (図版35-1)

グリッド: Q-16 検出層位: V b 層上位 平面形: 円形
 平面形規模: 28cm×27cm 厚さ: 3 cm

調査: VSB-01~03の調査時に検出した。確認時点で、明赤褐色に強く被熱した焼土（1層）を検出していることから、焼土面を3~5cm程度掘り下げているものと思われる。隣接して出土しているVSB-03の礫は2点とも被熱していないことから、集石形成以前の焼土と思われる。ただし、焼土検出面層位からすると、VSB-03とほとんど時間差はないものと思われる。時期は概要で記載したが、縄文中期末葉から後期初頭の所産と思われる。

VF-02

グリッド: V-16 検出層位: V b 層下位 平面形: 円形
 平面形規模: 34cm×32cm 厚さ: 7 cm

調査: V c 層調査中にはほぼ円形の弱い被熱層を検出した。

VF-03 (図版35-3)

グリッド: Z-14 検出層位: V b 層上位 平面形: 不整楕円形
 平面形規模: 57cm×47cm 厚さ: 4 cm

調査: 平成14年度の調査で、V a 層調査で全く遺物が出土していなかったことから、ジョレンを用いての調査に切り替えた時点で検出した。当初、隣接するTP-64・67~69の窪みと、付随する褐色土を検出したことから、風倒木痕の窪みとその揚げ土と判断し、この褐色土をジョレンで削平したところ焼土を検出した。褐色土底面はV b 層上位で、この面に焼土が形成され、直接被覆していたことから、Tピットとほぼ同時期に近い所産のものと思われる。Tピット掘り揚げ土にバックされていたことにより、上面に少量の炭化物を認めることができ、土壤を5.4ℓ回収した。フローテーションの結果、浮遊物420.87g、残渣419.8gを回収したが、炭化種子は出土していない。

VF-04

グリッド: T-37 検出層位: V b 層上位 平面形: 楕円形
 平面形規模: 31cm×19cm 厚さ: 2 cm

調査: V c 層調査中に、やや広いV b 層の落ち込みに楕円形の弱い被熱層を検出した。上層は一部火山灰除去中に削平しており、本来はより大きな平面であったものと思われる。

VF-05

グリッド: T-37 検出層位: V b 層 平面形: 不整楕円形
 平面形規模: 25cm×30cm 厚さ: 4 cm

調査: V c 層調査中に、VF-04と同一面のやや広いV b 層の落ち込みに不整楕円形のV b 層地山被熱層を検出した。周囲からは、焼土より10cm程度高いレベルでⅢ群B 4類（図Ⅲ-75-59、Ⅲ-77-96-97）が集中して出土しており、焼土検出面が本来の焼土面より下がっていることを考慮すると、焼土形成時期は縄文中期末葉から後期初頭の所産と思われる。

V F - 0 6 (図版35- 4)

グリッド：V-20 検出層位：V b 層上位 平面形：橢円形
平面形規模：53cm×38cm 厚さ：8 cm
調査：20ラインの土層観察用のベルトを残しながらのV b 調査中に、シルト岩を多量に含む極暗褐色土を検出した（おそらくTP-54の掘り揚げ土か）。焼土はこの層の縁辺部下層で検出した。掘り揚げ土に多量に含まれるシルト岩が被熱していることから、焼土被熱面は掘り揚げ土の上にあるものと思われる。ただし、明瞭に被熱赤色化した層は、掘り揚げ土下層からその下のV b 層であった。なお、掘り揚げ土下のV b 層には、シルト岩はほとんど含まれない。

V F - 0 7 (図版35- 5・6)

グリッド：V-19・20 検出層位：V b 層下位 平面形：橢円形
平面形規模：76cm×63cm 厚さ：9 cm
調査：VF-06の南側に隣接して検出した。20ラインの土層観察用のベルトでTP-54の掘り揚げ土と思われるシルト岩を多量に含む極暗褐色土の下のV b 層下位で検出した。上層の掘り揚げ土中のシルト岩は被熱していない。VF-06よりも規模は大きい。

V F - 0 8

グリッド：X-20 検出層位：V c 層上位 平面形：円形
平面形規模：20cm×20cm 厚さ：5 cm
調査：最初に東側約2.7mのV b 層上位でVSB-06を調査し、終了後の包含層調査で検出した。2面ほど掘り下げたV c 層上位で検出した。被熱層はV c 層地山層で、同心円状に広がっている。

V F - 0 9 (図版35- 7)

グリッド：Y-18 検出層位：V b 層下位 平面形：橢円形
平面形規模：28cm×24cm 厚さ：2 cm
調査：Y-18区のV c 層調査終了後、V b 層ないしはV c 層の不整形な自然の落ち込みに検出した。小規模な焼土であるが、南側にY-18区の周辺グリッドのV b 層上位からも、被熱した扁平礫が点在して出土していた。

V F - 1 0 (図版35- 8)

グリッド：X-17 検出層位：V b 層下位 平面形：不整橢円形
平面形規模：27cm×22cm 厚さ：4 cm
調査：小規模な焼土である。周囲の包含層からも遺物は少量で、伴う遺物は無い。検出層位より縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての所産と思われる。

V F - 1 1 (図版36- 1・2)

グリッド：V-19 検出層位：V b 層上位 平面形：不整橢円形
平面形規模：68cm×64cm 厚さ：14cm

調査：比較的規模の大きい焼土で、焼土中央部付近（1層）のシルト岩も被熱により赤色化している。焼土検出にあたっては、焼土面の確認もあり、上層の土壤が斑状に残る段階で観察した結果、焼土本体層（地山V b層の被熱層）である1層上面には炭化物を微量に含み、極めて微量で粉状の白色化した焼骨片粒がみられた。

南東に1.2m離れたVF-07と規模が類似し、検出面絶対高もほぼ同一であり、同時期のものと思われる。この2ヶ所の焼土を中心U～W-19区にまたがる水平面を確認しているが、柱穴は不明だった。遺物も周囲1.3m前後以内からは出土していない。

VF-12 (図版36-3)

グリッド：Y-20 検出層位：V c層上位 平面形：不整楕円形
平面形規模：30cm×28cm 厚さ：3cm

調査：V b層調査終了時のV c層上位で検出した。周囲から検出面の上下で遺物が少量出土しているが、伴うものか判然としない。焼土形成時期は、検出面層位より縄文中期から後期初頭にかけてのものであろう。

VF-13

グリッド：W-23 検出層位：V b層下位 平面形：楕円形
平面形規模：32cm×22cm 厚さ：5cm

調査：V b層調査で検出した小規模な焼土である。同一グリッド内からは30点の礫が出土しているが、土器片は1点も出土していないことから、時期も判然としない。東側約1.4mにTP-32が検出されているが、新旧関係は不明である。

VF-14

グリッド：V-23 検出層位：V b層 平面形：不整楕円形
平面形規模：48cm×39cm 厚さ：6cm

調査：比較的中規模の焼土である。先述のVF-13の北側約4mの位置に検出した。周囲からは遺物はほとんど出土していないため、時期は不明である。TP-33に隣接しており、切られていることもなく、Tピットの窪地にかかるることもないので、TP-33が完全に埋積してからの焼土と思われる。

VF-15

グリッド：X-32 検出層位：V c層 平面形：長楕円形
平面形規模：21cm×10cm 厚さ：4cm

調査：VI層面におけるTP-46検出状況で、Tピットの落ち込みに切られて検出した。1層の被熱層が強い被熱により赤色化していることから、本来はより大きかったものと思われる。周囲からはV c層の遺物は出土していない。時期は層位より、縄文中期以前の可能性がある。

VF-16 (図版36-4)

グリッド: R-19 検出層位: Vc 層上位 平面形: 不整梢円形

平面形規模: 66cm×36cm 厚さ: 5 cm

調査: VII-01調査終了後、掘り揚げ土を除去し、下層のVb層の調査を終えて検出した。中央部の根穴と思われる黒褐色から暗褐色土により分断されている。根に引きずり込まれた部分には粉状化した白色の焼骨片が多く観察された。焼土上面にも焼骨片と炭化物が微量にみられた。VII-01の掘り揚げ土と直接的な重複関係はないが、検出面層位より、古い時期のものであり、縄文中期末葉以前の所産と思われる。

第6節 集中出土遺物等

1. 磁 集 中 (VSB) (図III-64~71、表III-13~19)

V層の包含層からは多量の磁が出土しているが、その中で、ブロック状に一括廃棄されたものに磁集中番号を付した。なお、長軸15cm以上のやや大型の磁に関しては調査時点で、輪郭を記録して取上げている。

表III-13 V層磁集中計測一覧表

遺構名	グリッド	層位	平面形	規 模 (cm)		構成磁 総重量 (g)	備 考
				長軸	短軸		
VSB-01	Q-16	Vb層上位	不整梢円形	164	128	78,582.3	
VSB-02	Q-16	Vb層上位	馬蹄形	124	84	18,660.0	同一層位面 同時期の一群
VSB-03	Q-16	Vb層上位	不整梢円形	106	88	5,340.0	
VSB-04	S-36・37	Vc層	長梢円形	151	36	17,378.5	
VSB-05	U-31	Vb層下位	馬蹄形	82	35	21,533.7	被熱板状磁3点
VSB-06	Y-20	Vb層上位	略円形	62	58	21,533.7	
VSB-07	AA-17	Vb層下位	不整梢円形	72	71	29,198.2	被熱磁
VSB-08	Q-35	Vb層上位	略梢円形	23	20	649.9	略円形の扁平転磁で構成
VSB-09	W-24	Vb層下位	梢円形	53	34	2,641.0	風倒木瘤みに投棄?
VSB-10	R・S-33	Vb層上位	不整梢円形	354	259	34,672.8	TP-95掘上土の上 大型の板状被熱磁3個体が中心 一部被熱

VSB-01 (図III-64、図版36-5・6・48-1)

グリッド: Q-16 検出層位: V b 層上位 平面形: 不整梢円形 平面形規模: 164cm×128cm

調査: V層上面より大型礫の一部が検出しており、V a 層調査とともに検出作業を行った。VSB-01～03まで、調査当初一括した遺構名を付していたが、3つのブロックに細分した。構成礫は折り重なることなく一面に出土している。他のブロックと比べ、大型の板状亜角礫で構成され、最大長軸で857mm、19,620gの礫がある。南側に隣接して、Ⅲ群B 4類土器の底部がV b 層に埋まり込む状態で出土している(図III-63-1)。構成礫の総重量は78,582.4gである。出土遺物の土器(1)は器壁も厚く、多量の石英砂を含み、地文にはR L 単節斜行繩文が施されている。胎土から搬入品の可能性がある。

VSB-02 (図III-64、図版36-5・48-1)

グリッド: Q-16 検出層位: V b 層上位 平面形: 馬蹄形 平面形規模: 124cm×84cm

調査: 馬蹄形状分布し、中央部は緩やかに窪む。周囲の同一面からはⅢ群B 4類土器が出土している。構成礫は、長軸135.8mm以下の比較的小型から中型にかけての板状亜角礫や転礫で構成される。構成礫の総重量は13,670.3gである。

VSB-03 (図III-64、図版36-5・48-1)

グリッド: Q-16 検出層位: V b 層上位 平面形: 不整梢円形 平面形規模: 106cm×88cm

調査: 比較的中型の板状を中心とする亜角礫で構成され、総重量は18,660gである。南側で、礫検出時にVF-01を確認している。隣接して角柱状の礫2点が出土しているが、被熱の痕跡は認められず焼土形成後に礫が置かれたものと思われる。出土遺物2は平面形が三角形状で、断面形が台形状の棒状礫である。実測面下端の他、正面および裏面の両側縁の計5カ所に敲打痕が認められる。

VSB-04 (図III-65、図版48-1)

グリッド: S-36・37 検出層位: V b 層下位 平面形: 長梢円形 平面形規模: 151cm×36cm

調査: S-36・37区のV c 層調査中に、長軸350mm以上の2個の大型板状礫を中心に小型の礫4点が、ややまとまって出土した。検出面層位および断面三角形の擦石が出土していることから繩文前期の所産と思われる。

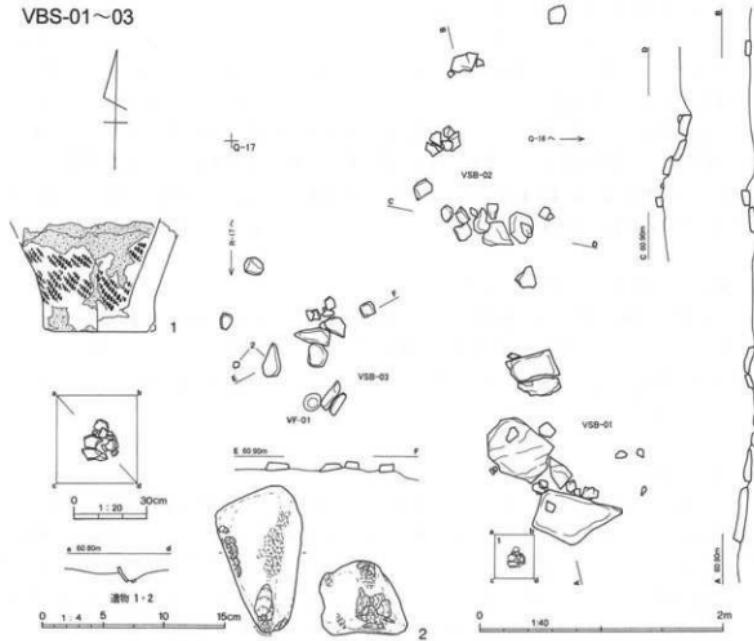
出土遺物1は幅広の擦り面をもつ断面三角形の擦石で、擦り面の長軸端右側と礫長軸端左側、および背面に敲打痕がある。特に背面部分は集中的な強い敲打により、大きく窪む。2は層面で破損した大型の転礫を用いた砂岩製の砥石である。層面を砥石として利用し、裏面は転礫面の状態を残している。使用面は浅く長梢円形状に窪み、中央部には刻線状の切り込みがある。

VSB-05 (図III-66、図版48-1)

グリッド: U-31 検出層位: V c 層 平面形: 馬蹄形 平面形規模: 82cm×35cm

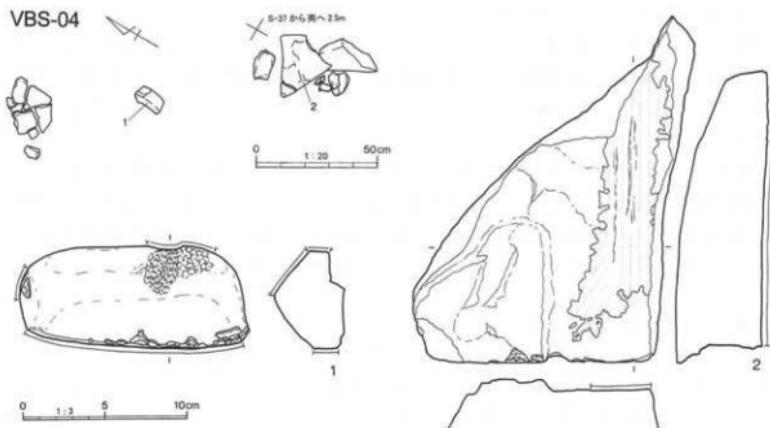
調査: U-31区のV b 層調査において、VI層の地山微高地でV c 層中より出土した。構成礫は3点と少ないが、すべて被熱した板状の大型礫で構成されていることから集中番号を付した。礫1 (430mm×228mm×58mm、8,010g) と礫2 (570mm×300mm×52mm、4,470g) は、板状礫の中心部が被熱し、中央部は焼け弾けにより赤褐色を呈し、縁辺部は煤により黒色化している。礫3 (497mm×133mm×66mm、

VBS-01~03



図III-64 磚集中(VSB-01~03)

VBS-04



図III-65 磚集中(VSB-04)

4,160g) も裏面に被熱赤色化部分がある。検出および取上げ後、周囲の焼土の有無に注意したが検出されなかった。炭化物も出土していないこと、礫の被熱範囲に一定の方向性が認められないことから、別地点で被熱し、廃棄された可能性がある。また、礫の被熱状況から、礫の上で直接燃焼していた可能性が高く、いわゆる“石焼き”を行っていた可能性がある。

VSB-06 (図III-67、図版48-1)

グリッド: Y-20 検出層位: Vb層上位 平面形: 略円形 平面形規模: 62cm×58cm

調査: Y-20区のVb層上位を調査中に、V層上面より窪んでいた範囲に検出した。礫は2~4段ほど折り重なる様に集中している。主に板状礫を主体とし、台石が1点出土している。礫も中央部が窪む状態で出土していることから、下層に土坑の存在を想定し、トレンチを設定したが、周囲のVb・Vc層と区別がつかず、判然としないことから、何らかの自然影響による窪地に廃棄したものと思われる。これらの礫はVa層を被覆し、Vb層上位で出土していることから縄文中期末葉から後期初頭にかけての所産と思われる。

出土遺物1は、層理面で破損した転礫を利用した板状の台石である。平面形は台形状を呈し、上底よりの礫皮面に敲打痕が認められる。また、上底側縁辺部にも側面からの若干の剥離調整が施されている。

VSB-07 (図III-68、図版48-1)

グリッド: AA-17 検出層位: Vc層下位 平面形: 不整楕円形 平面形規模: 72cm×71cm

調査: AA-17区のVc層調査においてVb層の長楕円形の落ち込みに伴って、被熱破碎した礫片と未被熱の礫片とが混じり合う状態で集中して検出した。被熱礫を確認していたことから、周囲および取上げ時に焼土の有無に注意を払いながら調査したが、焼土は検出されなかった。しかし、礫取上げ土中および下層の黒色土(1層)中より少量の炭化物が含まれており、比較的近位置で被熱したか、被熱後ほとんど時間差無くこの場所に廃棄されたものと思われる。また、この時、クルミ属核片を回収し、AMS法C14年代測定を行った結果、 $5,790 \pm 40$ B.Pという年代が得られており、構成礫に断面三角形の擦石が含まれていることからも、縄文前期の所産と思われる。なお、集石下層のVb層落ち込みは、結局自然影響下のものと思われ、窪地に廃棄したものと思われる。

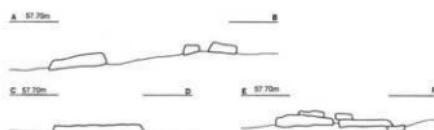
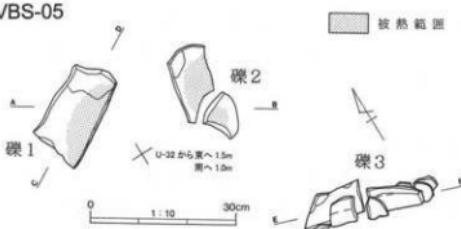
出土礫総重量は29,198.2gである。1は角柱状の礫を素材とする敲石で、長軸下端に剥離を伴う敲打痕があり、実測面には若干の擦り痕が認められる。2は、断面三角形の擦石で、長軸下縁に幅の狭い擦り面がある。また、長軸の左端に剥離を伴う敲打痕が認められる。3は、平面形が台形状の石皿片である。素材礫は層理面で破損するやや硬質の板状の砂岩で、上底側縁は剥離調整が施され、被熱により赤色化している。使用面は滑らかで、擦痕等は一切観察できない。

VSB-08 (図III-69、図版37-6・49-1)

グリッド: Q-35 検出層位: Vb層上位 平面形: 略楕円形 平面形規模: 23cm×20cm

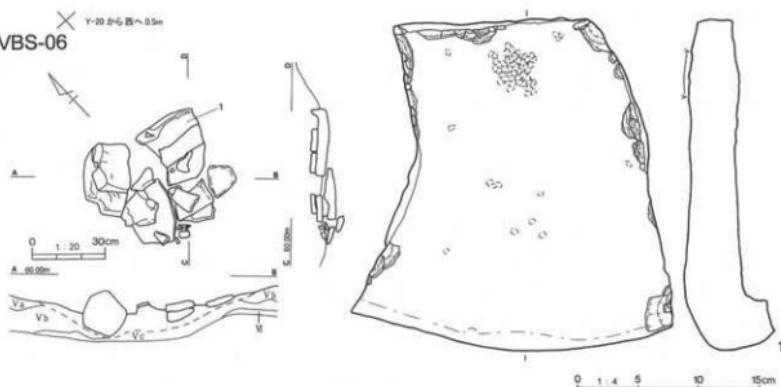
調査: Vb層上位において、扁平の略円形から楕円形で、形態が均一化した礫が、2~3枚折り重なって出土した。被熱している礫はない。礫の平均計測値は、長軸56.4mm、短軸41.3mm、厚さ10.1mm、重さ29gである。遺物21は、略円形の1カ所に剥離加工痕があった。周囲のグリッドからも同様な礫が単独で出土している。

VBS-05



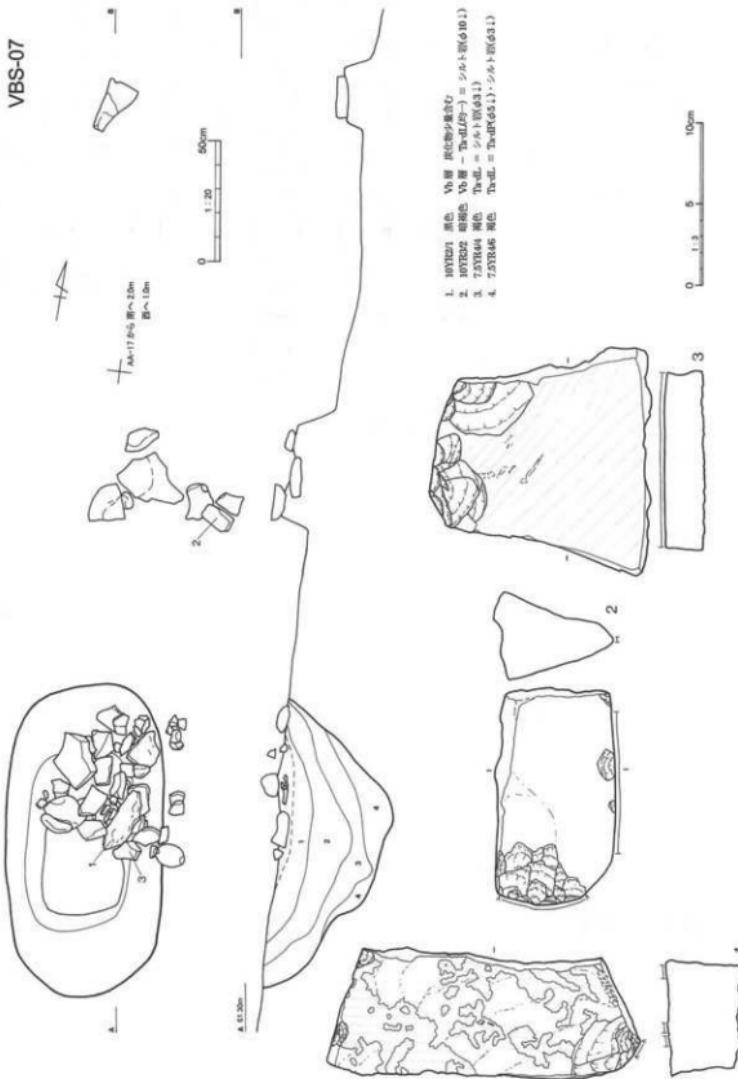
図III-66 磚集中(VSB-05)

VBS-06

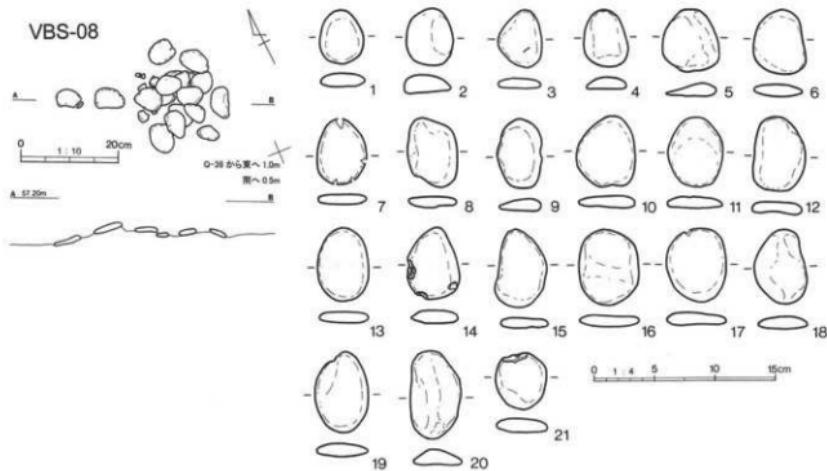


図III-67 磚集中(VSB-06)

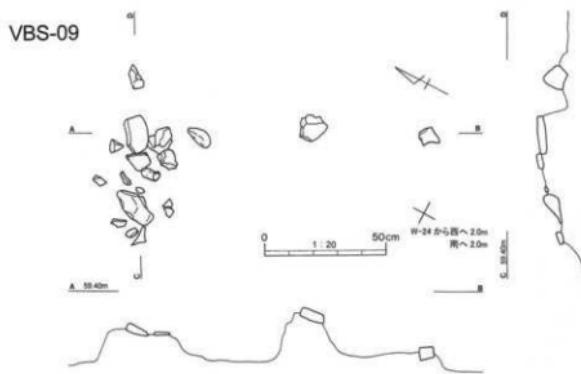
VBS-07



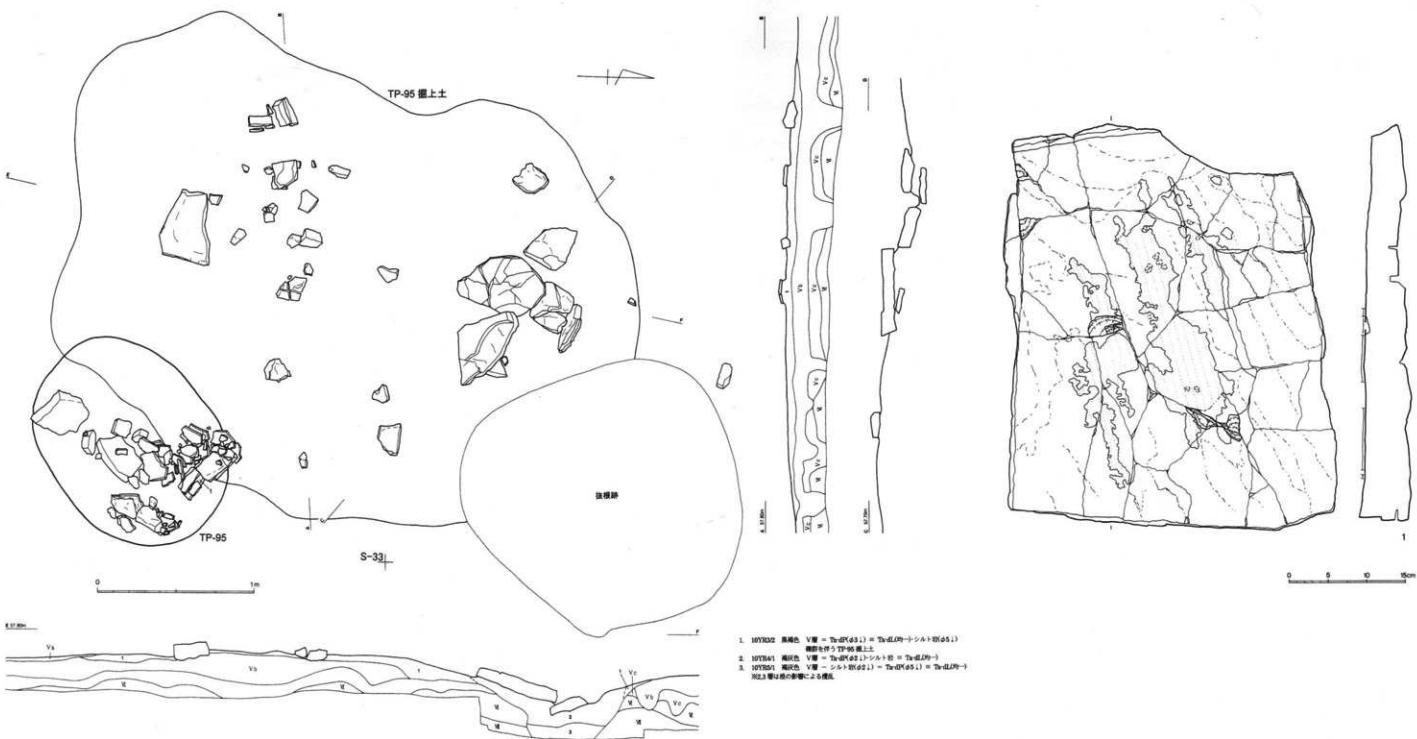
図III-68 磚集中(VSB-07)



図III-69 碟集中(VSB-08)



図III-70 碟集中(VSB-09)



図III-71 石集中(VSB-10)

V S B - 0 9 (図版III-70、図版III-66)

グリッド: W-24 検出層位: V b 層下位 平面形: 楕円形 平面形規模: 53cm×34cm

調査: W-24区で、風倒木痕のV b 層窪みに転疊片が集中して出土している。

V S B - 1 0 (図版III-71、図版37-7・49-2)

グリッド: R・S-33 検出層位: V b 層上位

平面形: 不整椭円形 平面形規模: 354cm×259cm

調査: S-33区においてV a 層調査で大型の板状礫を検出した。この範囲は、V層上面より4m×3mの範囲で若干の微高地で、集石の中心部にTa-dやシルト岩を少量含む黒褐色土(1層)が堆積しており、マウンド(掘り掲げ土)に伴う集石の可能性があった。このため、マウンドおよび下層の遺構確認を目的とした十字のトレンチを設定した。マウンドはV b 層上位を下底とする黒褐色土で、Ta-d ロームを均一に少量含み、合わせてシルト岩も混在している。特にマウンドの中心部はシルト岩を多く含んでおり、縁辺部はシルト岩をほとんど含まず、漸移的に広がる。周囲のV b 層はシルト岩をほとんど含まないため、容易に区別できた。また、東側の同一層位面で、黒曜石のフレイク・チップ集中(VFCB-05・06)も検出している。

集石は大きく3つのブロックに分かれ、TP-95覆土上層の窪みに落ち込むものと、マウンド状の微高地にやや散逸しているもの、北側の窪地に集中するものがある。北側の窪みに集中するものは板状の大型礫で構成され、一部重複し、窪み中心部へ傾いている。マウンド状の微高地にあるものは、シルト岩を含む黒褐色土の範囲と一致し、小型から中型の礫で構成され、やや散逸した状況で出土している。TP-95覆土に落ち込むものは、黒色土・黒褐色土の覆土上層と背面崩落層である覆土中層との層境に出土し、北側に集中している。なお、ほぼ同一範囲・層位で、191点、28.0gのフレイク・チップも出土している。

調査開始時点では、TP-95覆土上層の窪みに落ち込むものは全く検出していない。検出状況撮影後、黒褐色土の範囲と礫の出土状況を平面図に記録し、礫を取上げた。トレンチ壁面は土層観察用のベルトとして残し、周囲のV層を掘下げた。当初、北側の集石ブロックが円形状に落ち込んでいたことから、土坑の存在を想定し、これに伴う掘り掲げ土と推定していた。落ち込みにトレンチを設け、確認したが明瞭な立ち上がり、および土坑プランの検出には至らなかった。VI層上面で東側に大型の板状礫を伴う、ほぼ円形のV層落ち込みを検出し(図版32-5)、遺構名を付けた。当初、円形プランであったことから、土坑名VP-11として調査を進めたが、堆積状況がTピットと同様であったことから、調査途中でTピットの廃絶後の落ち込みに伴う集石であることが判明した。しかし、調査途中からの遺構名変更は後の整理作業の煩雑化が生じることから、調査時点では終了までVP-11の遺構名で行い、整理作業にて遺物や台帳、堆積図等の図面類と合わせてTP-95という新しい遺構名に変更している。

調査結果から、VSB-10はTP-95の掘り掲げ土上およびTP-95廃絶後の窪地と自然影響下で形成された窪地に廃棄された礫群と判明した。また、隣接するVFCB-06も、掘り掲げ土中にフレイク・チップが混在、散逸していないことから、TP-95廃絶後のものであり、同時期の所産と思われる。

調査結果から、VSB-10はTP-95の掘り掲げ土上およびTP-95廃絶後の窪地と自然影響下で形成された窪地に廃棄された礫群と判明した。また、隣接するVFCB-06も、掘り掲げ土中にフレイク・チップが混在、散逸していないことから、TP-95廃絶後のものであり、同時期の所産と思われる。

構成礫重量は34,672.8gにもおよぶ。出土遺物1は、長軸517mm、短軸424mm、厚さ69mm、重量14,380gある大型の方形の板状礫を利用した石皿である。片面中央部を使用している。掘り掲げ土上とTP-95V層落ち込みから出土している礫片30片以上が3層に重なって接合し、使用面に明瞭な擦痕を観察できないが、平滑で、緩く窪む。また、実測図上方約1/5程度範囲で、被熱により黒色化している。構成礫総重量は、31,963gである。

時期は、構築面層位より縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての余市式期の所産である。

表III-14 V層礫集中出土遺物計測一覧表

図版番号	挿図番号	遺構名	遺物番号	遺物名	層位	分類	計測値 (mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
48-1	III-64-1			土器								
	III-64-2	VSB-02	3347	蔽石	Vb	2	114.0	66.0	55.8	540	Sa.	3811と接合
	III-65-1	VSB-04	11278	擦石	Vbl	1	141.0	63.0	47.5	480	Sa.	蔽石併用
	III-65-2	VSB-04	11270	砥石	Vbl	2A	(211.0)	(174.0)	(54.0)	1860	Sa.	
	III-68-1	VSB-07	18139	蔽石	Vbl	7	188.0	76.0	61.5	1040	Sa.	
	III-68-2	VSB-07	14837	擦石	Vl	2	(129.0)	(74.0)	53.5	540	Sa.	被熱 蔽石併用
	III-68-3	VSB-07	14876	石皿	Vbl	1	(135.0)	(134.0)	2.9	680	Sa.	17655+29454+25359と同一個体

2. フレイク・チップ集中 (VFCB) (表III-20)

2カ年の調査で6ヶ所のフレイク・チップ集中を検出した。調査時点の認定にあたっては、比較的狭い範囲に限られ、包含層を移植ゴテで薄く削った時に複数のフレイク・チップが出土するものとした。特徴的なものとしては、先述したVFCB-05・06の他、立地の面では、発掘区西側の段丘縁辺部よりVFCB-01、発掘区南西の斜面裾よりVFCB-02が検出されている。いずれも、斜面下方への流出がみられ、VFCB-01の一部は段丘斜面へ流出・遺失している可能性がある。

遺構との関係では、VFCB-04がTP-86(C2型)に隣接して、また、やや離れてVF-16、VH-01の掘り掲げ土からやや離れた位置で検出している。それぞれの関係は、遺構との位置関係と遺物の出土、分布状況および検出面層位、レベルから時期についておおよその関係がつかめる。最も近いTP-85との関係は、VFCB-04がVb層上位から検出していることからTP-85と前後する近い時期か、より古い時期が想定される。最も近い距離で32cmであり、いずれの場合でも、Tピット構築時に何らかの擾乱等を受けることは容易に想定できよう。しかし、集中出土という状況から廃棄時の状況を残しているものと考えられ、TP-85の廃絶後の廃棄と考えられる。やや離れたVF-16とは、約1.2m、VH-01の掘り掲げ土の縁辺との距離は約3.1mの位置関係にある。前者はVc層検出で、明らかに本遺構より古いものと思われる。後者は絶対高では本集中遺物が高いレベルから出土しているが、地山段丘面自体の高低差を反映している可能性もあり、より優先的に構築面層を考慮すると、同一面検出であることから、同時期かあるいは前後する極めて近い時期の可能性が高い。

VFCB-07は遺物がほとんど出土していない場所での単独の検出である。規模については、回収土量と出土物の重さや点数から把握できよう。

表Ⅲ-15 V層棟集中構成構計測一覽表(1)

図版番号	遺構名	図番号	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被熱	規模(mm)	軸幅	厚さ	長短比	重量(g)	接合	備考
V SB-01	1567	V a.	1568	V a.	輪形	完	Sa.	-	737	186	128	1.5	33,260	-	-
	2862	V bu.	2863	V bu.	輪形	完	Sa.	-	161	92	69.6	1.8	760	2900	-
	2868	V bu.	2870	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	573	198	86	1.2	480	-	-
	2872	V bu.	2874	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	-	-	-	-	22,620	2867,2869,2872,1,2873	-
	2876	V bu.	2877	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	-	-	-	-	600	-	-
	2878	V bu.	2879	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	-	-	-	-	440	2871	-
	2882	V bu.	2883	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	357	231	68	2.6	19,620	2876,2877,2900	-
	2885	V bu.	2886	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	-	-	-	-	400	-	-
	2887	V bu.	2889	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	-	-	-	-	-	-	-
	2890	V bu.	2892	V bu.	輪形	欠損	Sa.	被熱	-	-	-	-	-	-	-
V SB-02	1569	V a.	1570	V a.	輪形	完	Sa.	-	172	156	29	1.1	760	-	-
	1572	V a.	1573	V a.	輪形	完	Sa.	-	124.5	67.8	28.9	1.8	280	-	-
	1574	V a.	1574-1	V a.	輪形	完	Sa.	-	205	149	49	1.4	1,180	-	-
	1574-2	V a.	1575	V a.	輪形	完	Sa.	-	29.1	99.3	25	1.1	280	-	-
	1576	V a.	1578	V a.	輪形	完	Sa.	-	135.8	91.2	53.5	1.5	500	-	-
	1579	V a.	1620	V a.	輪形	完	Sa.	-	178	113	83	1.6	790	-	-
	1621	V bu.	2884	V bu.	輪形	完	Sa.	-	131	109	26	1.2	550	-	-
	2886	V bu.	2887	V bu.	輪形	完	Sa.	-	127	111	37.3	1.1	2899	-	-
	2888	V bu.	2889	V bu.	輪形	完	Sa.	-	241	175	44	1.4	1,900	-	-
	2890	V bu.	2892	V bu.	輪形	完	Sa.	-	35.8	74.3	38.6	1.8	330	-	-
子の地盤片重量	17	430.3	17	430.3	重量小計	平均値	152.6	117.2	41.8	1.3	779	13,240	-	-	-
	総重量	1367.0	3	1367.0	3	重量小計	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 III-16 V管標準集中構成機計測一覧表 (2)

図版番号	遺構名	図番号	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被熱	焼損(mm)	長軸	短軸	厚さ	長軸比	重量(g)	接合	備考
36-5 VS-B-03		1552	Vb	完形	Sa.				273	152	62	1.8	1,870			
		1553-1	Vb	完形	Sa.				249	69	54	3.6	890			
		1553-2	Vb	完形	Sa.				180	69	39	2.8	540			
		1557	Vb	欠損	Sa.				260	194	85	1.3	2,050			
		1558	Vb	完形	Sa.				-	-	-	-	4,060			
		1561	Vb	完形	Sa.				124.9	123.1	24.4	1.0	800			
		1562	Vb	完形	Sa.				28.4	104	23.3	1.2	380			
		1565	Vb	完形	Sa.				162	126	53	1.3	890			
		1566	Vb	完形	Sa.				109.9	92.2	37.5	1.2	310			
		2883	Vb	欠損	Sa.				-	-	-	-	3,860			
		2946	Vb	欠損	Sa.				-	-	-	-	3811			
		2947	Vb	欠損	Sa.				-	-	-	-	540			
		3349	Vb	欠損	Sa.				-	-	-	-	2,220			
点数小計				13	平均値				185.9	115.7	47.3	1.8	1,435			
その他の破片重量				0	重量小計				18,660				18,660			
総重量																
V-SB-04	1	1278	Vb	磨石	完形	Sa.			141	63	47.5	2.2	480			
	2	1270	Vb	底面	完形	Sa.			211	74	54	1.2	1,860			
		1273	Vb	底面	欠損	Sa.			-	-	-	-	1,200			
		1274	Vb	底面	欠損	Sa.			-	-	-	-	60			
		1276	Vb	底面	欠損	Sa.			-	-	-	-	380			
		11279	Vb	欠損	Sa.				-	-	-	-	920			
		1288	Vb	底面	完形	Sa.			78.2	68.4	24.3	1.1	720			
		1289	Vb	底面	完形	Sa.			143.4	101.8	41.9	1.5	590			
		8	平均値	620	重量小計				620	470	590	1.1	4,720			
		5340	平均値	5340	重量小計											
		1194	Vc	底面	完形	Sa.			430	228	58	1.9	8,010			
		1195-1	Vc	底面	完形	Sa.			408	172	52	2.4	4,410			
		1196-3	Vc	底面	完形	Sa.			173	137	24	1.3	650			
V-SB-05		1198	Vc	底面	完形	Sa.			497	133	66	3.7	4,160			
		4	平均値	3177.0	167.5	50.0	2.3	4,323					17,290			
点数小計				88.5	重量小計				17378.5							
その他の破片重量																
総重量																
搬出用																

表Ⅲ-17 V層織集中構成礫計測一覧表(3)

図版番号	遺構名	図版号	遺物番号	遺物	層位	遺物名	形状	材質	被燃	規模(mm)			長短比	重量(g)	接合	備考
										長軸	短軸	厚さ				
V-SB-06	1	14239	V-bl	台石	隆起形	Sa.	-	-	-	273	264	62	1.0	4,880		
	13407	KR	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	-	-	-	-	-	14216, 14221, 14222, 14223		
	14223	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	-	Sa.	-	-	-	-	-	14228, 14230, 14234, 14237		
	14227	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	-	Sa.	-	-	-	-	-	14238, 15141, 15142		
	14232	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	-	Sa.	-	-	-	-	-	14349, 15336, 15337, 15338		
	14236	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	-	Sa.	-	-	-	-	-	1490		
	点数/重	6	6	平均値	平均値	136.9	108.5	33.1	1.3	590						
	その他破片重	913.7	913.7	重積小計	重積小計	204.9	186.3	47.6	1.1	3,437						
	總重量	21533.7	21533.7	重積小計	重積小計	188	76	61.5	2.5	1,040						
	2	1873	V-bl	壁石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	129	74	51.5	2.7	450		
	3	14876	V-bl	石皿	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	135	131	29	1.0	880		
V-SB-07	13549	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	313.5	161.5	119	2.5	1,440	1825, 1837, 18118, 18120	焼古灰質
	14512	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	223	133	62	1.7	5,960		
	14868	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	190	117	66	1.4	1,110		
	16691	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	155	85	39	1.8	540		
	14870	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	212	194	76	1.3	3,280		
	14871	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	120	91	23	1.3	280		
	1872	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	169	92	51	1.8	640		
	18095	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	149	106	51	1.4	700	18108, 2	
	18096	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	-	-	-	-	860	18138	
	18103	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	117	126	39	1.2	750	18124	
	18108-1	V-bl	V-bl	隆起形	Sa.	被燃	-	Sa.	被燃	138	103	34	1.3	480	18146, 18149, 18150, 18153	
	18109	V-bl	V-bl	隆起形	Sa.	被燃	-	Sa.	被燃	-	-	-	-	380	18154	
	18112	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	欠損	Sa.	被燃	-	-	-	-			
	18114	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	被燃	Sa.	被燃	215	167	65	1.3	2,030		
	18123	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	被燃	Sa.	被燃	118	92	51	1.3	700		
	18130-1	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	被燃	Sa.	被燃	115	57	46	2.0	280	18146	
	18136	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	被燃	Sa.	被燃	106	90	45	1.2	610		
	18142	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	被燃	Sa.	被燃	126	88	25	1.4	290		
	18143	V-bl	V-bl	台石	隆起形	Sa.	被燃	Sa.	被燃	-	-	-	-			

表III-18 V層集中構成標計測一覧表 (4)

図版番号	遺構名	図番号	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被熱	電極(mm)	長軸	短軸	厚さ	長短比	重量(g)	接合	備考
- VSB-07		18144	Vb1	欠	Sa.	被熱	Sa.	被熱	195	70	54	-	840			
		18145	Vb1	欠	Sa.	被熱	Sa.	被熱	117	85	21	2.4	660			
		18147	Vb1	欠	Sa.	被熱	Sa.	被熱	117	85	21	2.4	240	18152		
		18155	Vb1	欠	Sa.	被熱	Sa.	被熱	117	85	21	2.4	1,060			
		18199	Vb1	欠	Sa.	被熱	Sa.	被熱	92	76	49	1.2	260			
		18707	Vb1	欠	Sa.	被熱	Sa.	被熱	134	80	56	1.7	510			
		点数	小計	28	平均値	159.41	107.89	49.27	1.5	1.009	28.240					
		その他破片重さ	958.2	29198.2	重さ	958.2	重さ	958.2	平均値	29198.2	重さ	958.2	平均値	29198.2	重さ	958.2
		総重量														
37-6 VSB-08		239006	Vb1	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	44	36	10.5	1.2	22			
		23531	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	45	38	14.5	1.2	36			
		23530	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	48	33	8	2.1	18			
		23533	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	45	36	9.5	1.3	20			
		23539	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	53	46	10.5	1.2	28			
		23533	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	53	41	10	1.3	30			
		23534	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	53	41	8	1.3	22	23537 23597 23598 23899		
		23528	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	60	40.5	9	1.5	26			
		23529	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	57	45	9.5	1.5	26			
		23501	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	58.5	49	9	1.2	34			
		23526	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	57	45	9.5	1.3	26			
		23524	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	57	45	9.5	1.3	26			
		23523	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	51	45	9.5	1.4	31			
		23538	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	60	44.5	9	1.4	33			
		23540	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	59	44.5	10.5	1.4	30			
		23522	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	61.5	41	9.5	1.5	32			
		23529	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	62	49	9.5	1.3	34			
		23525	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	60	49.5	10.5	1.2	30			
		23536	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	51	44.5	9.5	1.5	26			
		23527	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	66.5	44.5	11	1.5	38			
		23532	Vbu	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	72.5	41	13	1.8	46			
		23801	Vb1	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	46.5	42.2	10.5	1.1	25			
		23896	Vb1	完形	Sa.	被熱	Sa.	被熱	49.2	42.7	11.8	1.2	26			
		点数	小計	22	平均値	56.4	41.3	10.1	1.4	29						
		その他破片重さ	18.2	重さ	649.9	重さ	649.9	重さ	649.9	平均値	632					
		総重量														

表III-19 V層蝶集中構成標計測一覧表(5)

図版番号	遺構名	図番号	遺物番号	層位	遺物名	状態	材質	被熱	規模(cm)		長短軸	重量(g)	接合	備考
									長軸	短軸				
		1	22967	V bu	石皿	略完形	Sa.	被熱	517	424	69	1.2	14,380	25906, 25912, 25914, 25915, 25919, 25921, 27137, 27139,
37-7	V PCB-10	31410 31414 2788	2788	欠損 欠損 Sa.	被熱	351	327	—	58	—	7,740	31564, 31600, 31605, 31608, 31415, 31425, 31539, 31545, 31546,		
		31540	2788	略完形	Sa.	被熱	469	238	94	2.0	9,680	31560-1, 31561, 31562, 31563, 31567, 31568, 31577,		
		点数(小計)	4	平均値	445.7	329.7	73.7	1.4	7,991	31565, 31566, 31601				
		その他の破片重量	2709.4	重り(小計)	34672.8				31,963					

表III-20 V層フレイク・チップ集中計測一覧表

遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		土量(t)	遺物点数	重量(g)	備考
				長軸	短軸				
V PCB-01	V-W-13	V b層上位～Vc層	不整梢円形	287	165	10	未計測	9,723	349,2
V PCB-02	AA-16	V b層上位	不整形	204	155	8	未計測	21,715	350,3
V PCB-03	Q-17	V b層上位	不整梢円形	100	64	3	未計測	356	14,7
V PCB-04	R-18	V b層上位	不整長梢円形	105	56	—	31,6	2,226	27,0
V PCB-05	S-32	V b層上位	長梢円形	157	77	—	未計測	707	31,0
V PCB-06	S-32・33	V b層上位	長梢円形	77	32	—	未計測	163	5,4
V PCB-07	S-29・30	V b層上位	不整長梢円形	286	157	—	37,2	6,858	75,0

第7節 V層出土の遺物

主なものについて概略し、詳細については勝手ながら割愛させていただく。どうかご了承願いたい。その他については、遺物分類表に基づく一覧表を参照として頂きたい。

1 土 器 (図III-72~77)

縄文時代早期後葉の中茶路式、末葉の東鉋路IV式、前期前葉の静内中野式、中期前葉の円筒上層b式、中葉の天神山式、後葉の柏木川式・北筒式、中期末葉から後期初頭にかけての余市式が出土している。この中でも、最も出土点数が多いものは、中期末葉から後期初頭にかけての余市式で、ついで、中期中葉の天神山式・後葉の柏木川式、前期の静内中野式と続く。中茶路式、東鉋路IV式、北筒式は1個体ないしは2個体しか出土していない。

I群3c類の中茶路式はC地区の西側で単独に出土している。18点出土したが破片の大半が接合した(図III-72-16)。出土層位もVc層下位で、他の遺物とは明らかに異なっている。微隆起線に近い貼付帶で、貼付帶状に刻みは無い。この土器の出土により樽前d火山灰の再堆積層であるVII層の形成は、この時期には既に安定していたことがわかる。17の東鉋路IV式も1個体片のみの出土で、Vc層からの出土である。一部風倒木により搅乱を受けており、一部Vb層からも出土している。

II群土器は、小破片で24点が出土している。18~20は黒色を呈し、器体は非常に軽い。18と21は縄文の圧痕が浅い。

III群土器は、23・24がA1類、1~3・22・25~32・34~39はB1類で、4・33・40~47はB2類、48・49はB3類である。23・24は同一個体で、無文地に横位蛇行する貼付文が施され、器内面は強いミガキ調整が施され光沢面をもつ。24は貼付帶間の無文地帯に、3カ所に馬蹄形燃糸圧痕文が施されていることから上層b式と思われる。

B1類の天神山式もしくはこれに平行する土器については、器形上特徴から一括したが、一部は前段階の萩ヶ岡2式に並存する可能性もある。22と25・26は同一個体である。文様は地文縄文のみであるが、器内面および底部側面のミガキ調整が施されていないこと、底面の縄文施文より、中期前半の円筒上層式に後続する土器と考え、B1類に分類した。

B1類は、復元できたものが2個体ある。いずれの器形も、胸部が直立ないしはやや膨らみ、口縁部が外反する特徴がある。1と3は同一個体であるが、接合しなかったため、1に推定で3の外形線を組み合わせたものである。波状口縁の頂部より「Y」字状の貼付文が施され、「Y」字の3線結合点にはボタン状の貼り瘤がある。同類の貼り瘤があるものは30・34・36がある。また、縦位の貼付帶を連結する2条1対の平行沈線文が2段施されている。2は棒状に近い山形突起を有する。それぞれ器形がやや異なるものの、口唇部の形態、貼付文の構成等共通要素が多くみられ、同時期の所産と思われる。III-73-27~29(同一個体)も同様のタイプで、口縁部内面には横走する縄文が施されている。底部に関する同様な特徴は天神山式の37にも共通する。30・31は天神山式に特徴的な棒状の突起を有する。また、口縁部が断面三角状に肥厚し、内面に強いミガキ調整を施すもの(31・34・36)もある。沈線を施すもの(30・34~36)があるが、竹管の表面を利用して施されるものが多い。また縦位の貼付文または沈線を施すものがあるが、B1類とB2類との違いは突起の形状(B1類は棒状突起ないしは大きい波状口縁、B2類は山形の突起となる)、器形(B1類は胸部がやや膨らみ口縁部が外反

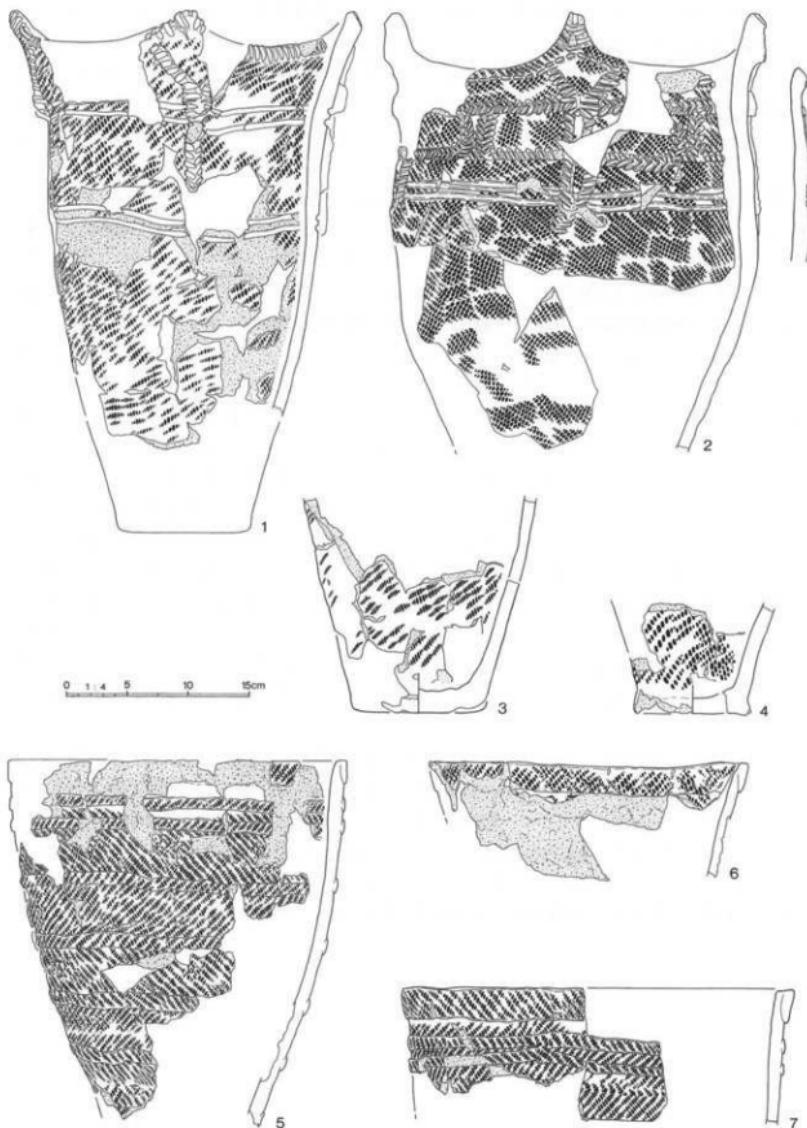
し、口唇部の肥厚が顯著で、断面形が三角形状である。B 2 類は直線的に外傾する器形で口唇部の肥厚は顯著ではない）から判断した。

柏木川式のB 2 類は、B 1 類の沈線文と比較して半裁竹管の内面を利用した沈線文が施され、貼付帯も突起下より垂下する単純なものが多いようである。4の底部は側面が大きく張り出す平底土器である。47は、第1種結束斜行縄文が施される。胎土に、少量の海綿骨針を含むことから搬入品と思われる。

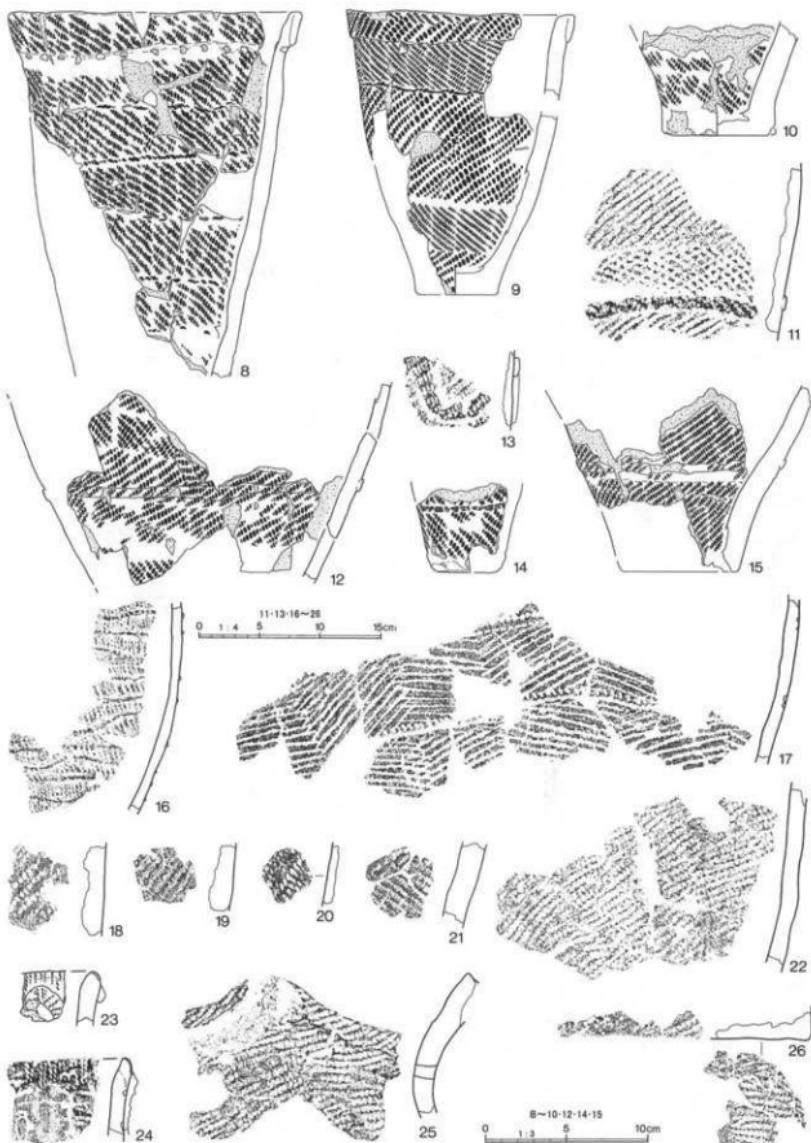
北筒式のB 3 類は、48・49の2片で、円形刺突文を確認したものはなかったことから、B 2 類に分類される可能性もある。48は、口唇部が内傾する角状で、口縁部肥厚帯上に2個1対の刺突文が施されている。胎土に纖維を全く含まないことから、比較的新しい時期のものかもしれない。49は結節回転文と2個1対の刺突文が施されている（上部は断面で確認）。48と反し、胎土に多量の纖維を含む。

Ⅲ群B 4 類の余市式は図III-71-5～図III-72-15、図III-74-50～図III-76-96まであり、本遺跡の主体的な時期である。特徴として、器形は平底の土器で、胴部がやや膨らみ、口縁部が直立する深鉢形の土器である。口唇部は角状でやや内傾するもの（7・9・51・55・57）や、より鋭角な内削ぎの切り出し状となるもの（52・58・61）が多く、口唇上の施文はない。口唇側面に幅広の貼付帯を設け、横環する貼付帯が胴部下半まで多段に回り、地文縄文も整然とした羽状縄文が多い。また、重複縄文（6・11・54・55・57・58・60・64・70・71・96・97）や口縁部に無文帶を有するもの（5・54・55・57・63・67・68・69）が比較的多く出土し、異原体羽状縄文の施文にあたって縄端を意識し、スジ状の羽状結合面を残すもの（7・75・93・94・96・97）もやや多く出土している。しかし、刺突文を施すもの（8・63・66・67）や縄線文を施すもの（60・62）、貼付帯が2段に構成されるもの（59・66）は少なく、細分型式である伊達山式ないしは小野幌式はほとんど見られない。胎土は、砂粒を多く含み、粒度の大きいものはあまり見られない。粒度の大きいものであっても、タブコブ式に見られる円礫状のものではなく、地文施文後に器表面をナデするものもない。地文において特異なものとして、86がある。地文が第1種結束羽状縄文で、結束部に貼付帯を施している。また、95は無文地の上げ底、底部片である。

この他、胎土に無色透明で光沢の強い、石英砂粒を多量に含むもの（8・10・92）がある。いずれも、貼付帯をもたない。8は一見、口縁部に幅広の貼付帯を施す様にみえるが、施文前のナデつけが確認できることから、肥厚帯として一覧表に記載している。92は、今回出土したⅢ群B 4 類の中で、唯一、口唇上に縄文を施文するものである。これらは、出土状況・層位において他のⅢ群B 4 類と変わらないことから、同時期のものと思われる。胎土、文様において異質であることから搬入品と考えられる。類似した胎土は、富良野市や芦別市出土の土器において時期を問わず、見ることができる。



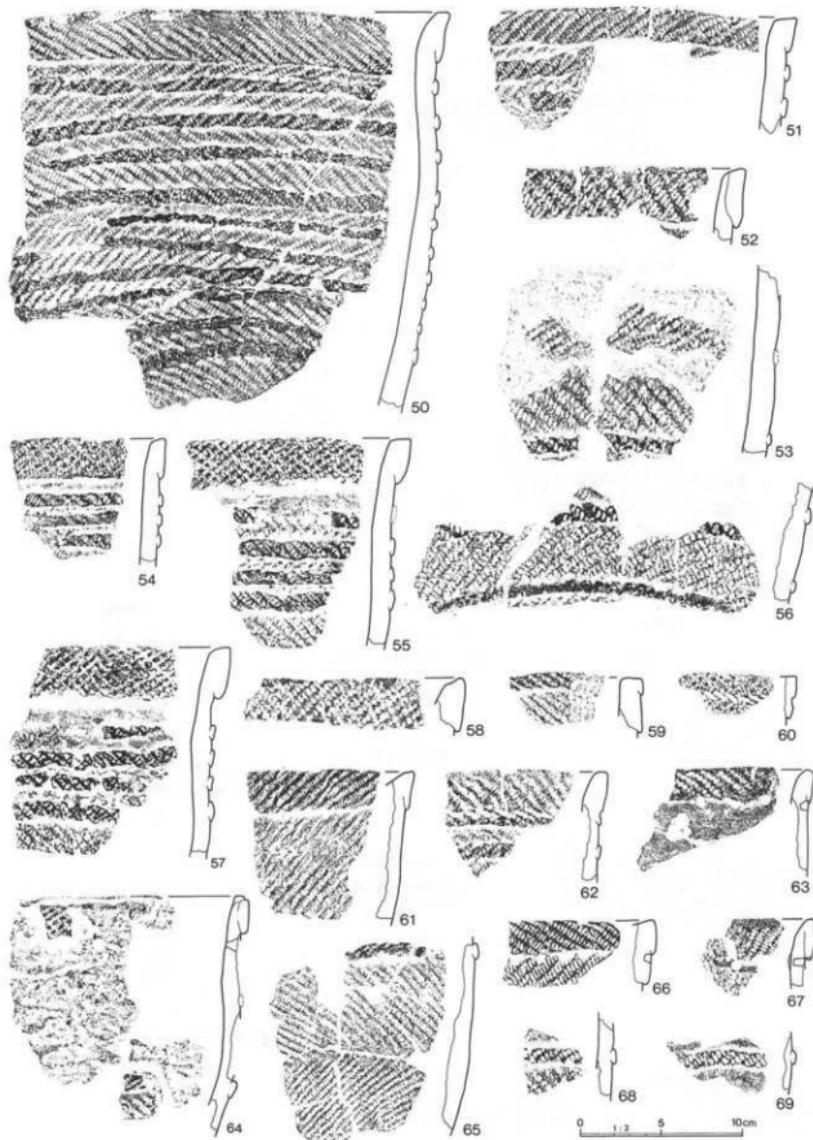
图III-72 V层出土土器(1)



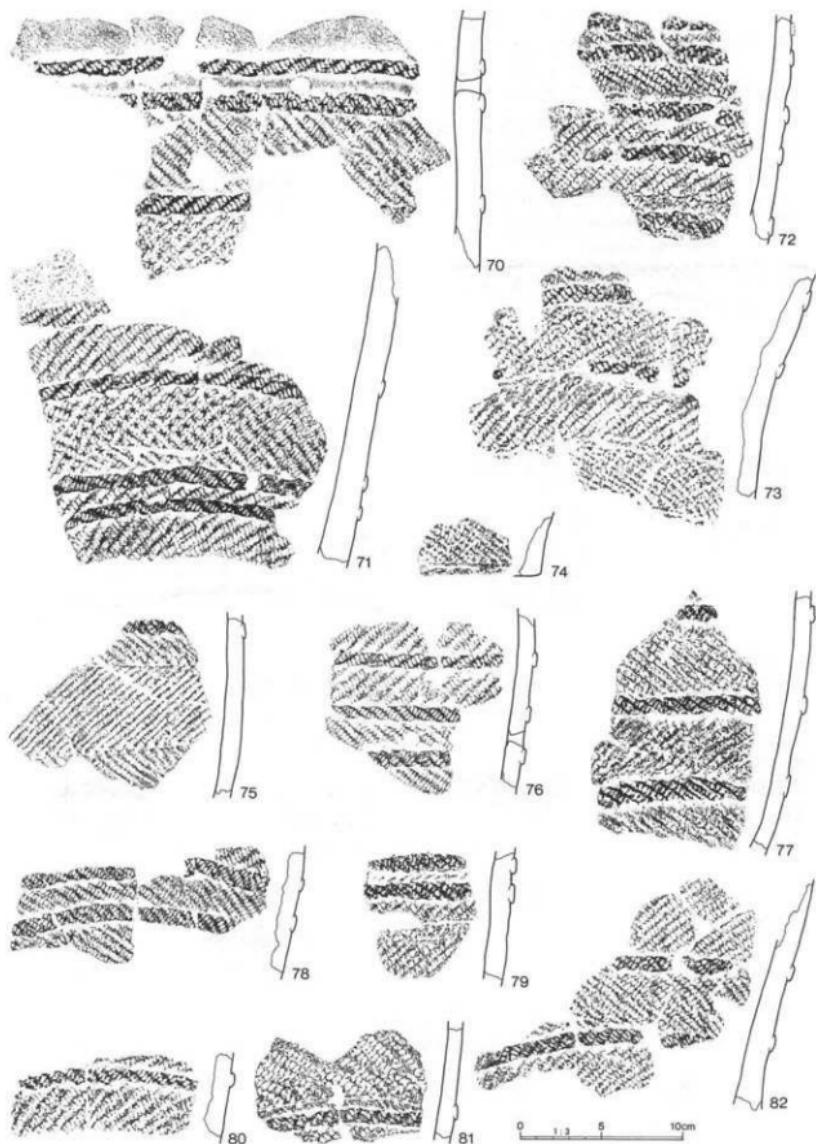
図III-73 V層出土土器(2)



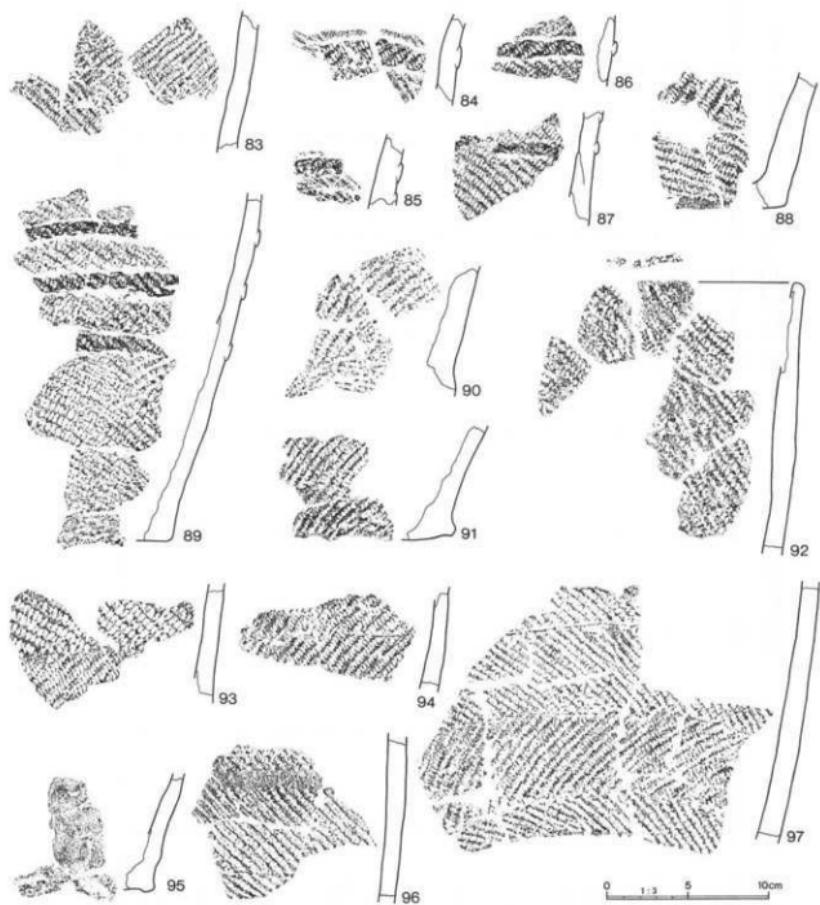
図III-74 V層出土土器(3)



図III-75 V層出土土器(4)



図III-76 V層出土土器(5)



図III-77 V層出土土器(6)

表III-21 V層出土器一覽表 (1)

表III-22 V層出土土器一覽表 (2)

表III-23 V層出土器一覽表 (3)

表III-24 V層出土器一覽表 (4)

標本番号	種名	学名	分類	墨跡等		(侧面) 頭部	(側面) 背面部	地質
				口縫部/口唇部	頬足/胸部			
50-1 III-72-5	A	実測	ダリック	2765-Q-016	Vbu			
			番号	2770-Q-016	Vbu			
				2773-Q-016	Vbu			
				2777-Q-016	Vbu			
				2780-Q-016	Vbu			
				2783-Q-016	Vbu			
				11235-Y-018	Vbu			
				24824-VI-02	3			
				24825-VI-02	3			
				24827-VI-02	3			
				24117-VI-01	1 Vbu			
				24118-VI-01	1 Vbu			
				27835-S-020	Vb1			
				27840-S-020	Vb1			
				23937-SR-01	Vb1			
				23937-SR-01	Vb1			
				239407-SR-01	Vb1			
				239412-SR-01	Vb1			
				239414-SR-01	Vb1			
				311071-S-020	Vb1			
				311170-SR-01	Vb1			
				311173-SR-01	Vb1			
				311174-SR-01	Vb1			
				311175-SR-01	Vb1			
				311177-SR-01	Vb1			
				311178-SR-01	Vb1			
				311188-SR-01	Vb1			
				311192-SR-01	Vb1			
				311307-SR-01	Vb1			
				311308-SR-01	Vb1			
				311316-SR-01	Vb1			
				240377-SR-01	Vb1			
				17021-F-018	Va			
				17023-F-018	Va			
				17025-F-018	Va			
				17030-F-018	Vbu			
				17032-F-018	Vbu			
				17043-F-018	Va			
				17073-F-018	Va			
				18834-F-018	Vbu			
				18839-F-018	Vbu			
				18831-F-018	Vbu			
				277808-F-018	Vc			
				277809-F-018	Vc			

表III-25 V層出土土器一覽表 (5)

表III-26 V層出土器一覽表 (6)

表III-27 V層出土器一覽表 (7)

表III-28 V層出土土器一覧表(8)

図版 番号	土器全体 番号 No.	枝 記	実測 拓本	部位	遺物 番号	グリッド	層位	分類	器形等		文	質	胎	土	備考
									口縁部/口唇部 (側面底面)	底部/側部 (側面底面)					
51-1 III-19	III-73 02	A	拓本	輪底	2008	Q-016	Vbu	II A 2	—	—	0行彫文	織維多量	器内面削削	—	—
51-1 III-73 03	A	拓本	輪底	2722	W-015	Vbi	II A 2	—	外傾	—	—	0行彫文	織維少量	器表面削削	—
51-1 III-73 04	A	拓本	輪底	3345	P-016	Vb	II A 2	—	外傾	—	—	0行彫文・既 剥離彫文	織維多量	器表面削削	—
51-1 III-73 09	B	拓本	輪底	3614	P-016	Vb	II A 2	—	外傾	—	—	0行彫文	織維多量	器表面削削	—
51-1 III-73 022	B	拓本	輪底	20187	W-019	Vbu	III B 1	—	水平内窓	—	—	1.8行彫文	織維多量	25・26同・個体	—
51-1 III-73 06	A	実測	口縁部	3786	Q-017	Vbu	III A 1	平縁・やや外反 尖状	—	—	—	無文・無施釉	内面ミガ強 胎内施釉	—	—
51-1 III-73 06	B	拓本	口縁部	27471	P-016	Vbu	III A 1	平縁・やや外反 尖状	—	—	—	無文・無施釉	内面ミガ強 胎内施釉	—	—
51-1 III-73 039	C	拓本	口縁部	20193	W-019	Vbi	III B 1	平縁・やや外反の山 面・三角状に肥厚	膨らむ	—	1.8行彫文	織維少量	22・26同・個体	—	—
51-1 III-73 025	A	拓本	底部	14924	X-020	Vc	III B 1	平縁・やや外反・外反・断 面	—	—	1.8行彫文	織維少量	22・26同・個体	—	—
51-1 III-73 026	A	拓本	底部	14904	Z-021	Vc	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	12083	U-018	Vbi	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	13065	U-018	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	12401	U-018	Vbi	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	13268	U-018	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	12755	Y-021	Va	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	13416	X-020	Va	III B 1	波状?	外反	やや膨らむ	—	0行彫文	織維多量	28・29同・個体	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	13441	X-021	Va	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	13442	X-021	Va	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	15359	X-020	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—
51-1 III-74 027	A	拓本	口縁部～ 輪底	15374	X-021	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	—	—	—

表III-29 V層出土土器一覧表(9)

図版 番号	標因 番号	土器類体 No.	実測 径	底 部	部位 番号	物 種	タリック	触位	分類	器形等		文 様	胎 土	備考
										口縁部/口唇部 (側面/底面)	頸部/胴部 (側面/底面)			
51-1 -28	III-74 -28	C	柘木	口縁部	15458 W-020	Vbu	III B 1	透抜? 断面三角状に肥 厚	—	—	—	—	織維少量 砂粒少量	27・29同一個体
51-1 -29	III-74 -29	B	柘木	底 部	13086 Y-020	Vbu	III B 1	—	—	—	—	不明/0段多条 L型文	織維少量 砂粒少量	
51-1 -30	III-74 -30	A	柘木	口縁部～ 肩部上位	13386 X-020	Vbu	III B 1	—	—	不削/平底	—	—	織維少量 砂粒少量	26・27同一個体
51-1 -31	III-74 -31	B	柘木	口縁部	13089 Y-020	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	織維少量 砂粒少量	32同一個体
51-1 -32	III-74 -32	A	柘木	口縁部	15143 Y-020	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	織維少量 砂粒少量	31同一個体
51-1 -33	III-74 -32	A	柘木	口縁部	13993 X-020	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	織維少量 砂粒少量	31同一個体
51-1 -34	III-74 -34	A	柘木	口縁部	1420 U-015	Va	III B 1	透抜?・直立 ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	直立? やや懶らむ?	—	—	ボタン本體付文 +刺突文、刺突文 2条の文例 0段多条 L型行織文	織維少量 砂粒少量	37同一個体
51-1 -35	III-74 -35	A	柘木	口縁部	1852 U-015	Vbu	III B 1	透抜?・直立 ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	直立? やや懶らむ?	—	—	ボタン本體付文 +刺突文、刺突文 2条の文例 0段多条 L型行織文	織維少量 砂粒少量	37同一個体
51-1 -36	III-74 -36	A	柘木	口縁部	1853 U-015	Vbu	III B 1	透抜?・直立 ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	直立? やや懶らむ?	—	—	ボタン本體付文 +刺突文、刺突文 2条の文例 0段多条 L型行織文	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -37	III-74 -37	A	柘木	口縁部	1854 U-014	Va	III B 1	透抜?・直立 ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	直立? やや懶らむ?	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -38	III-74 -38	A	柘木	口縁部	13206 Z-020	Vbu	III B 2	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -39	III-74 -39	A	柘木	口縁部	14574 Y-017	Vc	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -40	III-74 -40	A	柘木	口縁部	18677 AA-024	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -41	III-74 -41	A	柘木	口縁部	18688 AB-024	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -42	III-74 -42	A	柘木	口縁部	18673 Z-024	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -43	III-74 -43	A	柘木	口縁部	18674 Z-024	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -44	III-74 -44	A	柘木	口縁部	15023 Y-022	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -45	III-74 -45	A	柘木	口縁部	16083 Z-022	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -46	III-74 -46	A	柘木	口縁部	24607 Q-021	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -47	III-74 -47	A	柘木	口縁部	15052 W-021	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -48	III-74 -48	A	柘木	口縁部	16568 R-018	Va	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -49	III-74 -49	A	柘木	口縁部	16540 R-018	Va	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -50	III-74 -50	A	柘木	口縁部	3401 R-017	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -51	III-74 -51	A	柘木	口縁部	3681 R-017	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体
52-1 -52	III-74 -52	A	柘木	口縁部	3901 Q-017	Vbu	III B 1	透抜? 外傾 /外側肥厚	外傾	—	—	透抜?・直立? ・斜拉突起 断面三角状に肥 厚	織維少量 砂粒少量	37同一個体

表Ⅲ-30 V層出土土器一覧表（10）

団体 番号	土器類別 番号	実測 記 号	実測 能	拓本 能	遺物 番号	タリット ド	層位	分類	造形等			文 様	(側面底面) 底面(底面)	地 上	備考
									口縁部/口唇部	頸部/肩部	底部				
52-1	III-74 -37	040	B	拓本	底部	22195	Y-026	Vbu	III B 1	—	—	—	—	—	34と同一個体 底面少量 砂粒少量
52-1	III-74 -38	014	A	拓本	口縁部	2490	T-015	Va	III B 1	半球?	—	—	粗面行繩文	—	—
52-1	III-74 -39	014	B	拓本	胸部	2413	T-015	Va	III B 1	—	膨らむ	—	粗面行繩文	—	—
52-1	III-74 -40	033	A	拓本	口縁部	13471	W-017	Vbu	III B 2	半球・山形突起 外傾 周丸み有り やや肥厚	—	—	小突起+底付貼 付帶+半球竹管 内面押す+2条の 溝、OB多管LR 斜行繩文	—	—
52-1	III-74 -41	033	C	拓本	胸部	2148	T-016	Vbu	III B 2	—	はざ直立	—	—	—	—
52-1	III-74 -42	033	B	実測	口縁部	15739	W-017	Vbl	III B 2	山形突起 /外傾	—	—	粗面行繩文+下 端がボン状貼付 半球竹管内面 押す+2条の 溝、OB多管LR 斜行繩文	—	—
52-1	III-74 -43	013	C	拓本	口縁部~ 胸部上部	15270	Z-017	Vbu	III B 2	—	—	—	—	—	—
52-1	III-74 -43	013	C	拓本	口縁部~ 胸部上部	13079	U-018	Vbl	III B 2	—	—	—	—	—	—
52-1	III-74 -44	013	D	拓本	胸部	13216	Z-017	Vbl	III B 2	外傾・波状 状	—	—	粗面行繩文+下 端がボン状貼付 半球竹管内面 押す+2条の 溝、OB多管LR 斜行繩文	—	—
52-1	III-74 -45	013	E	拓本	胸部	15719	Z-021	Vbl	III B 2	—	はざ直立	—	—	—	—
52-1	III-74 -45	013	E	拓本	胸部	15732	Z-021	Vc	III B 2	直傾的に外傾 直傾的	—	—	砂粒 やや多量 底面 底面少量 砂粒少量	—	—

表III-31 V層出土土器一覽表 (11)

表Ⅲ-32 V層出土土器一覧表（12）

図版番号	補足番号	土器器体 No.	径寸 径記	部位 部位	遺物 器番	部位 ダリッド	層位 VH-02	彫形等			鉢 部	(底面/底面)	粘土	備考
								口縁部/口唇部	頸部/肩部	底部				
52-1	III-75 -85	050	A	柘本 胸部上位	21974 VH-02	1層	III B 4	やや外傾・平坦	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-
52-1	III-75 -96	020	B	柘本 胸部下位	3314 R-017	Vbu	III B 4	-	やや外傾	-	LR・RL重複 +貼付帯	-	砂粒 極多量	E2-E3・72-74と 同一個体
53-1	III-75 -57	051	A	柘本 口縁部	3515 R-017	Vbu	III B 4	-	やや外傾	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-
53-1	III-75 -58	019	C	柘本 口縁部	3679 R-017	Vbu	III B 4	ほほ前立 /やや外傾	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-
53-1	III-75 -59	051	A	柘本 口縁部	17882 S-020	Vbu	III B 4	ほほ前立 /やや外傾	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-
53-1	III-75 -60	068	D	柘本 口縁部	24826 V-022	3層	III B 4	角状・平坦	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-
53-1	III-75 -61	058	A	柘本 胸部上位	22237 22239	T-023 T-023	V a	ほほ直立/内側ぎ の切り出し状	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	窓内面剥離
53-1	III-75 -62	021	A	柘本 口縁部	13539 W-018	Vbu	III B 4	ほほ直立/内側ぎ の切り出し状	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	窓内面剥離
53-1	III-75 -63	057	A	柘本 口縁部	13538 W-018	Vbu	III B 4	ほほ直立 /平坦・角状	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-
53-1	III-75 -64	056	A	柘本 口縁部	11197 14198	W-018 W-018	Vbu	ほほ直立 /平坦・角状	直立	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	窓表面やや留め
53-1	III-75 -65	022	A	柘本 口縁部	24716 Q-022	Vbu	III B 4	直立/やや内側ぎ の丸状	直立	-	幅広の貼付帯 +円形網目	-	砂粒 極多量	補強孔 1 器表皮の大半が剥 離と同一個体
53-1	III-75 -66	056	A	柘本 口縁部	17724 P-022	Vbu	III B 4	-	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-	
53-1	III-75 -67	022	A	柘本 口縁部	28661 28669	P-022 P-022	Vbu	-	-	幅広の貼付帯 +LR・RL重複 斜行縞文	-	砂粒 極多量	-	

表III-33 V層出土土器一覧表(13)

団塊	種別	基盤番号	支脚	実測	拓本	部位	遺物番号	ダリットド	部位	彫形等		文様	縁	土	備考
										口縁部/口唇部	頸部/胸窓				
53-1	III-75 -65	056	B	柘木	脚部	24130	P-022	Vbu				LR+R斜行彫文 +點付帯	-	砂粒 極多量	器内面剥離 64と同一個体
53-1	III-75 -66	058	A	柘木	口縁部	24130	R-019	Vbl	III B-4	やや外傾	-	-	-	-	-
53-1	III-75 -67	071	A	柘木	口縁部	22679	R-032	Vbu	III B-4	直立/腰窓各条 ・やや外傾	-	-	-	砂粒 極多量	器内面剥離
53-1	III-75 -68	077	A	柘木	脚部上/2	24394	S-032	Vbu	III B-4	-	直立	-	-	-	砂粒 極多量
53-1	III-75 -69	023	A	柘木	脚部上/2	1107.1	Y-039	Vn	III B-4	-	直立	-	-	-	砂粒 極多量
53-1	III-76 -70	019	B	柘木	脚部上/2	16441	Q-017	Vbu				頭部無文帯 +円形網目文 +斜行彫文	-	砂粒 極多量	69と同一個体の可
53-1	III-76 -71	019	A	柘木	脚部下位	3856	Q-017	Vbu				頭部無文帯 +円形網目文 +斜行彫文	-	砂粒 極多量	68と同一個体の可
53-1	III-76 -72	019	A	柘木	脚部下位	3857	Q-017	Vbu				頭部無文帯 +円形網目文 +斜行彫文	-	砂粒 極多量	69と同一個体
						23448	Q-018	Vbl				頭部無文帯 +円形網目文 +斜行彫文 +點付帯	-	砂粒 極多量	-

表Ⅲ-34 V層出土土器一覧表（14）

図版 番号	種別 名	子器類体 番号	実測 径	底木 径	部位 番号	遺物 番号	グリット 寸	解説	分類	口沿部/口唇部 (側面/底面)	頸部/肩部 (側面/底面)	腹部 (側面/底面)	文 様	底 (側面/底面)	地 質	備考
										直輪内に外輪 直輪外に外輪	直輪内に外輪 直輪外に外輪	直輪内に外輪 直輪外に外輪	直輪内に外輪 直輪外に外輪	直輪内に外輪 直輪外に外輪	直輪内に外輪 直輪外に外輪	直輪内に外輪 直輪外に外輪
53-1 -72	III-76 065	B	柘木	脚部上位	21893 VH-01	3.7	III B 4	—	—	—	—	—	—	—	砂粒 極多量	62・63・56・73・ 74と同個体
53-1 -73	III-76 065	A	柘木	脚部下位 底面部	21894 VH-01	3.7	III B 4	—	外反	—	—	—	—	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 74と同個体
53-1 -74	III-76 065	C	柘木	底部	21879 VH-01	3.7	III B 4	—	外輪/平底	—	—	—	—	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
53-1 -75	III-76 063	A	柘木	脚部	22253 S-025	Vba	III B 4	—	やや内湾気味に 直立	—	—	—	0段多条LR・RL (端輪直線) +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・73・ 74と同個体
53-1 -76	III-76 024	A	柘木	脚部	22256 S-026	Vba	III B 4	—	やや外輪	—	—	—	0段多条LR・RL (端輪直線) +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
53-1 -77	III-76 062	A	柘木	脚部	21972 VH-02	3.7	III B 4	—	やや小湾	—	—	—	0段多条LR・RL +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
53-1 -78	III-76 067	A	柘木	脚部下位	17659 R-020	Vba	III B 4	—	外輪	—	—	—	0段多条LR・RL +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
54-1 -79	III-76 064	A	柘木	脚部	24967 R-020	Vba	III B 4	—	やや外輪	—	—	—	0段多条LR・RL +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
54-1 -80	III-76 070	A	柘木	脚部F位	25151 VH-01	1.7	III B 4	—	—	—	—	—	—	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
54-1 -81	III-76 073	A	柘木	脚部	23417 R-031	Va	III B 4	—	やや外輪	—	—	—	0段多条LR・RL (端輪直線) +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体
54-1 -82	III-76 066	A	柘木	脚部下位	18699 T-018	Vba	III B 4	—	やや外反	—	—	—	0段多条LR・RL +點付帯	—	砂粒 極多量	62・63・56・72・ 73と同個体

表III-35 V層出土器一覽表 (15)

表Ⅲ-36 V層出土土器一覧表 (16)

図版 番号	桝 番号	土器部 体 記	実測 径 横 幅	実測 径 折本	遺物 番号	グリッタ k	層位	分類	口縁部/口唇部 (側面底面)	蓋形等	文 様	頭 部 (側面底面)	脚 部 (底面底面)	地 土	備 考
54-1 -95	III-77 098	A 折本 底部	26215 S-035	Vbu	III B 4	-		外傾	△やや突出する上げ 低	-	無文	-	砂粒多量		
54-1 -96	III-77 078	B 折本 胴部	26218 S-035	Vbu	III B 4	-		直立	-	-	-	-	内面平滑 97と同一個体		
54-1 -97	III-77 078	A 折本 胴部下部	26879 S-035	Vbu	III B 4	-		外傾	-	△或多条LR・RL 羽状彫文 (嘴端意識)	-	砂粒多量			
			11109 T-037	Vbu											
			11128 T-037	Vbu											
			11239 T-037	Vbu											
			11261 V-037	Vbu											
			11387 T-037	Vbu											
			11387 T-037	Vbu											
			11387 T-037	Vc											
			11387 T-037	Vc											
			11424 T-037	Vbu											
			11243 T-037	Vbu											
			11316 T-037	Vbj											
			11086 T-037	Vbu											
			11088 T-037	Vbu											
			11087 T-037	Vbu											
			11386 T-037	Vbu											

2. 剥片石器（図III-77～80）

V層全体で667点出土し、このうち、116点を図示した。抽出にあたっては、剥片石器全点の分類が確定した後、各細分形態が掲載できるよう注意をはらった。つまみ付きナイフ以外は黒曜石製のものが主体である。以下に器種ごとに概略を述べる。

（1）石鎌（図III-78-1～31）

縄文早期に特徴的な柳葉形の石鎌から、後期のものと思われる有茎石鎌まで出土している。無茎のものが多く、有茎のものは比較的少量である。無茎の三角形のものは、基部が平らなものと内湾するものがあり、これらの石鎌はVb層下位（10点）からVc層（7点）、VI層（2）にかけてのものが多く、Va層（6点）、Vb層上位（2）である。これらのほとんどは、縄文時代前期のものと思われ、出土層位とも一致している。なお、24・25は無茎三角鎌の未完成品と思われる。

26～31は有茎の石鎌で、26は、茎部分が尖状に突出する小型のもので、縄文後期中葉以降のものと思われる。29は基部が比較的小さく作出され、尖頭部が長く、両側縁がほぼ平行している。30は薄手のつくりで、剥離も細かく調整されている。31は粗いつくりで、断面形がカマボコ状に膨らむ。

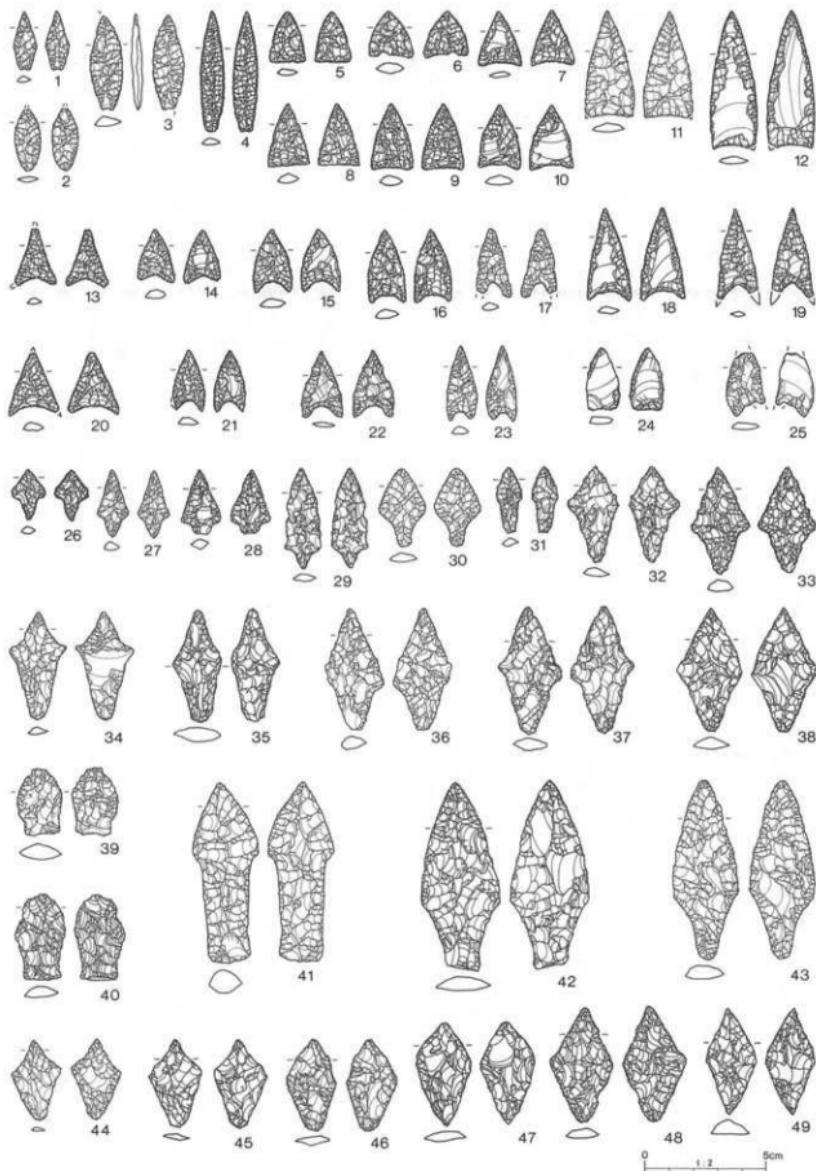
（2）石槍・石銛（図III-78-32～III-79-59）

34～43は茎部を認める能够なもので、うち、32～38・43は基部底が丸みをおびた尖状となっている。尖頭部より基部がやや膨らむものが多い。34や35・37は尖頭部の再調整が特に進んだものと思われる。本来は43のような大型のものであった可能性がある。39～42は基部底が平らなもので、前者と比較して厚手のつくりである。39・40は小型であるが、尖頭部が欠損した後に再度調整が施された結果ものと思われる。基部はやや厚みがあり、紡錘形状となっており、基部底は左右に若干張り出す特徴をもつ。41・42は大型のもので、尖頭部がやや膨らみをもつ三角形形状を呈する。41は頁岩製で、尖頭部および基部の断面形は梢円形状で厚く作られており、39・40に基部形態が類似している。後者は縄文前期の石槍と思われる。

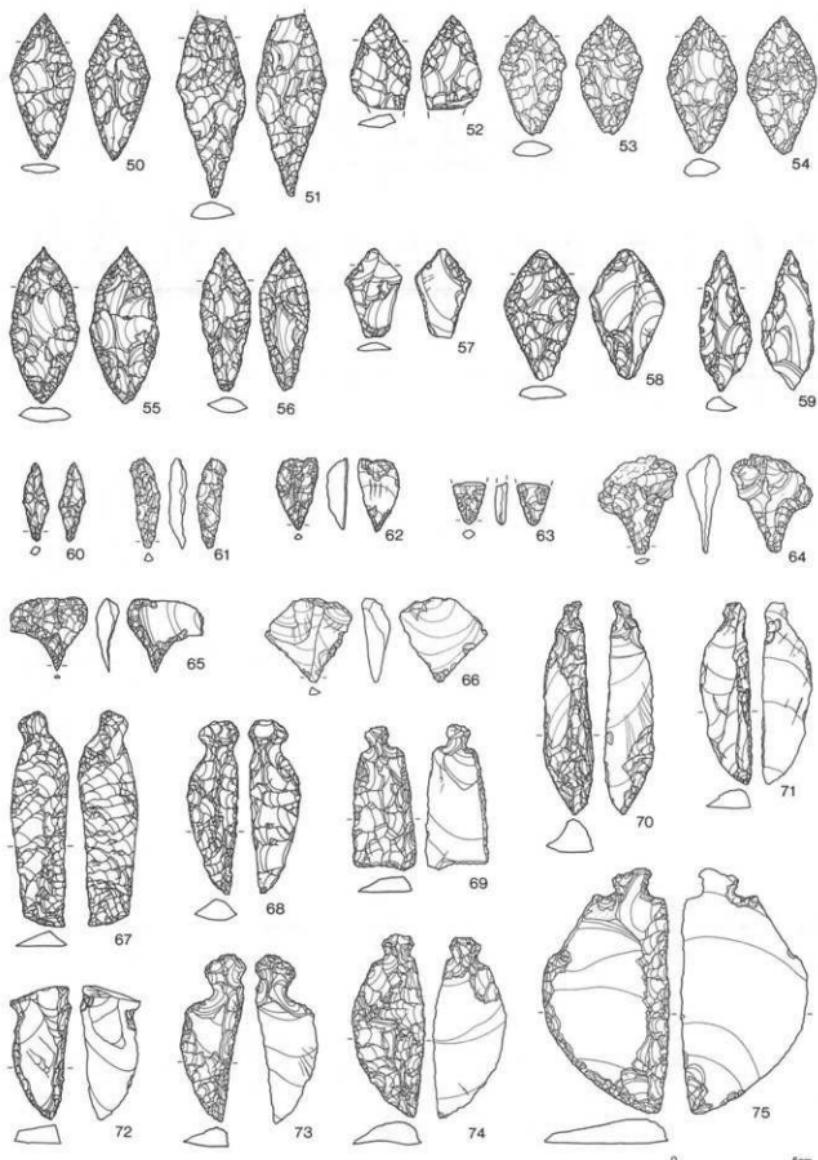
44～51は平面形が菱形状である。44・45は尖頭部の再調整進んだ結果、尖頭部が鋭角に突出し、薄くなっている。基部はやや厚みがある。47・50は尖頭部により最大径をもつ。本来はこのような形態であったものと思われる。51は長菱形状で尖頭部が欠損している。52～56は木葉形のもの。57～59は石槍・石銛の未完成品と思われる

（3）石錐（図III-79-60～66）

60・61は棒状で60は頁岩製で断面形がプロペラ状となっており、下端の先端部より微細な剥離が生じている。62・63は把握部と機能部の区分が不明瞭なものである。62は裏面に素材の形状を大きく残しているが、機能部には剥離調整が施されている。63は欠損しているが、両面加工の先端部片である。先端部と側面の稜の一部が使用により極度に磨滅している。64・65は把握部が明瞭に区分できるもので、64は転錐面を残す剥片に機能部を作出している。先端部は下方より剥離が生じ、丸みを帯びている。65は腹面から剥離調整で、背面の加工を施した後、背面からの調整により鋭角に突出する機能部を作出している。66は素材剥片の形状をほぼ残すもので、表面の中央部付近の稜線上に機能部の先端が作出されている。先端部より17.3mmほど両側に微細な剥離が施されている。剥離は、表面右側縁は裏面から、裏面右側縁は表面からの加工調整が施されている。



図III-78 V層出土剥片石器(1)



図III-79 V層出土剥片石器(2)

(4) つまみ付きナイフ (図III-79-67 ~ III-80-85)

すべて刃部が縦型のタイプである。裏面に素材剥片の主剥離面を大きく残すものが主体で、頁岩製のものが多い。

67・68は両面加工のものである。67は右側縁の2分の1程度に最も新しい剥離が連続し、刃部が作出されている。

69~82は縦長の素材剥片を用いるものである。69はメノウ製である。方形状の体部で明瞭なつまみ部を作り出し、角状に近い肩部を形成している。加工調整は裏面右側縁および下側縁を打面として表面への剥離調整が施されている。縄文早期後葉から前期初頭にかけてのつまみ付きナイフの加工法である「松原技法」によるものである。70・71は細身のもの、68・73~76・78は表面左側縁が弧状に膨らみ、下端部が尖状になる。72はメノウ製で、簡単なノッティングによる不明瞭なつまみ部を作り出している。75は、肩部が角状に作出されている。やや古い時期のものであろうか。77は左側縁が半円状となるもので、直線状の右側縁は刃部として、左側縁から下方縁にかけて急角度の刃部を形成し、エンドスクレイパーとして使用されている。79~82は黒曜石の剥片に簡単なノッティングによりつまみ部を作り出し、素材剥片の形状を大きく残している。

83は横長の素材を使用している。

84・85は石槍などのほかの器種からの転用品と思われるものである。いずれも不明瞭なつまみ部を作り出し、下端が尖状となる。加工および微細剥離は両側縁からのもので、石錐として利用された形跡はない。

(5) ナイフ・スクレイパー (図III-80-86 ~ III-81-105)

86~91はエンドスクレイパーで、比較的急角度の刃部を作り出している。86・87・89は横型の剥片を素材としている。88は直線状の刃部で、他は半円状から弧状に突出する刃部を作り出している。89は上下端に刃部を作り出している。刃部側縁の凹凸が著しいことから、スクレイパーとしても利用されている可能性もある。

92~94は片面加工で、断面形がカマボコ状で棒状を呈し、長軸の側縁部に刃部を作り出するものである。

95~101は側縁に刃部を作り出するもので、95~97は一端が尖状になるスクレイパーである。98は後述する102~105のタイプの欠損品または再利用品の可能性がある。100は頁岩製で右側縁下方に弧状で直角な刃部を作り出し、微細剥離がみられることから、エンドスクレイパーとして使用されている可能性がある。

102~105は両側縁の刃部が内湾するものである。素材剥片のもっとも厚い部分に刃部を内湾する刃部を作り出するため、狭部の断面形はカマボコ状を呈する。

(6) 挿入石器 (図III-81-106 ~ 108)

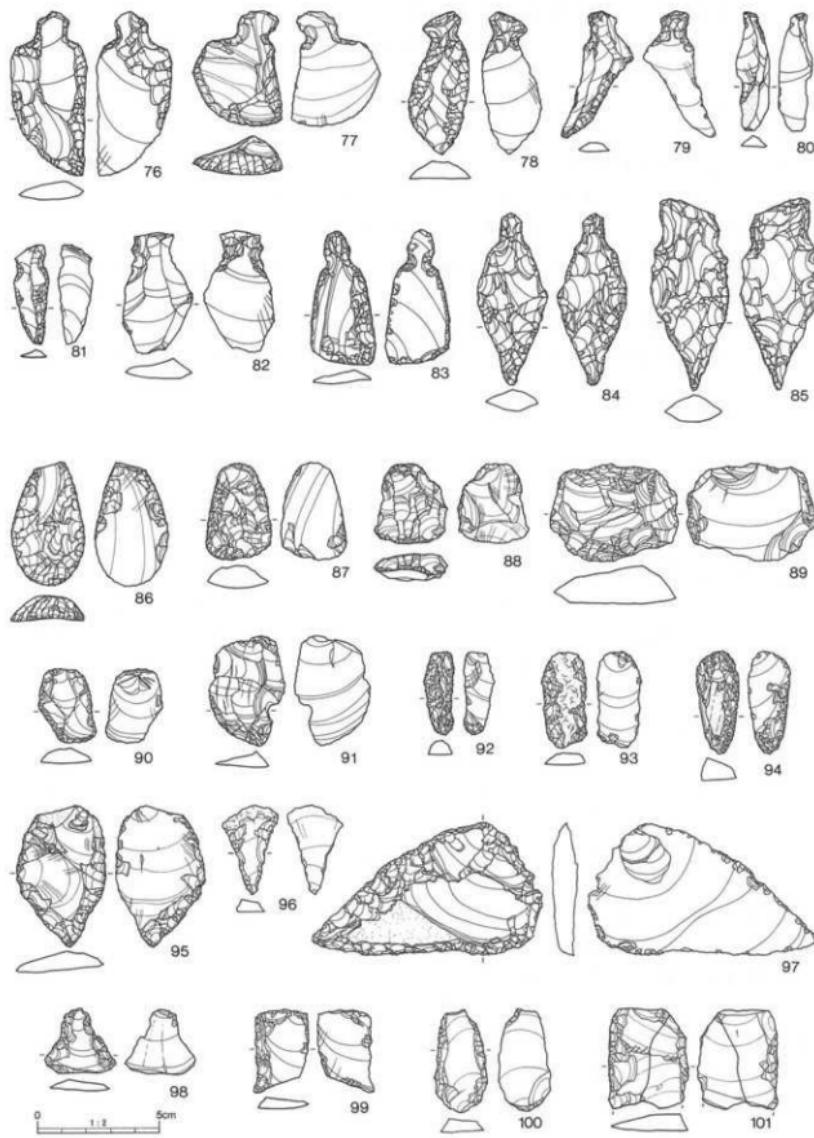
縦長の素材剥片の両側縁に対置するノッティングを作り出している。

(7) ピエスエスキュー (図III-81-109・110)

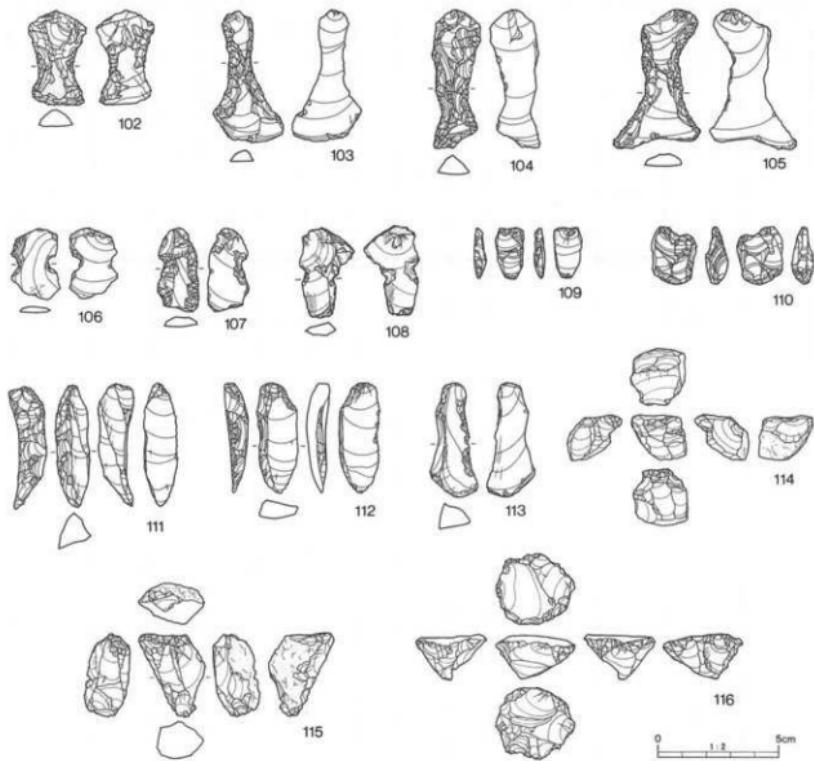
109は板状、110は側面観が紡錘状となっている。

(8) R F・U F (図III-81-110 ~ 113)

111と112は両面加工品を縦長に剥離したもので、接合する。111は、側面の右上部に連続する微細剥離、112は左側縁の中央部にやや内湾する加工を施している。113は左側縁に微細剥離が連続する。



图III-80 V层出土剥片石器(3)



図III-81 V層出土剥片石器(4)

(9) 石核(図III-81-114~116)

いずれも小型のもので、縦長剥片を連続的に剥ぎ取っている。114・115には転鏧面があり、やや小型の転鏧を利用している可能性がある。116は打面が円形で、剥離作業面が全周する円錐形である。これらの小型の石核は、余市式に伴うものと思われる。

表III-37 V層出土剥片石器一覧表（1）

図版番号	挿図番号	遺物番号	遺物名	分類	グリット	層位	規模 (mm)			重量 (g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
51-1	III-78-01	10991	石鏟	A1	W-37	Va	24.0	9.5	2.5	4.5	Obs.	
	III-78-02	11152	石鏟	A1	R-37	Vc	(25.0)	10.5	2.6	0.65	Obs.	
	III-78-03	28989	石鏟	A1	T-30	Vc	38.5	13.0	4.4	1.72	Sh.	
	III-78-04	20824	石鏟	A1	X-34	Vbl	49.0	10.0	3.2	1.20	Sh.	
	III-78-05	22072	石鏟	A2	AA-26	Vc	21.0	15.0	2.6	0.68	Obs.	
	III-78-06	2918	石鏟	A2	U-15	Vbl	19.5	19.0	4.1	1.18	Obs.	
	III-78-07	20652	石鏟	A2	X-30	Vbu	22.5	18.0	2.6	0.72	Obs.	
	III-78-08	18975	石鏟	A2	W-18	Vbl	25.5	17.0	3.8	1.21	Obs.	
	III-78-09	16638	石鏟	A2	R-19	Va	27.00	18.0	5.0	1.73	Obs.	
	III-78-10	21081	石鏟	A2	I-18	Vbl	26.5	18.0	3.1	1.10	Sh.	
	III-78-11	18722	石鏟	A2	AA-25	Vbu	(43.0)	20.0	3.9	2.81	Obs.	
	III-78-12	10992	石鏟	A2	AA-08	Vb	57.0	19.0	2.7	3.24	Obs.	
	III-78-13	14363	石鏟	A2	AA-18	VI	(23.0)	17.5	2.8	0.60	Obs.	
	III-78-14	13120	石鏟	A2	I-19	Vc	22.0	15.5	3.9	0.98	Obs.	
	III-78-15	12449	石鏟	A2	U-20	Vc	26.0	16.0	2.8	0.95	Obs.	
	III-78-16	22556	石鏟	A2	V-22	Vbl	30.0	15.5	4.6	1.63	Obs.	
	III-78-17	11639	石鏟	A2	V-23	Va	(28.0)	14.5	3.8	0.88	Obs.	
	III-78-18	22469	石鏟	A2	O-20	Vbl	37.5	18.0	3.1	1.79	Obs.	
	III-78-19	2729	石鏟	A2	W-16	Vb	37.0	16.5	3.0	1.29	Obs.	
	III-78-20	16094	石鏟	A2	I-18	Vn	(26.0)	20.5	3.8	1.12	Obs.	
	III-78-21	14617	石鏟	A2	Y-18	Vbl	25.1	13.5	2.7	0.63	Obs.	
	III-78-22	2469	石鏟	A2	S-18	Vbl	27.0	17.5	2.6	0.68	Obs.	
	III-78-23	24256	石鏟	A2	P-18	VI	31.0	13.0	3.3	0.96	Obs.	
	III-78-24	29956	石鏟	A5	T-17	Vl	26.0	14.5	4.5	1.31	Obs.	
	III-78-25	17361	石鏟	A5	S-19	Va	(26.0)	16.3	3.8	1.25	Obs.	
	III-78-26	14314	石鏟	A4	V-24	Vbl	20.8	14.0	4.0	0.68	Obs.	
	III-78-27	10986	石鏟	A4	Y-19	Vn	28.0	13.0	4.0	0.79	Obs.	
	III-78-28	565	石鏟	A4	T-38	Vl	26.8	16.7	4.1	1.22	Obs.	
	III-78-29	1461	石鏟	A4	T-16	Vn	41.5	15.0	4.3	2.24	Obs.	
	III-78-30	15226	石鏟	B1n	Z-17	Vc	32.0	19.5	4.1	0.67	Obs.	
	III-78-31	1163	石鏟	A4	AA-12	Vb	27.0	11.0	4.3	0.99	Obs.	
	III-78-32	2741	石槍・石鉄	B1n	W-16	Vb	40.0	21.0	5.7	30.6	Obs.	
	III-78-33	15154	石槍・石鉄	B1n	Y-21	Vbl	44.0	24.0	5.3	3.07	Obs.	
	III-78-34	12937	石槍・石鉄	B1n	T-19	V	44.0	23.2	5.7	3.66	Obs.	
	III-78-35	27627	石槍・石鉄	B1n	R-26	Vc	46.2	20.2	6.1	3.728	Obs.	
	III-78-36	20880	石槍・石鉄	B1n	U-32	Vbl	50.0	24.0	6.9	5.70	Obs.	
	III-78-37	4061	石槍・石鉄	B1n	R-17	Vn	52.2	26.1	6.3	5.15	Obs.	
	III-78-38	23296	石槍・石鉄	B1n	R-25	Vbl	51.0	27.0	6.7	5.81	Obs.	
	III-78-39	11919	石槍・石鉄	B1n	U-20	Va	27.7	18.0	6.5	3.27	Obs.	
	III-78-40	19394	石槍・石鉄	B1n	T-18	Vbu	35.2	21.0	7.6	4.68	Obs.	
56-1	III-78-41	16123	石槍・石鉄	B1b	Q-18	Vbu	73.8	27.0	11.7	20.99	Obs.	
	III-78-42	29294	石槍・石鉄	B1b	T-21	Vbl	77.0	32.8	9.2	17.36	Obs.	
	III-78-43	12612	石槍・石鉄	B1a	V-19	Va	73.2	27.0	6.3	9.56	Obs.	
	III-78-44	15746	石槍・石鉄	B1a	W-17	Vc	33.0	20.2	5.2	2.41	Obs.	
	III-78-45	22572	石槍・石鉄	B2	X-30	Vc	36.3	22.0	5.7	3.07	Obs.	
	III-78-46	1157	石槍・石鉄	B2	Z-18	Vb	37.8	20.9	5.0	3.12	Obs.	
	III-78-47	23355	石槍・石鉄	B2	Q-28	Vbl	42.2	23.0	6.3	4.61	Obs.	
	III-78-48	13618	石槍・石鉄	B2	V-20	Vbu	47.0	21.0	5.8	5.01	Obs.	
	III-78-49	21035	石槍・石鉄	B2	S-21	Vbu	43.5	21.0	7.9	4.83	Obs.	
	III-79-50	1918	石槍・石鉄	B2	X-15	Vbu	60.0	26.5	5.4	6.36	Obs.	
	III-79-51	1761	石槍・石鉄	B2	X-13	Va	(74.0)	29.0	8.8	14.17	Obs.	
	III-79-52	31536	石槍・石鉄	B2	TP-80	10層	39.0	25.0	8.6	6.89	Obs.	
	III-79-53	10985	石槍・石鉄	B2	Z-27	Va	49.0	28.0	7.6	7.91	Obs.	

表Ⅲ-38 V層出土剥片石器一覧表（2）

図版番号	掉図番号	遺物番号	遺物名	分類	グリット	層位	規 模 (mm)			重量 (g)	材質	備 考
							長軸	短軸	厚さ			
56-1	III-79-54	18689	石槍・石鏃	B2	Z-26	Vb	56.0	29.0	7.6	9.62	Obs.	
	III-79-55	3210	石槍・石鏃	B2	W-2	Vc	64.0	29.0	7.0	10.58	Obs.	
	III-79-56	1765	石槍・石鏃	B2	X-15	Vbu	58.5	21.0	5.5	6.28	Obs.	
	III-79-57	22630	石槍・石鏃	B3	R-30	Vbu	36.0	23.8	3.8	2.42	Obs.	
	III-79-58	10562	石槍・石鏃	B3	U-31	KR	53.5	31.2	7.3	9.17	Obs.	
	III-79-59	23962	石槍・石鏃	B3	P-30	Vbl	57.5	22.0	6.6	6.31	Obs.	
57-1	III-79-60	1766	石鏃	4	X-14	Va	32.2	11.0	5.5	1.61	Sh.	
	III-79-61	11568	石鏃	4	U-28	Vc	37.0	12.8	6.9	2.28	Obs.	
	III-79-62	29970	石鏃	3	S-19	Vbl	30.0	17.2	7.6	3.10	Obs.	
	III-79-63	26882	石鏃	5	S-35	Vbu	17.5	13.5	4.3	1.05	Obs.	
	III-79-64	14452	石鏃	2	X-18	Vc	40.5	32.5	12.5	9.04	Obs.	
	III-79-65	17071	石鏃	2	T-18	Vbu	31.0	30.0	5.6	3.40	Obs.	
	III-79-66	14059	石鏃	1	R-22	Vbu	34.8	35.0	9.9	8.11	Obs.	
	III-79-67	10912	つまみ付きナイフ	1	Z-17	Vc	88.0	23.5	6.5	14.05	Obs.	
	III-79-68	15701	つまみ付きナイフ	2n	Y-19	Vbu	71.0	22.0	8.8	12.52	Sh.	
	III-79-69	24380	つまみ付きナイフ	2n	S-31	Vbu	59.0	26.0	6.3	12.00	Age.	
	III-79-70	2447	つまみ付きナイフ	2a	S-16	Vbu	87.0	21.0	12.7	20.61	Sh.	
	III-79-71	3512	つまみ付きナイフ	2a	R-17	Vbu	74.8	22.0	7.4	11.44	Age-Sh.	
	III-79-72	1191	つまみ付きナイフ	2a	U-18	Vbu	54.5	25.0	8.6	12.50	Age.	
	III-79-73	27867	つまみ付きナイフ	2a	T-22	Vbu	68.2	27.0	8.9	12.58	Sh.	
	III-79-74	28589	つまみ付きナイフ	2n	S-18	Vbl	75.0	30.0	11.6	23.21	Sh.	
	III-79-75	26403	つまみ付きナイフ	2a	Q-18	Vc	100.0	52.0	10.1	50.05	Sh.	
58-1	III-80-76	14208	つまみ付きナイフ	2n	V-18	Vl	67.0	31.5	8.9	17.56	Sh.	
	III-80-77	4060	つまみ付きナイフ	2a	Q-17	Vc	47.0	37.0	12.3	17.04	Sh.	
	III-80-78	25360	つまみ付きナイフ	2a	AA-28	Vbl	58.2	25.2	6.5	8.31	Obs.	
	III-80-79	2153	つまみ付きナイフ	2a	T-16	Vbu	52.0	30.0	6.5	5.00	Obs.	
	III-80-80	2184	つまみ付きナイフ	2a	S-15	Vb	48.2	14.0	4.1	2.19	Obs.	
	III-80-81	31051	つまみ付きナイフ	2a	S-18	Vbl	41.0	14.5	3.7	1.90	Obs.	
	III-80-82	26169	つまみ付きナイフ	2a	R-34	Vbl	49.5	29.0	8.6	9.58	Obs.	
	III-80-83	22063	つまみ付きナイフ	2b	Z-25	Vc	54.8	27.0	5.0	6.68	Obs.	
	III-80-84	14714	つまみ付きナイフ	3	W-29	Vc	70.1	29.2	8.5	12.73	Obs.	
	III-80-85	20195	つまみ付きナイフ	3	X-19	Vbu	78.2	32.8	11.3	24.01	Obs.	
	III-80-86	1919	ナイフ・スライバー	3	X-16	Vbu	51.0	30.0	1.0	16.77	Sh.	
	III-80-87	12334	ナイフ・スライバー	1	U-17	Vbl	40.0	27.5	9.0	8.92	Sh.	
	III-80-88	2687	ナイフ・スライバー	1	U-15	Vb	33.0	30.4	9.6	10.35	Obs.	
	III-80-89	24544	ナイフ・スライバー	1	R-34	Vbu	40.0	53.0	16.6	32.49	Obs.	
59-1	III-80-90	22733	ナイフ・スライバー	1	T-36	Vbu	31.0	24.0	7.1	5.01	Obs.	27582と接合
	III-80-91	27202	ナイフ・スライバー	1	S-20	Vbl	45.0	31.5	7.8	9.93	Obs.	
	III-80-92	25953	ナイフ・スライバー	2	S-18	Vbl	34.0	13.0	7.7	2.85	Obs.	
	III-80-93	22153	ナイフ・スライバー	2	V-23	Vbl	39.0	19.3	5.7	4.46	Obs.	
	III-80-94	24880	ナイフ・スライバー	3	R-19	Vbl	42.0	18.0	6.2	5.65	Obs.	
	III-80-95	2407	ナイフ・スライバー	3a	T-15	Va	58.0	36.7	8.5	17.06	Obs.	
	III-80-96	4022	ナイフ・スライバー	3a	W-17	Vl	36.2	23.0	1.2	3.88	Obs.	
	III-80-97	1173	ナイフ・スライバー	3a	AA-12	Va	99.5	55.0	11.8	49.5	Obs.	
	III-80-98	21933	ナイフ・スライバー	3b	R-24	Va	29.3	27.0	1.1	2.84	Obs.	
	III-80-99	25073	ナイフ・スライバー	3b	T-36	Vl	34.5	23.0	5.7	24.0	Obs.	
	III-80-100	17903	ナイフ・スライバー	3b	R-20	Vbu	42.0	22.0	8.0	7.04	Sh.	
	III-81-101	24719	ナイフ・スライバー	3b	P-22	Vc	41.0	33.0	7.3	13.0	Obs.	
	III-81-102	22689	ナイフ・スライバー	4	R-17	Vbu	39.0	24.0	9.2	7.06	Obs.	
	III-81-103	18627	ナイフ・スライバー	4	X-25	Vbu	54.0	29.2	6.8	6.03	Obs.	
	III-81-104	17904	ナイフ・スライバー	4	S-21	Vb	27.0	20.5	8.9	9.56	Obs.	
	III-81-105	12211	ナイフ・スライバー	4	U-17	Vbu	57.3	36.0	5.4	7.28	Obs.	
	III-81-106	3694	抉入石器		I-17	Vc	29.0	20.2	4.5	1.93	Obs.	

表III-39 V層出土剥片石器一覧表(3)

図版番号	採集番号	遺物番号	遺物名	分類	グリット	層位	規模(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
59-1	III-81-107	1887	抉入石器		W-16	Vbu	34.3	17.0	4.9	2.68	Obs.	
	III-81-108	4082	抉入石器		W-16	Vbu	37.0	23.0	8.3	4.73	Obs.	
60-1	III-81-109	11431	ビエスエスキーユ	U-35	VbL	21.0	12.0	4.4	1.07	Obs.	17007と接合	
	III-81-110	20765	ビエスエスキーユ	V-29	Vbu	23.5	19.0	8.4	3.35	Obs.	12708と接合	
60-1	III-81-111	12708	RF・UF		V-17	Vbu	50.5	14.4	12.3	7.12	Obs.	
	III-81-112	17007	RF・UF		T-18	Va	46.0	17.5	8.8	5.28	Obs.	
60-1	III-81-113	12599	ナイフ・スクレイパー	3b	V-18	VbL	47.0	20.2	10.6	7.96	Obs.	
	III-81-114	21056	石斧	R-2	V-22	Vbu	47.5	14.5	8.1	8.12	Obs.	
	III-81-116	20272	石核		W-29	Vbu	33.0	29.5	17.2	11.46	Obs.	

3 磨石器 (図III-82 ~ 96、図版61 ~ 67)

V層全体で932点出土し、このうち、106点を図示した。抽出にあたっては、磨石器全点の分類が確定した後、各細分形態が掲載できるよう注意をはらった。

A 石斧類 (図III-82-1 ~ III-84-28)

(1) 磨製石斧 (図III-82-1~13)

7以外は、泥岩製である。1は泥岩片を利用した小型の片平刃ものである。肉眼では使用した痕跡は認められないが、石斧としての使用目的ではないものと思われる。2の刃部には使用による剥離を伴い、刃縁は直線で潰れている。裏面は転礫面の状況である。同様な刃縁は13にもみられ、硬いものを対象に使用されたものと思われる。擦り切り折損に使用した可能性も想定しうる。3は平面形の上下端が狭く鋸錐形に近い形状を呈し、刃部は片刃である。層理面で剥離し、3点が接合している。また、破損の後、2点が被熱している。4は、刃縁に直交する線条痕が観察でき、磨滅している。下半の刃部周辺は黒色のタール状の付着物が認められる。6は、厚みのある定角式の両刃磨製石斧である。7は、青色片岩製で、刃部および両側縁が研磨調整されて、刃部には明瞭な線条痕が観察できる。10~12は大型のもので、円刃ないしは偏刃を呈している。10は厚みがあるので、破断面からの剥離があることから、折損後も使用されていたものと思われる。12は、刃部に微細な線条痕と光沢面が見られる。

(2) 石斧未成品 (図III-82-14 ~ III-84-28)

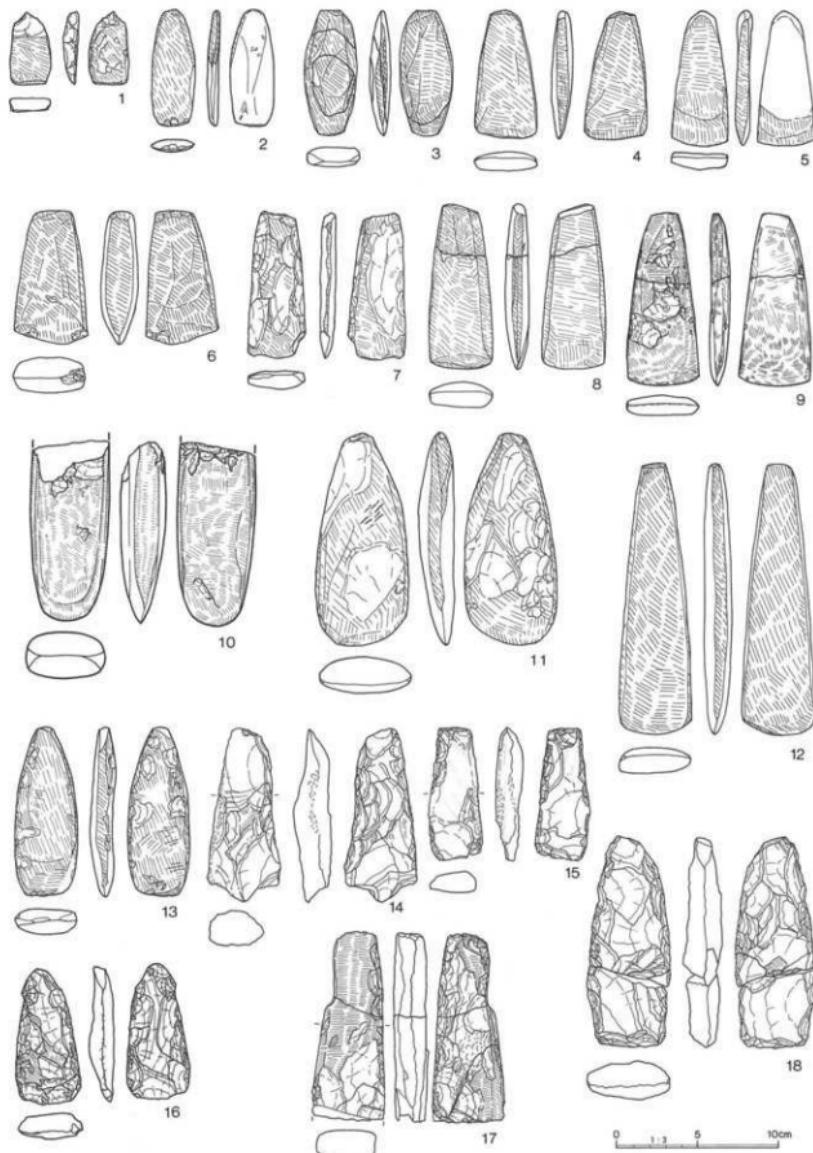
加工段階を想定し、3つに細分した。

a 石斧未成品1 (図III-82-14 ~ III-83-20・III-84-25)

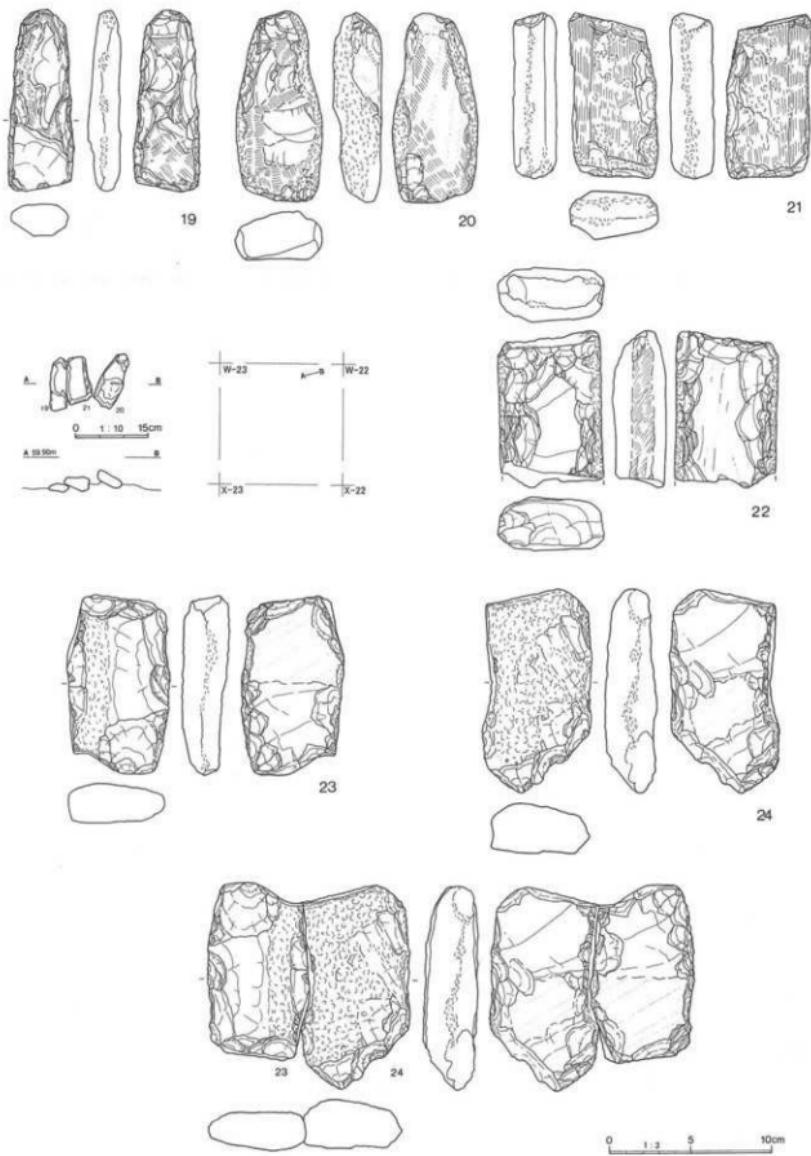
ほぼ石斧の形状まで剥離・研磨調整されているもの。16は下端が尖状となり、刃部様になっているが、線条痕や微細剥離などの使用の痕跡は認められない。17は青色片岩製で、破片4点が接合している。使用による折損の可能性もあり、完成品の刃部欠損品かもしれない。20は裏面に転礫面を残すもので、左右側面が敲打調整により短冊状に成形されている。下端は裏面からの剥離調整により急角度で、縁辺部がやや磨滅していることからこの状態で使用されていた可能性がある。19と21と合わせて3点がW-22区のV b層上位で一括出土している。土坑などの遺構は検出されていない。25は製作工程で、刃部側が破損したものと思われる。

b 石斧未成品2 (図III-83-21~24)

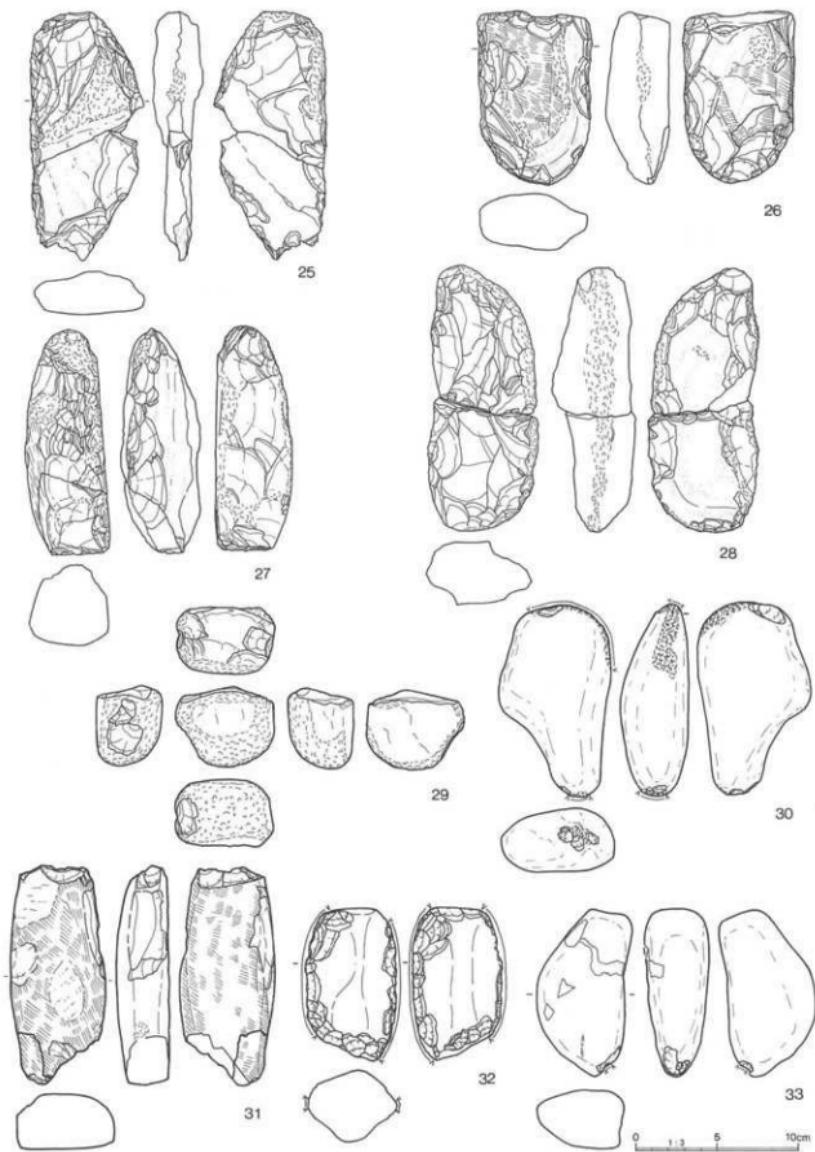
板状を呈するもので、刃部、基部の製作状況が明確でないもの。21は擦り切り残片で、擦り切り折損面にも敲打調整が施されている。22の両側面はほぼ転礫面を残しており、層理面で破損した板状の



図III-82 V層出土砾石器(1)



図III-83 V層出土礫石器(2)



図III-84 V層出土石器(3)

礫を使用している。上端面は敲打痕があり、下端面は折損によるものである。23と24はV a層およびV b層上位からの出土で、2.4mの距離で接合する。敲打調整により緩い溝を作出し、折半したものと思われる。折損面にも敲打調整が施され、加工が進んでいる。

c 石斧未成品3（図III-84-26～28）

剥離・敲打調整が施されるが、転礫面を多く残し、断面形も円形から梢円形を呈し、厚みがあるもの。27は棒状の敲石の可能性もあるが、長軸両端には敲打痕が認められない。28はR-22区（V b層下位）とX-23区（V a層）出土のものが31.4mの距離で接合している。

B 敲石（図III-84-29～III-88-63）

素材礫の形状等から7細分している。

29は緑色泥岩の球状を呈するものである。上面および裏面以外の4面に敲打痕が認められる。

30～37は厚みのある棒状礫を利用するものである。31は緑色泥岩製で、研磨調整もされており、石斧未成品の可能性もあるが、下端部に敲打痕がある。34・35は花崗岩製で側縁部に敲打痕があり、35は前面にも浅い凹状の敲打痕範囲が認められる。36は緑色泥岩の角柱状で、実測図の不備があるが、左右面は転礫面を残す。主な敲打面は長軸両端と表裏面の中央部付近で、表面は転礫面に浅い研磨調整が施され、キズ状の敲打痕がある。裏面は浅い研磨調整が施され、敲打範囲は凹状になっている。

38～41は断面形が三角状の礫を利用するもので、38～40は底辺側縁部に敲打痕がみられ、側面に剥離がおよぶ。41は砂岩製で、底辺長軸端と表面に敲打痕が認められる。長軸両端のものは表裏面への剥離が伴い、表面のものは、凹状となっている。

42～46は平面形が円形もしくは梢円形の扁平礫を利用するもので、側縁に敲打痕がみられる。46は使用・廃棄後、熱により破碎している。

47～50は平面形が方形または三角形の扁平礫を利用するもので、側縁部ないしは頂端部に敲打痕がある。47は、三角形状の扁平礫の底辺両端と底辺側面に敲打痕があり、一部擦り面が形成され、自然面とに稜線がみられる。48は緑色泥岩の方形状の扁平礫の右側縁に剥離を伴う敲打痕がある。表裏面は転礫面であるが、表面の一部に浅い擦痕が観察できる。

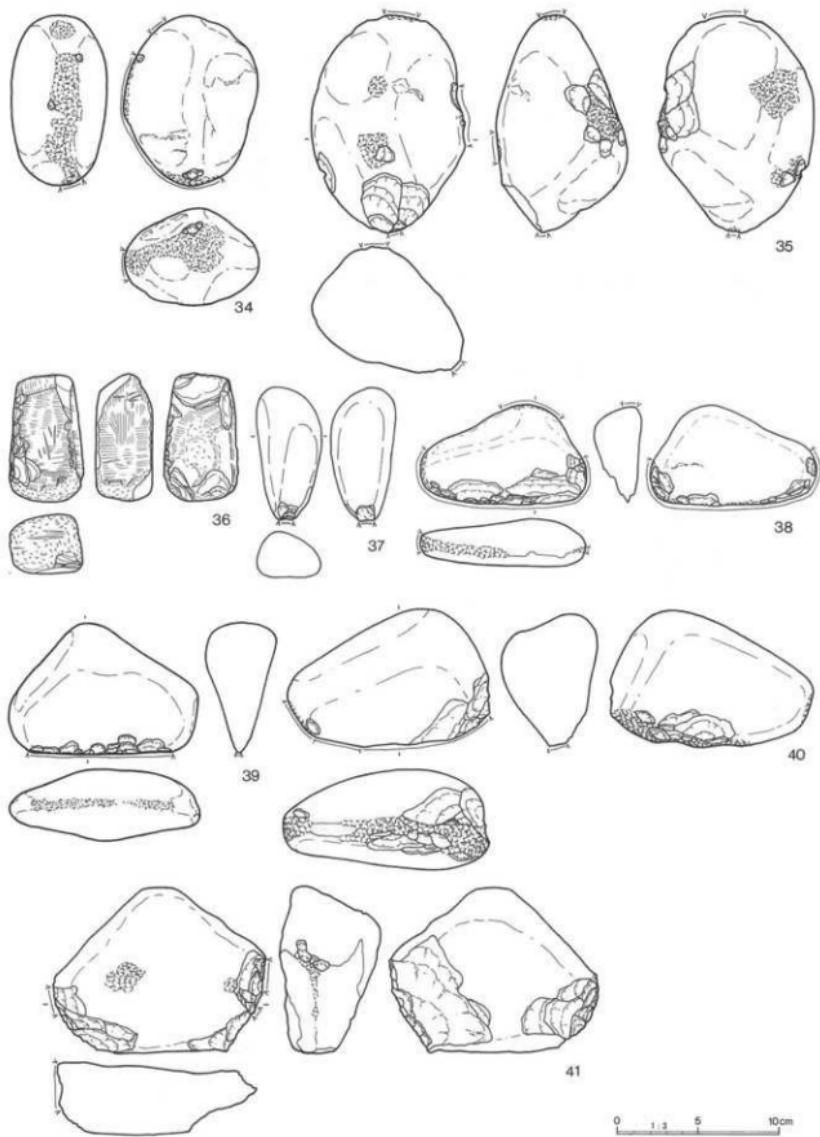
51～57は凹状の敲打痕があるもので、長軸端部に偏る範囲に認められる。52は、砥石片を利用したもので、凹状の敲打範囲は表面に上下2ヶ所あり、上部のものが主体となる。側面にも敲打痕がある。砥石使用面には縦方向の擦痕が観察できる。54は横断面が三角状で、底面となる平坦面に2ヶ所の敲打痕がある。57は層理面で剥離した板状の砂岩を利用したもので、表面上端部と右側面上部に敲打痕がある。表面のものは礫端部にあることから敲打痕範囲は溝状を呈する。側面のものは剥離を伴う。

58～63は大型の礫もしくはその破片を利用したものである。58は砂岩の板状礫を利用するもので、下方の先端部および右側縁に敲打痕がある。59～61は大型の転礫片を利用したものである。62・63は完形の転礫を利用したもので、62は、長軸側縁の膨らみを利用している。

C 擦石（図III-89-64～III-90-73）

64～67・69は、断面形が三角形状または梢円形の礫を利用したものである。いずれも、側面に剥離が生じていることから、敲石としても使用されていたものと思われる。67は擦石の破片を再利用したもので、破断面に擦り面がある。66は安山岩製で、擦り面の幅が他のものより極端に狭いことから、古い時期のものの可能性がある。

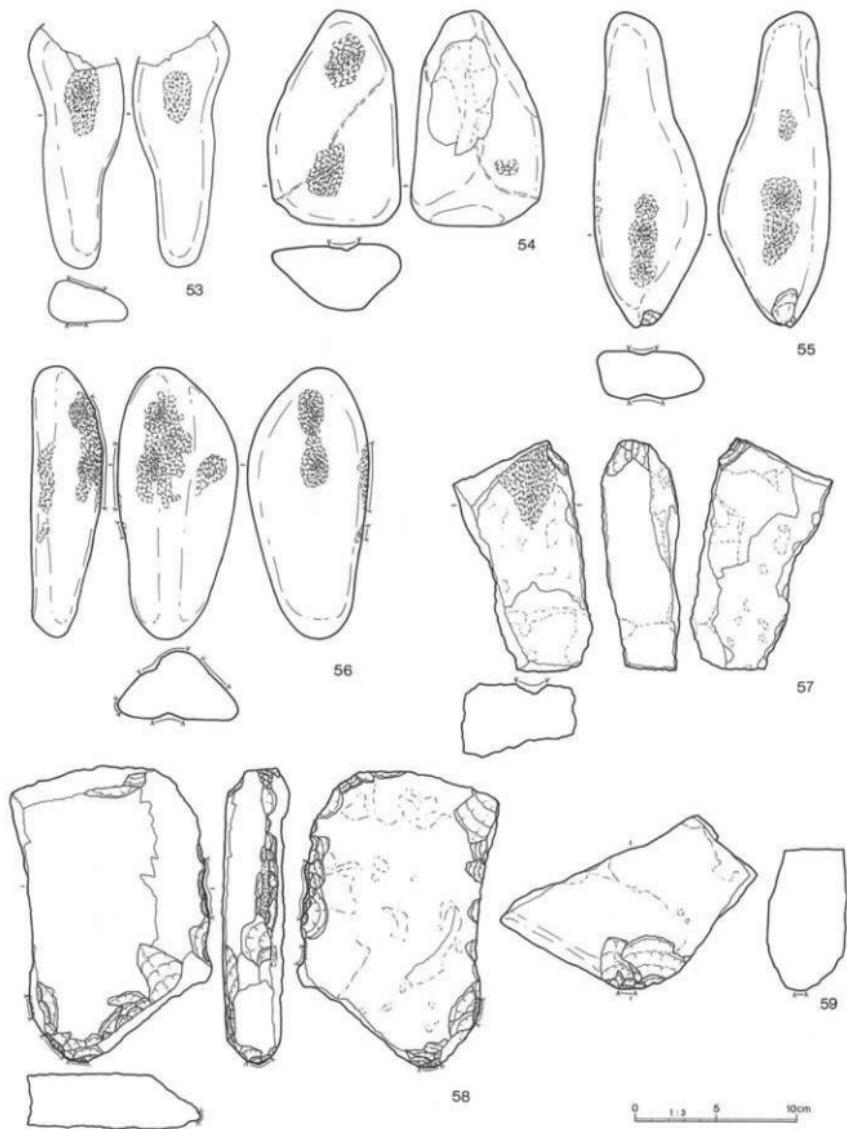
68・70～72は扁平礫を使用するものである。68は閃綠岩製で、縁辺部から表面にかけて敲打により



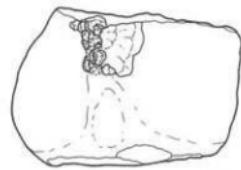
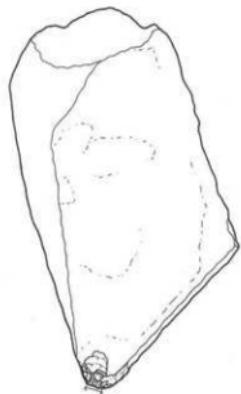
図III-85 V層出土石器(4)



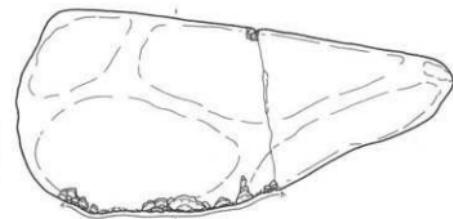
图III-86 V层出土砾石器(5)



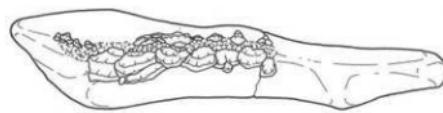
図III-87 V層出土石器(6)



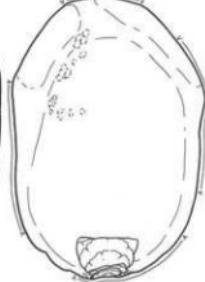
60



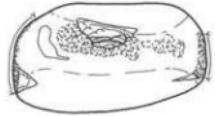
61



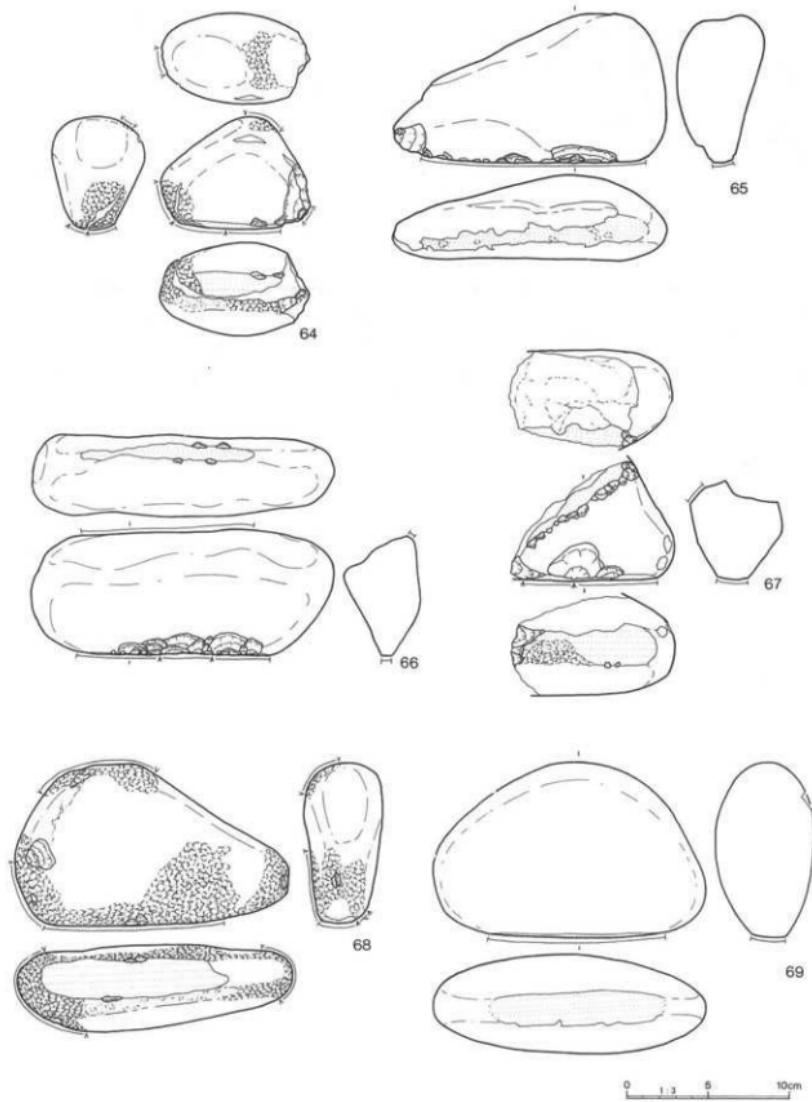
62



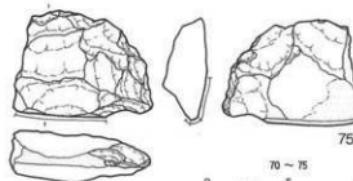
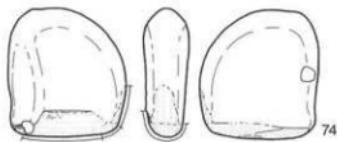
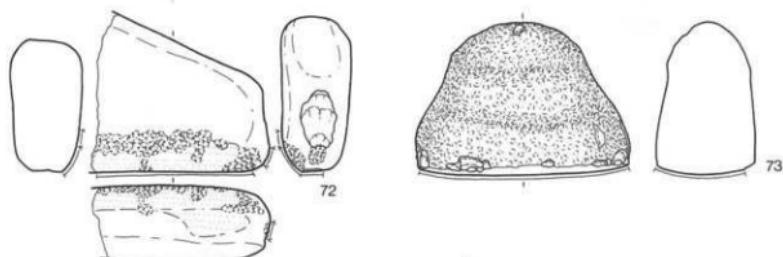
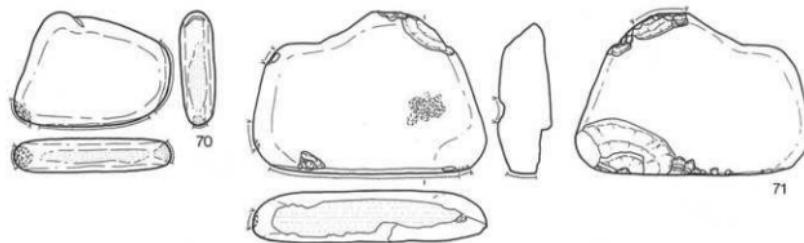
63



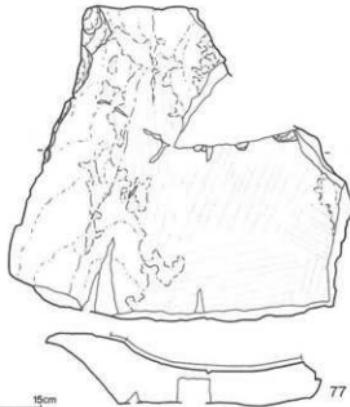
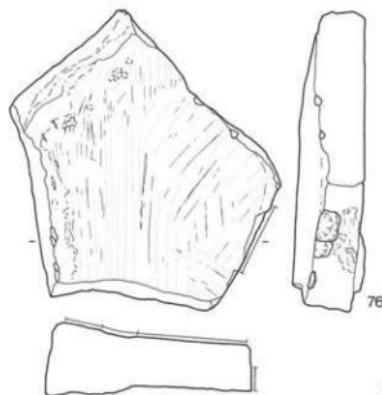
図III-88 V層出土礫石器(7)



図Ⅲ-89 V層出土礫石器(8)



70 ~ 75
0 1 2 3 4 5 10 cm



76 - 77
0 1 2 3 4 5 10 15 cm

図III-90 V層出土礫石器(9)

整形している。右側の頂端部は他の敲打痕と異なり、極めて細かく、先端部からの剥離も生じていることから、敲石としても利用されていたものと思われる。70は左端部に敲打痕、下方・右側縁に擦り面がある。擦り面は弧状に膨らみ、自然面へは漸移的に擦痕が消滅する。71は上端部と表面右側に凹状の敲打範囲がある。裏面左側は擦り面の敲打により剥離が生じている。72は下面と表面に擦り面がある。側面のものは礫の形状を維持し、擦り面の上縁に平行する帯状の敲打痕がある。下面も擦りが浅く、素材礫の窪みは転礫面を残す。73は北海道式石冠で、全面が敲打により整形され、把握部が作出されている。擦り面には敲打痕等は見られず、長楕円形を呈する。北海道式石冠は破片も含めて他に3点出土しており、すべて安山岩製である。

D 石鋸（図III-90-74・75）

完形品は図示した2点のみである。74は転礫を使用し、75は砂岩板状礫の剥離調整を行った後に使用している。

E 砧石（図III-90-75～III-93-90）

砥石は擦痕が観察でき、擦り方向が判別できるものとした。

76～79は板状礫の片面を使用するもの。80～86は両面を使用するものである。84は、表裏面と右側面に使用面があり、表面は磨り減り板状に近い形態となっている。本来の形態は角柱状であったことが想定できる。86は下側面に尖状の擦り面があるが、中央部より2面に分かれていることから石鋸には分類しなかった。下方からの剥離が多くあることから、擦り面形成に敲打・剥離調整がなされていた可能性がある。

87～90は角柱状の礫を利用するものである。87は板状に近い礫を利用し、下端には弧状に膨らむ擦り面がある。88は4面、89・90は3面を使用している。

F 石皿・台石（図III-93-91～III-95-97・100）

自然面と異なり、光沢面等が観察できるが、明瞭な擦痕がなく、擦り方向が不明瞭なものを石皿として扱った。また台石は、敲打痕のあるもので、据え置いて使用したものとした。これらは、敲打痕と擦りの使用面の両方が観察できるものが多いことから、区別せずに一括した。

91～93は石皿として使用した状況を主とするものである。92は板状の砂岩を利用したもので、今回の調査において礫石器の中で最も重いものである。長軸434mm、短軸350mm、厚さ112mm、重さ19,560gを計る。中央部付近が浅い皿状に窪み、長軸方向に敲打痕が伴う。破損品であることから、より大型のものであったと思われる。93は大型の転礫を利用したもので、右側縁に剥離を伴う敲打調整が施されている。礫の中央部が石皿使用面で、その中心部と全周する縁辺部に台石として使用した敲打痕がある。

94～97・100は台石として使用した状況を主とするものである。94・95は板状の転礫を使用している。96・97は転礫を使用し、敲打範囲は長軸の上方に偏る。100は大型の礫片を利用したもので、表面のほぼ全面に敲打痕が見られる。

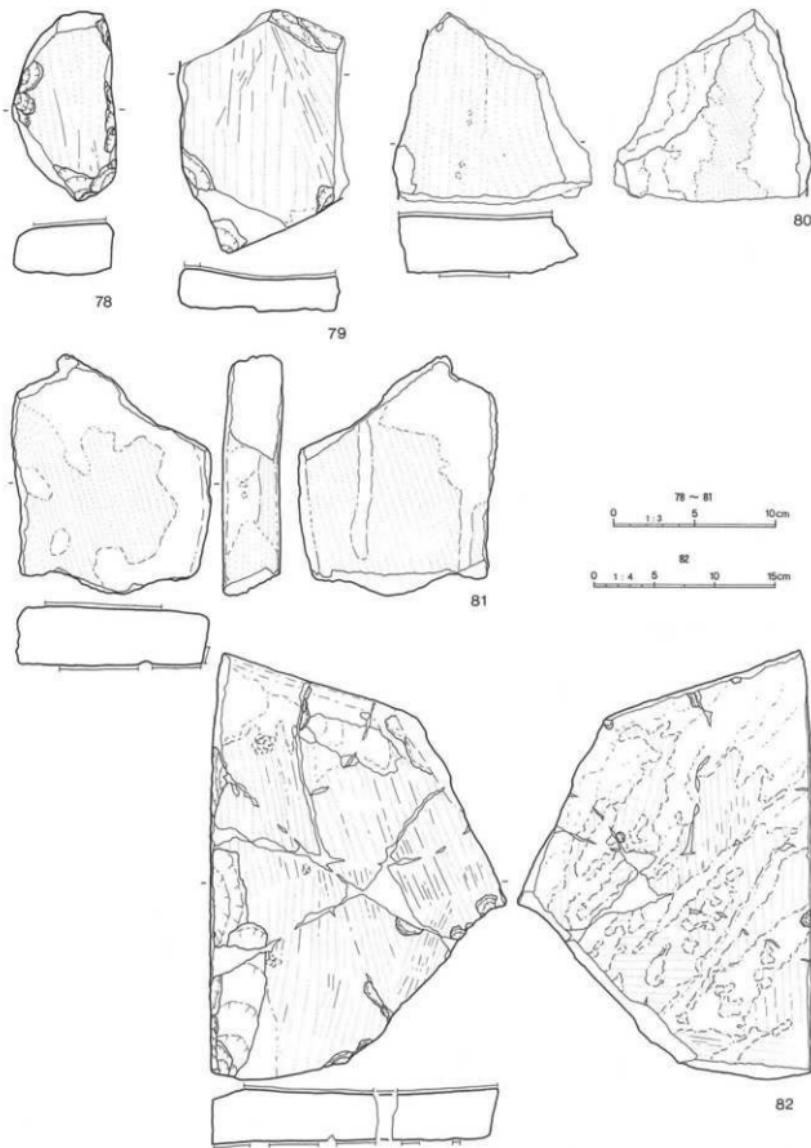
G 石錘（図III-95-98・99）

2块と4块のものが出土している。

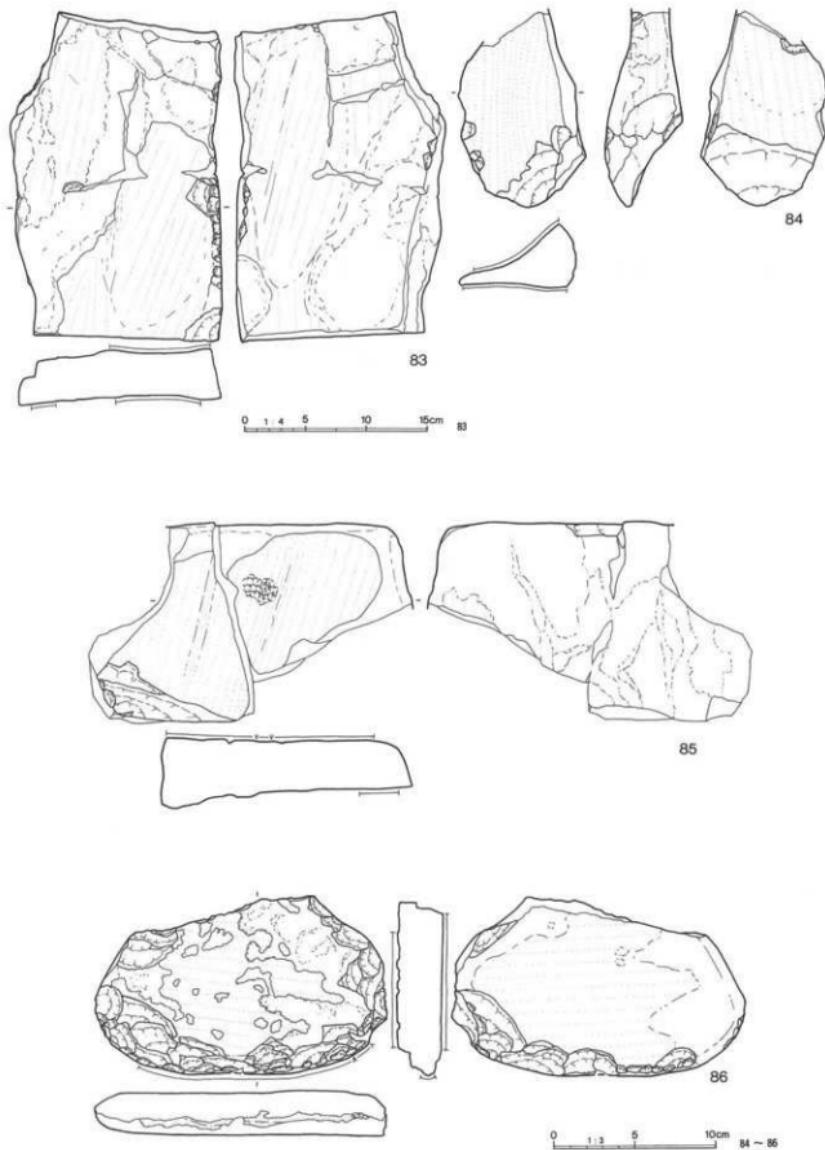
H 加工痕のある礫（図III-95-101～III-96-105）

礫の一部に加工が施されているもので、用途は不明である。

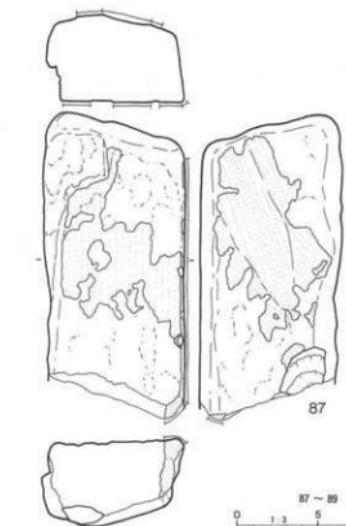
101～103は転礫の一端に加工を施すもので、101・102は楕円形の転礫の長軸一端に、2～3回の打ち掛けが施されている。103は板状の不整三角形礫の右側縁に抉りが施されている。



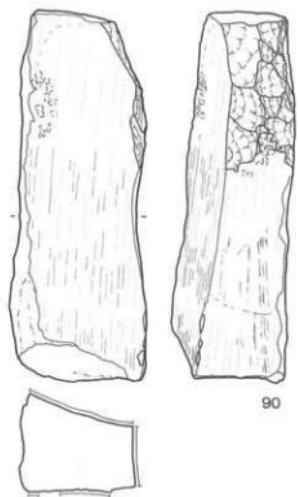
図III-91 V層出土砾石器(10)



図III-92 V層出土縫石器(11)

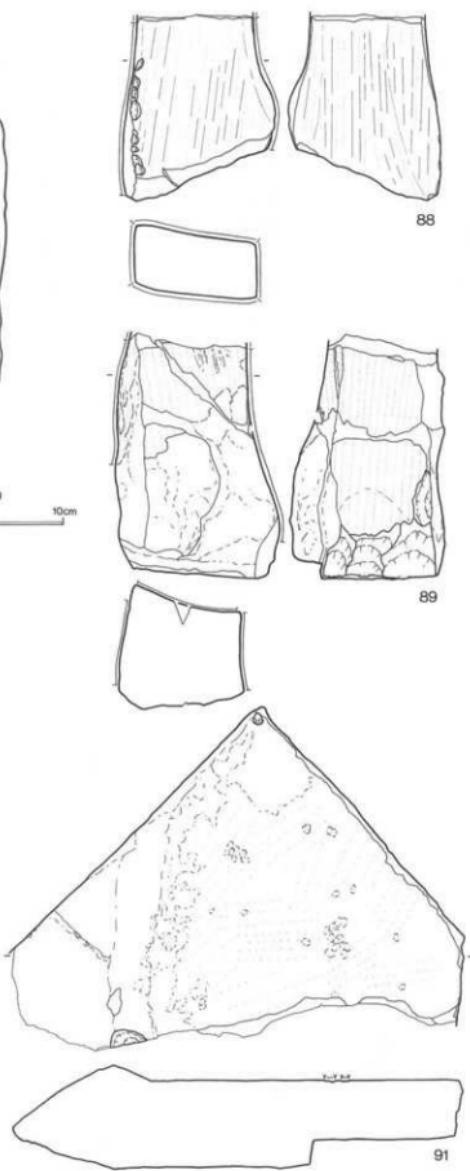


87 - 88
0 1 2 5 10cm



90

0 1 4 5 10 15cm 90 - 91

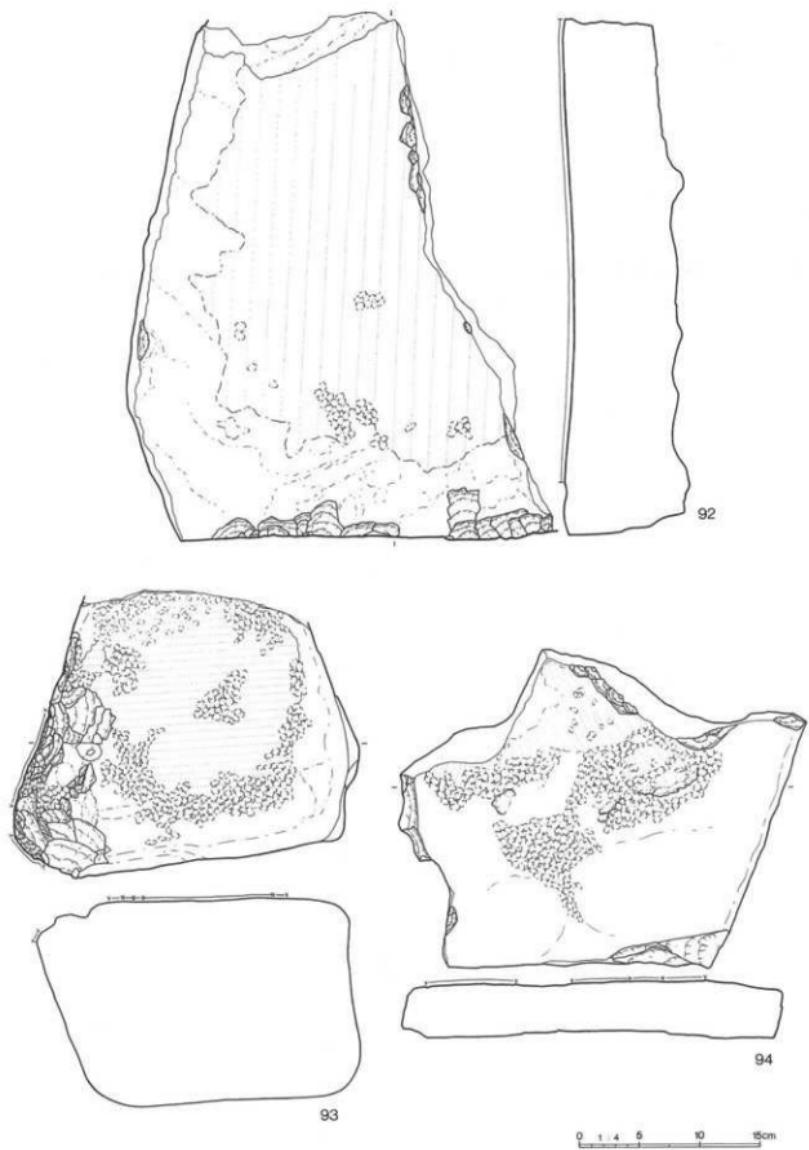


88

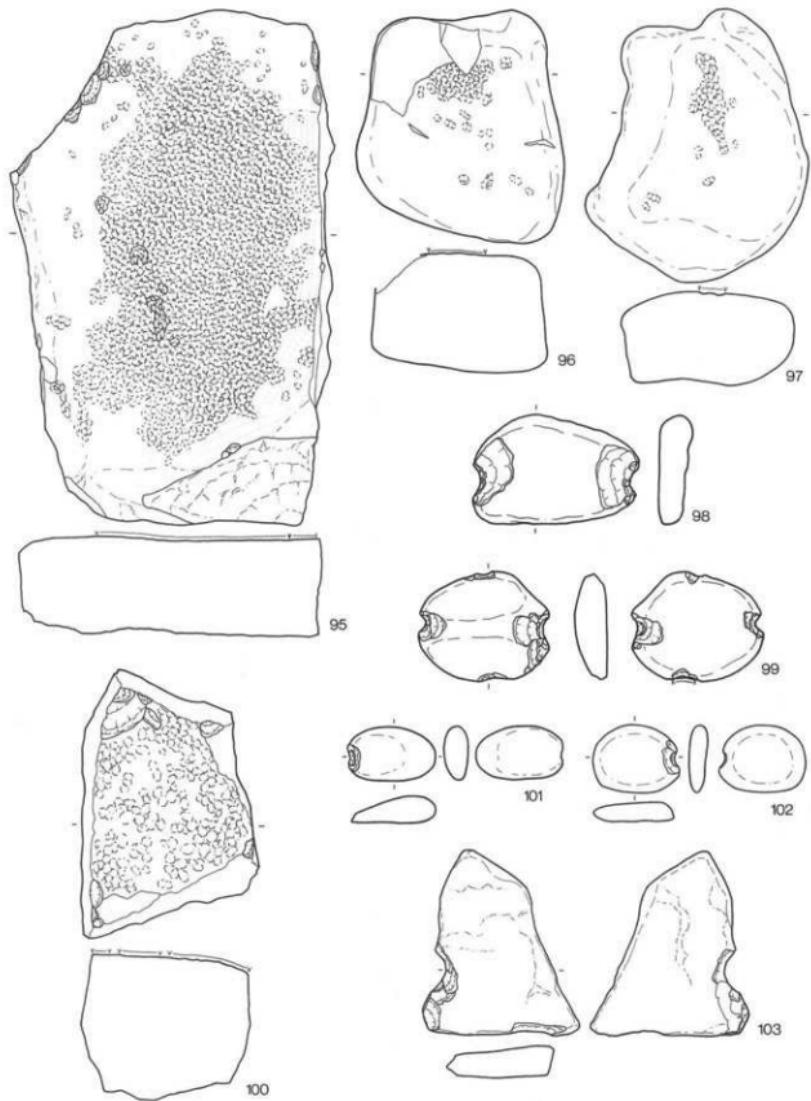
89

91

図III-93 V層出土石器(12)

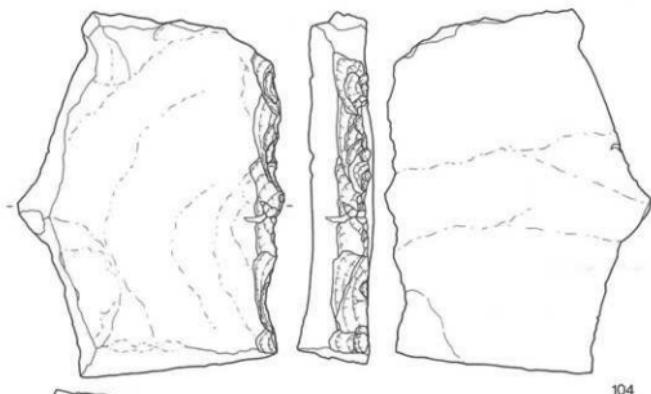


図III-94 V層出土石器(13)



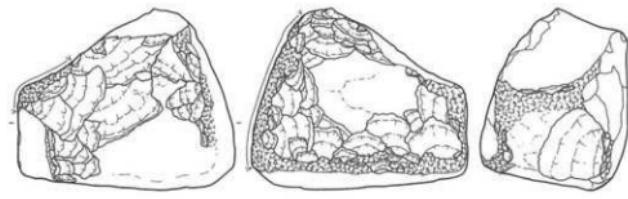
0 1 4 5 10 15cm 95 0 1 3 5 10cm 96 ~ 103

図III-95 V層出土礫石器(14)



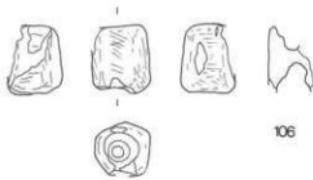
104

0 1 4 5 10 15cm



105

0 1 3 5 10cm



106

0 1 1 1 3cm

図Ⅲ-96 V層出土砾石器(15)

104は板状礫の右側縁に連続する剥離が施され、縁辺部が不連続な鋸歯状となっている。裏面の上部約5分の1が被熱している。

105は台形状？の礫の稜を中心にして剥離を伴う敲打調整がなされている。上下面および左右面には敲打痕は認められない。

I 石製小玉（図III-96-106）

滑石製の未成品で、孔は未貫通である。裏面は一部剥離している。長軸13.6mm、短軸11.4mm、厚さ10.3mm、重さ2.0gで、孔口径は6.8mmで、孔底径は2.6mmである。

4 その他の遺物

A フレイク・チップ（図III-98）

2カ年の調査でフレイク・チップは57,191点、6,036gが出土している。大まかには、土器（図III-97）や礫石器類（図III-99）と分布を同様にしており、発掘区の東側に集中する傾向がある。しかし、土器の分布状況とは若干の異なりをみせている。まず、土器の分布については、U・Vラインの出土点数が少量で、大きく2群に分かれるのに対し、剥片石器・剥片類の分布状況は一連のものとなっている。また、発掘区南東角まで出土しており、礫の分布状況に近い。

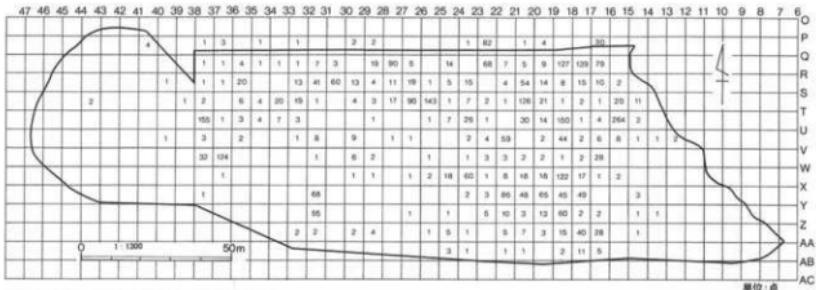
フレイク・チップそのものについては、黒曜石が圧倒的主体を占め、頁岩のものは極少量であった。このことは剥片石器において、頁岩製のつまみ付きナイフがやや多く出土しているが、遺跡内においてその製作・加工はあまり行われなかったことを示す。黒曜石の中で、不定形の剥片が主体を占めるが、長軸3cm前後の縦長で、連続的に剥離したと思われる縦長の剥片が少量出土している。これらは、図III-81-114～116のような小型石核に由来すると思われ、北筒式から余市式にかけての所産と思われる。

黒曜石の材質については、肉眼の観察において、透明・半透明に灰色ないしは黒色の縞状、斑状のものが多く、流紋岩球顆を多く含むものや、赤褐色の斑状模様をもつものは少量の出土であった。この他、極めて透明度が高いものや梨肌のものが若干出土している。今後の調査において、原産地分析を行い、苫小牧市や鶴川町における遺跡との比較検討を行いたい。

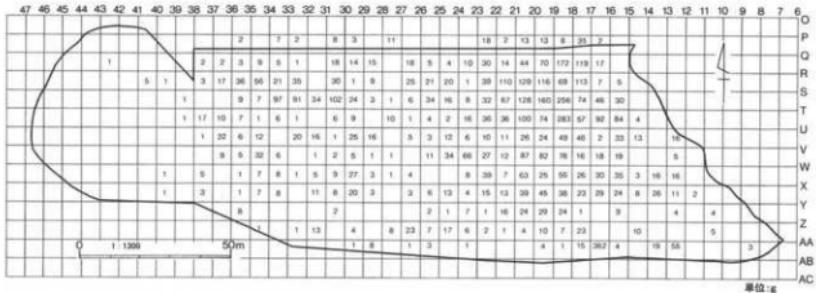
B 磨（図III-99）

発掘区からは礫石器も含め、5,356点、2,331.74kgの礫及び礫石器が出土している。これらの石材の多くは砂岩や礫岩の堆積岩で、層理面で剥離した板状のものが多い。これらは、砥石石材としても十分に使用できる硬質のものが多い。なお、調査時点では、灰色のシルト岩ないしは泥岩も多く出土しているが、再堆積層に含まれる自然のもので、回収していない。他に、花崗岩やメノウも少量出土している。このような状況は遺跡周辺で採取できる石材を反映しており、周囲は新第三紀の砂岩・礫岩の互層からなる振老層から供給されたものと思われる。また花崗岩は、厚真川の約1km上流より分岐する支流オニキシベ川の河原で極僅かながら採取することが可能である。メノウについては、白色から乳白色の板状のものが多く、砂岩中に挟在するものであろう。なお、下流域の富里地区の河岸段丘礫層中から、褐色系の人頭大以下のメノウを採集できるらしい。礫で最も大型のものは、VSB-01で出土したもので、長軸73.7cm、短軸48.6cm、厚さ12.8cm、重量33.26kgの砂岩の板状礫であった。

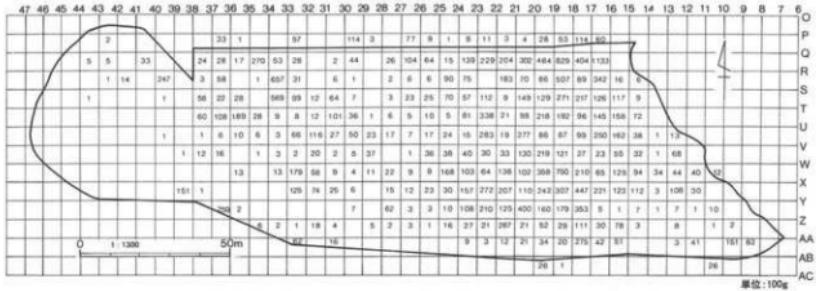
分布状況は、発掘区の東側半分と中央部や西側に広がり、土器や剥片石器類より広範囲にわたって出土する傾向がある。



図III-97 V層出土の土器分布図



図III-98 V層出土の剥片・剥片石器分布図



図III-99 V層出土の縄・縄石器分布図

表III-40 V層出土繰石器一覽表(1)

図版番号	遺物番号	遺物名	遺物名	層位	分類	計測値(mm)		材質	状態	備考
						長軸	短軸			
III-83-1	15870	磨製石斧	W-18	Vb1	-	44.0	25.0	6.3	13.4	G-Mud.
III-83-2	24276	磨製石斧	Q-18	Vc	-	71.0	27.0	6.6	22.2	G-Mud.
III-83-3	1979	磨製石斧	Q-21, R-16, 21	Vb1	-	76.0	33.0	12.5	47.3	G-Mud.
III-83-4	24252	磨製石斧	Q-18	Vb1	-	71.0	38.0	12.5	60.2	G-Mud.
III-83-5	11457	磨製石斧	Q-16	Vb1	-	82.0	34.0	9.5	43.1	G-Mud.
III-83-6	11377	磨製石斧	Q-15	Vb1	-	82.0	34.0	9.5	43.1	G-Mud.
III-83-7	11603	磨製石斧	Q-15	Vb1	-	82.0	34.0	9.5	43.1	G-Mud.
III-83-8	11522	磨製石斧	Q-15	Vb1, Vc	-	89.0	35.0	8.8	49.1	B1-Sch.
III-83-9	1969	磨製石斧	V-16	Vb1	-	109.0	39.0	14.7	97.6	G-Mud.
III-83-10	552	磨製石斧	V-19	Vb1	-	106.3	44.0	14.7	94.5	G-Mud.
III-83-11	11665	磨製石斧	V-19	Vb1	-	102.1	48.0	14.7	94.5	G-Mud.
III-83-12	13130	磨製石斧	V-17	Vc	-	130.0	41.0	14.7	125.0	G-Mud.
III-83-13	24107	磨製石斧	V-17	Vb1	-	161.0	44.0	14.7	125.0	G-Mud.
III-83-14	5662	磨製石斧	V-19	Vb1	-	104.0	38.0	8.5	49.0	G-Mud.
III-83-15	22966	磨製石斧	V-19	Vb1	-	102.0	38.0	8.5	49.0	G-Mud.
III-83-16	3297	磨製石斧	V-17	Vb1	-	81.0	34.0	8.5	49.0	G-Mud.
III-83-17	1936	磨製石斧	Q-29, S-22, V-14	Vbu, Vbl	-	83.1	38.2	8.5	56.0	G-Mud.
III-83-18	26468	磨製石斧	S-23	Vb1	-	116.0	45.0	20.0	125.0	G-Mud.
III-83-19	15998	磨製石斧	W-22	Vb1	-	130.0	50.0	14.0	119.0	G-Mud.
III-83-20	15996	磨製石斧	W-22	Vb1	-	111.0	41.0	9.2	119.2	G-Mud.
III-83-21	15597	磨製石斧	V-22	Vb1	-	116.0	53.0	19.8	230.0	G-Mud.
III-83-22	24201	磨製石斧	S-20	Vb1	-	101.0	32.0	8.5	25.0	G-Mud.
III-83-23	26121	磨製石斧	T-3	Vb1	-	92.0	32.0	8.5	25.0	G-Mud.
III-83-24	26438	磨製石斧	T-3	Vb1	-	104.0	64.0	21.7	310.9	G-Mud.
III-83-25	15731	磨製石斧	S-23, T-20	Vb1	-	145.0	67.0	31.1	262.1	G-Mud.
III-83-26	20715	磨製石斧	S-23, T-20	Vb1, Vbl	-	150.5	69.0	31.8	310.0	G-Mud.
III-83-27	24221	磨製石斧	S-23, T-20	Vb1, Vbl	-	150.5	69.0	31.8	310.0	G-Mud.
III-83-28	18602	磨製石斧	R-22, X-23	Vbu, Vbl	-	137.5	51.0	17.9	119.2	G-Mud.
III-83-29	25901	磨製石斧	R-33	Vbu	-	162.0	67.0	49.1	220.0	G-Mud.
III-83-30	20860	磨製石斧	V-31	Vb1	-	60.0	49.0	40.5	220.0	G-Mud.
						117.0	70.0	40.2	340.0	Sm.

表III-41 V層出土鍛石器一覧表(2)

図版 番号	補圖番号	遺物 番号	遺物 名	グリッド	部位	分類	計測値(mm) 短軸	厚さ	材質	状態	備 考	
							長軸					
III-8-3	2087	鐵石	V-15-X-19	V b1-V c	2	133.0	59.0	31.8	440.0	Gr-Mod.	完形	
	101	鐵石	V-16-X-20	V b1-V c	2	94.0	58.0	39.8	265.0	Sa.	完形	
	8900	鐵石	V-25-X-26	V b1-V c	2	97.0	60.0	30.0	280.0	Sa.	完形	
	20703	鐵石	V-34-X-35	V b1-V c	2	105.0	52.0	38.0	640.0	Gf-Mod.	完形	
62-1	23428	鐵石	V-35-X-36	V b1-V c	2	134.0	81.0	38.0	1080.0	Gf-Mod.	完形	
	23599	鐵石	V-25-X-26	V b1-V c	2	125.0	51.0	36.0	250.0	Gf-Mod.	完形	
	16029	鐵石	V-22-X-23	V b1-V c	2	81.0	38.0	38.0	101.0	Sa.	完形	
	2562	鐵石	S-15-X-16	V b1-V c	2	34.0	10.0	61.0	28.0	171.4	Sa.	完形
	1635	鐵石	S-19-X-20	V b1-V c	2	16.0	16.0	61.0	410.0	Sa.	完形	
	2999	鐵石	S-1-X-2	V b1-V c	2	34.0	12.0	51.0	12.0	660.0	Sa.	完形から軽量
	1911	鐵石	S-1-X-2	V b1-V c	2	34.0	12.0	51.0	12.0	660.0	Sa.	完形から軽量
	26164	鐵石	S-20-X-21	V b1-V c	2	111.0	108.0	38.0	690.0	Sa.	完形	
	25616	鐵石	S-24-X-25	V b1-V c	2	61.0	55.0	18.0	71.0	Sa.	完形	
	19425	鐵石	S-1-X-2	V b1-V c	2	4.0	69.0	50.0	23.0	9.0	Sa.	完形
	27353	鐵石	S-1-X-2	V b1-V c	2	7.0	52.0	52.0	12.0	9.0	Sa.	完形
	17	3928 鐵石	P-17	V b1	4	84.0	73.0	51.0	24.1	147.3	Sa.	完形
III-8-16	13755	鐵石	V-8-X-9	V b1	2	22.0	25.0	36.0	16.0	16.0	Sa.	完形
	31228	鐵石	V-9-X-10	V b1	2	115.0	115.0	50.0	17.9	17.9	Gf-Mod.	完形
63-1	1471	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	125.0	64.0	27.0	410.0	Sa.	完形	
	4085	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	188.0	87.0	51.0	166.0	Sa.	完形	
	4053	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	165.0	85.0	51.0	200.0	Sa.	完形	
	12071	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	165.0	85.0	51.0	200.0	Sa.	完形	
	11724	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	165.0	85.0	51.0	200.0	Sa.	完形	
	26133	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	133.0	82.0	52.0	480.0	Sa.	完形	
	1197	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	194.0	92.0	53.0	170.0	Sa.	完形	
	29072	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	167.0	74.0	50.0	530.0	Sa.	完形	
	11442	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	143.0	85.0	45.4	525.0	Sa.	完形	
	14257	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	183.0	123.0	36.0	980.0	Sa.	完形	
	20174	鐵石	V-1-X-2	V b1	2	154.0	95.0	45.2	660.0	Sa.	完形	
	14532	鐵石	V-2-X-3	V b1	2	237.0	40.0	49.0	3530.0	Sa.	完形	
64-1	14698	鐵石	V-21-X-22	V b1	7	222.0	90.0	49.0	1120.0	Sa.	完形	
	1170	鐵石	V-11-X-12	V b1	7	266.0	126.0	53.0	1915.0	Sa.	完形	
	1172	鐵石	V-11-X-12	V b1	7	266.0	126.0	53.0	1172	総合		

表III-42 V層出土礫石器一覽表(3)

図版 番号	種類番号	遺物番号	遺物名	ダリット	層位	分類	計測値(mm)		材質	状態	備考
							長軸	短軸			
II-83-63	12.066 砕石		U-18	V _{b1}	8	176.0	120.0	64.0	1725.0	Sa.	完形
II-83-64	15.068 砕石		U-21	V _{b1}	1	92.0	69.0	57.5	390.0	Sa.	完形
II-83-65	15.071 砕石		U-25	V _{b1}	1	95.0	59.0	51.0	620.0	Sa.	完形
II-83-66	23.025 砕石		U-25	V _{b1}	1	155.5	71.0	50.3	960.0	Sa.	完形
II-83-67	15.085 砕石		U-18	V _{b1}	1	109.0	74.0	57.0	420.0	Sa.	完形
64-1	1.3-18	14.051 砕石	U-18	V _{b1}	2	165.0	99.0	61.0	1160.0	D19	断面
64-2	1.3-19	14.054 砕石	U-22	V _{b1}	2	169.0	97.0	60.0	1140.0	D19	断面
II-90-70	2.775 砕石		U-17	V _a	3	97.0	71.0	21.0	197.0	Sa.	完形
II-90-71	2.779 砕石		U-21	V _c	3	143.0	103.0	32.0	610.0	Sa.	完形
II-90-72	2.411 砕石		U-21	V _{b1}	3	111.0	97.0	37.0	660.0	Sa.	完形
II-90-73	5.73 砕石		U-38	V _{b1}	3	111.0	97.0	37.0	670.0	Sa.	完形
II-90-74	3.075 砕石		U-17	V _{b1}	2	93.0	93.0	61.0	1070.0	Mod.	半圓
II-90-75	1.5-23 砕石		X-23	V _{b1}	2	75.0	68.0	28.0	220.0	Sa.	完形
II-90-76	1.5-39 砕石		X-19	V _{b1}	1A	86.0	65.0	25.4	146.0	Sa.	完形
II-90-77	1.5-49 砕石		X-14	V _c	2A	247.0	223.0	62.0	3020.0	Sa.	欠損品
II-90-78	2.557 砕石		X-16	V _{b1}	1A	285.0	259.0	60.0	3420.0	Sa.	欠損品
II-90-79	2.201 砕石		X-17	V _c	1A	151.0	89.0	30.6	275.0	Sa.	完形
II-90-80	2.776 砕石		S-17	V _a	4	150.0	106.0	32.0	620.0	Sa.	欠損品
II-91	1.1686 砕石		S-19	V _{b1}	1B	122.0	117.0	34.0	620.0	Sa.	欠損品
II-91	1.1686 砕石		X-18	V _c	1B	145.0	116.0	31.4	680.0	Sa.	欠損品
III-9-82	12.128 砕石		T-30-U-20-V-27-W-20-21-23-24-26-27	V _{b1} -V _c	1B	343.0	238.0	47.2	4930.0	Sa.	断面完形
III-9-83	1.0243 砕石		T-22-X-21-Z-18	V _{b1} -V _c	1B	275.0	173.0	51.0	2260.0	Sa.	断面完形
III-9-84	3.553 砕石		S-17	V _{b1}	1B	115.0	73.0	46.1	250.0	Sa.	完形
III-9-85	1.5034 砕石		U-19	V _c	1B	126.0	105.0	33.5	1060.0	Sa.	完形
III-9-86	2.9555 砕石		U-19	V _{b1}	1B	170.0	131.0	31.4	1220.0	Sa.	断面
III-9-87	2.2296 砕石		S-24	V _{b1}	3B	188.0	137.0	34.0	1200.0	Sa.	断面
III-9-88	4.092 砕石		AB-10	V _{b1}	3C	114.0	94.0	51.0	690.0	Sa.	完形
66-1	9-89	2.0953 砕石	Z-31	V _{b1}	3C	144.0	113.0	96.5	1610.0	Sa.	断面
66-2	9-90	2.3126 砕石	Q-33	V _{b1}	3C	305.0	122.0	99.5	4080.0	Sa.	断面
II-91	1.5033 砕石		X-22	V _c	1	275.0	173.0	50.5	1920.0	Sa.	欠損品
II-91	2.5613 砕石		S-33	V _{b1}	1	134.0	136.0	112.0	19560.0	Sa.	欠損品

表III-43 V層出土石器一覧表(4)

図版 番号	種別番号	遺物名	グリッド	層位	分類	計画値(cm)	実測	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	状態	備考	
66-	III-94-94	11202 石皿台石	X-38	Vb1	2	28.0	23.0	181.5	13800.0	Sa.	断面形	台石使用	
	III-94-94	115842 石皿台石	X-18	Vb1	2	334.0	265.0	15.5	5400.0	Sa.	断面形	台石使用	
	III-94-95	115841 石皿台石	X-17	Vb1	2	225.0	225.0	19.0	12920.0	Sa.	断面形	台石使用	
	III-94-95	115841 石皿台石	X-17	Vb1	2	225.0	225.0	19.0	12920.0	Sa.	断面形	台石使用	
	III-95-96	325 石皿台石	Y-19-20, VFGB-02	Va	1	143.0	129.0	76.5	2150.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-97	117626 石皿台石	S-22	Va	2	163.0	132.0	54.5	1460.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-98	3913 石盤	Q-17	Vb1	2	111.0	73.0	19.1	180.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-99	3914 石盤	Q-17	Vb1	2	75.0	62.0	23.0	131.3	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
67-1	III-95-100	12791 石皿台石	X-31	Vbu	3	165.0	108.0	103.5	2360.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-101	27070 地上堆のあらわし	J-34	Vb1	1	49.0	28.0	17.3	33.2	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-102	117637 地上堆のあらわし	J-34	Vb1	1	49.0	28.0	17.3	33.2	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-103	114465 地上堆のあらわし	S-18	Vc	2	105.0	91.0	20.5	211.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-104	29444 地上堆のあらわし	S-32	Vc	2	309.0	218.0	61.5	3920.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-95-105	18665 地上堆のあらわし	S-23	Vbu	3	121.0	105.0	88.0	1610.0	Sa.	断面形	944, 945, 10076, 10077と接合	
	III-96-106	3226 石製小玉	S-17	Vbu	-	-	13.6	11.4	(10.3)	2.0	Tal.	未仕上	穿孔口径6.8×底径2.6mm

第IV章 0層の遺構

ここでは、Ta-aより上層から掘り込まれている遺構について記載する。本来I層の遺構として扱うべきかもしれないが、遺跡の主体層であるIII層やV層から判断して、搅乱層（0層）であることから、本層名の遺構とした。

厚幌I遺跡の立地する河岸段丘平坦面は、大正から昭和の戦前にかけて、藤根キウキチ氏が入植しており、発掘区の北側では、耕作によるものと思われる20cm以上の搅乱層が発達している。現在はカラマツ林となっているが、昭和30年代中ごろに植林されたもので、それ以前は耕作地であったことが地元の古老からの聞き取り調査で判っている。

検出した遺構は、開拓期以降の近現代のもので、U-13・14区、T-13・14区の段丘縁辺部で法切りされた馬車道跡と、W-12区から西へ発掘区外まで続く柵列跡1列の他、小規模な土坑を2基を検出している（図IV-1）。このうち、馬車道跡については本文記載と平面図、断面図を掲載し、柵列跡については本文記載と写真図版による報告に止める。

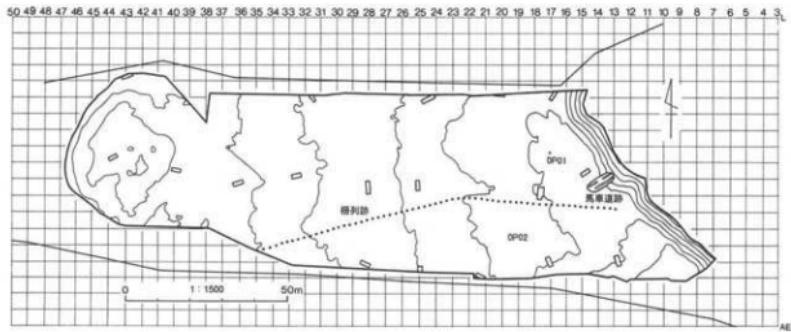
1. 馬車道跡（図IV-2、図版4-1・2）

遺跡調査前の試掘段階より切り通しの林務用の作業道として、認識していた。遺構としての確認は、Ta-c（IV層）除去後のV層上面の確認のため、搅乱層（0層）を除去した段階で判明した。立地は、河岸段丘がキウキチ沢により開析されてできた傾斜面が最も緩いところにある。

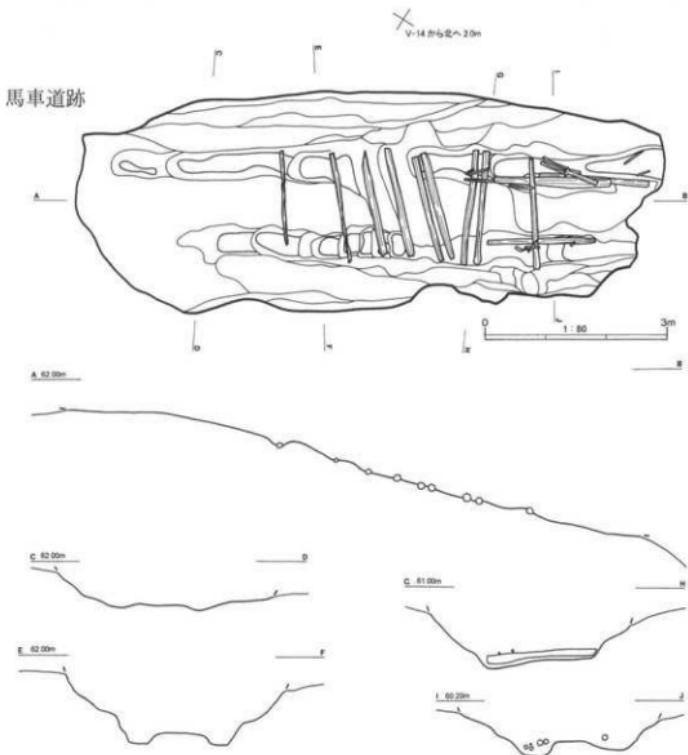
Ta-aないしはTa-b混じりの搅乱層を除去した段階で、路面延長約9.5mで16°の傾斜、切り通し上幅3.6m、路面幅2.4mの切り通しの全体が把握でき、底面にマツ材と思われる丸太材を傾斜上方に数本と、2条1対の轍跡の落ち込みを検出した。切り通しは段丘肩部を深さ1.6mに削り、一部Ta-dバミスのVII層まで達している。削り取った土砂は、斜面下へ盛土され、道がキウキチ沢の河岸まで続いていたものと思われる。対岸にも、段丘を斜めに登る旧道跡があり、これに続くものと思われ、切り通しを上った段丘上は発掘区の西側の出入り口へと続き、現道部分と合流するものと思われる。

轍跡は、2条の間隔が120cmほどあり、約9mの長さにわたって検出した。溝の上端幅は約50cm、深さ約20cmである。覆土は、法面からの再堆積土と思われる火山灰混じりのV～VII層で、硬く縮まる暗褐色土であった。この覆土を除去すると、更に丸太材を検出し、合計15本が出土している。丸太材は道跡の上方のものは、轍跡に直交し、下方のものは轍跡に沿う状態で出土している。また、傾斜上方のものは、露出期間があったためか、腐植が進み径が細い。下方のものは、覆土中に埋積していたため腐植はそれほど進んでおらず、鋸で切断した面を確認できた。

轍跡の幅から、自動車によるものではなく、馬車によるものと思われる。造材関係の丸太材は、幌内市街付近まで厚真川の水流を利用していたことから、上流域の住民の生活道路、木炭搬送路として使用されていたものと思われる。厚真川とキウキチ沢の合流点付近は、低湿地が広がるため、湿地の幅が狭いキウキチ沢口へ道路が迂回する路線で構築されていたものと思われる。



図IV-1 0層遺構配置図



図IV-2 馬車道跡

2. 棚列跡（図版4-3～7）

W-12区からZ-34区の約82mにわたって、東西のやや開く「く」の字状の配列で、ほぼ1.8m間隔に62ヵ所の木柱跡を検出した。火山灰除去中より確認していたが、0層の覆土であることからTa-aの上層からの掘り込みであることは間違いない、調査を円滑に進めるため、Ⅲ層上面まで下げ平面形等を記録した。

Ⅲ層上面における上端平面形は、円形のものが主体で、梢円形や隅丸方形のものがある。直径は30cm前後で、深さは30cm前後のものが多く、V層中位を坑底面としている。坑底面形態は、丸底ないしは平底で、いずれかの壁面に偏って、直径10前後の一段低い窪みがみられるものもあった。覆土中に木柱が残存するものが3基あり、板状のものと丸太状のものがあった。また覆土中に柱痕を残すものもあり、直径15cm前後の木柱と思われる。

段丘縁辺部で確認した馬車道跡と一部重複する可能性があるが、層位における新旧関係や詳細な構築年代も不明である。地元の古者の聞き取りからは道跡より古い可能性がある。遺構の性格としては、不明であるが、キウキチ沢に面する段丘縁辺部から山の斜面に対し、「く」の字状に配列されることに目的があるものと思われる。